

思文閣出版

2016

刊行図書目録

NO.47

◇より詳細な情報・目次はホームページをご覧ください

◇本目録の表示価格は消費税別です

◇本目録は2016年4月現在の在庫書籍を中心に作成したものです

未刊で、定価、頁数等決定していないものは空欄となっています。
また内容に多少の変更があるかもしれないことをあらかじめおことわり
いたします。品切一覧掲載の図書や【品切】表示についても、ご要望
にお答えできる場合もありますので、お問い合わせ下さい。

◇ISBN（国際標準図書番号）について

図書を特定するための番号です。

2006年以前の刊行物については10桁規格表記、2007年以降の刊行物
は13桁規格表記となっております。

◇巻末に書名索引を付しました、ご活用下さい

これからの新刊・重版情報につきましては、PR誌『鴨東通信』（無料
・年4回刊）・ホームページに掲載いたします。『鴨東通信』の詳細は、
表紙3をご覧ください。

●ご購入・ご注文について

◇最寄りの書店へお申し込み下さい

小社刊行書は、書店にて取扱っております。店頭が無い場合は、書店
にご注文下さい。

◇直接小社へご注文の場合は、規定の送料を頂戴致します。書名、巻数、
冊数と住所、氏名、電話番号をご記入の上、お申し込み下さい。代
引でご送付、書籍代+送料を現品と引き換えに配達員へお支払い下さ
い。代引手数料は弊社負担です。（公費の後払い可）

—————送料規定—————

（合計税込価格）	20,000円未満	20,000円以上
（送料）	400円	無料

◇電話、FAX、e-mailでもご注文いただけます。本目録裏表紙をご参照
の上、お申し込み下さい。

◇【オンデマンド版】商品は、受注生産のため、ご注文から2週間ほど
お時間いただきます。

◇各々の刊行図書のパンフレット、チラシは無料でご送付いたします。
その旨ご明記の上、お申し込み下さい。

◇お客様の個人情報は、商品発送、商品案内などに思文閣グループ各社
で利用し、それ以外の第三者にはお客様の同意なく提供しません。詳
細はホームページ「思文閣グループ個人情報保護方針」をご覧ください。

もくじ		62	美術史
			史論・史料 62
			仏教美術 64
			墨跡・書 66
			絵画 67
			工芸史 69
			染織史・服飾史 72
			和紙 72
			茶道 73
			華道 77
		78	文化史
			法制史 78
			経済史 78
			技術史 81
			建築史・庭園史 83
			比較文化史・文明史 85
			民俗・文化人類学 86
		90	考古学
		92	文学
			史料 92
			個人著作集・全集 94
			上代 95
			中古 95
			中世 97
			近世 99
			近代 99
			比較文学 101
			中国文学 103
		104	自然科学
		105	随筆・随想・その他
4	辞典・総記		
5	日本史		
	史料集 5		
	個人著作集・全集 10		
	叢書 11		
	古代 11		
	中世 15		
	近世 23		
	近代 31		
	地方史・通史 36		
38	東洋史		
40	思想・教育史		
	通史 40		
	個人著作集・全集 40		
	古代 41		
	近世 41		
	近代 43		
45	医学史		
	史料集 45		
	個人著作集・全集 46		
	通史・年表 46		
	部門史 47		
	人物研究 48		
	書誌 49		
	史論 49		
	医療人類学 51		
53	宗教史		
	禪宗 53		
	天台宗・真言宗 56		
	浄土宗・浄土真宗 56		
	法華宗 58		
	神道 59		
	仏教考古学 60		
	宗教一般・その他 60		

2015年4月～2016年3月 刊行図書一覧

書名
編著者名

本体価格 掲載頁

くずし字辞典【6刷】 6,000円 4頁
波多野幸彦監修／東京手紙の会編

住友史料叢書 第30回 9,500円 6頁
朝尾直弘監修／住友史料館編

花園院宸記 第24回配本 390,000円 6頁
宮内庁書陵部編

西山地藏院文書 13,000円 7頁
京都大学日本史研究室編

吉田清成関係文書 第6巻 21,000円 7頁
京都大学日本史研究室編

九条家本 延喜式（四） 15,000円 9頁
東京国立博物館古典籍叢刊編集委員会編

今村家文書史料集 上巻 8,800円 10頁
今村家文書研究会編

今村家文書史料集 下巻 9,200円 10頁
今村家文書研究会編

会沢正志斎書簡集 11,500円 10頁
大阪大学会沢正志斎書簡研究会編

日本古代国家の農民規範と地域社会 9,000円 15頁
坂江渉著

平安王朝の葬送 3,700円 15頁
脆谷寿著

中世アーカイブズ序説 13,000円 22頁
上島有著

神仏習合の歴史と儀礼空間 【オンデマンド版】 8,600円 23頁
嵯峨井建著

中世京都の民衆と社会 【オンデマンド版】 8,800円 23頁
河内将芳著

中世京都の都市と宗教 【オンデマンド版】 6,800円 23頁
河内将芳著

崇徳院怨霊の研究 【オンデマンド版】 6,400円 23頁
山田雄司著

書名
編著者名

本体価格 掲載頁

織豊期主要人物居所集成 [第2版] 6,800円 28頁
藤井譲治編

角倉一族とその時代 8,800円 30頁
森洋久編

近世大名のアーカイブズ資源研究 7,000円 30頁
国文学研究資料館編

江戸後期儒者のフィロロギー 5,500円 30頁
竹村英二著

水系都市京都 5,400円 35頁
小野芳朗編著

戊辰内乱期の社会 7,500円 35頁
宮間純一著

近代日本のユダヤ論議 5,000円 35頁
宮澤正典著

廣瀬淡窓 2,500円 42頁
井上敏幸監修／高橋昌彦編著

緒方洪庵の「除痘館記録」を読み解く 2,300円 46頁
緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室編

軍医森鷗外のドイツ留学【2刷】 3,000円 49頁
武智秀夫著

前野良沢 2,500円 49頁
鳥井裕美子著

備前岡山の在村医 中島家の歴史 10,000円 51頁
中島医家資料館・中島文書研究会編著

近世の王権と仏教 6,500円 58頁
大桑著

仏教と社会 1,900円 61頁
第23回国際仏教文化学会議実行委員会編

琳派 響きあう美【2刷】 9,000円 64頁
河野元昭著

京都 実相院門跡 2,000円 65頁
宇野日出生編／京都府京都文化博物館・京都市歴史資料館企画

書名 編著者名	本体価格	掲載頁
セザンヌと鉄斎 山岸恒雄著	2,800円	69頁
アーツ・アンド・クラフツと日本【2刷】 デザイン史フォーラム編	2,900円	70頁
正倉院宝物と古代の技 木村法光著	15,000円	71頁
正倉院の香葉 米田諒典著	10,000円	71頁
茶湯百亭百会 白崙顕成著	20,000円	75頁
器を楽しむ 逸翁美術館編	1,000円	75頁
基礎茶式 大益茶道院発行／呉遠之著／井上由紀子・田丸 祥幹訳／高丹丹編訳	900円	76頁
住友の歴史 上巻【3刷】 朝尾直弘監修／住友史料館編	1,700円	80頁
近世日本の銅と大坂銅商人 今井典子著	7,500円	81頁
近世吉野林業史 【オンデマンド版】 谷彌兵衛著	11,100円	81頁
技術と文明 第38冊 日本産業技術史学会編	2,000円	81頁
大坂蔵屋敷の建築史的研究 植松清志編著	4,800円	84頁
茶と室内デザイン 小泉和子編	3,500円	84頁
京都 近代の記憶 中川理著	2,200円	84頁
万国博覧会と人間の歴史 佐野真由子編	9,200円	86頁
響きあう東西文化 宗像衣子著	5,400円	86頁
明治博物館事始め 【オンデマンド版】 椎名仙草著	4,800円	86頁

書名 編著者名	本体価格	掲載頁
記念植樹と日本近代 岡本貴久子著	9,000円	86頁
世界喫煙伝播史 鈴木達也著	8,500円	88頁
神話・伝承学への招待 斎藤英喜編	2,300円	88頁
和食とは何か 和食文化国民会議監修／熊倉功夫・江原綾子著	900円	89頁
年中行事としきたり 和食文化国民会議監修／中村羊一郎著	900円	89頁
雪叟紹立 雪叟詩集訓注 芳澤勝弘編著	15,000円	99頁
没理想論争とその影響 坂井健著	8,900円	100頁
日仏マンガの交流 石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編	2,800円	102頁
俳句とスペインの詩人たち 田澤佳子著	5,000円	103頁

辞典・総記

大槻幹郎・加藤正俊・林雪光編著

黄檗文化人名辞典

1988／菊判／720頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0538-1

森繁夫編／中野莊次補訂

名家伝記資料集成〔全5巻〕

1984・1991／A5判／総5400頁
本体130,000円 ISBN4-7842-0682-5

入矢義高監修／古賀英彦編著

禅語辞典

1991・2009／A5判／600頁
本体9,500円 ISBN4-7842-0656-6

直原正一著

岡山和歌俳諧人名辞典

1992／四六判／250頁
本体2,900円 ISBN4-7842-0754-6

波多野幸彦監修／東京手紙の会編

くずし字辞典

2000・2015／A5判／1454頁
本体6,000円 ISBN4-7842-1024-5

佛教大学附属図書館編

開学百周年記念 佛教大学附属図書館所蔵

貴重古典籍目録

2013／A4判／458頁
本体30,000円 ISBN978-4-7842-1728-1

わが国の近世文化にカルチャーショックを与えた黄檗文化の総合辞典。黄檗僧はもとより檀越・外護者・学者・画家などの黄檗文化形成に寄与した人物伝(900人)のほか、黄檗法系譜と総索引を収録。総索引は僧名(道号)・法諱・法諱(諱字)・別号・檀越帰依者の五索引を取めた。

短冊の蒐集、伝記研究で知られた森繁夫氏が20数年の歳月をかけて調査編集した草稿を、短冊、古筆など広く古典籍の蒐集で著名な中野莊次氏が更に20数年かけて浄書、補訂したもの。鎌倉末期から昭和20年までに没卒した国学者・歌人・漢学者・文人・高僧・芸術家等の45,000名の伝記資料。【2刷】

禅語録中の難解な語句(約5,500)について、平易なことで解釈を施した画期的な辞典。中国語学研究の第一人者である入矢義高氏監修のもと、古賀英彦氏が十年の歳月を費やして編集。いわゆる漢文の語法では読めない口語の解説が備わり、漢文を読むすべての人に必携の書。【7刷】

近世和歌史において輝かしい足跡を残した吉備(岡山)地方の歌人・俳人の履歴と業績を墓碑名などの実地調査をもとにコンパクトにまとめた近世吉備文芸の基本図書。

和歌之部＝備前105人・備中116人・備後12人
俳諧之部129人

天皇・公家・武将・僧侶・茶人・文人・商人などの実用書である自筆消息(書状)からその筆跡(35,000字)を、また必要に応じて中国の代表的書家・文人からも1字1字拾集し、採字した各文字にはその人名を明らかにした画期的な辞典。消息(書状)の解説、鑑賞などに幅広く活用できる。【6刷】

佛教大学開学百周年を記念して、附属図書館の膨大な蔵書の中から、和・漢・朝鮮・洋書の貴重古典籍2400余点を選び、刊写事項・序跋・刊記・装訂等の詳細な情報を掲載。35点についてカラー図版と簡易な解題を付した目録である。

史 料 集

〔監修〕近衛通隆 〔編集〕陽明文庫
〔編集顧問〕熱田公・益田宗

陽 明 叢 書 記録文書篇

〔全12輯・全31冊・別輯1〕

- 第1輯 御堂関白記(全5冊) 〔①②④品切〕〔解説〕土田直鎮
揃 本体48,600円
- 第2輯 岡屋関白記・深心院関白記・後知足院関白記
(全1冊) 〔解説〕橋本義彦
本体14,000円
- 第3輯 後法成寺関白記(全3冊) 〔解説〕今枝愛真
揃 本体34,600円
- 第4輯 後深心院関白記(全3冊) 〔解説〕今枝愛真
揃 本体36,000円
- 第5輯 人車記(全4冊) 〔解説〕上横手雅敬
揃 本体48,000円
- 第6輯 平記・大府記・永昌記・愚昧記(全1冊)
〔解説〕山本信吉・新田英治・石田祐一
本体14,000円 〔品切〕
- 第7輯 中右記(全4冊) 〔解説〕益田 宗
揃 本体55,000円
- 第8輯 後法興院記(全4冊) 〔解説〕益田 宗
揃 本体56,000円

近衛家伝来の文庫襲蔵の記録及び文書中より中世の未公刊史料を中心に影印で刊行。各輯ごとに書誌および史料的位置、当時の時代背景、さらに近衛家にも触れた解説を付す。

- 第9輯 法制史料集(全1冊)
〔解説〕杉橋隆夫・佐古愛己
本体12,000円
- 第10輯 名家消息集(全1冊) 〔解説〕朝尾直弘
- 第11輯 紙背文書集(全3冊) 〔解説〕佐藤泰弘
- 第12輯 所領関係文書集(全1冊)
〔解説〕田中 稔・熱田 公
- 別 輯 宮城図(全1冊) 〔解説〕村井康彦・瀧浪貞子
本体18,000円

編集 中村幸彦・多治比郁夫
岡村 繁・中野三敏・井上敏幸

広 瀬 旭 荘 全 集

〔全12巻・別巻1〕

1982〜/B 5判/平均560頁/既刊揃 本体172,000円

江戸末期折衷派の儒者、広瀬旭荘の幕末(天保4〜文久3)31年間の日記(日間瑣事備忘)を中心に、詩文・随筆・書簡まで全て網羅した。ことに日記は幕末各分野の実態と動向を伝える生きた資料であり、各界の名家がことごとく登場し、その詳細な記録に興味はつきない。

- 日記篇(日間瑣事備忘)(全9巻) 〔編集〕多治比郁夫
揃 本体127,500円
- 随筆篇(全1巻) 〔解説〕中野三敏
1986 / 472頁 / 本体14,500円

- 詩文篇(全1巻) 〔解説〕井上敏幸
2010 / 892頁 / 本体30,000円
- 書簡・伝記資料篇(全1巻) 〔解説〕中村幸彦・中野三敏
別巻(総索引)

今川文雄翻刻・校訂/高橋貞一解説
ぎょく ずい
玉 薬

1984・1992 / A 5判 / 544頁
本体14,000円 ISBN4-7842-0746-5

九条兼実の孫、道家が30年にわたり記した玉薬は、玉薬・明月記と並んで鎌倉時代の代表的な公卿の日記として中世史研究必須の史料。自筆原本は現存せず、今回の翻刻では高橋貞一博士所蔵本(全10冊 江戸初期筆写)を底本とし、陽明文庫本及び京都府立総合資料館本を対校本とした。 【2刷】

今谷明・高橋康夫編
室町幕府文書集成奉行人奉書篇
〔全2巻〕

1986 / A 5判 / 総1200頁
揃 本体15,000円

室町時代の基本的史料である奉行人奉書。南北朝時代から永禄11年9月の信長入京までの4000余通を一通ごとに編年集成し、足利義材・義澄・義維の奉行人奉書を下巻に収録した。

杉本勲・酒井泰治・向井晃編
幕末軍事技術の軌跡
佐賀藩史料『松乃落葉』
1987／A 5判／450頁
本体8,500円 ISBN4-7842-0467-9

監修・小葉田淳／朝尾直弘
編集・住友史料館
住友史料叢書
1985～／A 5判／平均400頁／既刊30冊
既刊揃 本体276,000円

京都大学
文学部 **博物館の古文書**

幕末期、西欧科学技術導入が最も進んでいた佐賀藩の藩主鍋島直正の側近として活躍した本島藤太夫松蔭の編著で、杉本博士を中心とする「西南諸藩洋学史研究会」が翻刻、解説、異本との校訂などしたもの。翻刻にあたっては佐賀県立図書館鍋島文庫所蔵本（全4巻）を底本とした。

1620年代から大坂で銅の精錬を業とし、世界銅産市場においても重要な位置を占めた住友家は、近代の財閥につながる豪商の一典型である。その鉱業史料は、わが国屈指の基本史料であり、本叢書は1万数千点にのぼる近世史料のうち、重要で継続する記録類を中心に編纂。

京都大学文学部国史研究室所蔵の古文書の中からテーマ毎に編集、代表的なものを写真で紹介し、その解説・釈文を付す。関係史料や地図・表なども併載し、古文書の研究と鑑賞に資す。

ISBN4-7842

- | | | |
|------|--------------|--------------------|
| 第1輯 | 長講堂領目録と島田家文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0494-6) |
| 第2輯 | 若狭秦家文書 | 〔解説〕熱田 公 (-0513-6) |
| 第3輯 | 細川頼之和西山地蔵院文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0529-2) |
| 第4輯 | 勤修寺家本職掌部類 | 〔解説〕吉川真司 (-0553-5) |
| 第5輯 | 駿河伊達家文書 | 〔解説〕今岡典和 (-0571-3) |
| 第6輯 | 東大寺文書 | 〔解説〕久野修義 (-0598-5) |
| 第7輯 | 伊勢御師と来田文書 | 〔解説〕西山 克 (-0622-1) |
| 第8輯 | 大山崎宝積寺文書 | 〔解説〕仁木 宏 (-0647-7) |
| 第9輯 | 浄土宗西山派と三結寺文書 | 〔解説〕大山喬平 (-0733-3) |
| 第10輯 | 葛川明王院文書 | 〔解説〕田良島哲 (-0756-2) |
| 第11輯 | 永昌記紙背文書 | 〔解説〕佐藤泰弘 (-0778-3) |
| 第12輯 | 伊勢松本文書 | 〔解説〕西山 克 (-0811-9) |

1987～／B 4判／32頁
(各) 本体2,000円

大濱徹也・熊倉功夫・筒井紘一校訂
萬象録〔全9巻〕
高橋箒庵日記
1986～／A 5判／平均450頁／既刊8冊
既刊揃 本体66,000円

〆近代茶道鼓吹の第一人者。とされた高橋箒庵。本書は、その箒庵が記した明治45年5月から大正10年6月までの日記である。政治・経済・文化・美術・芸能など多岐にわたる事柄、更には斯界人との交友を綴った一大メモワール。最終巻には解説・総索引を付す。

江馬文書研究会編
江馬細香来簡集

1988／A 5判／364頁
本体8,500円 ISBN4-7842-0508-X

1787年美濃大垣の蘭医蘭斎の娘として生まれた細香は、すぐれた女流漢詩人、文人画家であった。画の師浦上春琴や多くの詩友、江馬家ゆかりの人々と書簡を交わし、また歌の師頼山陽とは深い敬愛のもとに終生交際を続けている。その多くの書簡を活字化。

京都冷泉町文書研究会編
京都冷泉町文書
〔全6巻・別巻1〕
1991～00／A 5判／平均450頁
揃 本体93,000円

16世紀後半から明治期まで切れ目なく残存している個別町の稀有な史料集。その全内容を編年によって収める。近世における都市史・社会構造史研究の基本史料。別巻として解題・史料目録・参考史料を収録。

梅溪 晃 編
明治期外国人叙勲史料集成
〔全6巻〕
1991／B 5判／総3120頁
本体150,000円 ISBN4-7842-0666-3

国立公文書館所蔵「公文録」（8～18年）「官吏進退」（19～25年）「叙勲」（26～45年）から、外国人叙勲に関する史料を集成したもので、2087件、31ヶ国、延約7600名を含む。叙勲理由・経歴などが記され、政治・外交・経済・社会・文化・科学など多方面にわたる国際環境を知ることができる。

宮内庁書陵部編
花園院宸記〔全35巻〕
1992～／巻子仕立（桐箱及び艶箱入）
全24回・1～35巻
揃 本体8,525,486円

伏見宮家に伝来した本宸記は延慶3年14歳より元弘2年36歳までの自筆日記。社会情勢のみならず文学・芸能などにおよぶ内容は、能筆とともに鎌倉末期の一級史料。コロタイプ印刷で裏書もふくめ再現。別冊解説付き。

京都大学史料叢書〔全23冊〕

- 兵範記・範囲記・知信記(全4冊) ISBN4-7842 [解説]上横手雅敬
 兵範記(一)～(三) (各) 本体10,500円 ①(-0525-X) ②(-0559-4) ③(-0568-3)
 兵範記(四)・範囲記・知信記
 兵範記紙背文書(全1冊) [解説]佐藤泰弘
 西山地蔵院文書(全1冊) 本体13,000円 ISBN978-4-7842-1816-5 [解説]早島大祐
 京都雑色記録(全3冊) [解説]朝尾直弘
 (各) 本体14,000円 ①(-1133-0) ②(-1135-7)
 ③ISBN978-4-7842-1627-7
 [解説]山本四郎
 吉田清成関係文書(全7冊)
 書翰篇(1)～(3) (各) 本体13,000円 ①(-0804-6) ②(-0925-5) ③(-1048-2)
 書翰篇(4) 本体15,000円 ISBN978-4-7842-1428-0
 書類篇(1) 本体19,500円 ISBN978-4-7842-1666-6
 書類篇(2) 本体21,000円 ISBN978-4-7842-1818-9
 安祥寺資財帳(全1冊) [解説]中町美香子
 本体5,500円 ISBN978-4-7842-1516-4
 大 記(全1冊)
 永昌記(全1冊)
 東大寺文書(全1冊)
 晴右公記・晴豊公記(全1冊)
 光豊公記(全1冊)
 田中不二麿関係文書(全1冊)

1988～
 A5判
 平均400頁

佐治家文書研究会編

佐治重賢氏
所蔵

小堀政一関係文書

1996/A5判/390頁

本体8,800円 ISBN4-7842-0921-2

財団法人大阪都市協会企画・発行

雑誌「大大阪」CD-ROM

大正14年～昭和19年

※Windows®専用

1998/本体95,000円

佐治重賢氏所蔵文書(総点数7千点)のうち、特に近世前期政治史に重要な位置を占め、また茶人としても著名な小堀政一(遠州)に関わる文書を三部構成で翻刻・記載。小堀政一関係文書は、国奉行・代官の史料としては希有のものであり、近世初期の幕領支配の様子を極めて具体的に知ることができる。

※大正14年12月号から昭和19年1月号まで全巻約33,000ページの膨大な文章・図版・広告等のすべてをCD-ROM2枚に完全収録

※都市制度・地方行政制度・都市計画・公営事業・産業経済・公害・社会福祉・教育・芸術・社会風俗・地誌など多方面にわたる内容

総合教育センター(TEL0120-435-288) 専売商品です。

鹿王院文書研究会編

鹿王院文書の研究

2000/A5判/530頁

本体13,000円 ISBN4-7842-1037-7

臨濟宗寺院の鹿王院(京都市右京区)所蔵の中世文書(五山禅林と幕府・朝廷との関係や京中及び諸国に展開する所領・荘園にかかわる貴重史料など)約900点を収録。第1部(文書篇)には編年で釈文を取め、第2部(解題・研究篇)には文書全体の解題のほか研究成果を収録。

フォス美弥子編訳

海国日本の夜明け

オランダ海軍ファビウス駐留日誌

2000/A5判/400頁

本体5,000円 ISBN4-7842-1047-4

蒸気艦スピン号(のちの観光丸)の前艦長、長崎海軍伝習の起案者、日本海軍創成の助言者であったオランダ海軍中佐G・ファビウスは幕末の日蘭関係の立役者であった。本書には、ファビウスの連続3度のべ8カ月にわたる本邦初紹介の駐留日誌のほかその間の動向をつなぐ公文書を収録。

渡邊忠司・徳永光俊共編

飛脚問屋井野口屋記録〔全4巻〕

大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書4～7冊

2001～04/A5判/平均450頁

揃 本体40,600円

井野口屋は、尾張領内と京都・江戸・大坂を中心に各地域を結ぶ飛脚問屋で、本記録は享保8年から天保14年までの全33冊よりなり、営業規則・仲間の規約、人夫の雇い方、飛脚賃、経路などや、藩主・家臣との間での飛脚の認可・契約の証文など、近世における交通・通信史の基本史料。

鮫島文書研究会編

鮫島尚信在欧外交書簡録

2002 / A 5判 / 620頁
本体12,800円 ISBN4-7842-0962-X

京都大学総合博物館編

日記が開く歴史の扉

平安貴族から幕末奇兵隊まで 京都大学総合博物館図録
2003 / A 4判 / 180頁
本体1,600円 ISBN4-7842-1152-7

佛教大学近代書簡研究会編

宮津市立前尾記念文庫所蔵

元勲・近代諸家書簡集成

2004 / A 5判 / 630頁
本体5,000円 ISBN4-7842-1179-9

伊藤俊一・富田正弘・本多俊彦編

東寺廿一口供僧方評定引付

〔全8冊・別巻1冊〕

2002～ / A 5判 / 平均350頁 / 既刊2冊
既刊揃 本体13,000円

田島 公 編

禁裏・公家文庫研究

2003～ / B 5判 / 既刊5冊
既刊揃 本体52,600円

山中 裕 編

御堂関白記全註釈

〔第2期・全8冊〕

2003～2010 / A 5判
揃 本体50,500円

山中 裕 編

御堂関白記全註釈

〔第1期・全8冊〕

2012 / A 5判
揃 本体56,500円

京都府立総合資料館編

東寺百合文書

2004～ / A 5判 / 平均440頁 / 既刊11冊
既刊揃 本体104,500円

鮫島尚信が初代駐仏公使として在勤中に、ヨーロッパ各国の外相並に政府要人や学界・産業界の人々に宛てて出した公信442通（英仏）を原文と翻訳で収録。明治初期におけるわが国現地外交の実態を知る貴重な史料集。原史料は“Correspondance envoyé e depuis 1871”（鹿兒島純心女子大学蔵）

京都大学総合博物館の館蔵品を中心に、書く・写す・用いる・伝来など日記のさまざまなすがたを大型図版でビジュアルに明かす。**第1部** 歴史資料としての日記／**第2部** 古代・中世の日記／**第3部** 近世の日記／兵範記と平信範（上横手雅敬）／慶長15・16年の後陽成天皇宸翰（藤井謙治）

通信メディアや交通機関が発達する以前、書簡は最も重要な意思疎通手段であった。伊藤博文・桂太郎・原敬・山縣有朋ら政界人をはじめ明治・大正期に各界で活躍した139人の書簡225通を収録。翻刻のほか読み下しと個別解説を付し、巻末に全体解説（青山忠正執筆）、宛て先人名索引をおさめた。

東寺廿一口供僧方は鎌倉後期に公家（朝廷）の支援によって創られた国家祈禱を行う寺僧組織。構成員による自治的な共同経営で、供僧全員参加の評定により方針の決定、実行がなされる寺僧組織の中核であった。この議事録である引付を編年史料として整理・翻刻し、校定・注釈を加える。

勅封のため全容が不明であった東山御文庫本を中心に、近世の禁裏文庫所蔵の写本や、公家の諸文庫収蔵本に関する論考・史料紹介・データベースを収載。

藤原道長の「御堂関白記」は、一級の日記史料で平安朝研究には不可欠のものである。本註釈は、京都と東京における研究会の成果を盛り込み、原文・読み下し・註で構成され、日記研究の基本文献としての体裁を整えている。

- | | | | |
|-----|------|-----|-----------------|
| 第1回 | 長和4年 | 第5回 | 寛弘8年 |
| 第2回 | 寛弘3年 | 第6回 | 寛弘5年 |
| 第3回 | 寛弘7年 | 第7回 | 長和5年 |
| 第4回 | 寛弘4年 | 第8回 | 御堂御記抄／長徳4年～長保2年 |

平安時代を代表する一級史料、藤原道長の日記「御堂関白記」の原文・読み下しと詳細な註により構成するシリーズ。全16冊（第1期・第2期）が完結したのを機に、入手困難な第1期（国書刊行会・高科書店発行）の全8冊を復刊する。なお今回の復刊にあたり、「寛弘6年」については、初版刊行時の特殊事情を考慮して、編者のもとで註釈部分の再検討を行い、大幅な改訂を加えて改訂版として刊行。

寛弘元年・寛弘2年・寛弘6年【改訂版】・長和元年・長和2年・寛仁元年・寛仁2年上・寛仁2年下～治安元年

東寺に襲蔵されてきた総数18,000点・27,000通におよぶ日本最大の古文書群（平成9年国宝に指定）。本史料には「ひらかな之部」刊行中の『大日本古文書』（東京大学史料編纂所）未収録の「カタカナ之部」を翻刻。巻末に収録史料の花押一覧を併載。

中野卓・中野進共編

昭和初期 一移民の手紙による生活史

ブラジルのヨッちゃん

2006 / A 5判 / 260頁

本体2,800円 ISBN4-7842-1301-5

本篇：赤松俊秀校訂／総索引：『隔莫記』研究会編
かくめい き

隔莫記〔全7巻／本篇6冊・総索引1冊〕

1997 / A 5判 / 平均700頁

本体70,000円 ISBN4-7842-1311-2

『隔莫記』研究会編
かくめい き

隔莫記 総索引

2006 / A 5判 / 760頁

本体14,000円 ISBN4-7842-1312-0

太田勝也編

近世長崎・対外関係史料

2007 / A 5判 / 728頁

本体16,000円 ISBN978-4-7842-1362-7

塵海研究会編

北垣国道日記「塵海」

2010 / A 5判 / 652頁

本体9,800円 ISBN978-4-7842-1499-0

東京国立博物館古典籍叢刊編集委員会編

九条家本延喜式〔全5巻〕

東京国立博物館古典籍叢刊

2011～ / A 5判 / 平均500頁

1～4(各) 本体15,000円

原田正俊編

天龍寺文書の研究

2011 / A 5判 / 716頁

本体14,000円 ISBN978-4-7842-1571-3

飯沼賢司編

あ そ しののかり

阿蘇下野狩史料集

2012 / A 5判 / 314頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1611-6

皇學館大学神道研究所編

訓讀註釋 儀式 踐祚大嘗祭儀

2012 / B 5判 / 890頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1619-2

佐々木克・藤井譲治・三澤純・谷川穰編

岩倉具視関係史料〔全2巻〕

2013 / A 5判 / 総1108頁

本体24,000円 ISBN978-4-7842-1659-8

昭和3年(1928)1月にブラジルへ移民として出国した中野義夫が日本へ送った書簡を中心に編集。異国での苦難の日々、母国への想い、経済的無心、家族や兄弟姉妹のこと——海を越えて届けられた一通一通の手紙に移民の生きた声が反映されており、昭和という時代の一側面をとらえた貴重な資料。

鹿苑寺住持鳳林承章の寛永12年(1635)から寛文8年(1668)までの33年間にわたる自筆日記で、近世の日記の中でも一級の記録。鹿苑・相国両寺に関する記事は勿論のこと、当時の宮廷文化をとりまく多彩な人物との交流が伺える。総索引の完成を機に、全7巻セットとして復刊。

全6巻のデータベースをもとに、原文表記に準じつつ『隔莫記』の内容に対応しうる詳細な索引。人名と事項および寺社・地名の3分類に分けて編集し、人名索引では史料掲出の異称・別称などの参照項目を設け、さらに事項索引では諸分野にわたる項目をできうる限り掲げて利用者の便に応える。

「長崎御役所留」(国立公文書館 内閣文庫所蔵)・「長崎諸事覚書」(同)・「長崎記」(東北大学附属図書館 狩野文庫所蔵)および「長崎旧記」(筑波大学附属図書館所蔵)の4点を取る。「長崎御役所留」は長崎奉行所に受け継がれてきた文書・記録類の編纂物であるが、この現存史料としては唯一。

北垣国道(1836～1916)は、京都府知事に就任した明治14年(1881)から、北海道庁長官・拓殖務次官などを経て、隠棲した明治34年(1901)までの活動や人々との交流を日記に書き残した。明治期地方官の実情を記し、京都のみならず中央政治史や地方自治・土木史・北海道史研究に寄与する資料。

国宝・九条家本延喜式は、平安～鎌倉時代の書写と見られ、さらにはその紙背に平安時代後期を中心とする多数の古文書が残されていることから、『延喜式』諸本のなかで最も重要な写本である。FMスクリーン印刷により、紙背も含め全冊を影印で刊行。最終巻には紙背文書の翻刻を付す。

京都嵯峨・天龍寺の古文書は、仏教史・寺院史のみならず多数の朝廷・幕府発給の文書、荘園関係文書を含み、政治史・社会経済史研究に必須の文書群である。第1部には鎌倉時代～慶長5年の中世天龍寺関係文書・関連諸塔頭文書を掲載、第2部に解説・論考を収録する。

阿蘇の五岳の西山麓に広がる広大な原野、下野(しもの)。そこで中世に行われた「下野狩神事」は、源頼朝の富士の巻狩りの手本となったとされる狩神事であり、阿蘇宮最大の重要行事であった。その史料である『下野狩日記』『下野狩旧記抜書』とその関連文書、阿蘇家所蔵の関連史料を翻刻。

三代儀式の一つとして貞観期に作られたとされる、朝廷儀式の次第書『儀式』(十巻)の前半部に含まれ、祭祀に関わる儀式を今に伝える貴重な史料「踐祚大嘗祭儀」の原文翻刻に訓読および各事項についての詳細な注釈・校異、ならびに解題・平面図等を付す。

憲政資料室所蔵文書・対岳文庫所蔵文書・内閣文庫所蔵文書に次ぐ、第4の岩倉具視関係文書群を活字化。『岩倉公実記』編纂時に利用されたものの最も主要な部分で、東京奠都のいきさつや、他の史料集などで紹介されていない未刊行書簡や書類が多数。原本校正を綿密に行い完全活字化。

今村家文書研究会編
今村家文書史料集
 〔上 中世～近世編・下 近代編〕
 2016／B5判／総644頁
 揃 本体18,000円

京都の今村家に伝えられた文書群のうち、戦国期～近世前期の史料、由緒や経営関係、幕末の加茂川筋関連、「穢多」「非人」関係、幕末～明治初年の公用日誌を中心とした近代文書を上下2分冊で翻刻し、解題を付す。文書全点の目録および絵図類の画像とトレース図を収録したCDを上下両巻に収める。

大阪大学会沢正志斎書簡研究会編
 あいざわせい し さい
会沢正志斎書簡集
 2016／A5判／348頁
 本体11,500円 ISBN978-4-7842-1828-8

大阪大学文学研究科が所蔵する会沢正志斎書簡を活字翻刻。会沢正志斎は、後期水戸学を代表する儒学者の一人。本書簡群は、会沢が、弟子で甥でもある寺門政次郎およびその父喜太平に対して宛てた書簡を主とし、会沢著作の書肆とのやりとりに関する記述が多く存在するのも特徴。

個人著作集・全集

芳賀幸四郎歴史論集
 〔全5巻〕
 1981／菊判／平均470頁
 ①～④【品切】 ⑤本体11,000円 ISBN4-7842-0306-0

歴史学・歴史観の先駆を成した氏の業績を集大成
 第1巻 東山文化の研究 上 第4巻 中世文化とその基盤
 第2巻 東山文化の研究 下 第5巻 近世文化の形成と伝統
 第3巻 中世禅林の学問及び文学に関する研究

奈良本辰也選集
 〔全6巻・別巻1〕
 1981～82／四六判／平均320頁
 (各) 本体1,800円

明治維新史研究において戦後の歴史学をリードしてきた著者の幅広い活躍はつとに知られているが、本選集には、鋭い歴史観と人間味あふれる著作より師友にまつわるエッセイから陶磁器・味・旅・歴史小説などを収録。別巻には、現在入手困難な記念碑的諸論文を収めた。

原田伴彦論集〔全5巻〕
 1984～86／A5判／平均400頁
 (各) 本体6,800円

「著作集」に収載しなかった学術論文を編集し、各分野で第一線の研究者による解説を付した。原田史学の集大成。
 第1巻 都市発達史研究 第4巻 部落差別史研究
 第2巻 都市形態史研究 第5巻 文化芸能史研究
 第3巻 都市社会史研究

原田伴彦著作集
 〔全7巻・別巻1〕
 1981～82／四六判／平均410頁
 ①本体2,800円
 ③、⑤～別巻 本体2,900円 ②、④品切

日本の都市史研究の開拓者であり権威である氏が、良質の史料を駆使し、都市研究をはじめ民衆史の本領ともいえるべき部落史、女性史、また茶湯の世界を軽妙かつわかりやすく描く。折にふれて書かれた著作を、テーマ毎に編集。

児玉幸多他編
岡田章雄著作集〔全6巻〕
 1983～84／四六判／平均330頁
 ③以外品切、③本体2,900円

東大史料編纂所において一貫して日本関係海外史料の調査研究に従事した著者が50年に及ぶ研究歴の間に書き残した論著を、今では入手困難なものをを中心に全6巻に編む。

土田直鎮編
桃裕行著作集〔全8巻〕

永年、東大史料編纂所にて古記録や編年史料の調査・編集に携わった著者の業績。本著作集では、未定稿および書き込みも含め、氏の業績を全8巻に集成する。

第1巻 修訂版 上代学制の研究 【品切】
 第2巻 上代学制論攷 【品切】
 第3巻 武家家訓の研究 本体 5,800円
 第4巻 古記録の研究(上) 【品切】
 第5巻 古記録の研究(下) 本体 5,800円
 第6巻 松江藩と洋学の研究 本体 5,900円
 第7巻 暦法の研究(上) 【品切】
 第8巻 暦法の研究(下) 本体 5,900円

1988～94／A5判／平均300頁

林屋辰三郎(代表)・村井康彦・山路興造・川嶋將生・熊倉功夫編

民衆生活の日本史〔全3巻〕

1994～／四六判／平均250頁

第1回〈木〉本体2,500円 ISBN4-7842-0840-2 【3刷】

第2回〈火〉本体2,427円 ISBN4-7842-0910-7

第3回〈金〉本体2,500円 ISBN4-7842-0918-2

木・火・金の五行の元素を各巻タイトルにし、民衆生活への親密性・平易性・日常性を視座に日本史を綴る。時代の特徴を生み出し、日本人を支えてきた五つのうち三つの元気の分析を試みる。各巻は思想・産業・生活・風俗・信仰・特論の5篇、カラー口絵8頁と解説からなる。

村田正志著作集〔全7巻〕

1983～85／A5判／402～704頁
揃 本体79,000円

永年の業績を新たな加筆・訂正を補って集大成。古文書・古記録を通して実証につらぬかれた歴史眼がすみずみまで窺える。第4巻「証註椿葉記」や第7巻「風塵録」は貴重な史料の紹介・翻刻である。

叢書

実学資料研究会編

実学史研究

1984～／A5判／平均300頁／全11冊
揃 本体59,800円

江戸時代において生活に則した条件の改良・改善、いくたの努力が有名人や名もなき庶民によって重ねられ、新時代への原動力になった。それら生活機能を高めるための諸学を実学という。その研究と未刊公刊史料紹介からなるシリーズ。
総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

徳川黎明會編

金鯢叢書（きんこそうしょ）

史学美術史論文集

1974～／第1～20輯A5判・第21輯～B5判
1～40冊(31・32品切)／揃 本体317,200円(品切除く)

徳川林政史料研究所の「研究紀要」と徳川美術館の重要名物類を対象とした史学・美術史学の研究論文を収録。
小社発売分は第40輯で終了。41輯以後は徳川美術館（TEL052-935-6262）へお問い合わせ下さい。

古代

山中 裕 著

平安時代の古記録と貴族文化

思文閣史学叢書

1988・1994／A5判／510頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0857-7

古記録・儀式書・かな日記・歴史物語等の根本史料から、摂関政治の本質および年中行事を主とする平安貴族文化の実態を説く。第1篇では藤原師輔と源高明をとりあげ、第2篇では御堂関白記を中心に道長の政治を論じ、また史実と歴史物語の関係を検討し、第3・4篇で平安時代の有職故実を解明。 【2刷】

村井康彦著

文芸の創成と展開

1991／A5判／400頁
本体4,800円 ISBN4-7842-0658-2

歴史と文学の虚実——私日記・説話・歴史物語などを通して平安貴族の生活、受領の実態、武士の精神構造、女性たちの愛憎をさぐる。村井文化史学。の粋29篇を収め、著者の一到達点を提示する一書。

門脇禎二著

「大化改新」史論〔上・下〕

1991／A5判／(上)300頁(下)340頁
(各) 本体3,800円
上 (ISBN4-7842-0651-5) 下 (ISBN4-7842-0652-3)

『書紀』編者の史観と構成による「大化改新」に疑念を抱いてきた著者の20年間にわたる模索と検証の成果を集成。上巻では、舒明天皇即位の紛争事件、上宮王家滅亡事件、蘇我本宗家滅亡事件を検証し、下巻には「大化」期の政治過程、「大化改新」と律令制、「大化改新」論覚書などを収める。

瀧浪貞子著

日本古代宮廷社会の研究

思文閣史学叢書

1991 / A 5判 / 620頁

本体11,800円 ISBN4-7842-0677-9

山中 裕 編

古記録と日記〔上・下〕

1992 / A 5判 / (上)252頁(下)266頁

(各) 本体2,900円

上 (ISBN4-7842-0752-X) 下 (ISBN4-7842-0753-8)

上横手雅敬監修 / 井上満郎・杉橋隆夫編

古代・中世の政治と文化

1994 / A 5判 / 680頁

本体14,000円 ISBN4-7842-0818-6

山中 裕 著

源氏物語の史的研究

思文閣史学叢書

1997 / A 5判 / 470頁

本体9,200円 ISBN4-7842-0941-7

加茂正典著

日本古代即位儀礼史の研究

思文閣史学叢書

1999 / A 5判 / 480頁

本体8,600円 ISBN4-7842-0995-6

門脇慎二編

日本古代国家の展開

1995 / A 5判 / 各470頁

(各) 本体12,000円 上 (ISBN4-7842-0889-5) 【品切】 下 (ISBN4-7842-0890-9)

西別府元日著

律令国家の展開と地域支配

思文閣史学叢書

2002 / A 5判 / 400頁

本体8,200円 ISBN4-7842-1111-X

西別府元日著

日本古代地域史研究序説

2003 / A 5判 / 320頁

本体6,800円 ISBN4-7842-1142-X

秋吉正博著

日本古代養鷹の研究

2004 / A 5判 / 280頁

本体6,500円 ISBN4-7842-1181-0

柴原永遠男著

紀伊古代史研究

2004 / A 5判 / 430頁

本体7,500円 ISBN4-7842-1199-3

先入観を極力排し、奈良・平安時代を連続して考察することにより、光明子立后論の盲点を衝き、学問的に忌避されがちな孝謙女帝の復権を果すなど創見に富む著者初の論文集。

古記録と日記文学は同じ日記とはいえ、まったく異なる分野であり、従来の研究は古記録を歴史学、“かな”の日記を国文学の分野で扱ってきたが、本書においては日記という大きな見地から平安朝の古記録と日記文学の本質を明らかにすることを主眼としている。挿入図版60余点。

監修者の京大退官を機に、最新成果を集約。【執筆】西山良平 / 橋本義則 / 元木泰雄 / 美川圭 / 川端新 / 久野修義 / 杉橋隆夫 / 今岡典和 / 今谷明 / 伊藤之雄 / 鎌田元一 / 吉川真司 / 柴原永遠男 / 酒井宏治 / 上島享 / 谷口昭 / 笠谷和比古 / 本郷真紹 / 井上満郎 / 小林保夫 / 田島公 / 勝山清次 / 綾村宏 / 上横手雅敬 / 山内譲 / 仁木宏

王朝文化・有職故実研究の第一人者が源氏物語を史的に読み解く。紫式部の生涯と後宮 / 源氏物語と時代背景 / 源氏物語の内容と時代性 / 源氏物語の準拠と史実、の4篇と付篇からなり、特に第三・四篇は、摂関制・年中行事・準拠と史実などの面から論じた、著者の面目躍如たる一書。

大嘗祭をはじめ、踐祚儀(剣璽渡御儀礼)をも考察の対象とし、広義の即位儀礼研究として、各儀式・祭儀の具体的実態およびその歴史的変遷と関連を考察。著者最新の研究動向、さらに資料篇として古代即位儀礼史料年表稿、新嘗祭・大嘗祭文献目録(昭和20年～平成10年)を収載し、索引を付す。

京都府立大学・京都橘女子大学の学長を務め、戦後古代史学に大きな足跡を残した編者に学恩をうけた研究者37名による古稀記念論文集。

土地に対する国家的管理の実相、民衆掌握の様相、地域社会と国家との関係、の3視点から8～9世紀の諸政策を対比的に分析・検討し、律令国家支配の理念とその構造的変化を追究する。

いまだかけ声にとどまる「地域の視座」にたつ研究の実践的試み。「地域の視座」を人々の再生産(経営)の場とその構造に思索の立脚点をすえることととらえ、前著で追究した律令国家の展開を明らかにするための前提ともなる、古代地域社会研究方法論の確立をめざす。

律令国家体制下の養鷹の実態、放鷹文化の構造を解明。朝廷の放鷹が近隣諸国や国内の地方の放鷹と隔絶しているのかのどくされてきた従来の研究に対し、東アジアの国際情勢と照応しながら体制の内外を横断し展開する朝鮮半島系と中国系という二極の放鷹文化の伝統意識を動態的に捉える。

古代の紀伊をテーマに扱ってきた永年の成果をまとめる。第Ⅰ部では、紀国造と名門貴族である紀朝臣の考察と倭政権との関係を扱い、政治と経済の動向は第Ⅱ部でとりあげる。第Ⅲ部には史料論5篇を収録。

佐藤宗諄先生退官記念論文集刊行会編

『親信卿記』の研究

2005 / A 5判 / 600頁
本体9,800円 ISBN4-7842-1252-3

中村修也著

今昔物語集の人々 平安京篇

2004 / A 5判 / 220頁
本体2,300円 ISBN4-7842-1213-2

官文娜著

日中親族構造の比較研究

思文閣史学叢書

2005 / A 5判 / 430頁
本体7,200円 ISBN4-7842-1241-8

中村修也著

日本古代商業史の研究

思文閣史学叢書

2005 / A 5判 / 400頁
本体7,200円 ISBN4-7842-1268-X

渡里恒信著

日本古代の伝承と歴史

2008 / A 5判 / 372頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1403-7

関口力著

摂関時代文化史研究

思文閣史学叢書

2007 / A 5判 / 488頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1344-3

兵範記輪読会編

増補改訂 兵範記人名索引

2013 / A 5判 / 524頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1713-7

上田正昭著

古代日本の輝き

2003 / 四六判 / 300頁
本体1,700円 ISBN4-7842-1167-5

上田正昭著

東アジアのなかの日本

2009 / 四六判 / 376頁
本体2,400円 ISBN978-4-7842-1479-2

林 陸朗 著

奈良朝人物列伝

『続日本紀』薨卒伝の検討

2010 / A 5判 / 468頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1517-1

平親信の日記『親信卿記』は、蔵人の年中行事に関わる一級の史料である。本書は、四方拝・供立春水など80項目余の行事ごとに記事を抽出・分類し、その内容の基礎的な研究を試みたものであり、関係補論6篇のほか古代史の個別論考4篇も収録。

虚実ないまぜ話柄の豊富な説話文学の古典から平安京という都市で生きる人々——商人・検非違使・怪盗・陰陽師・絵師たち——のさまざまな姿を活写。【目次】都人の楽しみは神社詣で／不思議な力の商人たち／盗賊団の跋扈する都／平安京の冥界と霊力／都に生まれた芸術家／昔も変わらぬ食生活

近代以降、日本は西洋異文化（近代文化）との融合を果たしたが、中国はそれが不可能であった。なぜそのような状況がうまれたのか。異文化の特質解明という視点から日本と中国の血縁親族構造の比較を検証してその原因を解明した、著者初の論文集。

人間の生活は商人による多様な交易によって支えられ営まれている。本書では、これらの商人や市に関わる人々の存在形態を、交易の発生から出雲・平城京・平安京などにおける都市空間の生活の場で解析し、日本古代における商人と商業の業態を明かす。

大化前代における王権と氏族の諸様相を『古事記』と『日本書紀』などの伝承史料から解き明かした論考を第1・2篇に収録し、第3篇では平安初期の特徴的な君臣関係をテーマとしてとりあつかう。

道長の時代の古記録・日記類から、摂関時代全盛期に生きた人物、および彼らをはぐくんできた社会について考察。政権を掌握した体制派、それに対する反体制派、そうした官人群とは一線を画した非体制派の人物群という基本的な人間類型を示すことにより、人間が主人公である歴史の在り方について追究する。

1980年の輪読会発足より蓄積された研究成果を集成。（増補）史料大成本を底本とし、男子の部と女子の部よりなり、人名項目のもとに掲出年月日と原文表記を掲げ、原本の情報を盛り込んだ、研究者必携の一書。増補改訂にあたり、本文篇の誤り・遺漏等を改訂、「異称・通称名索引」を増補。

日本の歴史と文化を支えている「古代的精神・古代的要素」とはなにか——広くアジア史をも視野に入れて折口民俗学を継承する著者が喜寿の節目にまとめた一書。【内容】北ツ海文化の再検討／『風土記』の伝承／モノの歴史学からヒトの歴史学へ／石門心学の再発見／古代芸能の形成／現代に生きる朝鮮通信使 など

海を媒介とするアジアとのかかわりを重要なテーマとしてきた著者がまとめた最新の一書。【内容】東アジアのなかの京都盆地／嵯峨野と秦氏／神々のふるさと／銘文研究二十年と古代史／鎮守の森と南方熊楠／歴史のなかの聖徳太子像／和歌のこころ／保津川開削と了以・素庵 など

『続日本紀』には王臣・僧侶等の死没記事のあとにその人の略伝的な記事を掲げることがある。こうした伝記的な記事を薨卒（こうしゅつ）伝といい、撰者の批評的記事を交えて極めて特色ある史料として注目される。54の全薨卒伝について、現代語訳・訓読・原文・語句解説・考察で構成。

仁明朝史の研究

承和転換期とその周辺

2011／A 5判／356頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1547-8

鹿内浩胤著

日本古代典籍史料の研究

2011／A 5判／376頁

本体6,700円 ISBN978-4-7842-1552-2

渡邊 誠 著

平安時代貿易管理制度史の研究

2012／A 5判／396頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1612-3

佐古愛己著

平安貴族社会の秩序と昇進

2012／A 5判／572頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1602-4

山中 裕 著

栄花物語・大鏡の研究

2012／A 5判／404頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1640-6

武田佐知子著

古代日本の衣服と交通

装う王権 つなぐ道

2014／A 5判／420頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1723-6

渡辺 滋 著

日本古代文書研究

2014／A 5判／480頁

本体9,200円 ISBN978-4-7842-1715-1

近藤好和著

日本古代の武具

『国家珍宝帳』と正倉院の器仗

2014／A 5判／470頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1766-3

山下克明著

平安時代陰陽道史研究

2015／A 5判／460頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1780-9

仁明朝史研究会の研究成果をもとに、様々な分野・視点から仁明朝期の画期性を解き明かす論文集。

【目次】九世紀東部ユーラシア世界の変貌（山内晋次）／九世紀の調庸制（吉川真司）／九世紀の輸送体系（佐藤泰弘）／「化他」の時代（堀裕）／平安京野寺（常住寺）の諸問題（西本昌弘）／銭貨と土器からみた仁明朝（高橋照彦）／造瓦体制の変革期としての仁明朝（網伸也）／定額寺の修理と地域社会の変動（菱田哲郎）／承和期の乾漆併用木彫像とその後の展開（根立研介）／平安時代前期の陵墓選地（山田邦和）／斎宮・離宮院変遷の歴史的背景（山中章）

史書・法制史料・儀式書など日本古代史の基本史料を対象に、伝来論的アプローチを中心に「文献学的研究」と「書誌学的研究」の二部構成で研究の方法論を提示。著者が発見した新史料「小野宮年中行事裏書」〔田中教忠旧蔵「寛平二年三月記」〕全丁の影印・翻刻も収録。

従来、平安時代の貿易に対する国家の関与は、内外の交易者と対立的に捉えられることが多かったが、人々の活動を即座に国家権力と対峙させる理解は今や再考を迫られている。本書は海商の貿易活動を国家が管理する「制度」を中心にすえて、その消長を明かすことで、新たな貿易史像を呈示する。

従来、律令官司制の変質、中世国家機構の形成過程との有機的な関連はほとんど追究されてこなかった。本書は、平安から鎌倉初期にかけての各制度の総体的な把握を試みることに、律令官人制から平安貴族社会、中世公家社会の成立過程を明かし、日本の古代から中世への移行の特質を探る。

従来『栄花物語』はとくに国文学の分野でとりあげられ、歴史学の方面からの研究は少ない。本書は『栄花物語』に内包される歴史書としての特徴を考究し、かつ『大鏡』の歴史的意義についても論究。従来からの歴史物語という分野に収まりきれない可能性を提示する。

衣服が着用される儀礼の空間としての都と地方が、連続した人工的空間としての道路で結ばれていること、その道路の国家と公民における意味、そこでの衣服の機能などを考察の対象とした諸論考を冒頭に配し、古代の中国や朝鮮半島の衣服を継受しながら形成されてきた日本列島の衣服制を見通す。

古代中国から文書主義を継受した段階にはじまり、最終的にそれを換骨奪胎して日本的な新秩序として再編成するまでの諸過程を、日本古代社会で作成・利用されたおもな文書形式（符・序宣・下文、移、牒、解など）を対象として分析。古代から中世への移行にかかわる日本社会の特質に迫る。

光明皇太后による献納品目録『国家珍宝帳』に書かれた古代器仗の情報と正倉院宝物は古代の器仗（武具）のありようを知るための貴重な基本文獻・伝世品である。本書は両者をそれぞれ詳細に解説し、図版編には正倉院器仗を中心に多数の器仗を収録。日本古代の器仗を理解するための基本図書。

陰陽道の日本の特質、陰陽師たちの天文観測技術や呪術・祭祀など活動の実態とその浸透、彼らの信仰などをさまざまな角度から明かす。また、陰陽道の背景となった諸典籍、陰陽師たちが著し伝えた主な関連史料を、解説を付しながら紹介。陰陽師の日記『承久三年具注暦』の翻刻を収録。

倉本一宏編

日記・古記録の世界

2015 / A 5判 / 792頁
本体12,500円 ISBN978-4-7842-1794-6

坂江 渉 著

日本古代国家の農民規範と地域社会

2016 / A 5判 / 464頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1787-8

臈谷 寿 著

平安王朝の葬送

死・入棺・埋骨
2016 / 四六判 / 304頁
本体3,700円 ISBN978-4-7842-1832-5

日記とは何か、古記録とは何か、それらを記録することの意味、記主や伝来をめぐる諸問題、古代・中世における使われ方など、単に日記・古記録を利用するだけにとどまらない意欲作35論考を収録。多様な領域の研究者が活発な議論を交わした、日文研共同研究「日記の総合的研究」の成果。

「農民規範」と「浮浪人」をキーワードに国家が地域社会に期待した農民像、律令国家の社会統治原理を明かす。一方、風土記や記紀にみえる神話や伝承、民間歌謡を素材として村落における農民結合のあり方、族長層と農民との支配―庇護関係を論じ、国家と地域社会の関係を双方の視点から分析。

日本古代摂関・院政期の天皇(桓武〜安徳天皇)と貴族の葬送儀礼における具体相をさぐり、相違点を考察。平安王朝の死、入棺、葬送、埋骨の様相を通覧することから、皇権の在り方を考える。平安朝史研究に精通した著者による一書。土葬から火葬への変遷が一覧できる表を付載。

中 世

高橋康夫著

京都中世都市史研究

思文閣史学叢書
1983・2003 / A 5判 / 540頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0318-4

中世京都の都市空間形成過程における種々の問題を、辻子の発生と展開、平安京北辺・後小松院仙洞御所跡敷地・土御門四丁町等の再開発、あるいは六町の成立と構造などの検討を通してさぐり、今日の歴史的都市の保全修景計画をも射程に入れて中世都市像を追究。人名・事項索引を付す。【2刷】

橋本初子著 〈第13回角川源義賞〉

中世東寺と弘法大師信仰

思文閣史学叢書
1990 / A 5判 / 580頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0621-3

中世東寺における弘法大師信仰の実態を、御影供、仏舎利信仰、東寺の大湯屋、東寺の造営事業、大師宝前仏事などを通して明かす。東寺観智院金剛藏聖教、東宝記、検非違使庁関係文書などを駆使しての広博な視野のもとに精緻な研究を問うてきた著者の、中世宗教文化史研究上画期的な労作。

川嶋将生著

中世京都文化の周縁

思文閣史学叢書
1992 / A 5判 / 430頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0717-1

“近世都市”へと変貌を遂げていく中世京都の姿を、洛中洛外図や祇園会の記録を通し、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人との世代交代という、中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。

工藤敬一著

荘園公領制の成立と内乱

思文閣史学叢書
1992 / A 5判 / 440頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0750-3

九州において鎌倉前期(承久の乱後)に完成する荘園公領制の構造を、その前提にある院政期から鎌倉幕府支配体制の確立へと収束していく在地勢力の内乱、幕府の九州支配の一大特色である小地頭制という政治的社会的あり方とともに究明する。

三浦圭一著

日本中世の地域と社会

1993 / A 5判 / 496頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0755-4

地域史・技術史・流通史に先駆的な業績を残した著者が「地域史をどう書くか」ということではなくて地域社会の中から歴史をどう描くかを課題として、中世後期の地域社会における民衆生活の全体像を、支配関係・村落共同体・差別構造・技術・信仰などから重層的に明かした珠玉の論集。

笹本正治著

戦国大名武田氏の研究

思文閣史学叢書
1993 / A 5判 / 440頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0780-5

甲斐武田氏を素材に、戦国時代の国境の在り方、棒道に代表される道の意味、国人領主を支配下に組み込む過程、さらに民衆の側から見た戦国大名、職人・商人の支配構造を明かしていく14篇。従来の研究に「あまりに武田氏の権力を大きく評価しすぎたのではないか」とする著者の問題提起。

市村高男著

戦国期東国の都市と権力

思文閣史学叢書

1994 / A 5判 / 580頁

本体10,800円 ISBN4-7842-0855-0

佐藤博信著

中世東国の支配構造

思文閣史学叢書

1989・1998 / A 5判 / 410頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0554-3

佐藤博信著

続中世東国の支配構造

思文閣史学叢書

1996 / A 5判 / 358頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0916-6

大山喬平編

中世荘園の世界

東寺領丹波国大山荘

1996 / B 5判 / 340頁

本体9,600円 ISBN4-7842-0893-3

大山喬平教授退官記念会編

日本国家の史的特質

〔古代・中世〕

1997 / A 5判 / 796頁

本体15,000円 ISBN4-7842-0937-9

大山喬平教授退官記念会編

日本社会の史的構造

〔古代・中世〕

1997 / A 5判 / 774頁

本体15,000円 ISBN4-7842-0936-0

上島有・大山喬平・黒川直則編

東寺百合文書を読む

よみがえる日本の中世

1998・2015 / B 5判変 / 164頁

本体2,500円 ISBN4-7842-0978-6

金井静香著

中世公家領の研究

思文閣史学叢書

1999 / A 5判 / 330頁

本体6,000円 ISBN4-7842-0996-4

川嶋將生著

「洛中洛外」の社会史

1999 / A 5判 / 348頁

本体6,500円 ISBN4-7842-1003-2

八木聖弥著

太平記的世界の研究

1999 / A 5判 / 290頁

本体6,800円 ISBN4-7842-1021-0

東国戦国史の雄である後北条氏に対決した下野の小山氏、下総の結城・山川氏、常陸の佐竹・多賀谷・土岐・岡見氏、武蔵の成田氏などの諸権力を詳細に分析し、それとの関連で都市（城下町）の実態を追求、併せて当該地域の歴史像を明らかにしている労作。

鎌倉府の歴史的性格を決定づけた武州河越合戦、鎌倉府体制下の相模守護のあり方、奉行人の軌跡、古川公方足利氏を生み出した東国の内乱＝享徳の大乱の諸段階の検討など、室町・戦国期の政治過程を究明し、更に鎌阿寺文書・正木文書・喜連川家文書・福田家文書などの関係史料を検討。 【2刷】

南北朝期から戦国期における東国の権力構造の諸問題を多方面から明かした論考18篇を収める。関東足利・上杉両氏の動向を中心に、内乱、家臣団をめぐる諸相、都市・寺社論。さらには下総光福寺文書・鎌阿寺文書・常陸戸家文書・扇谷上杉朝良文書・上総大野家文書などの史料論をも言及する。

5年間の大山荘の調査結果をふまえたシンポジウムをもとに編んだ中世荘園の全貌に迫る待望の書

〔執筆著〕 大山喬平／西田辰博／水野章二／小林基伸／芦田茂／村田修三／久下隆史／金田章裕／海老澤実／服部英雄

古代・中世の国家をテーマとした書き下ろし論文31本を収録

〔近世・近代〕編は25頁に掲載

古代・中世の社会をテーマとした書き下ろし論文32本を収録

〔近世・近代〕編は25頁に掲載

国宝・東寺百合文書から50点を選び、「東寺」「武家」「民衆」の3テーマで構成。テーマ毎に編者による概説、各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付し、写真は大型図版で掲載。東寺百合文書の持つ多様な魅力とともに、一通の文書を読み解く面白さも紹介する。 【2刷】

公家領の総体的な研究は未だ少なく、荘園公領制や院政・家制度といった関連分野においても、十分に論じられているとは言いがたい。本書は、そういった状況を踏まえ、王家領も含めた公家領の諸側面を明らかにすることにより、その総合的特質と変容過程の解明にとりくんだ意欲作。

鴨川の景観変遷、都市としての京都を生み出した町人の信仰・遊楽や会所への関わり、被差別民の動向、京郊に展開した村落の諸相、さらに落書の系譜にみられる社会や政治に対する人々の認識など、「洛中洛外」の時代にとりくんだ成果。

本書では『太平記』の描く時代を広く文化史的視点から論じ、多様な価値観が統合された、その時代性を浮き彫りにする。〔内容〕 研究史／『太平記』とその時代／『太平記』の世界の信仰／猿楽能と『太平記』的世界／『太平記』の世界から幽玄の世界へ

原田信男著

中世村落の景観と生活

関東平野東部を中心として

思文閣史学叢書

本体10,800円 ISBN4-7842-1022-9

現地調査にもとづき、地形や伝承、中世・近世文書や地誌類などの資料、さらに地理学・考古学などの隣接諸科学も援用し、典型的な中世村落の事例復原を試み、生活の諸相をふくめて総合的かつ具体的に考察。(挿入図表130余点)

1999 / A 5判 / 640頁

鍛代敏雄著

中世後期の寺社と経済

思文閣史学叢書

1999 / A 5判 / 404頁

本体8,000円 ISBN4-7842-1020-2

中世寺社勢力が後退し戦国期宗教が台頭した転換期における、政治経済上勢力を誇った石清水八幡宮と本願寺教団を主な対象とし、寺領・社領を中心に論じられてきた寺社と経済をめぐる問題に商業史・交通史・都市史の視角から迫り、中世後期の社会経済の変革の実態を具体的に描く。

村井康彦・笠谷和比古編

公家と武家〔全4冊〕

国際日本文化研究センターで行われた公家(貴族)と武家に焦点を合わせた共同研究の成果。武士層が成長した地域と、文官支配が優越した地域との差異に着目。前近代社会における支配エリートであったそれらの身分や職能のもつ意味、その秩序の形式、社会的役割といったものを多角的に検討。

I その比較文明史的考察

本体 7,800円

II 「家」の比較文明史的考察

本体 9,400円

III 王権と儀礼の比較文明史的考察

本体 7,800円

IV 官僚制と封建制の比較文明史的考察

本体 8,500円

1995～2008 / A 5判 / 平均490頁

揃 本体33,500円

笠谷和比古編

国際シンポジウム

公家と武家の比較文明史

本体8,000円 ISBN4-7842-1256-6

国際日本文化研究センターで内外の第一線の研究者が一堂に会し行われたシンポジウム報告。【内容】 I 文人型社会と戦士型社会 II 王権と儀礼 III 貴族とは何か IV 封建制度と官僚制度 V 思想・宗教・文化

2005 / A 5判 / 490頁

小西瑞恵著

中世都市共同体の研究

思文閣史学叢書

2000 / A 5判 / 340頁

本体6,400円 ISBN4-7842-1026-1

陸路水路の要衝大山崎を分析し、国家権力と密接な関係をもつ商業的共同体という観点から論じた大山崎研究、港湾都市である堺都市論、自治都市の成立過程と内部構造について公界と会合に着目した大湊研究、戦後の都市論への見解を示した論考。都市共同体の全体的構造や住民の実態に迫る。

佐藤博信著

江戸湾をめぐる中世

2000 / A 5判 / 270頁

本体5,600円 ISBN4-7842-1045-8

房総を含む江戸湾一帯を東西両国の出入口として捉え、そこでの人と物との流れを時の権力との絡みから再検討しようとした論考11篇。二階堂文書・鶴岡八幡宮文書・金沢文庫文書・妙国寺文書など関係史料から氏族の存在とその歴史的性格(専門職能)について考察する。

小川 信 著

中世都市「府中」の展開

思文閣史学叢書

2001 / A 5判 / 576頁

本体11,000円 ISBN4-7842-1058-X

古代国府の後身ともいうべき領域は、国府(こう)、府中と呼ばれる。中世府中は古代国府と戦国期以降の城下町の間位置しながら意外と見逃されていた一種のmissing link(見失われた環)であったが、本書では詳細な個別研究を集大成、中世都市としての諸国府中の全体像を明かす。

堀池春峰監修/綾村宏・永村眞・湯山賢一編集

東大寺文書を読む

2001 / B 5判変 / 192頁

本体2,800円 ISBN4-7842-1074-1

東大寺が有する膨大な文書群(平成10年国宝指定)の中から50余点を選び、その豊かな世界を紹介する。写真は大型図版で掲載し、テーマごとに編者による概説、各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付す。【構成】文書の伝来/勧進と檀越/寺家と寺領/法会と教学/文書の姿

下坂 守 著

中世寺院社会の研究

思文閣史学叢書

2001 / A 5判 / 598頁

本体9,800円 ISBN4-7842-1091-1

中世社会においてその活動を総体的に把握しようとしてこなかった比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺がいかなるものであったかはもとより、惣寺を基盤として形成されていた寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る、著者初めての論文集。

田中文英著

院政とその時代

佛教大学鷹陵文化叢書 8

2003 / 四六判 / 310頁

本体2,200円 ISBN4-7842-1149-7

水野章二編

中世村落の景観と環境

山門領近江国木津荘

2004 / A 5判 / 390頁

本体6,800円 ISBN4-7842-1198-5

脇田晴子 / M・コルカット / 平雅行共編

周縁文化と身分制

2005 / A 5判 / 350頁

本体5,500円 ISBN4-7842-1231-0

熱田 公 著

中世寺領荘園と動乱期の社会

思文閣史学叢書

2004 / A 5判 / 540頁

本体9,000円 ISBN4-7842-1203-5

(財)世界人権問題研究センター編

さんじょ しゅうも じ まいまい

散所・声聞師・舞々の研究

2004 / A 5判 / 590頁

本体8,200円 ISBN4-7842-1219-1

元木泰雄著

院政期政治史研究

思文閣史学叢書

1996・2000 / A 5判 / 406頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0901-8

上島 有 著 (第21回角川源義賞)

東寺・東寺文書の研究

1998 / A 5判 / 872頁

本体17,000円 ISBN4-7842-0979-4

鹿毛敏夫著

戦国大名の外交と都市・流通

豊後大友氏と東アジア世界

思文閣史学叢書

本体5,500円 ISBN4-7842-1286-8

阿部能久著

戦国期関東公方の研究

思文閣史学叢書

2006 / A 5判 / 320頁

本体5,700円 ISBN4-7842-1285-X

森 茂曉 著

中世日本の政治と文化

思文閣史学叢書

2006 / A 5判 / 480頁

本体9,000円 ISBN4-7842-1324-4

古代国家から中世国家への国家権力形態の転回のおかげで最も重要な画期・院政期をかたちづくった各権門の動向についての論考8篇を収録。荘園支配など地域社会にも目を向け、社会的にも政治的にも大きな変化が生じた激動の時代を分析した既発表の論考を大幅に改稿。

木津荘検注帳の検討や聞き取り調査など、多面的に中世村落の景観に迫る。最重要港であった木津が鎌倉以降今津にとってかわられる主原因は琵琶湖の水位変動だったことや、湖岸はラインではなく生態系と生業を有するゾーンであること、棚田景観が主として室町期に形成されたことなどを論証。

前近代社会を近代化の呪縛を脱した地平から見直し、周縁部分をテーマとすることで新たな前近代社会像を構築。**【執筆】** 武田佐知子 / 田端泰子 / マーチン・コルカット / 吉田伸之 / デイビッド・ハウエル / ルーク・S・ロバーツ / コンスタンティン・N・ヴァボリス / 松井章 / 平雅行 / 脇田晴子 / 脇田修 / 塚田孝

中世畿内における荘園研究の先駆者の一人である著者が遺した主要な業績を4部構成でまとめる。高野寺領荘園支配の確立過程・紀州における惣の形成と展開・室町時代の興福寺領荘園について・中世大和の声聞師に関する一考察など全16篇・付論1篇を収録。

部落史・身分制・芸能史研究などによって、散所問題はさまざまな視点からとりあげられてきた。本書では、永年の共同研究の成果として山城・近江地域に所在した散所の個別的な検証を通して、地域散所研究の到達点を提示。本論のほか座談会・文献目録・年表を併載。

卒論で武家棟梁の政治的限界に気づいて以来大きな政治力を有する荘園領主権門の分析に傾倒してきた著者の研究成果を纏め、権門としての摂関家の特質に注目した新たな平安期政治史を提示。さらに平氏政権をとりあげ、諸権門の相剋・対立、職能分離した権門の鼎立に至る過程に迫る。 **【2刷】**

永年、東寺と東寺文書の研究に携わってきた著者が、近世文書や聖教類も含めた東寺文書とその整理の歴史を、寺史や伝来も併せて総論で。**【内容】** 東寺の歴史 / 東寺文書の伝来と現状 (上) (下) / 東寺百合文書の整理と目録作成 / 東寺文書をめぐって 付: 文書編年目録 / 索引 挿入図版多数

西日本の戦国大名のアジア外交の実態とそこに潜む意識構造について解明するとともに、政治・経済・文化的にアジア諸国と緊密な関係にあった西国大名による都市・流通政策の実態を明らかにする。

2006 / A 5判 / 300頁

室町幕府の東国支配機関であった関東公方の長である関東公方。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鎌阿寺や禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。

鎌倉時代から室町時代にかけて、現存している古文書や、政治と深く関わった宗教者から、「中世日本」とはどのような時代だったのかをひもとく、さらに『増鏡』や『太平記』、『博多日記』という記録史料など、文芸作品からのアプローチをも試みる。中世の政治と文化を総合的に明かす論考15篇。

源城政好著

京都文化の伝播と地域社会

思文閣史学叢書

2006 / A 5判 / 400頁

本体7,800円 ISBN4-7842-1325-2

勝山清次編

南都寺院文書の世界

2007 / A 5判 / 350頁

本体5,800円 ISBN978-4-7842-1369-6

橋詰 茂著

瀬戸内海地域社会と織田権力

思文閣史学叢書

2007 / A 5判 / 396頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1333-7

佐々木哲著

系譜伝承論

佐々木六角氏系図の研究

2007 / 四六判 / 360頁

本体3,800円 ISBN978-4-7842-1370-2

稲垣弘明著

中世蹴鞠史の研究

鞠会を中心に

2008 / A 5判 / 300頁

本体5,500円 ISBN978-4-7842-1390-0

上横手雅敬編

鎌倉時代の権力と制度

2008 / A 5判 / 358頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1432-7

新見康子著

東寺宝物の成立過程の研究

2008 / A 5判 / 638頁

本体12,000円 ISBN978-4-7842-1368-9

小森正明著

室町期東国社会と寺社造営

思文閣史学叢書

2008 / A 5判 / 356頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1421-1

森 茂暁 著

増補・改訂

南北朝期公武関係史の研究

2008 / A 5判 / 612頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1416-7

中世後期研究会編

室町・戦国期研究を読みなおす

2007・2008 / A 5判 / 408頁

本体4,600円 ISBN978-4-7842-1371-9

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、今までの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらに河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収めた。

東大寺宝珠院に伝わった法華堂文書と宝珠院文書、興福寺一乗院坊官二条家に伝来した一乗院文書および一乗院御用日記の調査をもとに、摂津国長洲荘関係史料を用いた論考や、中世と近世の興福寺を論じた研究などを収録し、東大寺と興福寺の寺領と寺院組織研究を新たに進展させる一書。

特産物の塩、周辺物資の海上輸送、在地権力の動向、海賊衆や真宗勢力の台頭、制海権をめぐる抗争など、瀬戸内海・四国をとりまく実態を明かす。【内容】第1編：瀬戸内海社会の形成と展開／第2編：瀬戸内海社会の発展と地域権力／第3編：地域権力と織田権力の抗争

作為や錯誤が多いことから歴史資料として正当な評価を受けてこなかった系図について、作為や錯誤を隠喩ととらえるという斬新な手法で、資料としての可能性を示す。さらに、その作為や錯誤が生み出された背景まで探求し、室町・戦国期における佐々木六角氏の果たした役割の大きさを明らかにする。

室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じる。とくに15世紀後半における蹴鞠会について、新興武家層を参加者として加えた場より遊興性を加味しながら変容し、「故実」に代わって「新儀」が定着すること、それが近世の家元制度の萌芽と認められることなどを明かす。

鎌倉時代史をリードしてきた編者と、次世代を担う関西の若手研究者により結成された鎌倉時代研究会の初の論集。

【執筆者】佐伯智広／樋口健太郎／長村祥知／伊藤啓介／宮本晋平／熊谷隆之／滑川敦子／吉田賢司／上横手雅敬／芳澤元／坂口太郎／木村英一

南北朝時代の寺誌である『東宝記』や東寺百合文書にみられる宝物目録などの豊富な史料をもとに、具体的に東寺に残る文化財の伝来を体系化した一書。今後の文化財の活用や保存を前提に、本来の保管形態を復元し、伝来を確定して位置付けをしなす。カラー口絵4頁、挿入図版80点。

寺社の造営事業は、寺社を中心とする経済活動—寺社領経済—の発展に大きな効果をもたらした。本書は、鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察する。「香取文書」など中世東国の「売券」の長年にわたる分析に基づく成果。

南北朝期の公家政局の構造、および朝廷と幕府との関係を、豊富な史料をあけて実証的に読み解き、その後の中世政治史の発展を決定づけた、1984年文献出版刊行の名著を増補・改訂して復刊。増補にあたっては、32頁に及ぶ新補注を付し、旧版刊行後に見いだされた基礎データ等を収録。

【内容】Ⅰ 政治史を読みなおす 1 公武関係を読みなおす(松永 和浩・桃崎有一郎) 2 都鄙関係を読みなおす(山田徹・吉田賢司・平出真宣・尾下成敏) Ⅱ 社会史を読みなおす(西島太郎・清水克行・三枝暁子) Ⅲ 経済史を読みなおす(早島大祐・高谷知佳) Ⅳ 宗教史を読みなおす(大田壮一郎・安藤弥) 【2刷】

藤本孝一著

中世史科学叢論

2009 / A 5判 / 442頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1455-6

山田彩起子著

中世前期女性院宮の研究

2010 / A 5判 / 310頁
本体5,600円 ISBN978-4-7842-1496-9

桃崎有一郎著

中世京都の空間構造と礼節体系

2010 / A 5判 / 584頁
本体7,200円 ISBN978-4-7842-1502-7

仁木 宏 著

京都の都市共同体と権力

思文閣史学叢書

2010 / A 5判 / 330頁
本体6,300円 ISBN978-4-7842-1518-8

矢内一磨著〈第6回全国大学国語国文学会賞〉

一休派の結衆と史的展開の研究

2010 / A 5判 / 370頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1525-6

谷 昇 著

後鳥羽院政の展開と儀礼

2010 / A 5判 / 328頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1536-2

丸島和洋著

戦国大名武田氏の権力構造

2011 / A 5判 / 436頁
本体8,500円 ISBN978-4-7842-1553-9

佐々木倫朗著

戦国期権力佐竹氏の研究

2011 / A 5判 / 304頁
本体5,800円 ISBN978-4-7842-1569-0

東寺文書研究会編

東寺文書と中世の諸相

2011 / A 5判 / 654頁
本体11,000円 ISBN978-4-7842-1578-2

外山幹夫著

中世長崎の基礎的研究

2011 / A 5判 / 424頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1589-8

原史料の調査と保存に永年携ってきた著者の初の論集。史料や古典籍から何を学び何を読み解くのか。個別史料の読解・紹介から史実と虚構の問題まで、平安京から中世にわたる諸論を収録。

院政・鎌倉期における女性院宮（女院・后）の多様な存在形態を様々な視点から分析。第一部では、国母の存在形態の多様性と王家における役割・位置付けを検証し、第二部では、摂関家出身の女性院宮の摂関家における独自の役割の大きさを論証する。中世の公家社会研究に寄与する一書。

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は？ 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか？
中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容から町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明かし、中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的、理論的に分析する。

一休没後も存続した一休派の結衆とその史的展開を解明すること、中世末期の寺院研究史上の欠如を埋める。一休の印可、法嗣否定による法統断絶の危機、門派結衆の軸としての一休塔所での評議、門派での祖師忌法会を第一部でとりあげ、大徳寺復興や在俗信仰者の結衆について第二部で扱う。

後鳥羽天皇（上皇）が課せられた政治課題とそれに対する対応＝政策理念が、宮中の儀式・行事である公事と修法・寺社参詣参籠等宗教儀礼の中に具現しているとする視点から、それらが果たした政治的役割を個別具体的に検証し、多面的な視点に立った後鳥羽理解、政治史叙述を企図した一書。

甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討とあわせて、大名権力の中枢を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つめ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする一書。

戦国期佐竹氏の権力形成過程、一族衆や国衆等の活動、佐竹氏と地域社会との関わりや地域編成について、佐竹氏が発給した「知行行状」・秋田藩家蔵文書等の史料を中心に考察することで、従来捨象されがちであった戦国期の権力編成の姿を浮き彫りにする。

東寺文書を研究する過程で発見した様々な成果を世に問う、東寺文書研究会による論集。【執筆者】大山喬平 / 岡本隆明 / 亀田俊和 / 酒井紀美 / 志賀節子 / 清水克行 / 高橋傑 / 高橋敏子 / 辰田芳雄 / 新見康子 / 西尾知己 / 西谷正浩 / 保立道久 / 真木隆行 / 宮崎肇 / 村井祐樹 / 山田徹 / 山家浩樹 / 渡邊大門

中世長崎、特に肥前国西南部の松浦郡・高来郡・彼杵郡を中心に、松浦氏・有馬氏などの在地武士団の成立・発展、領国支配の実態や南蛮貿易の推移について論じ、その独自性を明かす。長崎大学名誉教授、長崎市史編さん委員会委員長を務める著者が長年の研究成果をまとめた一書。

山本隆志著
東国における武士勢力の成立と展開
 東国武士論の再構築
 思文閣史学叢書
 本体6,500円 ISBN978-4-7842-1601-7

武士研究は国家史的職能論から、政治史的論究が求められている。本書は東国武士を武士勢力としてとらえ、京・鎌倉での活動と連動しながら本領で法会・祭礼を主催するなかで政治的支配力を形成していることを、具体的に論じる。
 2012 / A 5判 / 384頁

三島暁子著 (第30回田邊尚雄賞)
 じげがくじん
天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史
 2012 / A 5判 / 360頁
 本体6,600円 ISBN978-4-7842-1609-3

南北朝・室町時代を通じて天皇・将軍が学び、権威のシンボルとなった「笙」。その位置づけの変化は、いかなる展開をもたらしたのか。天皇家・将軍家の笙の御師範、地下楽人豊原氏の約150年にわたる活動に着目。公・武・楽家という3者の関わりの中から、権威と密接に関わった音の文化を考察。

村井良介著
戦国大名権力構造の研究
 2012 / A 5判 / 452頁
 本体7,000円 ISBN978-4-7842-1610-9

戦国大名権力の動向は、近世に向けた一貫した過程と捉えることができるのか？ 本書は、主に毛利氏を事例に、戦国大名、「戦国領主」の重層的な権力構造の分析から、戦国期の権力諸関係の特質を、理論的かつ実証的に描くことにより解明する。

山本隆志編
日本中世政治文化論の射程
 2012 / A 5判 / 344頁
 本体7,800円 ISBN978-4-7842-1620-8

編者の指導を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究論文を収録。【執筆者】関周一／山田雄司／濱口誠至／阿部能久／井上智勝／新井敦史／山澤学／荻米一志／山野龍太郎／佐々木倫朗／須賀忠芳／平野哲也／蘭部寿樹／小山聡子／佐藤嘉久一郎／門口実代

河内将芳著
祇園祭の中世
 室町・戦国期を中心に
 2012 / A 5判 / 360頁
 本体4,500円 ISBN978-4-7842-1631-4

室町期の都市京都を文字どおり代表する祭礼であった祇園祭(祇園会)を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきぼりにし、さらに神興渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「闖取」の実態についても解き明かす。

森新之介著 (第8回日本思想史学会奨励賞)
摂関院政期思想史研究
 2013 / A 5判 / 352頁
 本体6,500円 ISBN978-4-7842-1665-9

本書は、摂関院政期における民衆仏教史観の研究史を整理し、当該期の思想家たちや事象の考察および実証研究を深めることにより、通説としての民衆仏教史観と切り結び、その実像を鋭く描き出す。日本の思想史上、極めて重要な時期の一つとされる摂関院政期の思想史叙述に修正を迫る一書。

細川涼一著
日本中世の社会と寺社
 2013 / A 5判 / 452頁
 本体7,700円 ISBN978-4-7842-1670-3

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民などへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問い続けてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。【内容】中世律宗と公武政権／中世社会と律僧／中世の北野社と石清水八幡宮／源義経の妻と母

亀田俊和著 かんれい しぎょう
室町幕府管領施行システムの研究
 2013 / A 5判 / 544頁
 本体9,800円 ISBN978-4-7842-1675-8

室町幕府を存続させた政策とは？ 本書は室町幕府の政権基盤強化に大きな貢献を果たしたと評価できる管領施行システムの約250年の沿革と意義を分析・解明する。固定的な制度ではなく、社会的な変化に連動していることを指摘し、日本中世の政治・社会を理解する上での指針となることを明かす。

村石正行著
中世の契約社会と文書
 2013 / A 5判 / 352頁
 本体7,500円 ISBN978-4-7842-1668-0

従来、中世の契約慣習のなかで債権者から渡され債務者の側に残る文書についての研究は等閑視されてきた。本書は売買・貸借などの契約関係を題材に、契約者双方の文書作成のあり方を検証、「塵芥集」の法慣習なども援用しながら、双方の文書授受と文書作成が一般的に行われた可能性を示す。

村井祐樹著
戦国大名佐々木六角氏の基礎研究
 2013 / A 5判 / 530頁
 本体11,600円 ISBN978-4-7842-1663-5

実証的な研究が不十分であった戦国大名佐々木六角氏について、可能な限り一次史料を用い、六角氏や家臣の動向、実態など基礎的事実を明らかにする。また附編として、応仁元年(1467)～元和6年(1620)の、六角氏及び家臣の名が見える記録類を全て網羅した230頁におよぶ史料集の稿本を付す。

浜口誠至著
ざいきやうだいみょうほそかわけいちよう け
在京大名細川京兆家の

政治史的研究
2014 / A 5判 / 328頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1732-8

本間洋子著 〈第10回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞〉

中世後期の香文化

香道の黎明

2014 / A 5判 / 426頁
本体8,200円 ISBN978-4-7842-1733-5

杉山一弥著

室町幕府の東国政策

2014 / A 5判 / 388頁
本体7,200円 ISBN978-4-7842-1739-7

呉座勇一著

日本中世の領主一揆

2014 / A 5判 / 380頁
本体7,200円 ISBN978-4-7842-1721-2

山田雄司著

怨霊・怪異・伊勢神宮

2014 / A 5判 / 448頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1747-2

湯之上隆著

日本中世の地域社会と仏教

静岡大学人文社会科学部研究叢書46

2014 / A 5判 / 384頁
本体8,000円 ISBN978-4-7842-1773-1

平尾良光・飯沼賢司・村井章介編

大航海時代の日本と金属交易

別府大学文化財研究所企画シリーズ③

「ヒトとモノと環境が語る」

本体3,500円 ISBN978-4-7842-1768-7

下坂 守 著

中世寺院社会と民衆

衆徒と馬借・神人・河原者

2014 / A 5判 / 432頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1779-3

橋本道範著

日本中世の環境と村落

2015 / A 5判 / 444頁
本体8,400円 ISBN978-4-7842-1764-9

上島 有 著

中世アーカイブズ学序説

2014 / B 5判 / 428頁
本体13,000円 ISBN978-4-7842-1542-3

戦国期に室町幕府の政策決定に参画した大名を「在京大名」と規定し、その中でも代表的な存在である細川京兆家の政治的位置を明らかにすることで、戦国期幕府政治の構造的特質を解明。幕府儀礼・奉行人奉書による裁許の補完と幕政代行等を検討し、制度史中心の幕府政治史を相対化する試み。

香を柱（た）き鑑賞する催しである香会と香木・薫物の贈答を香文化とし、香道発生期の一次史料を基に、三條西実隆や志野宗信と香との関係・「香会」の具体的内容・天皇への香木献上及び下賜を具体的に考察する3視点から、中世後期の香文化を解明。香道について初めての実証的な歴史的研究。

室町幕府の東国政策という視点から室町期東国社会をとらえ直し、その焦点を平時・戦時それぞれの東国の儀礼と秩序、東国における足利氏一族庶子の存在意義、室町幕府・鎌倉府の境界領域ならびに政治・経済的に競合する地域社会における諸階層の動向にあわせて再検討する。

中世の多種多様な一揆の中でも、最初に時代を牽引したのは年貢公事の徴収者にして地域社会の治安維持者であった在地領主による〈領主の一揆〉であり、これまで多くの研究の蓄積がある。本書はその蓄積の上に〈領主の一揆〉の構造・機能・結合論理を解明し、新しい国人一揆論を提示する。

古代・中世社会に大きな意味を持ち、社会の底流で歴史を動かしてきた怨霊・怪異。早良親王・天神・崇徳院などの怨霊や、様々に記録・伝承される怪異など、その諸相を歴史的に跡付ける。さらには親鸞や伊勢神宮といった、神と仏をめぐる領域をも射程に入れて集大成する。

写経や法会、開板事業、偽文書等様々な事象を通して、個人や集団の宗教行為がいかなる社会性を持ったのか。仏教と社会との関係性を明かす。静岡県を中心とした地域の寺社文書の詳細紹介、紀行文から見る地域社会等、「宗教」「地域社会」をキーワードに古代から近代の社会を概観する論集。

分析科学と文献史学の融合を目指すシリーズ第3弾。最新の鉛同位体比分析の成果から、日本の銅生産や中世～近世日本の金属流通のありよう、南蛮貿易の意義などに新たな視角を提示。巻末に戦国時代関連資料の鉛同位体比一覧を掲載。
2014 / B 5判 / 224頁

山門の嗾訴の検討から、山門の「惣寺」がどのような組織と機能をもつものであったかを明らかにしたうえで、足利義満以降の武家政権との関係や、近江坂本の在地人と日吉社の大津神人が山門の活動にどのような影響を与えたかを論じ、中世都市京都の変容についても、絵画史料を駆使して明かす。

第1部では、中世琵琶湖漁撈と京都での消費という問題を中心に、中世村落にとっての「水辺」における漁撈の歴史的意義を問い、第2部では、小さなムラが地域資源利用の主導権を握るとする「生業の稠密化」論を提起。自然環境と人間との関係性を中心に据えた村落論を構築する意欲作。

著者の永年の研究成果を「アーカイブズ学序説」としてまとめる。序章では、文書を「かたち」「かたまり」「かさなり」の総体かつ動態としてとらえ、古代から近現代まで一貫した観点でとらえる理論的枠組みを提唱。本論・補論で、中世・近世にまたがる個別文書群について論究する。

嵯峨井建著

神仏習合の歴史と儀礼空間
【オンデマンド版】2015 / A 5判 / 430頁
本体8,600円 ISBN978-4-7842-7000-2

神宮寺における神祇奉斎、寺院附属の鎮守社、仏教儀礼である神前読経、神職系図に基づいた神道周縁の仏法との関わり、神仏への天皇行幸、中近世をつうじた京都における神仏習合など、豊富な事例とともに神仏習合の諸形態を丹念にまとめた実証研究。初版2013年。

河内将芳著

中世京都の民衆と社会
【オンデマンド版】2016 / A 5判 / 414頁
本体8,800円 ISBN978-4-7842-7003-3

中・近世移行期京都で公文書の宛所となった自律的な社会集団の三類型、すなわち地縁結合としての町、職縁結合としての酒屋・土倉、信仰結合である法華一揆について、各社会集団の人的結合の側面を重視。いかに都市民衆の上に表出し交差したのか、その歴史的展開を具体的に検討。初版2000年。

河内将芳著

中世京都の都市と宗教
【オンデマンド版】2016 / A 5判 / 424頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-7006-4

「町衆」の祭祀としてイメージされてきた中世の祇園祭（祇園祭）や「町衆」の信仰とされてきた法華信仰・法華宗等、都市社会と宗教・信仰との関係について、山門延暦寺に関する研究成果や中近世移行期統一権力の宗教政策論に即してとらえ直し、その実態をあらためて問い直す。初版2006年。

山田雄司著

崇徳院怨霊の研究
【オンデマンド版】2016 / A 5判 / 318頁
本体6,400円 ISBN978-4-7842-7005-7

日本史上最大の怨霊とされる崇徳院怨霊が「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになったのか、そして崇徳院怨霊の跳梁を記す「保元物語」がいかにしてまとめ上げられていったのかを、文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討することにより解明。初版2001年。

伊藤喜良著

日本中世の王権と権威
【オンデマンド版】2016 / A 5判 / 414頁
本体8,300円 ISBN978-4-7842-7012-5

今なお、永続的に研究が続けられて進捗している中世天皇制の研究。本書は中世前期から室町時代にかけての、天皇制と公家政権にまつわる社会思想、民衆意識、身分制等を祭祀・説話・浄穢観・殺生等の鋭い切り口で分析した意義深い論文集である。初版1993年。

田中健夫著

対外関係と文化交流
【オンデマンド版】2016 / A 5判 / 690頁
本体13,800円 ISBN978-4-7842-7009-5

中世日本の東アジアへの対応、足利義満の外交の特質、琉球王国の国際的位置、島津氏と琉球との関係、さらに近代に及ぶ対馬の藩政と朝鮮修好との関係など、中世から近世に至る日本の東アジアを中心とした対外関係と文化交流に光をあてる。16世紀の対馬宗氏の2史料を収録。第二版1991年。

近 世

金井 圓 著

日蘭交渉史の研究
思文閣史学叢書1986・1997 / A 5判 / 500頁
本体8,500円 ISBN4-7842-0446-6

三浦按針を乗せたリーフデ号の漂着から、徳川鎖国・オランダ東インド会社の解散・外国船打払令を経て、開国に至る二世紀半の対外関係史の要をなす日蘭交渉史の知られざる諸局面を、主として在外未刊行史料に基づき実証する論考13篇に、通史・史料を添える。【2刷】

川村 優 著

旗本知行所の研究
思文閣史学叢書1988 / A 5判 / 550頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0532-2

旗本知行所の実態と性格をさぐる論考10篇を収める。関東旗本知行所における村落知行と当該農民の対応を主軸にすえた具体的事例を検出、さらに、それに基づき旗本知行所を幕藩制全体の中に位置づける。従来の旗本窮乏一元論・旗本崩壊不可避論を乗り越える構造的研究をめざした意欲作。

西南地域史研究会編

西南地域の史的展開〔近世篇〕

1988 / A 5判 / 650頁
本体16,000円 ISBN4-7842-0495-4

秀村選三博士の九大退官を記念して内外22名の研究者が各々独自のテーマで論じる。全体としてⅠ西南地域の支配構造、Ⅱ貿易と流通、Ⅲ産業と社会で構成される諸論稿は、おのずと西南の地域性と国際性を浮き彫りにしている。

〔近代篇〕は31頁に掲載

松田毅一著

日欧のかけはし

南蛮学の窓から

1990 / 四六判 / 352頁

本体2,800円 ISBN4-7842-0618-3

楠瀬 勝 編

日本の前近代と北陸社会

1989 / A 5判 / 700頁

本体13,000円 ISBN4-7842-0527-6

杉本 勲 編

近代西洋文明との出会い

黎明期の西南雄藩

1989 / A 5判 / 300頁

本体4,600円 ISBN4-7842-0566-7

梅溪 昇 著

大坂学問史の周辺

1991 / 四六判 / 220頁

本体2,300円 ISBN4-7842-0640-X

洞 富雄 著

鉄 砲 ——伝来とその影響——

1991・2001 / A 5判変 / 530頁

本体9,800円 ISBN4-7842-0657-4

源了圓・末中哲夫編

日中実学史研究

1991 / A 5判 / 486頁

本体9,800円 ISBN4-7842-0639-6

太田勝也著

鎖国時代長崎貿易史の研究

思文閣史学叢書

1992 / A 5判 / 664頁

本体13,800円 ISBN4-7842-0706-6

宮川秀一編

日本史における国家と社会

1992 / A 5判 / 298頁

本体7,500円 ISBN4-7842-0745-7

田崎哲郎編

在村蘭学の展開

1992 / A 5判 / 330頁

本体5,800円 ISBN4-7842-0701-5

佐藤昌介著

洋 学 史 論 考

思文閣史学叢書

1993 / A 5判 / 410頁

本体7,800円 ISBN4-7842-0782-1

フロイスの日本史をはじめ、イエズス会日本報告集や南蛮史料の研究で知られる著者が、精密な史料研究の合い間に折に触れて発表した小論・エッセイを収める。両洋から照らし出された事実の数々が、史家の冷静な眼が、キリシタン時代の国際的環境、異文化の出会い、人々の姿を語る。

北陸三県を中心とする研究者が一堂に会し、日本史研究の主要テーマとの関わりを軸に、各々独自の視点で古代から幕末にいたる諸問題を論じる。北陸地域の問題から出発し新たな日本史像の構築をめざす意欲の窺える論文21篇。

佐賀藩を中心とした幕末期の西南雄藩と近代西洋文明との出会い、またその受容の歴史を、関連する諸側面から掘下げ、近代化の諸相を明らかにする。【執筆】杉本勲／杉谷昭／長野暉／飯田賢一／岩松要輔／羽場俊秀／酒井シヅ／矢部一郎／大森實／齋藤信／向井晃／酒井泰治

近世の上方学問・文化の基礎となった含翠堂と懷徳堂は、商都大坂の町人たちにとって『開かれた和漢学舎』であり、独自の色合いをもって進取の学風を生み出し、多彩な足跡を残した。本書は、新しい知見を加え、この二学舎の諸側面にふれ、あわせて関係諸記録も収録。

『鉄砲伝来記』(1939)以来半世紀、日本史家としての関心から鉄砲に取り組んできた著者の総決算。

【内容】歴史を変えた鉄砲の伝来／種子島製鉄法の伝播／鉄砲の起源に関する諸問題／秀吉の朝鮮侵略・維新内乱と鉄砲／二人の特異な砲術家

【3刷】

実学思想の研究で知られる源教授、実学研究の末中教授、北京人民大学教授で明清実学思潮の共同研究の核である葛栄晋氏を中心として編まれた初の日中実学史共同研究報告。日中両国の実学の伝統と歴史に与えた役割を明らかにする17篇。

総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

寛永鎖国の成立期から江戸時代中期の正徳新例に至るまで、幕府の貿易政策を徹底追究。糸割符仕法・相対売買法・貨物仕法・制定高制度・銅代物替貿易・長崎会所貿易・宝永新例・正徳新例の展開を数量的考察とともに実証的に体系づける。基礎的史料を豊富に取り込んだ手堅い研究の成果。

宮川秀一氏の古稀記念論文集。ゆかりの研究者による古代から近代までの多彩なテーマの15論稿。【執筆】宮川秀一／竹永三男／鈴木正幸／笠谷和比古／元木泰雄／笠井純一／館野和己／東野治之／宇野隆夫／大島真理夫／小路田泰直／久義裕／三浦俊明／浦長瀬隆／脇田晴子／舟尾好正

地方における蘭学受容の諸相。【内容】在村の蘭学と地域医療の近代化(青木歳幸) 飯沼塾とその門人の動向(遠藤正治) 美作在村蘭学概論(下山純正) 下野における蘭学の系譜(菊地卓) 新潟県における洋学の系譜(蒲原宏) 明治前期地方医師の概況(田崎哲郎) 蘭馨堂門人・鳥海松亭(平野満)

明治維新の胎動を準備した大槻玄沢・高野長英・小関三英・福沢諭吉・渡辺崋山らの諸業績の分析を通して洋学の受容と発展を解明し、あわせて近代化に果した軍事の科学化と軍制改革・軍楽などを論じる。

三尾 功 著

近世都市和歌山の研究

1994 / A 5判 / 376頁
本体7,000円 ISBN4-7842-0825-9

朝尾直弘教授退官記念会編

日本国家の史的特質

〔近世・近代〕

1995 / A 5判 / 604頁
本体13,400円 ISBN4-7842-0870-4

朝尾直弘教授退官記念会編

日本社会の史的構造

〔近世・近代〕

1995 / A 5判 / 582頁
本体13,400円 ISBN4-7842-0871-2

笹本正治著

真継家と近世の鋳物師

1996 / A 5判 / 580頁
本体10,800円 ISBN4-7842-0899-2

田中喜男編

歴史の中の都市と村落社会

1994 / A 5判 / 458頁
本体6,500円 ISBN4-7842-0853-4

小川國治著

転換期長州藩の研究

思文閣史学叢書

1996 / A 5判 / 422頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0908-5

宮崎道生著

シーボルトと鎖国・開国日本

1997 / A 5判 / 370頁
本体8,500円 ISBN4-7842-0926-3

加藤榮一著

幕藩制国家の成立と対外関係

思文閣史学叢書

1998 / A 5判 / 468頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0954-9

小川亜弥子著

幕末期長州藩洋学史の研究

1998 / A 5判 / 284頁
本体6,800円 ISBN4-7842-0967-0

片桐一男著・校訂

阿蘭陀宿海老屋の研究

〔Ⅰ研究篇・Ⅱ史料篇〕

1998 / A 5判 / 研究篇310頁・史料篇540頁
本体17,000円 ISBN4-7842-0966-2

御三家紀州徳川家の城下町として発展した近世都市和歌山の城下の変遷を、長年和歌山市史編纂に携わってきた著者が豊富な史料に基づき考証する。

【内容】和歌山城／城下町和歌山／城下町の生活／維新期の城下町／城下町和歌山断章

近世・近代の国家をテーマとした書き下ろし論文25本を収録

近世・近代の社会をテーマとした書き下ろし論文25本を収録

鋳物師と下級公家であった真継家との関係や地方の鋳物師の組織と実態を通して、近世における公家と職人の関係を明かし、職人史と公家研究に寄与する基本書。

【内容】鋳物師を支配する真継家／各地の鋳物師と真継家／各国の鋳物師組織／近世真継家配下鋳物師人名録

Ⅰ城下町の構造 松本四郎／深井甚三／田中喜男／高瀬保／寒川旭 Ⅱ交通・流通 村上直／伊藤一美／和泉清司／白川部達夫／老川慶喜 Ⅲ思想・技術 逆井孝仁／楠瀬勝／三上一夫 Ⅳ城柵・所領経営 新野直吉／藤井一二／隼田嘉彦

長州藩の宝暦改革とその後の展開を、改革派の権力確立過程、藩財政と経済政策、検地の実態、西廻り海運の整備、撫育方と開作事業、などから意欲的に論じた一書。【内容】宝暦改革の前提／宝暦期の藩財政と経済政策／宝暦検地／西廻り海運と港町の整備／撫育方と開作事業／産業の開発と統制

“東西文化融合の架橋者”シーボルト。本書は、永年のシーボルト・コレクション（日本文化の組織的な蒐集品）の実地調査によってえられた未公開・新発見の史料を駆使してシーボルトの本質と実態に迫り、その本領と今日的意義を近世史学の泰斗が解き明かした力作。

幕藩権力がどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

幕末維新期の変革に洋学が如何なる役割を果たしたかを射程にすえ、この変革の重要な担い手となった長州藩における洋学の受容と展開の実態に軍事科学化という側面から迫り、また洋学史的側面からのアプローチにより長州藩明治維新史研究の空白を埋めることをも目指した意欲作。

オランダ商館長や通詞が滞在した京都の定宿海老屋の史料「皇都阿蘭陀人宿（荷蘭館）文書」〔村上家（阿蘭陀宿）文書〕（神戸市立博物館蔵）を基に、「人」「物」「情報」の通過点であった阿蘭陀宿の目的・機能・史的意義を探る。史料篇には「御用書留日記」「シーボルト事件の廻状」など村上家文書の翻刻を収録。

J・F・モリス／白川部達夫／高野信治共編

近世社会と知行制

1999／A 5判／372頁
本体7,800円 ISBN4-7842-1005-9

鎌田道隆著

近世京都の都市と民衆

思文閣史学叢書

2000／A 5判／390頁
本体7,800円 ISBN4-7842-1034-2

渡辺武館長退職記念論集刊行会編

大坂城と城下町

2000／A 5判／436頁
本体8,800円 ISBN4-7842-1062-8

笠谷和比古著

関ヶ原合戦と近世の国制

2000／A 5判／280頁
本体5,800円 ISBN4-7842-1067-9

長友千代治著

江戸時代の図書流通

佛教大学鷹陵文化叢書7

2002・2003／四六判／324頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1119-5

遠藤正治著 〈第16回矢数医学賞〉
〈第2回徳川賞〉

本草学と洋学

小野蘭山学統の研究

本体7,200円 ISBN4-7842-1150-0

仙田善雄著

幕藩権力と寺院・門跡

思文閣史学叢書

2003／A 5判／320頁
本体7,200円 ISBN4-7842-1166-7

鈴木康子著

近世日蘭貿易史の研究

思文閣史学叢書

2004／A 5判／480頁
本体9,600円 ISBN4-7842-1178-0

竹下喜久男著

近世の学びと遊び

佛教大学鷹陵文化叢書10

2004／四六判／420頁
本体2,500円 ISBN4-7842-1184-5

倉地克直著

漂流記録と漂流体験

2005／A 5判／352頁
本体7,500円 ISBN4-7842-1225-6

近世の領土的土所有論の中で自明の前提であるかのように理解されてしまったがために、十分議論されなかった問題を、既成の論理枠組みにとらわれず明らかにし、実証的に深めることで、従来の近世の領土的土所有像を問い直すことを試みた13篇。

著者が京都市史編さん所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都市論を展開

【内容】近世統一権力と民衆／近世都市と市民生活／政治・都市・市民

豊臣大坂城時代はもちろん、難波宮、大坂（石山）本願寺から現代にいたるまで、多彩な視点から大坂城と都市大坂を考察。

【内容】1 大坂城とその城下／2 大坂城下の諸相／3 難波・難波宮・本願寺

関ヶ原合戦が内包していた諸問題の再検証と、合戦後の領地配分（地政学的状況）にみられる支配の実態、將軍制をめぐる思惑と確執、家康と秀頼の関係などを通して豊臣と徳川の「二重公儀体制」の実態を明かし、徳川家康の政権構想と近世天皇制との関係を論じる。

京・大坂・江戸を中心とした出版文化の隆盛にともなって、広汎な図書流通がみられた。版元・本屋・貸本屋と読者を結ぶさまざまなルート、さらに実用書の出版や宣伝方法など、豊富な図版（130余点）を通して平易に明かす。

【3刷】

本書では、日本本草学の頂点、小野蘭山の学統を考察の対象にし、洋学の影響を受け国際的視野を備えた博物学的な本草研究の実態を探り、わが国最初の近代的植物図譜『草木図説』誕生の環境を明かす。

2003／A 5判／400頁

宗派・教団単位に考察されてきた従来の研究に対し、中世社勢力の中心であった顕密系寺院の近世的あり方を分析することによって、江戸幕府の寺院行政の展開をより明瞭に解明。さらに、旧社権門の頂点に位置した門跡を分析対象とし、近世における門跡制の特質を明らかにする。

輸出商品の生産から販売までを、個別商品の輸出状況の調査、一定期間の輸出商品全体の把握、日蘭貿易状況に現れた国内外の諸情勢という三つの複合的な視点から追究。近世における日蘭貿易の状況と推移を明かし、日本とアジア・ヨーロッパ市場の動向を長崎貿易を接点としてとらえた国際的研究。

18世紀以降、学びの場は都市周辺にとどまらず地方にも広がり、遊学熱の高まりとともに、城下町や三都（京都・大坂・江戸）への遊学生を通して、多様な学芸情報が各地へもたらされた。学びと遊びの諸側面を地域との関わりを通して具体的に紹介し、身近な生活圏内に結実した文化の諸相を明かす。

漂流体験は、奉行所や藩でつくられる公式記録にとどまらず、民間でも記録され、さまざまな形で残された。本書では1830年に漂流した神丸丸の漂流記録を比較検討し、漂流記録の史料価値についての試論を示す。さらに記録を通して漂流体験を再現し、漂流民の異国認識と異国交流の実態を探る。

水藤 真 著
むな ふだ

棟 札 の 研 究

2005・2008 / A 5 判 / 230 頁
本体 3,800 円 ISBN 4-7842-1243-4

山下 恭 著

近世後期瀬戸内塩業史の研究

2006 / A 5 判 / 300 頁
本体 6,000 円 ISBN 4-7842-1287-6

張翔・園田英弘共編

「封建」・「郡県」再考

東アジア社会体制論の深層

2006 / A 5 判 / 412 頁
本体 6,500 円 ISBN 4-7842-1310-4

李 元植 著

朝鮮通信使の研究

1997・2006 / A 5 判 / 736 頁
本体 15,000 円 ISBN 4-7842-0863-1

西村幸信著

中世・近世の村と地域社会

2007 / A 5 判 / 404 頁
本体 6,200 円 ISBN 978-4-7842-1353-5

渡邊忠司著

なりたち

近世社会と百姓成立

構造論的研究

佛教大学研究叢書 1

本体 6,500 円 ISBN 978-4-7842-1340-5

鈴木康子著

長崎奉行の研究

2007 / A 5 判 / 420 頁
本体 6,200 円 ISBN 978-4-7842-1339-9

藤井讓治著

りょうち あてがいせい

徳川将軍家領知宛行制の研究

思文閣史学叢書

2008 / A 5 判 / 412 頁
本体 7,500 円 ISBN 978-4-7842-1431-0

渡辺尚志編

畿内の豪農経営と地域社会

2008 / A 5 判 / 508 頁
本体 7,800 円 ISBN 978-4-7842-1385-6

山田慶兒編

東アジアの本草と 博物学の世界〔全2巻〕

〔各〕本体 7,500 円

棟札は寺社などの上棟式・大修理・屋根替のさい、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ちつけた板。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示す。【2刷】

第1編では、赤穂・前川浜の塩田開発、龍野藩の塩専売制・赤穂塩の龍野・関東方面への流通を醬油業との関連でとりあげ、塩業史の問題を再検討。赤穂の石炭導入の経費と竹原の給銀分析を通して労働者の格式と賃金問題を第2編で取り扱い、塩業史研究の未開拓分野を埋める。

日中の知識人による「封建・郡県」をめぐる対話の歴史を再検討。中央と地方の関係だけではなく、秩序と規範、教育と学問、自国と外来勢力、科挙制と身分制、家族とコミュニティの構造、官僚制、さらに議会民主制などの視角も取り入れた13篇。国際日本文化研究センターでの共同研究。

江戸時代、日朝善隣外交において、根幹をなしていた朝鮮通信使——彼らが果たした役割を、政治外交と文化交流の両側面から捉える。数多くの文献・史料の検証から、両国交歓の実態を明かすと同時に、両国文化の異同・相互の認識と理解、筆談唱和のもつ意義とその影響について究明。【2刷】

大和を中心とした中世・近世の村落構造に關しての諸論考を集成。第一部には、村落中間層のあり方に着目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勘十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める。

零細な高持百姓による経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何か。領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組織編成、質入の検討により解明。2007 / A 5 判 / 310 頁

長崎奉行は長崎という町の支配だけでなく、貿易の監視、外国との政治的交渉などの要務もになった。本書では、17世紀後期から18世紀中期の長崎奉行の職掌や幕府内における位置づけや長崎奉行自体が変化してゆく状況を解明し、背景となる幕府の経済政策や、日本側の外国人に対する意識についても考察。

近世社会、特に領主社会での徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。各章末に領知朱印状の一覧を付す。

18世紀末以降、河内国丹南郡岡村（現藤井寺市）の庄屋を世襲した豪農・地方名望家が岡田家であり、同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよぶ。本書は岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。

日本で遭遇した東の本草学と西の博物学。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響をも含めて、多角的に考察した21篇。国際日本文化研究センターでの共同研究の成果。

1995・2008 / A 5 判 / 平均 370 頁

【2刷】

梅溪 昇 著

洪庵・適塾の研究

1993 / A 5判 / 540頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0766-X

梅溪 昇 著

続 洪庵・適塾の研究

2008 / A 5判 / 726頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1388-7

吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編

熊本藩の地域社会と行政

近代社会形成の起点

2009 / A 5判 / 420頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1458-7

新藤 透 著

まつまえかげひろ

しんらのきろく

松前景広『新羅之記録』の 史料的研究

2009 / A 5判 / 518頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1466-2

伏見元嘉著

中近世農業史の再解釈

『清良記』の研究

2011 / A 5判 / 430頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1551-5

根岸茂夫・大友一雄・佐藤孝之・末岡照啓編

近世の環境と開発

2010 / A 5判 / 366頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1544-7

菅野洋介著

日本近世の宗教と社会

2011 / A 5判 / 380頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1572-0

杉江 進 著

近世琵琶湖水運の研究

2011 / A 5判 / 464頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1551-5

白峯顕成著

藤村庸軒をめぐる人々

2011 / A 5判 / 790頁
本体16,500円 ISBN978-4-7842-1554-6

藤井譲治編

織豊期主要人物居所集成 (第2版)

2016 / B 5判 / 480頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-1833-2

洪庵と両親の画像、夫人八重の生涯、適塾解体修理、洪庵と福沢諭吉・大隈言道・古賀茶溪・萩原広道・戸塚静海などとの交流のほか新史料の紹介も織りまぜ、適塾研究の第一人者が洪庵と適塾をめぐる縦横にとりくんだ一書。口絵(カラー1頁・モノクロ7頁)に人名索引を併載。

適塾研究第一人者による研究成果の続篇。折りに触れて書き継がれつがれてきた諸論稿と各地での講演録、雑誌『適塾』に掲載された史料紹介などをまとめる。

永青文庫細川家文書の地方行政記録綴「覚帳」、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析で、19世紀段階の近世行政システムを解明し、近代社会の成立や地域の近代化の前提条件を明かす。近世地域社会論の成果と課題を踏まえ、西国大藩の地域社会像を描き出す。

中世から近世初期の北方史研究における最重要史料『新羅之記録』について、はじめて書誌学的(史料学的)考察を試みる。書名の読み方・その著者、現在知り得る全写本の収集・分類、著者が著作にあたって使用した史料、記述内容の信憑性、後世に編纂された史料に与えた影響、の5課題を設定。

伊予国の戦国武将土居清良の一代記『清良記』第七巻は『親民鑑月集』とも呼ばれ、「我が国最古の農書」と評される。その分析から、近世農業の始まりとしての農書という定説を覆し、中世農業の最終段階を初めて諸説したと位置づけ直す。さらに、中近世の過渡期における農業史について再考する。

21世紀は地球規模の環境問題が大きな課題となっている。本書は15編の論文により、江戸時代から明治時代にかけて、都市・山野・河川・海岸・島嶼における開発と環境問題を明らかにする。【内容】1 環境と身分・法・大地 / 2 開発と環境・生活・生業 / 3 治水と環境 / 4 環境と山

南奥州と関東地方を主に、戦国期以降に深く地域社会に浸透していった仏教寺院・僧侶・神道・修験道などの把握を試み、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれ、いかにして17世紀から19世紀後半にかけての社会秩序が形成されたのかを分析し、その秩序が明治以降へ連なったのかを考察。

古代以来、全国流通路の中でも重要な位置を占めていた琵琶湖水運の近世について、近世前期琵琶湖水運の構造と特質、廻船規定、諸浦の盛衰を取り上げて論究。またその前提として織田信長による琵琶湖水運支配、琵琶湖を航行した船の名称をも具体的に検討し、従来の認識・評価の問題点を指摘。

周辺の人々の事蹟をたどることで、現在も続いている庸軒流の開祖、藤村庸軒の実態について新たな角度からのアプローチを試みる。巻末には「藤村庸軒流派系譜」を収録。【内容】三宅亡羊 / 千宗旦 / 藤村恕堅 / 藤村正貞 / 久須見疎安 / 北村幽安 / 山本退庵 / 大文字屋宗積 / 有馬涼及 / 田屋横井等怡

織豊期を生きた主要人物の移りゆく居所と行動を通時的に網羅し、一覧に供する研究者必携の書。【収録人物】織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、足利義昭、明智光秀、細川藤孝、前田利家、毛利輝元、伊達政宗、上杉景勝、石田三成、福島正則、近衛信尹、西笑承応、北政所、浅井茶々など25名

笠谷和比古編

一八世紀日本の文化状況と
国際環境2011 / A 5判 / 582頁
本体8,500円 ISBN978-4-7842-1580-5

上田長生著

幕末維新期の陵墓と社会

2012 / A 5判 / 400頁
本体6,200円 ISBN978-4-7842-1604-8

太田由佳著

松岡恕庵本草学の研究

2012 / A 5判 / 390頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1617-8

斉藤利彦著〈平成24年度歌舞伎学会奨励賞〉

近世上方歌舞伎と堺

佛教大学研究叢書 14

2012 / A 5判 / 348頁
本体6,300円 ISBN978-4-7842-1608-6

藤井譲治著

近世史小論集

古文書と共に

2012 / A 5判 / 490頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1621-5

福澤徹三著

一九世紀の豪農・名望家と地域社会

2012 / A 5判 / 330頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1642-0

佐藤隆一著

幕末期の老中と情報

水野忠精による風聞探索活動を中心に

2014 / A 5判 / 520頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1702-1

尾脇秀和著

近世京都近郊の村と百姓

佛教大学研究叢書 22

2014 / A 5判 / 294頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1731-1

鈴木則子編

歴史における周縁と共生

女性・穢れ・衛生

2014 / A 5判 / 370頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-1714-4

岸 泰子 著

近世の禁裏と都市空間

2014 / A 5判 / 320頁
本体6,400円 ISBN978-4-7842-1740-3

日本の一八世紀社会は、儒学・本草学・博物学・蘭学等各分野において多くの成果を生み出し、近代化に多大な影響を与えた。それはいかにして形成され、どのような影響を受けつつ展開を示したのか。様々な視点からの論文で総合的に探求する、国際日本文化研究センターの共同研究成果。

陵墓に政治的意味を付与し、祭祀を行おうとする政治権力(朝廷・山陵奉行)と在地社会の軋轢・葛藤が最も明確に現れた陵墓管理・祭祀に注目。社会における天皇の位置づけや天皇認識を町・村社会の具体的なレベルから広範囲かつ実態的に描き出し、幕末の天皇・朝廷と社会の関係を解明する。

江戸前〜中期に活躍し、近世日本において本草学が博物学的に発展してゆくなかでその一翼を担った人物として評価されている京都の本草家松岡恕庵(1668〜1746)を主題に据え、その学問の実像に迫る。松岡恕庵に関する基本的研究書。巻末に資料編として松岡恕庵著作・関連資料目録を付す。

元禄期以降の展開、特に上方歌舞伎が特質を大きく転換した化政期から幕末期の実態を究明。堺における歌舞伎興行の全貌を解明することで、京・大坂の興行、さらには大芝居、中々芝居の役者たちの動向をも照射し、上方歌舞伎の地域的展開の一端を明らかにする一書。

著者の研究活動の初発から近年までに書かれた小論のうち、主要な研究の前提あるいはその後の展開に関わるものを収録。「戦国の若狭」「秀吉の時代」「家康・秀忠・家光」「京都と所司代・町奉行」「大名と領知」「安定期社会を考える」の6部で構成。巻末に「著書・論文等一覧」を付す。

生産力の先進地域であった畿内と生産力的には劣る信濃の二地域を対象に、19世紀の豪農・名望家と地域社会の関係を総合的に論じる。大規模豪農と中小豪農の経営レベルの比較、金融活動の分析を中心に、畿内・信濃の地域間比較の視点も加え、その生業・営為を近世・近代を通じて明らかにする。

水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれからの扱われ方を実証的に分析。基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにし、敗者となった幕閣の政治活動にも、一定の歴史的評価を与える。

相給村落であった山城国乙訓郡石見上里村と、同村百姓にして公家家来でもあり、庄屋・医師・手習師匠としても活動した大鳥家を研究対象にとりあげる。建前と実態という「表裏」の運用により、社会の「穏便」を実現しようとする意識や調整に着目して、近世百姓の変容と実態を多面的に明かす。

日本歴史で女性の周縁化(地位の劣化)が進行していく過程を、宗教・儀礼・穢れ・医学・衛生という側面から検討を加える。【執筆者】鈴木則子／平雅行／宮崎ふみ子／武藤康弘／武田佐知子／加藤美恵子／濱千代早由美／三枝暁子／白杉悦雄／瀧澤利行／尾鍋智子／梶谷真司／林葉子／池川玲子

禁裏が関係する信仰や儀礼の場・空間の特性に注目。都市を基盤として存在した禁裏、禁裏によって形成・維持された都市、という両側面からなる近世京都の特性を中世・近代への展開も視野に入れて明かす。天皇が表出する場の特性や天皇と民衆の関係性などにも言及し、多角的な視点から論じる。

野村 玄 著

天下人の神格化と天皇

2015 / A 5判 / 384頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1781-6

登谷伸宏著

近世の公家社会と京都

集住のかたちと都市社会
2015 / A 5判 / 392頁
本体8,000円 ISBN978-4-7842-1795-3

森 洋久 編

すみのくろ

角倉一族とその時代

2015 / A 5判 / 628頁
本体8,800円 ISBN978-4-7842-1797-7

笠谷和比古編

徳川社会と日本の近代化

2015 / A 5判 / 730頁
本体9,800円 ISBN978-4-7842-1800-4

国文学研究資料館編

幕藩政アーカイブズの 総合的研究

2015 / A 5判 / 504頁
本体8,500円 ISBN978-4-7842-1798-4

国文学研究資料館編

近世大名のアーカイブズ資源研究

松代藩・真田家をめぐって
2016 / A 5判 / 408頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1840-0

竹村英二著

江戸後期儒者のフィロロギー

原典批判の諸相とその国際比較
2016 / A 5判 / 256頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1838-7

竹本千鶴著 〈第15回茶道文化学術奨励賞〉

織豊期の茶会と政治 【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 476頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-7007-1

原淳一郎著

近世寺社参詣の研究 【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 414頁
本体8,300円 ISBN978-4-7842-7013-2

松浦 章 著

江戸時代唐船による日中文化交流 【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 474頁
本体9,800円 ISBN978-4-7842-7011-8

豊臣秀吉や徳川家康の神格化が、なぜ近世前期の政治過程において要請され、それらはどのように実現したのかを解明。そこでの天皇・朝廷の行動と意味を再検討するとともに、その後の徳川将軍家が天下人の神格や天皇・朝廷といかに向き合ったのかを、綱吉期までを視野に入れ叙述する。

中近世移行期における公家町の形成過程を検討し、戦国期まで内裏周辺の領域に帯びていた空間的特質が、公家町の建設によりどのように変容したのかを明かす。さらに公家が近世都市京都においていかなる集住・居住形態をとっていたのかを解明し、近世京都の空間・社会構造の特質を論じる。

京都・保津川開削で有名な角倉了以に代表される「吉田・角倉家」とそれを取り巻く人々の事業、技術や資料を様々な観点から論じ、「吉田・角倉の業績」を考える。日文研共同研究の成果。【内容】吉田・角倉家の系譜／吉田家の医業／社会基盤と角倉／海外貿易と船の技術／算術／嵯峨本と古活字

明治政府が独立を堅持できたのは、先行する徳川日本の文明史的力量という素地があったからであるという視点にたち、徳川社会はどのような力をいかにして形成しえたのか、総合的に究明する多分野の研究者による書き下ろし論文 25本。国際日本文化研究センター共同研究の成果。

幕政・藩政文書それぞれの管理・伝来について具体的に検討し、各藩において文書管理の実務にあたったものたちへ焦点を当てることで、幕藩文書管理の歴史に新たな知見を示す。近世から近代へとつながるアーカイブズ研究にさらなる実証的研究を積み上げる、国文学研究資料館共同研究の成果。

近世大名は、組織的・人的な活動を通じて多様な文書類を歴大に発生させた。松代真田家に伝来した七万数千点に及ぶ多様な文書類を中心に、藩庁の全体構造や各部局の機能などについて、記録管理の観点から分析を試みたはじめての実証的研究。国文学研究資料館共同研究の成果。

江戸時代後期～幕末の日本では「市井」の儒者たちを担い手として、客観性と実証性を備えた高度な考証的学問が発展した。彼らの学問の方法・思想を跡づけることで、日本における実証的学問の成立は清朝考証学と近代の西洋体験を基盤とするという従来の所論に再考を迫る。

織田信長による名物茶器をしつらえた茶会を、従来のようにわび茶の史の変遷の一齣として見ていくのではなく、室町殿中の座敷飾りが段階的に発展した「大名茶湯」として捉えて、中世史の中に位置付け、織田・豊臣政権における支配構造の側面を茶会を通して明かす。初版 2006 年。

古くは貴人たちの熊野詣から寺社参詣は日本人の信仰心をあわす一つの姿であった。本書は「寺社参詣」という行動様式そのものを研究対象の根本にすえて、江戸時代に隆盛を迎えたさまざまな寺社参詣の広がりや思想的・文化史的立場から位置付けた一書である。初版 2007 年。

江戸時代「唐船」と呼ばれる中国帆船の往来が日中文化交流の大動脈を担い、長崎を窓口とした「唐船」による通商関係は、舶来文化の受容において重要な役割を果たした。本書は日中双方の史料を用い、日本側の視点のみから論じられることの多い長崎貿易の一面を多角的に論じる。初版 2007 年。

山澤 学 著

日光東照宮の成立

近世日光山の「荘厳」と祭祀・組織

【オンデマンド版】

本体8,500円 ISBN978-4-7842-7004-0

東照宮を支えた将軍ないし天皇を頂点とした力学、神格を再生産すべく構築された祭祀組織と祭祀の特質、建築・空間を規定した同時代社会、その裾野に広がる町の形成、これら全体を構造的に把握することにより明かす。初版 2009 年。

2016 / A 5判 / 420頁

近 代

梅溪 昇 著

日本近代化の諸相

1984 / A 5判 / 650頁

本体15,000円 ISBN4-7842-0364-8

第一部に概論として明治維新史研究の論稿2篇、第二部に初期条約改正・陸海軍・日清戦争などの個別研究9篇、第三部に但馬・尼崎・紀州地域における近代化の特質と様相をさぐる諸論文8篇、さらに史料1篇を収める。いずれも史料と先行研究を踏まえた緻密な論文。図表多数収録。

梅溪昇教授退官記念論文集刊行会編

日本近代の成立と展開

1984 / A 5判 / 480頁

本体9,800円 ISBN4-7842-0363-X

梅溪博士の阪大退官記念。日本近世・近代史に一石を投じる18論文。【執筆者】三宅正彦／竹下喜久男／小堀一正／今井美紀／寺木伸明／寺脇恵／竹山護夫／村田路人／松下万里子／藪田貫／今井修平／本城正徳／脇田修／橋本讓司／服部敬／原田敬一／大谷正／小山仁示

樋口次郎・大山瑞代編著

条約改正と英国人ジャーナリスト

H・S・パーマーの東京発通信

1987 / 四六判 / 284頁

本体2,800円 ISBN4-7842-0488-1

『ロンドン・タイムズ』東京通信員として活躍したパーマー。彼は不平等条約改正問題で苦悶する日本から、特に頑なな祖国イギリスに向けて条約改正推進を訴えたが…。『ロンドン・タイムズ』の論説およびそれに対する内外の反響を初めて紹介、条約改正劇の舞台裏を窺う興味深い史料である。

長尾政憲著

福沢屋諭吉の研究

1988 / A 5判 / 592頁

本体9,800円 ISBN4-7842-0517-9

福沢諭吉（1835～1901）が適塾に入り、蘭学を本格的に研究した修学時代からはじめて明治15年『時事新報』を発刊するまでの生活と事績を実証的に究明。幕府外国方としての時期や特に書物商としての「福沢屋諭吉」に注目し近代的出版企業の内容・実態を明らかにした諸論は特筆に値する。

西南地域史研究会編

西南地域の史的展開〔近代篇〕

1988 / A 5判 / 754頁

本体19,000円 ISBN4-7842-0496-2

秀村選三博士の九大退官を記念して内外20名が論じる。Ⅰ近代化過程における産業、Ⅱ石炭鉱業における経営と労働の問題、Ⅲ近代における政治と貿易に構成される諸論稿はいずれも実証に裏づけられ、西南地域の社会経済を具体的に考察。〔近世篇〕は23頁に掲載

三上一夫著

明治初年真宗門徒大決起の研究

越前護法大一揆分析

1987・1989 / A 5判 / 220頁

本体3,800円 ISBN4-7842-0481-4

明治初年に続発した一連の真宗門徒大決起の中から、本書では「越前護法大一揆」の詳細な分析を通して、その実態・経過・歴史的特質・地域性などについて、多面的・重層的にとりあげ、民衆運動の側から維新政権による「上からの近代化」を問い直す労作。図表多数収録。【2刷】

外山敏雄著

札幌農学校と英語教育

英学史研究の視点から

1991 / A 5判 / 160頁

本体3,800円 ISBN4-7842-0691-4

1876年開設の札幌農学校は、北海道開拓の人材養成のみならず、内村鑑三・新渡戸稲造など文化史・思想上の巨人たちを生み出した。草創期の札幌農学校の教育制度、お雇い教師、所蔵英書、出身の英学者たちに焦点をおき、その特異な存在と役割を明かす。史料・参考文献・索引を付した。

永井 和 著

近代日本の軍部と政治

1993・2002 / A 5判 / 450頁

本体8,600円 ISBN4-7842-0770-8

「戦前の内閣」について「軍人の内閣」というフィルターを通して内閣史に光をあてる。【内容】軍人と内閣 視角と定義／軍人首相内閣論／軍人閣僚と戦前内閣／現役将校の官界進出／政軍関係理論に関する一考察 内閣官制と帷幄上奏 初期内閣と帷幄上奏勅令／内閣官制の制定と帷幄上奏 【2刷】

中野目 徹 著

政教社の研究

1993 / A 5判 / 340頁
本体7,000円 ISBN4-7842-0771-6

山口定 / ロナルド・ルプレヒト編

歴史とアイデンティティ

日本とドイツについての1945年

1993・1998 / A 5判 / 500頁
本体8,600円 ISBN4-7842-0795-3

園田英弘著 〈第16回サントリー学芸賞〉

西洋化の構造

黒船・武士・国家

1993・2000 / A 5判 / 380頁
本体7,500円 ISBN4-7842-0801-1

服部 敬 著

近代地方政治と水利土木

1995 / A 5判 / 400頁
本体6,600円 ISBN4-7842-0873-9

田中正弘著

近代日本と幕末外交文書編纂の研究

1998 / A 5判 / 480頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0958-1

H・コータツツィ / G・ダニエルズ編
大山瑞代訳 / 横山俊夫解説

英国と日本

架橋の人びと

本体8,000円 ISBN4-7842-0977-8

原田敬一編

幕末・維新を考える

佛教大学鷹陵文化叢書2

2000 / 四六判 / 220頁
本体1,700円 ISBN4-7842-1038-5

中村博武著

宣教と受容

明治期キリスト教の基礎的研究

2000 / A 5判 / 610頁
本体12,000円 ISBN4-7842-1025-3

芳賀 徹 編

岩倉使節団の比較文化史的研究

2003 / A 5判 / 358頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1145-4

三谷憲正著

オンドルと暁の国

近代日本の〈朝鮮観〉

佛教大学鷹陵文化叢書9

本体1,800円 ISBN4-7842-1161-6

「国粹主義」を主唱して明治の思想界をリードした政教社の存在形態を三宅雪嶺・志賀重昂・内藤湖南らの人物像と組織及び機関誌の全貌を検証し、政教社がこころみた実践運動と思想の展開をあとづける。

日独比較現代史の連続シンポジウムの記録。両国の歴史的体験の共通点と相違点を明らかにする。【内容】 転換の年 1945年 / 第二次世界大戦下の日本とドイツ / 日本とドイツにおける全体主義の精神的・イデオロギーの諸前提 / 新たな転換点に立つ日本とドイツ 【2刷】

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。【内容】「極東」の終焉 / 蒸気船シヨックの構造 / 海防の世界 / 郡県の武士 / 森有礼研究・西洋化の論理 / 「選挙」と「選抜」E・S・モースのニューイングランドにおける知的環境 【3刷】

淀川・安威川・神崎川の水利構造の変遷と分析、沿岸住民の治水運動と中央・地方議会と政党の対応、近代化と中央集権的近代国家の性格を地域史の視座から問う。【内容】 近代国家の成立と水利慣行 / 水利組合の成立とその機能 / 淀川改修運動と地方政治の動向 / 日露戦後の農事改良政策と水利問題

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめ具体的に考察。

ロンドン日本協会百周年を記念して、英国を中心とする日本文化・歴史研究者が日英交流百年史上重要な人物23名を取り上げ二つの文化の間に生きた人々を紹介する。

1998 / A 5判 / 560頁

原田敬一「近代への描き方——錦絵の世界」 / 青山忠正「近代への道——19世紀の東アジアと西ヨーロッパ」 / 高木博志「明治維新と古代文化の復興」 / 梅溪 昇「維新変革期の人間像——高杉晋作のこども」 / 佐々木克「大久保利通の遺書」 / 青山忠正「史跡と人物を訪ねて」

日本におけるキリスト教の宣教と受容を新資料の検証から解明。教典成立史、新造語の成立経緯などの原理的な問題、浦上信徒総流罪に対する長崎外国人居留地の英字新聞や宣教師の書簡の解明、さらには上海租界地の宣教、内村鑑三と英字新聞の論争などから東アジアがうけた衝撃の一端を明かす。

内外の史料を駆使し、比較文化史的視角から岩倉使節団を論じた共同研究。編者をはじめ、日米英の8名が日米英仏伊における使節団を論じる。【執筆者】 芳賀徹 / マリウス・ジャンセン / マリーン・メイヨ / イアン・ニッシュ / 松村剛 / 太田昭子 / シドニー・ブラウン / 泉三郎

従来「閔妃」と言われてきた肖像写真は、実は別人である可能性がきわめて高い、という論考をはじめ、雑誌メディアや小説にあらわれている近代日本の朝鮮観について問い直す。明治以来の逆説に満ちた日朝関係の糸をときほぐす。

2003 / 四六判 / 232頁

佐々木克編

明治維新期の政治文化

2005 / A 5判 / 390頁
本体5,400円 ISBN4-7842-1262-0

内藤一成著

貴族院と立憲政治

2005 / A 5判 / 438頁
本体7,600円 ISBN4-7842-1278-7

竹中正夫著

異文化・交流のはざまで

内田淑子のルーツと生涯

2005 / A 5判 / 230頁
本体1,900円 ISBN4-7842-1272-8

山崎渾子著

岩倉使節団における宗教問題

2006 / A 5判 / 250頁
本体3,800円 ISBN4-7842-1316-3

長谷川精一著

森有礼における国民的主体の創出

2007 / A 5判 / 466頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1367-2

明石岩雄著

日中戦争についての歴史的考察

2007 / A 5判 / 352頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1347-4

永井 和 著

日中戦争から世界戦争へ

2007 / A 5判 / 516頁
本体7,600円 ISBN978-4-7842-1334-4

宇田 正 著

鉄道日本文化史考

2007 / A 5判 / 352頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1336-8

青山忠正著

明治維新史という冒険

佛教大学鷹陵文化叢書 18

2008 / 四六判 / 332頁
本体2,400円 ISBN978-4-7842-1394-8

丸山宏・伊從勉・高木博志編

みやこの近代

2008・2010 / A 5判 / 268頁
本体2,600円 ISBN978-4-7842-1378-8

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果をまとめたもの。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた11篇。

明治前期から大正期にかけての貴族院を主導し「官僚系」「山県系」などといわれた院内会派幸倶楽部、及び子爵議員を中心とした最大会派、研究会の動向を中心に分析。また同時期の内閣・政党の動向を重ね合わせ、近代日本における立憲政治の実態、構造を探求する。

キリスト教倫理学および宗教社会学において著名な竹中正夫氏が、日本の昔話や童話を取り入れた童話作家であり、日系二世作家として多くの榮譽を受けた内田淑子（1884-1992）の生涯とそのルーツを丹念に辿り、異文化のなかで困難と闘いながら生き抜いた内田家の人々の生涯をつづった伝記。

岩倉使節団が、キリスト教を背景とした「万国公法」や「西洋自由主義」という外圧に直面してどのような体験をしたのか。近代文明諸国家への参入のため国家と宗教の関係、自由の受容の在り方など、近代日本のナショナル・アイデンティティが問われた信教の自由をとりあげる。

森有礼の思想的・実践的な課題が国民的主体の創出にあったととらえる視点から、これまで先行研究の大半が回避してきた外国語の史料や文献をも検討し、国民的主体の形成、外交、言語、歴史、道德教育、国家、天皇という七つのテーマに即して、森の言説と政策の総体的な解釈を試みた一書。

日中戦争の全面化は、太平洋戦争への決定的転換点であった。またその結果は、日本の対中国政策の破綻でもあった。中国市場の全面的開放と開発という、国際資本の試みの挫折といえる。本書は、日中戦争の原因について歴史学から考察する。

華北に利権を求める日本。英・米・ソに対しどのような対応をしたか。日本が世界戦争へ歩んでゆく姿を明かす。

【内容】東アジア20世紀史の中の日本／日本陸軍の華北占領地統治計画について／日中戦争と日英対立／1939年の排英運動／日中戦争と帝国議会／日中戦争と陸軍慰安所の創設

日本の近代化のなかで陸蒸気＝鉄道がもたらしたものは計り知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光（巡礼）・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内面的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

かつて「明治維新」は国家の模範、「勤王の志士」は国民の規範であったが、それらは国家が創りあげた虚像である。その本当の顔は身近な所に潜んおり、明治維新の真の姿を見つけ出す作業は、文字通り冒険なのである。平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介する。

2年にわたり『京都新聞』に平易な文体で連載されたものを再構成しまとめたもの。京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」で論じられたさまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。 図版多数収録【2刷】

丸山宏・伊従勉・高木博志編

近代京都研究

2008 / A 5判 / 628頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1413-6

大石一男著

条約改正交渉史

1887～1894
2008 / A 5判 / 356頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1419-8

久留島浩・高木博志・高橋一樹編

文人世界の光芒と古都奈良

大和の生き字引・水木要太郎
2009 / A 5判 / 508頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1481-5

高久嶺之介著

近代日本と地域振興

京都府の近代
2011 / A 5判 / 364頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1570-6

鹿雪堂 著

ふるいよしみ

古井喜実と中国

日中国交正常化への道
本体3,800円 ISBN978-4-7842-1590-4

早川廣中・本井康博共編著

増補改訂 新島八重と夫、襄

会津・京都・同志社
2012 / 四六判 / 212頁
本体1,200円 ISBN978-4-7842-1628-4

本井康博著

新島襄を語る〔全10冊〕

2005～／四六判／平均250頁
(各) 本体1,900円

第1回 千里の志

第2回 ひとりは大切 【品切】

第3回 鎧をあげて

第4回 敢えて風雪を侵して 【品切】

第5回 元祖リベラリスト 【品切】

第6回 魂の指定席 【品切】

第7回 ハンサムに生きる 【品切】

第8回 ビーコンヒルの小徑

第9回 マイナーなればこそ

第10回 志を継ぐ

本井康博著

新島襄を語る 別巻〔全4冊〕

2013・2014 / 四六判 / 平均306頁
(各) 本体1,900円

小山俊樹著

憲政常道と政党政治

近代日本二大政党制の構想と挫折
2012 / A 5判 / 384頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1662-8

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。本書は、京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果である。

黒田清隆内閣の大隈重信外相による条約改正交渉から、伊藤博文内閣の陸奥宗光外相による日英通商航海条約締結までの時期について、日本側の交渉戦略・交渉戦術、交渉相手の欧米列国の動向、日本国内における諸個人・諸集団の協力・対抗・競合の側面の三視点から分析。

近代奈良において水木要太郎（1865～1938）により形成された水木コレクションを主な分析素材とし、日本史・考古・建築史・国文・美術史・地理学等にわたる学際的な一書。多岐にわたるコレクションの形成過程や収集意図のもつ歴史的意義を解明。国立歴史民俗博物館での共同研究の成果。

近代京都府下の道路や運河開鑿・観光資源・開拓村を対象に、地域振興の視点から考察する。またその地域社会における様々な要求の噴出、地域改善の動きを、交通体系の変化・新技術や議会の導入・地域の人々の活動の問題を踏まえ、政治行政史と社会史を組み合わせながらつづさに描き出す。

国交正常化に大きな役割を果たしながら、十分な研究がなされてこなかった古井喜実(1903～95)に注目し、「古井喜実文書」ほか日中の資料を駆使しながら、古井を中心とした自民党内親中派による国交正常化への軌跡、交渉の裏側を検証。2011 / A 5判 / 356頁

2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公、新島八重にスポットをあて、その生涯を解説。白虎隊記念館館長、早川廣中氏と同志社大学本井康博教授による対談「山本八重から、新島八重へ」を掲載。資料篇として、新島八重とその兄、山本覚馬に関する重要史料を活字化して収録。【3刷】

同志社大学神学部教授のかたわら、同志社大学社史資料センター・アーキビストとして、新島襄関係資料の整理・収集にあたり「新島ワールド」のコンシェルジュ（案内人）と自他ともに認める著者が、話し言葉でその魅惑の世界を紹介する入門書シリーズ。

2013年のNHK大河ドラマの時代考証を依頼された著者による、新島襄・八重についての各地の講演をまとめる。

(一) 日本の元氣印・新島八重

(二) 八重さん、お乗りになりますか

(三) 八重の桜・襄の梅

(四) 襄のライフは私のライフ

戦前日本において、二大政党制の導入に込められた理念とは何か。二大政党制をめざす政治家やメディアの戦略とは。政党政治の崩壊と二大政党制の関係は、どのようなものであったか。これらの視角から、「憲政の常道」と日本の政党政治をとらえなおし、二大政党政治が抱える諸課題を提示する。

八木聖弥著

近代京都の施薬院

2013 / A 5判 / 304頁

本体3,500円 ISBN978-4-7842-1705-2

松田利彦・陳姪媛編

地域社会から見る帝国日本と植民地

朝鮮・台湾・満洲

2013 / A 5判 / 852頁

本体13,800円 ISBN978-4-7842-1682-6

尾谷雅比古著

近代古墳保存行政の研究

2014 / A 5判 / 368頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1734-2

武田知己・萩原稔編

大正・昭和期の日本政治と国際秩序

転換期における「未発の可能性」をめぐって

2014 / A 5判 / 392頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1717-5

竹本知行著

幕末・維新の西洋兵学と
近代軍制

大村益次郎とその継承者

2014 / A 5判 / 340頁

本体6,300円 ISBN978-4-7842-1770-0

杉本弘幸著

近代日本の都市社会政策と
マイノリティ

歴史都市の社会史

2015 / A 5判 / 412頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1789-2

小野芳朗編著

水系都市京都

水インフラと都市拡張

2015 / A 5判 / 310頁

本体5,400円 ISBN978-4-7842-1815-8

宮間純一著

戊辰内乱期の社会

佐幕と勤王のあいだ

2016 / A 5判 / 328頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1829-5

宮澤正典著

近代日本のユダヤ論議

2016 / A 5判 / 358頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1842-4

谷川 稜 著

明治前期の教育・教化・仏教
【オンデマンド版】

2016 / A 5判 / 374頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-7015-6

貧窮病者を救済するために設置された施薬院。明治維新から大正にかけて、施薬・施療のために人生をかけた安藤精軒。貧困者への医療普及を目指した精軒がとった手段は「施薬院」の復興であった。「施薬院」を中心として京都医界の歴史を描き出し、近代化していく日本の一側面を考察する。

「支配される側」からの視点と、「帝国史」という視点——異なるレベルの問題の有機的関連性を見いだす日文研共同研究の成果。【内容】研究の現状／地域社会団体／宗教・慣習と社会教化／慣習と法の「近代化」／知識人・有力者・エリート／都市と衛生・娯楽／戦時体制下の地域社会

古墳の取り扱い、近代天皇制イデオロギーの具現化をめざす国家の施策を、中央・地方庁を含む「行政」が実施する。本書では、従来の研究では抜け落ちていた「行政」に注目。河内長野市の文化財担当職員である著者が、行政と対峙する地域・民衆の動きにも目を向けて文化財保存行政を論じる。

転換期の日本の対外認識や秩序像、政治構想や経済構想、そして中国イメージをめぐる、史料に基づく実証を通じて、新たな解釈や時代像を提示する共同研究論集。【執筆】武田知己／五味俊樹／伊藤信哉／大木康充／和田守／佐賀香織／神谷昌史／長妻三佐雄／萩原稔／武井義和／西谷紀子

幕末・維新の動きの中で、先人たちは国際環境に自らをどのように位置づけ、どのように西洋から兵学を受容し軍制を確立していったのか。近代国家形成と国民形成の推進に大きな役割を果たした軍隊の創設の軌跡を、大村益次郎とその遺志をついだ山田顕義らの動向に辿り、政治史上の特性を探る。

近代日本の社会政策・社会福祉の受益者である社会的マイノリティはどのように政策形成に関与しようとし、政策に包摂されていったのか。蔓延する貧困と格差への対応を模索し続けている現代社会に、政策の受益者の動向から再構成した社会政策史・社会福祉史の実証研究を提示する一書。

豊富な地下水により清涼な飲料水を得てきた京都は、灌漑・防火用の表流水の欠乏に悩まされつづけた都市でもあった。近代京都の都市水を水量・水質・水利権に着目して水インフラという視点から論じるとともに、同一水系の伏見が一度は独立市制を志しながら京都市へ合併される顛末を明かす。

鳥羽・伏見の戦いで幕を開けた戊辰内乱は、当時の社会全体を巻き込み、あらゆる身分の人びとに日和見を許さなかった。みずからの抱えるべき正当性を探し求める者、保身のために立場を翻す者、混乱に乗じて地位の上昇を図る者……。新出史料を活用し、様々な思惑が交錯する内乱期の社会像を描出。

ナチス・ドイツの崩壊、中東戦争を経た今も、日本の「ユダヤ論議」は脈々と続いている。大正期から1990年代までの、日本における「ユダヤ論議」をたどる。特に、昭和戦前期を中心に、日本と上海におけるユダヤ避難民対策についても、その実態を論証。付「ユダヤ・イスラエル関係文獻目録」

近代日本の学校教育制度の定着過程で、宗教は教育といかなる関わりを持ち、学校教育の「非宗教」性はどのように醸成されたのか。日本近代史、仏教史、宗教史、教育史といった諸分野がとりこぼしてきた問題の重層性・複雑性を、教化・宗教（仏教）との関係から浮き彫りにする。初版2008年。

近江史跡会編

近江文化財全集〔全2巻〕

1974／B5判／総796頁
本体12,000円

50にわたる市町村の文化財を、建造物・仏像・絵画・工芸品・史跡・名勝・天然記念物・無形文化財・民俗資料・古墳出土品など数千点にのぼる資料の中から約二千点を選び、市町村ごとに解説。概説として「近江路の文化財」を付す。巻末には参考文献を付した。

村井康彦編

京都・大枝の歴史と文化

1991／A5判／380頁
本体5,800円 ISBN4-7842-0633-7

〔内容〕大枝風土記への招待（村井康彦）大枝の自然環境（金田章裕）老ノ坂と古道（足利健亮）大枝の曙（永田信一）国境の里（瀧浪貞子）動乱期の大枝（下坂守）新田と街道（下坂守）近代化の光と影（飛鳥井雅道）村のなりわい（山路興造）大枝の生活（山路興造）／大枝関係年表

水野恭一郎著

吉備と京都の歴史と文化

佛教大学鷹陵文化叢書3

2000／四六判／320頁
本体1,900円 ISBN4-7842-1052-0

岡山と京都の歴史を多岐にわたり探求してきた諸論考を収録

第1部 吉備地方の歴史と文化

第2部 京都古寺探訪

第3部 歴史と人物

大阪天満宮史料室編

大阪天満宮史の研究 第二集

〔内容〕大阪天満宮と大將軍信仰（高島幸次）天神信仰と鶏と鳳凰（高島幸次）大阪天満宮内鎮宅靈符史料序説（若林喜三郎）連歌と大阪天満宮の連歌所（鶴崎裕雄）天満郷の形成と町割の変遷（矢内昭）大阪天満宮の境内地・社地における旧大名屋敷について（近江晴子）大阪天満宮の祭礼と戎鳥行宮（脇田修）大阪天満宮社内芝居沿革序説（青木繁）大塩の乱と大阪天満宮（相蘇一弘）川口居留地と梅本町御旅所（堀田暁生）

〔第1集 品切〕

1993／A5判／240頁
本体5,800円 ISBN4-7842-0796-1

門脇禎二・朝尾直弘共編

京の鴨川と橋

その歴史と生活

2001／四六判／250頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1082-2

歴史都市京都のシンボリック的存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和まで、各時代の様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中でのどのような意味を持っていたかをさぐる。〔執筆〕門脇禎二・増淵徹・田端泰子・細川涼一・朝尾直弘・林久美子・横田冬彦

京都橘女子大学女性歴史文化研究所編

京都の女性史

2002／A5判／242頁
本体2,400円 ISBN4-7842-1123-3

平安時代から近代まで、京都に生きた女性に視点を据えた8論文。同研究所所蔵『遊客名簿』の分析から近代京都の遊郭について明らかにした論文などを収録。

〔執筆〕松浦京子／増淵徹／鈴木紀子／田端泰子／林久美子／横田冬彦／小野和子／細川涼一／光田京子

西川幸治・村井康彦編

環琵琶湖地域論

2004／A5判／340頁
本体7,000円 ISBN4-7842-1175-6

地域研究の深化が求められる昨今。本書は、滋賀県立大学の研究スタッフが、琵琶湖をとりまく自然・経済・民俗・遺跡などをとりあげた成果。〔執筆〕村井康彦／脇田晴子／水野章二／東幸代／林博通／高谷好一／黒田末寿／武邑尚彦／谷泰／梅原賢一郎／西川幸治

石田孝喜著

京都 高瀬川

角倉了以・素庵の遺産

2005／A5判／250頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1253-1

洛中と伏見港をむすぶ高瀬川は、慶長16年に角倉了以によって開削、大正9年にその運河としての使命を終えるまで、近世京都の経済発展に寄与した。本書では、運河開削の歴史をたどり、舟入や橋の変遷、高瀬舟と舟運の推移など、多方面からその歴史と文化を明かす（挿入図版110点余）。

東海地域文化研究所編

東海地域文化研究

その歴史と文化

東海地域文化研究所研究叢書

本体3,500円 ISBN4-7842-1298-1

【第一部】蓬左文庫所蔵『朝林』研究 鶴飼尚代／田辺裕／早川秋子／福田花子【第二部】歴史・文化・思潮 齊藤基生／松本高志／田尻紀子／稲垣知子／林由紀子／別所興一／釜賀雅史／寺島徹／平林一
2006／A 5判／396頁

金田章裕著

大地へのまなざし

歴史地理学の散歩道

2008／A 5判／322頁

本体4,500円 ISBN978-4-7842-1405-1

条里制から世界地図まで、広範な研究を展開してきた著者の諸論稿。【内容】道行く人びと／景観史への道程／町と村の発達／英国の世界認識と世界覇権／世界の大地への関心／北海道植民地区画の特性と系譜／古代都市の情景／南海道／琵琶湖岸の変遷と土地利用／禍福おりなす大地／文化の探求

アレキサンダー・ベネット著
エトス**武士の精神とその歩み**

武士道の社会思想史的考察

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1426-6

武家政権から、明治維新までの、武士文化の発展と変遷の過程を考察。文化人類学者クリフォード・ギアツによる宗教の定義を援用し、各時代における武士の精神を精査することで、武士の気風や動機などの進展過程を明かす。
2009／A 5判／296頁

辻本雅史編

知の伝達メディアの歴史研究

教育史像の再構築

2010／A 5判／300頁

本体5,700円 ISBN978-4-7842-1500-3

学校を、制度化された一つの「知の伝達メディア」と見ることで、多様に広がっている他のメディアと比較並列的に捉えることや、人の関係性の変容についての考察が可能になる。学校のエデュカシオン史・実践史・思想史に偏ってきたこれまでの教育史像を、メディアの視点から全面的に書き換える共同論集。

高木博志・山田邦和編

歴史のなかの天皇陵

2010／A 5判／340頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1514-0

神功皇后陵（五社神古墳）墳丘への研究者の立入調査、仁徳天皇陵（大仙古墳）の世界遺産登録の動きなど、現在も関心を集めている陵墓。京都アスニー連続講座をもとに、考古から近代まで陵墓の歴史を易しく説く。研究者によるコラム14本に加え、執筆者による座談会を収録。図版多数。【2刷】

原田信男編

地域開発と村落景観の歴史的展開

多摩川中流域を中心に

2011／A 5判／486頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1555-3

関東平野西部の多摩川中流域をフィールドに、開発と景観という観点から、地球環境の変遷を問う人間の営みの歴史をたどる。豊富な考古遺跡・遺物にくわえ、村絵図・地方文書等の文献史料を手がかりとし、旧石器時代から前近代にわたって通史的に論じる。20年をかけて行われた共同研究の成果。

吉越昭久・片平博文編

京都の歴史災害

2012／A 5判／322頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1643-7

京都における歴史災害を「水害」「火災」「震災」「土砂災害」「気象災害」など種類ごとに分類。歴史学のみならず工学・情報学などの成果も取り入れ、歴史災害の復原、減災の智慧について最新の研究を披露する。立命館大学で採択されたG-COEプログラム「文化遺産の防災」の成果。

武田佐知子編

交錯する知

衣装・信仰・女性

2014／A 5判／688頁

本体12,000円 ISBN978-4-7842-1738-0

サントリー芸術賞・浜田青陵賞・紫綬褒章を受けた編者の大阪大学退職を記念し、学縁に連なる31名が衣装・信仰・古代史の諸相・女性・文化の交錯をテーマに、最新の研究成果を持ち寄る論文集。

東 洋 史

神田喜一郎著

東 洋 学 説 林

1974 / A 5判 / 240頁
本体3,200円 ISBN4-7842-0285-4

大庭 脩 編

漢簡の基礎的研究

1999 / B 5判 / 220頁
本体13,000円 ISBN4-7842-1000-8

千田稔・宇野隆夫共編

東アジアと『半島空間』

山東半島と遼東半島

2002 / A 5判 / 420頁
本体4,800円 ISBN4-7842-1117-9

金沢星稜大学ORC代表 藤井一二編

東アジアの交流と地域諸相

2006 / B 5判 / 170頁
本体3,200円 ISBN4-7842-1306-6

太田 修 著

朝鮮近現代史を歩く

京都からソウルへ

佛教大学鷹陵文化叢書 20

本体1,900円 ISBN978-4-7842-1450-1

欒 玉璽 著

青島の都市形成史：1897-1945

市場経済の形成と展開

2009 / A 5判 / 364頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-1453-2

曾田三郎著

立憲国家中国への始動

明治憲政と近代中国

2009 / A 5判 / 400頁
本体8,000円 ISBN978-4-7842-1464-8

松浦 章 著

近世東アジア海域の文化交渉

2010 / A 5判 / 472頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1538-6

北東アジア交流研究プロジェクト 藤井一二編

東アジアの交流と地域展開

2012 / B 5判 / 248頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1639-0

東洋史研究の第一人者が壮年時代に書いた論文の一部を集めて一書とした昭和23年版の復刻。戦後の東洋史研究の基礎を築いた神田博士の論稿は今もなお精彩を放つ。『史林』に発表して以来多くの学者の注目を集めた「明の四夷館」など12篇を取る。

【内容】簡牘書徹的功能と特徴（大庭脩・李均明・劉軍）漢代太初曆考——漢簡に見られる『節氣』を手掛かりとして（吉村昌之）日本における中国古印の研究 付：日本収蔵中国古印図録（陳波）『居延漢簡補編』の出版（大庭脩）中国簡牘研究文献目録〔1903～1997年〕（門田明）

山東・遼東半島は、中世頃までは中国文明の出口、近代にあつては列強諸国による近代文明の侵入口であつた。半島は、通過した文明の沈殿層が形成される空間といえる。通時的・学際的・国際的な議論を通し、東アジア文明論に新視点を与えた国際日本文化研究センターでのシンポジウムの成果。

経済・文化・学術・観光の視点から北東アジアの「交流の多様性」を明かし、「アジア地域交流学」の構築を目指す金沢星稜大学ORCプロジェクトの成果。【内容】敦煌莫高窟の考古調査と壁画女性／古代中国・日本の都城形成と交流／北東アジアの地域諸相

近代において朝鮮半島から離散していった人々など、彼らにおける植民地支配と戦争の歴史がいかなるもので、それが現代の人々によってどのように記憶されたか。その歴史と縁のある場所を訪れ、そこでの様々な出会いから生まれた成果。2009 / 四六判 / 270頁

青島がドイツ・日本との間に持った経済関係や、その関係が築かれた歴史的要因、青島の経済発展の過程や特徴、さらに青島が全中国へ与えた影響を解明。日中両国の広範な資料を用いることにより、詳細かつ中立的・客観的な立場での考察を試みる。

立憲国家中国の形成という観点から叙述する中国近代史。内閣制を中心とする行政制度の改革や省制・省政の改革を軸に、大隈重信などの政治指導者や、有賀長雄のような伊藤系の法学者などの影響を具体的に把握することで、明治憲政の影響を動態としてとらえる。

海によって隔てられた東アジア諸地域間の交流は、波濤を越えた船の往来によって支えられていた。本書は清代帆船やその後に登場した汽船に乗って海を渡った人・物・書籍や文化をとりあげ、中国・日本・朝鮮・琉球などの人々の交流の諸相を明らかにする。

金沢星稜大学ORCプロジェクトの一環として2002～2004年度を中心に共同研究を進めてきた成果。【内容】中国発見の日本《和同開珎》銭と国際交流／20世紀前半、旧満州における日本人ジャーナリスト／韓国の経済・経営の進展と韓国日系企業の事業展開／韓国の経済成長とその源泉について 他

韓哲昊・原田敬一・金信在・太田修著

植民地朝鮮の日常を問う

第2回佛敎大学・東國大学校共同研究
佛敎大学国際学術研究叢書3

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1660-4

松浦章著

近世中国朝鮮交渉史の研究

2013 / A 5判 / 328頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1709-0

曾田三郎著

中華民国の誕生と大正初期の

2013 / A 5判 / 328頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1695-6

小野容照著

朝鮮独立運動と東アジア

1910—1925

2013 / A 5判 / 424頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1680-2

日本人

中島楽章編

なんばん こうもう とうじん

南蛮・紅毛・唐人

一六・一七世紀の東アジア海域

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1681-9

菊池誠一編

朱印船貿易絵図の研究

2014 / A 4判横綴 / 104頁

本体7,800円 ISBN978-4-7842-1712-0

朝鮮「植民地時代」の「日常」を検討する四編。【内容】日帝の韓国併呑に対する韓国民の認識と対応／韓国併合前後の都市形成と民衆／日帝強占期における「古都・慶州」の形成と古跡観光／戦時期大邱の朝鮮人女子学生の学校生活
2012 / A 5判 / 306頁

朝鮮から北京に赴いた赴京使による定期的な外交交渉と、漂着船や交易船による不定期な海を介した交渉の両面から考察。付：天理大学附属天理図書館蔵「漂人問答」全文影印。【内容】朝鮮使節の北京への道程／朝鮮情報から見る中国／中国漂着朝鮮船と朝鮮漂着中国船／黄海の交渉史

中国・日本双方の報道を通して大正初期の日本を見てゆくと、両国間の緊密な関係性がみえてくる。日本の国会では中国のあり方・対中国政策が盛んに議論され、その如何が世論を動かした。臨時約法を始めとする中華民国誕生を取り巻く諸問題を通して、大正初期の日本人を捉え直す。

朝鮮独立運動はいかなる国際的要因によって展開していたのか。同時代の日本・中国・台湾の社会運動や民族運動との相互作用を明らかにし、その検討作業から、朝鮮独立運動を朝鮮固有の運動ではなく、東アジア全体の社会・運動・思想状況との相互関係の中で展開した運動として捉え直す試み。

16～17世紀の東アジア海域では多様なエスニシティを持つ人々が混在し、ヒト・モノ・文化・情報が海を越えて運ばれた。彼らの交流と競争を通じて、東アジア海域における「紛争と交易の時代」のダイナミズムを描きだす。
2014 / A 5判 / 418頁

17世紀の日本と東南アジアの交易や、ベトナムのホイアンに存在した「日本町」の様子を描いた絵図、名古屋市情妙寺所蔵「茶屋交趾貿易渡海絵図」と、新出史料の九州国立博物館所蔵「朱印船交趾渡航図巻」。これらのカラー図版に、美術史・歴史学および考古学などの研究者による論考を収録。

思想・教育史

通 史

監修石川松太郎・津田秀夫

都道府県教育史シリーズ 〔全20巻〕

1983～／四六判／平均280頁

既刊揃 本体39,900円

- ・青森県教育史 葛西富夫著
- ・秋田県教育史 戸田金一編著
- ・岩手県教育史 長岡高人編著
- ・栃木県教育史 入江 宏 著
- ・愛知県教育史 吉永 昭 著
- ・富山県教育史 坂井誠一・高瀬保編著
- ・福井県教育史 三上一夫著
- ・島根県教育史 内藤正中著
- ・京都府教育史 衣笠安喜編著
- ・大阪府教育史 梅溪昇編著
- ・兵庫県教育史 布川清司・鈴木正幸・藤井譲治著
- ・岡山県教育史 ひろたまさき・倉地克直編著
- ・山口県教育史 小川国治・小川亜弥子著
- ・高知県教育史 山本大・千葉昌弘著
- ・徳島県教育史 三好昭一郎・大和武生編著
- ・愛媛県教育史 影山 昇 著
- ・福岡県教育史 井上義巳著
- ・長崎県教育史 外山幹夫著
- ・大分県教育史 鹿毛基生著
- ・沖縄県教育史 浅野 誠 著

※各地域の特色ある教育・文化を紹介し、寺子屋・郷学校・私塾・藩校などの教育施設のほか、広く社会・宗教・産業教育などにもふれ、古代から明治前期までを扱う。

※各地域の教育・文化に貢献した人物をとりあげ、教育的事跡を紹介。

※付録として教育史年表・参考文献・地図などを収録。

ISBN4-7842

本体1,800円 -0381-8

本体1,800円 -0379-6

【品切】 本体1,800円 -0458-X

本体1,800円 -0407-5

本体1,800円 -0375-3

本体1,800円 -0406-7

本体1,800円 -0380-X

本体1,800円 -0398-2

本体1,700円 -0372-9

本体2,800円 -0955-7

本体2,800円 -0813-5

本体1,800円 -0502-0

本体2,300円 -1059-8

本体2,800円 -0628-0

本体1,800円 -0373-7

本体1,800円 -0374-5

本体1,800円 -0377-X

本体1,800円 -0378-8

本体1,800円 -0376-1

本体2,300円 -0675-2

源了圓・玉懸博之共編

国家と宗教

日本思想史論集

1992／A 5判／540頁

本体12,000円 ISBN4-7842-0702-3

国家というものの存在と、それを内から浄化し批判する重要な契機としての宗教——「国家と宗教」という問題に思想史的見地から取り組む論文集。

個人著作集・全集

明治教育史研究会編／杉浦重剛全集刊行委員会刊

杉浦重剛全集〔全6巻〕

1982～1983／A 5判／平均900頁

第2巻 論説二 本体24,000円

2巻以外は【品切】

明治から大正にかけて教育者としてその生涯を捧げた杉浦重剛の全体像を明らかにする全集。単行本、雑誌掲載論文、新聞論説、翻訳、講演・語録、日記から意見書、請願書にいたるまで、その膨大な論稿は、近代日本の政治・社会・教育状況を知る格好の史料でもある。

(社) 日本弘道会編／古川哲史監修
増補・改訂 西村茂樹全集
〔全12巻〕

2004～／A 5判／平均900頁
揃 本体212,000円

太田兵三郎他編

藤原惺窩集〔全2巻〕

1978／A 5判／総1024頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0368-0

西村茂樹（1828－1902）は、幕末には儒学・洋学を修めた優れた経世家であり、明治には急激な近代化・西洋化が進む中、日本文化崩壊への危惧から保守主義的思想家として倫理・道徳の問題にとり組んだ。昭和51年の復刻版（全3巻）を解体、新たに収集したものを加え、全12巻で再構成した。

昭和16年「海潮音」の主幹太田兵三郎の編集で、国民精神文化研究所から刊行されたものの復刻。光岡校訂の惺窩先生文集、羅山編の惺窩文集のほか、自筆草稿、日記残簡あるいはその著とされる寸鉄録など、惺窩に関するあらゆる史料を収録。日本儒学の祖惺窩の唯一無二の重要史料。

古 代

久木幸男・小山田和夫編
しゅげいしゅちん
空海と綜芸種智院
弘法大師の教育〔上巻〕

本体8,400円 ISBN4-7842-0383-4

庶民教育の先駆者の教育思想とその実践としての綜芸種智院の意義・特質を明らかにすると共に、研究史を一望した28篇。

1984／A 5判／408頁

久木幸男・小山田和夫編
空海といろは歌
弘法大師の教育〔下巻〕

本体8,400円 ISBN4-7842-0384-2

空海が「いろは歌」の作者でないことは今日定説となっている。その定説確立に至る論争過程やその後の論議を顧み、国語・歌謡・教材・教育思想史上の諸問題を明かした27篇。

1984／A 5判／456頁

近 世

海原 徹 著

近世私塾の研究

1983・1992／A 5判／650頁
本体14,000円 ISBN4-7842-0747-3

広瀬淡窓、本居宣長、杉田玄白、シーボルト、緒方洪庵、藤田幽谷・東湖、月性、吉田松陰など近世の代表的な私塾の動態と人的交流を多方面から総合的かつ体系的に解明・分析し、その果たした役割と意義を探り、近代への胎動を追求した初の本格的な研究書。写真・図版多数収録。 【2刷】

三宅正彦著

京都町衆伊藤仁斎の思想形成

1987／A 5判／378頁
本体5,800円 ISBN4-7842-0484-9

朱子学は幕藩国家の支配階級のみならず被支配階級とくに京都町衆にも浸透する。仁斎も熱烈な朱子学徒であったが、なぜ仁斎は朱子学を否定して独自の思想体系仁斎学に至ったか。その歴史的意義と思想的展開を、徹底した稿本研究を通し、京都町衆の存在形態と意識的特質の検証の中に探る。

柴田 純 著

思想史における近世

1991／A 5判／310頁
本体5,800円 ISBN4-7842-0650-7

個人と社会、主観と客観の相剋に挑む問題作。【内容】近世思想史研究の課題と方法／近世前期における学文の歴史的位 置／那波活所の思想／那波活所と徳川頼宣／徳川頼宣の藩教学思想／近世における法と理／近世初頭の社会と儒者／思想史における近世／宋明学の受容と日本型中華意識

今中寛司著

徂徠学の史的研究

1992／A 5判／424頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0737-6

第一章においては、新史料「徂徠先生年譜細君墓表一卷」、徂徠自筆『勝覺寺縁起』により徂徠の前半生を明らかにし、第二章では徂徠学における「古文辞」の学と、それを生みだした私塾護国について論じ、第三章において徂徠の業績と評価を総合的にまとめる。

古川哲史著

葉隠の世界

1993／四六判／320頁
本体2,816円 ISBN4-7842-0807-0

川村 肇 著

在村知識人の儒学

1996／A5判／278頁
本体6,400円 ISBN4-7842-0912-3

本山幸彦著

近世国家の教育思想

2001／A5判／296頁
本体7,000円 ISBN4-7842-1069-5

須藤敏夫著

近世日本積奠の研究

2001／A5判／340頁
本体8,000円 ISBN4-7842-1070-9

木村政伸著

近世地域教育史の研究

2006／A5判／290頁
本体5,700円 ISBN4-7842-1274-4

本山幸彦著

近世儒者の思想挑戦

2006／A5判／314頁
本体7,500円 ISBN4-7842-1304-X

小宮 彰 著

デイドロとルソー 言語と《時》

十八世紀思想の可能性
2009／四六判／316頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1448-8

任 正 熾 著

朝鮮科学史における近世

洪大容・カント・志筑忠雄の自然哲学的宇宙論
2011／A5判／282頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1587-4

山田芳則著

熊沢蕃山の思想冒険

2015／A5判／218頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1783-0

井上敏幸監修／高橋昌彦編著

廣瀬淡窓

2016／B6判／334頁
本体2,500円 ISBN978-4-7842-1817-2

武士道思想を代表する文献『葉隠』を、岩波文庫版の校訂者でもある著者が平易な文体で詳しく紹介する。追腹、諫言、国学など主要テーマに切り込んだ第Ⅰ部：葉隠十話、殉死の精神と葉隠の本質との関わりを説いた第Ⅱ部：葉隠四話の二部からなる。巻末に殉死墓分布地図を付載。

近世後期の在村知識人の諸相を具体事例にそってとりあげ、民衆の儒学と教育の近代化の関係を探る。【内容】民衆儒学と教育近代化／幕末維新期の民衆における漢学教育／儒学と農業／漢学教養の形成／儒学と救民行為／儒学と主体形成／崎門派の在村儒学と学校構想／在村知識人と近代化

幕藩体制の教育政策を縦覧、経済・社会と関連させながら政治と教育の関係を解明。また幕府・諸藩の教育機関設立の趣旨、幕臣や藩士に対する奨学の論旨、教育機関発達の諸条件など、体制の維持・存続・強化のための教育思想・施策の具体像をも明かす。『明治国家の教育思想』（品切）の姉妹篇。

儒学が近世封建社会を支え、発展したという通説について、孔子を祭る行事、積奠を通じ考察。江戸幕府と米沢・長州・水戸の各藩校、足利学校を取り上げ、近世における積奠と教育の実態を把握することにより、近世儒学と学校教育の性格を考える。近世教育史、儒学・思想史研究の空白を埋める。

近世農村社会に存在した多様な内容・水準を持つ教育の構造と、その構造がいかなる社会的背景、過程を経て変容していったのかを明らかにする。

【内容】研究課題と研究視点／唐津藩における私塾教育の展開／浮羽地域における教育構造の変容

江戸開府から大政奉還までの近世265年間を、成立・安定・動揺・崩壊の4期に分け、各時代の代表的儒者・思想家である林羅山・熊沢蕃山・貝原益軒・荻生徂徠・佐久間象山・横井小楠をとりあげ、彼らが直面した時代の課題にいかに関与したのか、その思想的な営みの足跡に迫る。

日本ではあまり認知されていないデイドロの「他者」の視点を中心とした思想を、近代社会思想の起源としてのルソーに對置することによって、「近代」の《時》の起源と「言語」を問いなおす一書。また同じ18世紀を生きた日本の思想家として、安藤昌益、新井白石の思想との比較も試みる。

18世紀朝鮮で、宇宙の構造と生成について論じた学者、洪大容。本書は洪の無限宇宙論の、宇宙論発展史における意味や朝鮮科学史および18世紀自然科学における位置を検討し、洋の東西の宇宙論の本質を解き明かしていく。付録として洪大容著『鑿山問答』の原文と日本語訳を収載。

蕃山の一つ一つの著作の思想構造の解明をめざし、それぞれの著作を比較することで、蕃山の思想の変化に注目し、その変化の意味を問う。また中江藤樹『翁問答』や池田光政の藩政改革をとりあげて、岡山藩における蕃山の政治体験の意味を解明し、多様な蕃山の思想を立体的に浮かび上がらせる。

従来の評伝が、淡窓の著作に傾注して叙述されてきたのに対して、本書は、淡窓の日記や自叙伝、著書をはじめ、書簡や漢詩、周辺史料などから淡窓の生涯を再検討し、新たな淡窓像を構築。とくに漢詩を多くとりあげ、その背景についても解説。著述と出版についても、最新の調査から詳細に検討。

大野 出 著
がんだんたい し みくじほん
元三大師御籤本の研究
おみくじを読み解く 【オンデマンド版】
本体4,000円 ISBN978-4-7842-7008-8

おみくじの源流を探っていくと、必ずたどり着くのが元三大師御籤。現代のおみくじも多くは元三大師御籤本に由来している。江戸時代のそれらの史料群を時系列に従って比較、分析し、近世の「天道」信仰をあぶり出す。初版 2009 年。
2016 / A 5 判 / 214 頁

近 代

回想杉浦重剛編集委員会編
回想・杉浦重剛
その生涯と業績
1984 / A 5 判 / 622 頁
本体10,000円 ISBN4-7842-0385-0

倫理御進講の担当者杉浦重剛の生涯と業績を追悼・評論などを通してさぐる。明治の思想・教育界のあり様と裏面がうかがえる一書。Ⅰ 追懐・杉浦重剛 (25 篇) Ⅱ 御進講余録 (10 篇) Ⅲ 称好塾報 (明治24年～大正元年の抜粋) からなり、巻末に解説 (付・杉浦重剛参考文献目録) を収めた。

本山幸彦編著
帝国議会と教育政策
1981 / A 5 判 / 720 頁
本体13,000円 ISBN4-7842-0369-9

大正前期までの帝国議会に現れた教育議事を取り上げ、多角的に考察。「教育世論研究会」による共同研究報告書。帝国議会教育議事年表付。【執筆著】 本山幸彦／海原徹／梶山雅史／伊藤和男／尾崎ムゲン／岩見和彦／菅井鳳展／吉岡剛／竹中暉雄／石附実／八箇亮仁／杉林隆／呉宏明／小股憲明

本山幸彦教授退官記念論文集
日本教育史論叢
1988 / A 5 判 / 582 頁
本体13,000円 ISBN4-7842-0507-1

本山教授の京大退官を機に、内外の研究者29名が、近代から現代に至る日本の教育を論じる。

山田芳則著
幕末・明治期の儒学思想の変遷
1998 / A 5 判 / 258 頁
本体5,600円 ISBN4-7842-0982-4

山田方谷・阪谷朗廬・坂田警軒・大西祝ら主に吉備地方の思想家10名をとりあげ、幕末期の儒学思想の特質、近代西洋文明との接触による儒学思想の変容、明治期の儒学思想の課題、さらに儒学批判を通じた明治期における西洋思想形成の過程を解明し、儒学が果たした地域的役割をも考察した論集。

後藤正次著
The Historical Background of English Education in Japan
本体2,300円 ISBN4-7842-0981-6

PART I Education : Past
PART II The Studies of Dr. Inazo Nitobe
PART III The Studies of Kikuo Tanaka

1998 / A 5 判 / 350 頁

山口静一編
フェノロサ社会論集
2000 / A 5 判 / 330 頁
本体7,800円 ISBN4-7842-1028-8

明治期の美術運動に足跡を残したことで著名なフェノロサだが、来日当初の目的は東京大学でミル、スペンサー、ヘーゲルなど社会思想を講じることだった。本書では日本の学会誌や新聞・総合雑誌に発表された政治・経済・社会・宗教・哲学・比較文化論等に関する主要な論文・講演13篇を収める。

巖 平 著
三高の見果てぬ夢
中等・高等教育成立過程と折田彦市
2008 / A 5 判 / 352 頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1399-3

明治前期における中等・高等教育の成立過程を、第三高等学校およびその前身校の変遷に即して明かす。京都大学大学文書館所蔵「第三高等学校関係資料」等を駆使し、三高校長職にあった折田彦市に注目。高等学校がいかなる理由で設けられたのか、日本近代教育史研究の欠落を埋める一書。

伊藤純郎著
増補 郷土教育運動の研究
2008 / A 5 判 / 506 頁
本体9,800円 ISBN978-4-7842-1402-0

旧版に1章を加えて再版。郷土の立て直しをはかる自力更生が叫ばれた1930年代に展開された郷土教育運動の歴史的意義を、柳田国男の郷土研究論と関連させながら、運動を推進した文部省、文部省とは異論を唱える郷土教育連盟、実際にそれをおこなう地域社会の反応を通じて、実証的に解明。

富永 望 著

象徴天皇制の形成と定着

2010 / A 5判 / 316頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1492-1

真辺将之著

西村茂樹研究

明治啓蒙思想と国民道徳論
2010 / A 5判 / 488頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1491-4

小股憲明著

明治期における不敬事件の研究

2010 / B 5判 / 576頁
本体13,000円 ISBN978-4-7842-1501-0

本間千景著

韓国「併合」前後の教育政策と日本 佛教大学研究叢書 8

2010 / A 5判 / 300頁
本体5,600円 ISBN978-4-7842-1510-2

小枝弘和著

William Smith Clarkの教育思想の研究 札幌農学校の自由教育の系譜

2011 / A 5判 / 380頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1561-4

宮澤正典著

同志社女学校史の研究

2011 / A 5判 / 374頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1574-4

田中智子著

近代日本高等教育体制の黎明 交錯する地域と国とキリスト教界

2012 / A 5判 / 448頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1618-5

高橋文博著

近代日本の倫理思想

主従道徳と国家
2012 / A 5判 / 332頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1656-7

定義・起源が明確にされてこなかった象徴天皇制。「象徴天皇（制）」という言葉に着目して、その使用法を検証し、さらに吉田茂の憲法運用と、それに異を唱える政治勢力や憲法学者の天皇観を明かすことで、象徴天皇制が新憲法の運用の積み重ねにより形成、定着していったことを実証。

明治の啓蒙思想家・道徳運動家である西村茂樹の思想について、従来の「保守」と「進歩」という二項対立的な枠組みから脱却し、時代状況に応じた問題意識の変遷と主張の展開を、史料に基づいて跡づけることにより明らかにする。

数多く発生しながら体系的な研究がされてこなかった明治期の不敬事件を網羅。豊富な実例を整理・検討することによって明治国家の特質を考察し、天皇制と教育の関係、ひいては天皇制と近代日本および国民の関係を明かす大著。資料編として、228 事例と 13 参考事例の概要および参考文献を収載。

第2次日韓協約から第1次朝鮮教育令発布後の期間に着目し、当該期の修身教科書への影響や教員の養成・日本人教員の配置など、現地における学校教育を検証。日本に対する朝鮮民衆の対応と抵抗により、日本側の植民地教育政策がどのような変容を迫られたのかを、多彩な史料に基づき解明する。

“Boys, Be ambitious!”で知られる、ウィリアム・スミス・クラーク（1826-86）の教育思想の全体像について、アメリカに存在するクラーク関連資料や、手紙や草稿類などの資料をも活用し、彼が過ごしてきた環境を明らかにすることで、その教育思想や実践の特質の主要因を究明する。

現在の同志社女子大学・同志社女子中学校・高等学校の前身である「同志社女学校」。その1877年（明治10）創設から1945年（昭和20）までについて、新島襄と女子教育、同志社女学校と朝鮮、昭和戦時下の同志社女子部など、個別詳細に論じる。

主に 1870 年代初頭から 1890 年代初頭までを対象とし、各地域の高等教育体制の展開過程を、府県という地域行政主体、文部省という国の行政主体、伝道を志すキリスト教界、という三勢力の交錯のうちに描く。高等教育史を府県・国・民間勢力の相互関係史として再構成する一書。

近代日本における倫理思想をめぐる論文集（付 資料解題）。「明治十年代の道徳教育」「徳育論争における福澤諭吉」「道徳教育における主従関係の近代」「近代日本における経済と倫理」「阿部次郎の社会思想」「安部能成と平和論」「アジアの中の日本」「天皇・武士・民衆」「和辻哲郎の戦後思想」等。

史料集

日本医史学会編

日本医史学雑誌〔全18冊〕 昭和3年～昭和19年

- ① 本体9,500円
- ④ 本体9,000円
- ⑤ 本体8,000円
- ⑥ 本体8,000円

- ⑦ 本体8,000円
- ⑧ 本体8,000円
- ⑨ 本体8,500円
- ⑩ 本体8,000円

⑪ 本体7,500円

昭和2年創立の日本医史学会は、翌3年1月より従来の「中外医事新報」(昭和3～15年)のち「日本医史学雑誌」をその研究発表の場とし、現在に至っている。今回、入手困難な昭和19年までを取録し、貴重な古典を甦らせる。

1978～1980／菊判／平均600頁／揃 本体74,500円 (品切本②③⑩⑫⑬⑭⑮⑯⑰を除く)

中野 操 監修

大坂医師番付集成

1985／大判帙入／索引・解説B6判220頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0079-7

その土地柄か、大坂には最も多くの番付が残されている。寛政から明治に至る、現在判明している医師番付の全て45点を影印版で再現。別冊に詳細な人名索引及び解説を付す。医学・蘭学・洋学史における人物研究の根本史料。45種(原寸及び3分の2縮小)。和紙使用オフセット印刷。

大槻茂雄編
ばんすいぞんきょう

磐水存響 乾・坤〔全2巻〕

1991／A5判／総1010頁
本体19,000円 ISBN4-7842-0624-8

本書は大正元年(1912)に、大槻玄沢の多方面にわたる業績から医学書を省き「蘭学の受容・導入」に関するものを集成して玄沢の曾孫大槻茂雄が編集・発行した乾・坤2巻の復刻。

原 三信 編

日本で初めて翻訳した解剖書

1995／A4判／100頁
本体8,738円 ISBN4-7842-0884-4

【内容】阿蘭陀外科免状／六代原三信が写した「人体解剖書」原本と「レメリン解剖書」／原三信本とレメリン解剖図(対照)／六代原三信が写した訳本「人体解剖図」の解説書／阿蘭陀外科術式図譜絵巻／解説(酒井シヅ：日本最初の西洋解剖書の翻訳)

磯貝 元 編

明治の避病院

駒込病院医局日誌抄

1999／A5判／530頁

本体13,000円 ISBN4-7842-0998-0

わが国の代表的な避病院、駒込病院勤務医の当直医局日誌全11帖(明治32～42年)から編者(元駒込病院副院長)による脚注を付して抄録。ベスト・チフス・赤痢患者の悲惨な状態、医師や看護婦の診療への取り組み、医局内の行事や人事など伝染病をとりまく当時の様子が生々しく活写されている。

前田久美江編著

現代医療の原点を探る

百年前の雑誌「医談」から

2004／四六判／312頁

本体2,500円 ISBN4-7842-1193-4

明治26～41年に刊行された私立奨進医会の機関誌「医談」は、近代医療制度の確立過程における医学界を窺う史料。本書はその記事を抄録し、江戸から明治にかけて日本の医療事情や教育環境がどのような状況にあり、医師がどう行動し、何を考えていたかを浮かび上がらせる。

溝上國義編

日露戦争従軍記

軍医の陣中日記

2004／A5判／166頁

本体2,800円 ISBN4-7842-1211-6

軍医から見た戦争の状況が克明に記された日露戦争の記録。戦闘による外傷の治療以上に水・食料の確保や、転戦する野戦病院での衛生管理にほとんどの時間が割かれていたことなど、戦時下の様子が、戦場・民家・関連地理ほかのスケッチとともに生々しく活写されている。

池田文書研究会編

東大医学部初代総理池田謙斎 池田文書の研究

〔全2冊〕

2006～2007／A 5判／総740頁
揃 本体14,600円

正橋剛二編

ていえん こいし

檜園小石先生叢話

複製と解説

本体4,000円 ISBN4-7842-1330-9

日本医史学会関西支部（杏林温故会）編

い たん 醫 譚〔全3巻〕

自第1号（昭和13年）至第17号（昭和19年）

本体24,000円 ISBN978-4-7842-1424-2

森本武利編著／酒井謙一訳

京都療病院お雇い医師ショイベ 滞日書簡から

2011／A 5判／346頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1581-2

緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室編

緒方洪庵の「除痘館記録」を読み解く

2015／A 5判／216頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1806-6

池田謙斎宛の約4千通の文書類を翻刻。内容は、東大医学部の前身である幕府医学所関係文書およびその関係者からの書簡など、東京大学中樞部・陸軍軍医部・宮内省侍医として関係のあった各官家、同僚侍医、また患者としての華族や高級官僚などによる書簡を上・下2分冊で収録。

究理堂を發展させた小石元瑞（1784～1849）の門人が、師の言説を記録。江戸末期の漢蘭折衷医の考え方、薬理学、内科、外科、解剖学、生理学、病理学的事項から漢方・蘭学の対比ないしは漢方に対する批判にまで及ぶ内容。全文カラー復刻。

2006／A 5判／124頁

昭和12年、医学史研究の会である杏林温故会創立が相談された。その機関誌『醫譚』は医学史・科学史研究の貴重な古典であり、入手困難な昭和19年刊行17号までを復刻。

2008／A 5判／総1090頁

総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

治療・教育・研究にあたって優れた成果を挙げたドイツ人のお雇い医師ショイベ（1877～81）。滞日中に母へ送った書簡の翻訳を通して、ショイベの生涯をはじめ、ほかのお雇い外国人達との交流や居留地での生活から明治初期の京都の風俗にいたるまでを、生き生きとよみがえらせる。

第一部で「除痘館記録」の原本図版・翻刻・現代語訳・註と解説、第二部に論考を配し、幕末という当時の歴史的背景や具体相、あるいは洪庵を取り巻く状況や環境などを丁寧に解説することで、より多くの人々が緒方洪庵と除痘館事業の活動を再認識できるよう構成し、病いとのかかわりに迫る。

個人著作集・全集

富士川英郎編

ふじかわゆう

新装版 富士川游著作集〔全10巻〕

2011／A 5判／平均500頁

本体90,000円 ISBN978-4-7842-1586-7

岡田靖雄編・解説

くれしゅうぞう

呉秀三著作集〔全2巻〕

1982／A 5判／平均450頁

揃 本体29,000円

医史学関係の著作・伝記・考証類を収録。【構成】東洋医学・医学分科史／医術と医業／医者風の風俗・迷信／疾病史・病志・療法の歴史／民間薬／医学論理学・典籍／伝記（一）／伝記（二）・西学東漸／性慾の科学・人生論／医史料・雑纂

総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

明治35年日本神経学会を創立、わが国近代精神神経学を開拓建設すると共に、日本医史学会の初代理事長を務め、数多くの広範な医史学領域での研究を残した呉博士の業績を集成。【構成】医史学篇（23篇）／精神医学篇（31篇）

総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

通史・年表

三木 栄・阿知波五郎共著

人類医学年表

1981／B 5判／550頁

本体23,000円 ISBN4-7842-0070-3

人類の医の知識の始原期から一万年間の鳥瞰編年記録。重要な医の業績、医倫理、医学に影響を及ぼした宗教・哲学・思想・国々の興亡、疫病の流行、飢饉の発生など、今昔東西人類・人間医学の全動向を辿る。人名・件名索引を付す。

総合教育センター（TEL0120-435-288）専売商品です。

三木 栄 著

朝鮮医事年表

1985 / A 5判 / 586頁
本体20,000円 ISBN4-7842-0397-4

三木 栄 著

補訂 朝鮮医学史及疾病史

1991 / B 5判 / 650頁
本体17,000円 ISBN4-7842-0653-1

有史以来第二次世界大戦終結までの朝鮮史料および関連史料による医学・医療・疾病関係の事蹟を年次・月次・日次に別け列載した医事年表。典拠は全て明記。朝鮮医学史のみならず、東洋医学史の基本的文献。

総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

本書は朝鮮医学史と朝鮮疾病史の二部構成よりなり、広く自然科学史・本草学、獣医学さらにアジア医学史との相互関係にもふれる大作。初版私家版は昭和49年刊。

総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

部 門 史

高島文一著

〈第4回中賞〉

鍼灸医学序説

1988 / A 5判 / 250頁
本体2,800円 ISBN4-7842-0511-X

大塚恭男著

漢方と薬のはなし

1994 / 四六判 / 280頁
本体2,621円 ISBN4-7842-0822-4

日本眼科学会百周年記念誌編纂委員会編
日本眼科を支えた明治の人々
日本眼科学会百周年記念誌 第5巻

1997 / A 4判 / 410頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0931-X

日本眼科学会百周年記念誌編纂委員会編

日本眼科の年表

日本眼科学会百周年記念誌 第7巻

1997 / A 4判 / 210頁
本体7,000円 ISBN4-7842-0933-6

深瀬泰旦著

〈第15回矢数医学賞〉

天然痘根絶史

近代医学勃興期の人びと

2002 / A 5判 / 450頁
本体8,500円 ISBN4-7842-1116-0

福田真人・鈴木則子編

日本梅毒史の研究

医療・社会・国家

2005 / A 5判 / 392頁
本体7,000円 ISBN4-7842-1247-7

深瀬泰旦著

小児科学の史的変遷

2010 / A 5判 / 604頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1526-3

長年、鍼灸医学の研究と診療にたずさわった著者が、鍼灸の概念と歴史、その根底となった東洋医学思想を多くの古典の原文を紹介しながらわかりやすく解説する。中国伝来の鍼灸、日本式鍼灸、現代医学のいずれにも通じているべきことを主張しつつ、鍼灸治療への道案内をする。

本書は、北里研究所附属東洋医学総合研究所所長であった著者が、長年携わってきた漢方治療の経験から、その処方と効用をエピソードをまじえて紹介する。【内容】私の漢方ことはじめ／東洋医学のすすめ／やさしい漢方／くすり徒然草／薬学読本／思い出の人びと／思い浮ぶままに

近代諸制度を整えていく過程で、何もかもはじめてから始めて今日の礎を築いてきた先人たち、また地域医療に尽してきた眼科医たちの足跡を、近代西洋医学を導入した外国人、学会以前の日本人も含め、都道府県別に収録。明治の眼科医2700名、その子孫約1800名の略歴を付した眼科人名辞典。

ヴェサリウスの解剖書以来の眼科の歴史を、関連諸科学も含め、さらに社会・文化の歩みと対照させながら年表に纏める。また読み記事として重要事項を解説し、読む年表をめざした。巻末には医科系大学の歩み及び眼科出版の歴史を収録。

牛痘接種法は、日本ではお玉ヶ池種痘所において実践され、お玉ヶ池種痘所は蘭学という学問を普及させる上での拠点となった。それは日本近代医学興隆の礎ともいえる。天然痘の根絶を目ざす人びとに焦点をあてながら、この近代医学勃興期とも呼べる時代を活写する。

「家」・共同体・国家、さらに国際社会がどのような形で身体や性、感染症に介入してきたのかを解明する共同研究9篇。

【内容】序論 荻野篤彦 I 梅毒の登場と近世社会の変化 鈴木則子／瀧澤利行 II 近代国家と梅毒 福田真人／宮崎千穂／大川由美／金澤真希 III 梅毒紀行 中西淳朗／福田真人

永年にわたって小児科の開業医として地域医療に従事してきた著者が、内外の原典をたどり、医史学の視点から小児科学の誕生と発展の跡をたどる。

【内容】感染症の変遷／歴史的な小児科書を読む／疾病概念の変遷／小児科の診断と治療／小児科学の誕生と小児病院

蘭学資料研究会編
み づくり げん ぼ
箕作阮甫の研究

1978 / A 5判 / 700頁
本体13,000円 ISBN4-7842-0035-5

中野 操 著

大坂名医伝

1983 / 四六判 / 250頁
本体1,500円 ISBN4-7842-0069-X

飯沼愨齋生誕二百年記念誌編集委員会編

飯 沼 愨 齋

1984 / B 5判 / 518頁
本体12,000円

濱 光治 著

浪速の町医師上田秋成

1989 / 四六判 / 178頁
本体1,845円 ISBN4-7842-0574-8

安井 広 著

ベルツの生涯

近代医学導入の父

1995 / A 5判 / 450頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0876-3

福島義一著

こうりょうさい
高良齋とその時代

附・日本散瞳薬伝来史

本体3,800円 ISBN4-7842-0906-9

岡田靖雄著

精神 齋藤茂吉の生涯
病医

2000 / 四六判 / 354頁
本体3,000円 ISBN4-7842-1056-3

外山幹夫著

医療福祉の祖 長与専斎

2002 / 四六判 / 200頁
本体2,000円 ISBN4-7842-1107-1

高島文一著

鍼 の 道〔全2冊〕

2004～05 / A 5判 / 総604頁
揃 本体4,800円

医学・地理・歴史・兵学・地質・物理・天文・法律・語学と多方面にわたり業績を残した箕作阮甫。各分野の専門家がその再評価を展開する。【執筆者】 児玉幸多／緒方富雄／大久保利謙／小沢栄一／菊池俊彦／石山洋／呉直彦／富士川英郎／土屋喬雄／菱本丈／呉茂一／中山沃／小山健三／江原滋

明治30年生まれの医学博士、大阪在住半世紀以上、大阪をこよなく愛する著者が、橋本宗吉・中天游・緒方洪庵ら先人たちの貴重な業績と足跡を通して、わが国の近代化の中で大坂が果たした役割をさまざまな角度からわかりやすく語った好著。巻末に大坂風土記年表を付す。

飯沼愨齋の生涯と学問を、植物学・医学・薬学・化学・人文など諸分野の専門家により明かす。資料編には飯沼愨齋著作所在目録／平林莊所蔵諸品目録／国立科学博物館所蔵飯沼愨齋腊葉目録／西村・飯沼・小島家略系図／年譜を収録。

総合教育センター (TEL0120-435-288) 専売商品です。

江戸後期、和漢の文献に関する広い知識の上に、特異な文学を打ち立てた秋成、その意外と知られていない医師としての側面に光をあてる。その働きぶりや、その師都賀庭鐘の存在、自らの著書『胆大小心録』にもみられる「医は意」をモットーとした彼の医の心などを探る。

日本の近代医学発展の基礎を築いたベルツの生涯をその業績と足跡からたどる。【内容】 明治初期の東京医学校／来日前の経歴と日本における生活／内科学著書から／栄養論／温泉医学／中央衛生会／ドイツ東洋文化研究協会／人類学／在日中の日記／ドイツにおける晩年の日記／年譜・業績

寛政11年(1799) 徳島に生まれ、本草、医学を修め、長崎でシーボルトらに西洋医学を学び、大坂で眼科を開業した高良齋の生涯と業績を、眼科学界で活躍してきた著者が纏める。高良齋著訳書の研究、研究文献、年表をも収めた基本図書。
1996 / A 5判 / 270頁

精神科医の著者が、精神科医茂吉と歌人茂吉との相克を描く。【内容】 精神科医となる 医科大学入学まで／医科大学の時代／巢鴨病院の時代 長崎、そして留学 長崎医学専門学校時代／留学 青山脳病院 病院火災から再建へ／うちのめされて、いきる 晩年 疎開／のこされた日々／齋藤茂吉という人

長崎・大坂で医学を学び、長崎医学校の初代校長となった長与専斎。日本近代の医療・衛生・福祉の確立者ともいふべき長与の生涯に焦点をあて、明治新政府の政策のなかで近代医療福祉制度がどのように整備されていったのか、その功績を家族・交友関係など幅広い視点から明かす。

一内科医が鍼灸といかに出会い、何が彼を鍼の道へと導いたのか——。西洋医学を基礎に東洋医学・鍼灸を学び、盲啞教育の実践者でもあった著者。90歳をこえて今なお現役の医者として活躍し、研究者として探求の心をもちつづける氏が当時の社会状況を織り込み半生を綴る。

奥沢康正・園田真也共編

眼科医家人名辞書

2006 / A 5判 / 304頁
本体4,000円 ISBN4-7842-1327-9

杉浦守邦著

江戸期文化人の死因

2008 / A 5判 / 340頁
本体2,500円 ISBN978-4-7842-1422-8

中山 沃 著

おがたこれよしでん

緒方惟準伝

緒方家の人々とその周辺

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1563-8

古西義麿著

緒方郁蔵伝

幕末蘭学者の生涯

2014 / A 5判 / 186頁
本体2,500円 ISBN978-4-7842-1774-8

武智秀夫著

軍医森鷗外のドイツ留学

2014 / A 5判 / 352頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1754-0

鳥井裕美子著

前野良沢

生涯一日のごとく

2015 / B 6判 / 334頁
本体2,500円 ISBN978-4-7842-1786-1

郷土史、地方医史をはじめ、人名辞典、人物誌などから江戸・明治の眼科を生業とした医師483名のプロフィールを略述。内科・外科を専業としながらも眼疾患の患者を診た人々も収録。主要流派（32件）については、その流派の説明を本文中に挿入、医系図・家系図も多く掲載。

日本の歴史に名を残した人々が、どのような病気にかかり、どのように対処しながら一生を終えたのか。日記・書簡・肖像画など、さまざまな資料から22名の死因を読み解き、「死因」という観点から、江戸期に活躍した文化人たちの生活を浮き彫りにする意欲作。 【2刷】

洪庵の嫡子で、宮廷医療への西洋医学導入、大阪大学医学部・軍医学校の前身創設などに貢献した緒方惟準。その自叙伝「緒方惟準先生一夕話」を軸として、その生涯と交遊を詳述。幕末・明治初期の医学界をものがたる基本図書。 2012 / A 5判 / 1018頁

緒方郁蔵は、備中で生まれ、適塾に入門、多くの医書を翻訳。緒方洪庵の義兄弟となり、独笑軒塾を開いた。除痘館で種痘の普及に尽力し、土佐藩開成館の医局教頭や大阪医学学校で翻訳や教育に従事。本書はその生涯を、遺された著書や資料を読み解き、真摯に生きたその実像を明かすものである。

鷗外のドイツ留学がのちの大文豪になる大きな糧となったのは数多くの研究が明らかにするとおりである。しかしドイツ留学の目的は文学でなく、陸軍医事制度調査と衛生学研修であった。本書は医学史の立場から、軍医としてドイツに渡った青年森鷗外の留学の実態を明らかにする。 【2刷】

解体新書の訳者として知られる江戸時代の蘭学者・前野良沢の評伝。『解体新書』刊行を中心に論じられてきた良沢の生涯を、彼の著訳書や周辺資料から再検討し、新たな良沢像を構築。巻末に前野良沢年譜・主な参考文献を付す。

書 誌

大鳥蘭三郎著

医学書誌論考

1987 / A 5判 / 212頁
本体4,800円 ISBN4-7842-0474-1

オランダに生まれ、医学者、医史学者として学界をリードした著者による、近世・近代医学の古典・名著の書誌学的研究6篇。論じる文献は『瘍医新書』『南蛮流秘伝書』『金瘡仕掛』『栗崎流金瘡口伝書』『鶴斎遺稿歌之一』『耄耋独語玉味噲』『鶴斎遺稿』『遠西医範』『医範提綱』『外科必読』

史 論

森潤三郎著

多紀氏の事蹟

1985 / A 5判 / 320頁
本体6,500円 ISBN4-7842-0078-9

『医心方』の丹波康頼の流れをくみ、江戸幕府の官医として漢方医学の指導的立場にあった多紀氏一統の履歴とその業績を、豊富な史料を基に、履歴・墳墓・交友・門人・医学館・校刻事業・歴世の著述などから跡づけた貴重な一書。昭和8年版の復刻。小見出し・人名・事項索引を付す。

宗田 一 解説
あ ち わ

阿知波五郎論文集〔全2冊〕

1986 / A 5判 / 総840頁
揃 本体13,000円

石田純郎編著

蘭 学 の 背 景

1988 / A 5判 / 360頁
本体3,800円 ISBN4-7842-0512-8

石田純郎編著

緒方洪庵の蘭学

1992 / A 5判 / 366頁
本体4,800円 ISBN4-7842-0751-1

酒井シヅ監修・日本医師会編集

医 界 風 土 記〔全6巻〕

比較医史学の視点からヨーロッパ医学の影響を実証的に体系化した氏の業績。【内容】上巻 近代医史学論考 新生日本医史学の息吹が感じとられる記念すべき「近代日本外科学の成立」と明治初期医学関係論文 14 篇 下巻 医史学点描 医学教育史関係 15 篇、京都・外科関係人物誌 17 篇、医学随想 28 篇

江戸中期以降興隆した蘭学、殊に蘭医学のルーツを、遠影ともいうべきライデン大学、大きな影響を与えたシーボルトの医学的背景、近代日本に直接影を落としたウトレヒト陸軍軍医学校など、直接現地に足をのぼして探り、蘭学史に新たな光をあてる。オランダ人医史学者 4 名を含む 6 人の共同研究。

洪庵に代表される日本の蘭医学。蘭学者および彼らが学んだ原典とその著者たちのプロソポグラフィ（集団履歴調査法）的研究を通して日本の医学の質を明かす。【内容】緒方洪庵の蘭学／蘭学書の原著者たち／東アジアの西洋学／ヨーロッパ医療界における蘭学のモデルの位置付けについて

全国の歴史家・医学史家によって書き継がれてきた『日医ニュース』連載の『医界風土記』を地域別に編集。郷土に根ざした先達の足跡と業績にはたゆまぬ医療をめぐるドラマがある。

ISBN4-7842

中部篇

本体2,427円 -0839.9

関東・甲信越篇、近畿篇、九州・沖縄篇 【品切】

北海道・東北篇、中国・四国篇 【品切】

1993 / 四六判 / 190 ~ 250 頁

片桐一男著

蘭学、その江戸と北陸

大槻玄沢と長崎浩斎

1993 / 四六判 / 364頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0769-4

青木歳幸著

在村蘭学の研究

1998 / A 5判 / 460頁
本体8,600円 ISBN4-7842-0963-8

石田純郎著

オランダにおける蘭学医書の形成

2007 / A 5判 / 336頁
本体6,800円 ISBN978-4-7842-1338-2

ヴォルフガング・ミヒェル／島井裕美子／川篤真人編

九州の蘭学

越境と交流

2009・2011 / 四六判 / 380頁
本体2,500円 ISBN978-4-7842-1410-5

京都橘大学女性歴史文化研究所編

医療の社会史

生・老・病・死

2013 / A 5判 / 304頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1677-2

寛政11年越中高岡の町医の子である長崎浩斎は、西洋流眼科、漢詩を学んだ後、文化14年に江戸に遊学、大槻玄沢の門下に入る。本書は玄沢と浩斎の往復書簡を中心に、長崎家に残る書簡、写本、版本などの紹介を通して、当時の地方の蘭方医家の様子や、江戸と地方との交流に光をあてる。

信濃において、医師による医療のひろがり、医師の組織化、医療の近代化等の医療をめぐる歴史的变化に、在村蘭学がいかに関わったのか、江戸時代とどう関わったかを明かし、蘭学の全体像にたいしての位置付けと見通しにとりくむ。

『解体新書』原著者、蘭訳者の経歴を具体的に検討することで、日本の受容した蘭学の性格を解明。他の代表的な受容蘭学医書も精査することにより、受容した蘭学のヨーロッパにおける学統を明かし、その背景となる1800年頃までヨーロッパに存在した古いタイプの職人としての外科医の様子を描出。

近世、西洋への唯一の窓口であった長崎及び九州各地で、人々が在来の學術とは異質な西洋近代科学にどう向き合い、学び取って、世のため人のために役立てたのか、あるいは来日した西洋人が、知的交流や技術移転にどれほど貢献したのかを、彼らの業績と足跡を通して明かす。 【2刷】

研究所の研究成果。【内容】平安中後期における貴族と医師／鎌倉幕府の医師／『本草綱目』に見る中国医療の到達点／室町・戦国期の山科家の医療と「家業」の形成／曲直瀬玄朔とその患者たち／幕末京都における医家と医療／明治前期の村と衛生・病氣／錯乱と祟りの間／母乳が政治性を帯びるとき

中島医家資料館・中島文書研究会編著

備前岡山の在村医

なかしま

2015 / B 5判 / 318頁

本体10,000円 ISBN978-4-7842-1826-4

中島家の歴史

中島家は在村医として郷里に尽くしたこと、戦中戦後に家を封印していたことにより、書籍・古文書・器物類の散逸を免れた。本書は、その貴重な書籍・古文書・器物類の解説・分析を通して、歴代の生涯、研究論文、史料翻刻、蔵書目録および年表を収録。中島家の医業の歩みに光を当てる一書。

医療人類学

H・E・ジゲリスト著／高山坦三訳

医学序説

1981 / B 6判 / 418頁

本体3,800円 ISBN4-7842-0033-9

ライプチヒ大、ジョーンズ・ホプキンス大で教鞭をとった医学史家ジゲリストは、医学史が医学の社会的な問題の解決の一つとなることを信じその研究に一生を捧げた。本書は、歴史の手法を用いて医学の基礎概念を紹介し、医学および医師の職責の本質を示した医学の入門書。

マーガレット・ロック著／中川米造訳

都市文化と東洋医学

1990 / A 5判 / 320頁

本体6,800円 ISBN4-7842-0619-1

本書は医療人類学の分野で世界的に活躍中の著者が、日本の都市（京都市域）における東洋医学の実践がどのような形態と内容によって行われているか、さらには、その社会的・文化的な背景がいかなるものかをフィールドワークをもとに文化人類学的手法でまとめたものである。

奥沢康正著

京の民間医療信仰

安産から長寿まで

1991 / A 5判 / 340頁

本体2,800円 ISBN4-7842-0642-6

安産、長寿、病氣平癒祈願など、神仏に医療加護を願う信仰は根強く生きている。本書は、京都の眼科医が市内の寺社の民間医療信仰を紹介した異色の京都案内。170の寺社の御利益やその歴史的背景を、地図や写真も交えながら紹介し、現代における信仰のあり様などを考察する。

梅原 猛 編

脳死は、死でない。

1992 / 四六判 / 320頁

本体1,553円 ISBN4-7842-0749-X

いま人の命とはなにか——脳死・臓器移植から日本人の死生観・近代合理主義批判へ。各界8名(中川米造・廣澤弘七郎・五木寛之・河合隼雄・原秀男・光石忠敬・米本昌平・中島みち)と語る対談のほか「医学と生命」(講演)を収録。脳死臨調最終答申も掲載。

安平公夫監修／竹中正夫・郷原憲一編

生命の意味 [全2巻]

1992 / 四六判 / 平均250頁

(各) 本体2,300円 ISBN4-7842-0718-X・-0719-8

医療技術の進歩、価値観の多様化の中、生と死の意味を考える上で様々な選択にせまられる今日。各界の専門家と共に生きることの意味を考え、読者に様々な視点を提示する。

山下政三著

脚気の歴史 ビタミンの発見

1995 / A 5判 / 540頁

本体14,000円 ISBN4-7842-0881-X

ビタミン発見の背景には、長い脚気との闘いの歴史や、日本の漢方脚気医学の陰の貢献があり、ビタミン発見にいたるまでの、さまざまな伝説も語り継がれている。本書は、ビタミンB1欠乏症の専門家が、脚気の歴史をもとに全く新しい視点からビタミン発見の真相解明に迫る20世紀医療文化史。

川村純一著

病いの克服

日本痘瘡史

1999 / A 5判 / 400頁

本体4,700円 ISBN4-7842-1002-4

古代より人類を苦しめた痘瘡(天然痘)が根絶されるまでの歴史を、膨大な史料から描き出す。【内容】痘瘡の称呼の変遷／痘瘡の起源と伝来／痘瘡の流行／痘瘡の犠牲者／痘瘡の医学／種痘／痘瘡にかかわる民俗／文芸作品に見る痘瘡／痘瘡の根絶／人類は再び痘瘡に襲われることはないか

星野一正編著

生の尊厳

日米欧の医療倫理

1999 / A 5判 / 336頁

本体2,800円 ISBN4-7842-0992-1

バイオエシックス・生命倫理について、日米欧の識者がそれぞれの現状を報告するとともに、よりよい医療のための制度のありかたをさぐる。本書は、第20回大学医学部医科大学倫理委員会連絡懇談会記念国際シンポジウム「日米および諸外国の医療についての倫理委員会の在り方」の成果。

杉田暉道・藤原壽則共著

今なぜ仏教医学か

2004／四六判／280頁

本体2,500円 ISBN4-7842-1195-0

大星光史著

古代日本の生命倫理と疾病観

2005／A 5判／466頁

本体3,500円 ISBN4-7842-1245-0

川村純一著

文学に見る痘瘡

2006／A 5判／300頁

本体5,000円 ISBN4-7842-1323-6

仏典に説かれている医療にさかのぼり、仏教医学の基本にたちもどり、高齢化社会における終末期医療のあり方が問われている今日、仏教はどのような役割を果たすことができるのか——仏教と医療現場とのかかわりの実態と未来について具体的に明かす。

文学に造詣の深い医学者が記紀万葉に現代人の生き方を探る
【内容】万物と神／清浄無垢／疾病観／魂の存在／生命の倫理／をとこ・をみなの世界／詩人達の生死から／死と黄泉の国／理想の国とユートピア／宗教・思想・福寿・泰平と生命観／言霊の世界といのち／魑魅魍魎の悪と正義の倫理観

古来から、人々は痘瘡（天然痘）と戦ってきた。また一方では痘瘡神が祀られ、多くの民俗行事が発達するなど、痘瘡と馴れ親しんできたともいえる。平安朝から昭和まで、主に江戸時代を中心に46の文学作品を通じて、当時の民衆の痘瘡に対する疾病概念および医療事情を浮き彫りにする。

宗教史

禅宗

川上孤山著／荻須純道補述

増補 妙心寺史

1975・1984／A5判／830頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0429-6

大正4年に刊行された『妙心寺史』は、草創から維新时期まで六百年の妙心寺の沿革を、本山・塔頭はもちろん地方寺院に至るまでその記録・文書を鑑渉して描いた大著である。復刻にあたっては荻須純道師による「明治以降の妙心寺」を増補した。付・松原一流（古月・白隠）系正脈図。【2刷】

白石虎月編

東福寺誌

1979／菊判／1250頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0121-1

日本の禅宗の歴史に大きな役割を果たしてきた東福寺。本書は、昭和5年に東福寺の末寺明光寺の住職、白石虎月師によって出版されたものの復刻。開創以来の歴史を明らかにすると共に、中世・近世禅宗史や禅宗関係文化財を知る上で貴重な編年史料集である。

荻須純道著

正法山六祖伝訓註

1979／A5判／160頁
本体2,800円 ISBN4-7842-0118-1

別名『法山六祖伝』。妙心寺開山慧玄から授翁宗弼・無因宗因・日峰宗舜・義天玄詔・雪江宗深までの六人の伝記で、雪江宗深および東洋英剛の筆による。流布本の『正法山六祖伝』は寛永17年能遷の印刻によるが、改竄のない古写本を基とした『考案』『別考』を参照しながら註釈を加えた史料。

荻須純道著

禅宗史の散策

1981／A5判／570頁
本体13,000円 ISBN4-7842-0122-X

長年禅宗史の研究に携わった著者が、禅の源流とその展開を明かす。第一篇は聖徳太子・榮西・癡兀大慧・夢窓国師・雪江宗深・白隠・道海などの研究論文を主とし、また中国の禅にも触れながら、禅宗史の問題を論じ、第二篇では啓蒙的なものを中心に、中国の部6篇、日本の部13篇を収録。

梶谷宗忍訳注

絶海語録〔全3巻〕

1975／A5判／平均450頁

建仁寺山内兩足院蔵書の五山版『絶海録』を底本とし、相国寺山内、慈照院蔵書の『絶海録考証』に依り訳注を付した。
第1巻 絶海語録(一) 本体5,800円
第2巻 絶海語録(二) 本体5,800円
第3巻 蕉堅藁・年譜 【品切】

玉村竹二著

〈第3回角川源義賞〉

日本禅宗史論集〔全4巻〕

1975～／菊判／平均1200頁
巻上 本体15,000円、巻下之一・二【品切】、索引【未刊】

日本禅宗史研究第一人者の業績の集大成。禅宗史だけでなく中世の文学・建築・美術など各分野にわたって裨益するところ極めて大。

禅文化研究所編

禅学論攷

1977／A5判／554頁
本体8,000円 ISBN4-7842-0117-3

故山田無文老子の喜寿記念。禅宗学界各分野の代表的研究者が上梓した19篇。【執筆】玉城康四郎／平川彰／中村元／木村俊彦／柳田聖山／中川孝／古賀英彦／久須本文雄／荒木見悟／ドミエヴィル／玉村竹二／平野宗浄／古田紹欽／加藤正俊／木村静雄／西村恵信／西谷啓治／紫野恭堂／藤吉慈海

相国寺史料編纂委員会編／藤岡大拙・秋宗康子校訂

相国寺史料〔全10巻・別巻1〕

1984～1997／A5判／平均550頁
揃 本体157,000円

足利家の菩提寺として創建、五山の第二位に叙され、明貿易の交渉にもあたった相国寺。本史料集は「相国寺記」（永徳2年～慶長14年）と小畠文鼎師が本山及び塔頭所蔵の文書・史料から抄録・編纂した「相国寺史稿」全40冊（慶長10年～慶応3年）よりなり、別巻に「萬年山聯芳録」を収録した。

近世禅僧伝〔全8巻〕

1982～／A 5判／平均330頁

第1巻 沢庵和尚年譜 荻須純道著 本体5,400円
 第3巻 雲居和尚年譜 平野宗浄著 本体6,000円
 第7巻 白隠和尚年譜 加藤正俊著 本体6,500円
 第8巻 東嶺和尚年譜 西村恵信著 【品切】

【以下未刊】

第2巻 一絲和尚年譜 柳田聖山著
 第4巻 愚堂・無難和尚年譜 西尾賢隆著
 第5巻 盤珪和尚年譜 小林円照著
 第6巻 無著和尚年譜 加藤正俊・柳田聖山著

玉村竹二著

五山禅林宗派図

1985／B 5判／420頁
 本体15,000円 ISBN4-7842-0403-2

桜井景雄著

禅宗文化史の研究

1986／A 5判／410頁
 本体8,500円 ISBN4-7842-0452-0

藤木英雄著

中世風狂の詩

一休『狂雲集』精読抄
 1991／四六判／388頁
 本体4,800円 ISBN4-7842-0676-0

可睡斎史料集編集委員会編

可睡斎史料集〔全5巻〕

1990～／A 5判／平均340頁
 揃 本体77,000円

平久保章編

新纂校訂 木菴全集〔全8巻〕

1992／A 5判／総4,100頁
 本体145,000円 ISBN4-7842-0738-4

入矢義高短篇集

空花集（くうげしゅう）

1992／四六判／306頁
 本体2,427円 ISBN4-7842-0730-9

鈴木泰山著

曹洞宗の地域的展開

1993／A 5判／380頁
 本体8,000円 ISBN4-7842-0792-9

平久保章編

新纂校訂 即非全集〔全4巻〕

1993／A 5判／総1,632頁
 本体67,000円 ISBN4-7842-0810-0

近世禅僧から9人を選び、年譜・行状・訓註を通して、その思想を浮き彫りにする。歳ごとに年譜原文、読み下し、詳細な註解をつけ、巻頭に「人と思想」として概説をつける。

禅宗史料研究の第一人者が、永年の研究成果を基に五山禅林の宗派図を体系的にまとめた画期的な一書。

【内容目次】 解題と凡例／宗派綱要（諸源）—中国伝法／五山禅林宗派図（八十一項目）関山派印証系譜／道号検索／法諱（下字）検索／道号・法諱異称対照表

南禅寺および禅宗史に関する論稿をまとめる。寺史篇では永保寺・円光寺史を、制度篇では禅宗主流の成立とその性格、官寺制五山の成立について等7篇、人物篇では祖円、周佐、景菴、古溪、崇伝、素湛を、文化篇では茶道の源流、梅屋宗香と乗福寺本『鴈庵遺稿』についてなど5篇を論じる。

五山文学を専門とする著者が、『狂雲集』を通して一休の文学的人間像のデッサンに臨む。20のテーマを設定し、関連する史料をも交えながら行間を探る。腐敗墮落した当時の世相を逆手に取って愛欲の詩をうたい、正法護持につとめる一休の姿がそこにある。付一休年譜

静岡県袋井市在の曹洞宗専門道場、万松山可睡斎は、全国に四ヶ寺あった曹洞宗の触頭「僧録」の一つで、駿河・遠江・三河・伊豆四カ国にある曹洞宗寺院を支配した。そのため、江戸幕府の曹洞宗に対する宗教行政・寺院支配に関する膨大な文書・記録類を残している。各巻に収録史料の解題を付す。

伽藍の整備と禅僧としての学徳で黄檗宗禅基を確立した第二世木菴禅師の語録8種（木菴禅師語録・木菴禅師東來語録・東來集・黄檗木菴禅師語録・木菴和尚瑞聖寺語録・黄檗木菴語録など）のほか平譜・寿章などを加えて原本を収録。頭注を付し最終巻には冠首索引・准冠首索引・総索引を付載。

中国文学の泰斗による珠玉の短篇21本。【内容】 陶淵明とわたし／一休の艶詩／頼山陽／玄沙の臨済批判／語録の言葉と文体／詩偈について／無著道忠の禅学／大拙・熊楠・慧海／中国口語史の構想／白話文と白話小説／中国の妓女／中国の看板の由来／NHK批判／京都タワー倒れよ ほか

中部地方（特に東海地域）における曹洞宗の教理教学の展開と教線の拡張強化の過程を語録・民俗史料を通して明かし、一見反世間的ともみえる「道元禅」がその真髄を保持しながら「曹洞土民禅」といわれるまでに民衆化し伝承されてきたことを実証。【解説】 広瀬良弘

木菴とともに万福寺の首座となった明僧の即非如一は隠元の徳、木菴の道、即非の禅とたたえられた高僧。本全集には語録・詩偈集を収めた『即非禅師全録』ほか二点を影印で刊行。異本との校訂は頭注で示し、詳細な索引を併載。

加藤正俊著

関山慧玄と初期妙心寺

2006 / A 5判 / 390頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1281-7

西尾賢隆著

中国近世における国家と禪宗

2006 / A 5判 / 370頁
本体7,500円 ISBN4-7842-1289-2伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編
相国寺蔵 西笑和尚文案 (せいしょうおしょうぶんあん)

白慶長二年至慶長十二年

2007 / A 5判 / 396頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1343-6

玉村竹二監修／瑞泉寺史編纂委員会編

妙心寺派語録〔全2巻〕

瑞泉寺史別巻

1984・1987 / A 5判 / 総1166頁
揃 本体28,000円

横山住雄著

瑞泉寺史

2009 / A 5判 / 584頁
本体20,000円 ISBN978-4-7842-1487-7

芳澤勝弘編著

こうげつそうがん かんしんこう

江月宗玩 欠伸稿訳注〔全2冊〕

2009・2010 / A 5判 / 総1414頁
揃 本体19,000円

佐藤秀孝・館 隆志編

蘭溪和尚語録

蘭溪道隆禅師全集1

2014 / B 5判 / 662頁
本体15,000円 ISBN978-4-7842-1777-9

世縁の粘着を嫌い隠逸の生涯を送った妙心寺の開山・関山慧玄は、自らの意志で伝記の手掛かりとなるものは遺さなかった。後世の関山伝や印可状などの諸史料を精密に分析し、初期妙心寺における関山を中心とした諸問題にとりくみ、宗門の密室性に分け入った一書。

中国に至った仏教は社会や国家と関連し、唐代後半期から展開する禪へと集約される。本書は中国における仏教の姿を把握すべく、「会昌の廃仏」を円仁の『入唐求法巡礼行記』等にもみるほか、異国の宗教を理解・受容するための「偽経・語録」「僧制・清規」へと発展する戒律の受容などを検証。

秀吉・家康のブレンとして、寺社・外交政策に活躍した相国寺中興の祖・西笑承兌の書状案文『西笑和尚文案』全10冊を、紙背文書も含め活字化。朝鮮出兵、関ヶ原合戦直後の政治状況などをうかがい知れる史料。『鹿苑日録』の原本の一部『文禄中日記』、西笑が活躍した時期の「相国寺本坊文書」も翻刻。

瑞泉寺史編纂に際し、中世に属する妙心寺派の語録を刊行。中世禅僧の詳細な行状を通して新たな史実解明をもたらす貴重史料。第1巻には、いわゆる四派以前を収録し、第2巻には、景川派と聖澤派の語録を収録。各巻に解説を付す。

応永22年(1415)、臨済宗妙心寺中興の祖・日峰宗舜の開創にかかる青龍山瑞泉寺(愛知県犬山市)は、濃尾平野の妙心寺教団の中心になってその発展に寄与してきた。その600年にわたる歴史を、通史編、伽藍・塔頭編、史料編の三部構成で伝える。

大徳寺156世として大徳寺の復興に尽くした江月宗玩(1574-1643)の語録『欠伸稿』の龍光院蔵自筆本を翻刻。分量的には、影印で刊行されている写本「孤蓬庵本」のほぼ半分だが、「孤蓬庵本」にはない偈頌などを収録する。そのなかには多くの文化人との交流も記録されており、貴重資料ともなっている。

鎌倉中期の渡来僧・蘭溪道隆は、鎌倉禅宗の基礎を築いた高僧で、大覚派の祖・建長寺の開山。覆宋五山版『蘭溪和尚語録』を底本とし、文政本『大覚禅師語録』と大正新脩大藏經本『大覚禅師語録』の当該箇所より文字の対校をなし、原文影印と翻刻に、訓註・補註・解題を付して全貌を明かす。

天台宗・真言宗

天台宗寺門派御遠忌事務局編

園城寺之研究

1978 / B 5判 / 800頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0119-X

鷲尾遍隆監修／綾村宏編

石山寺の信仰と歴史

2008 / A 5判 / 180頁
本体1,800円 ISBN978-4-7842-1387-0首藤善樹・坂口太郎・青谷美羽編
じゅうしんいん

住心院文書

2014 / A 5判 / 230頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1744-1

昭和6年、天台宗寺門開祖智証大師入滅の大遠忌記念事業として、当時学界第一線にあった研究者・宗教者によってなった歴史・宗教・美術からなる総合研究書の復刻。

琵琶湖畔に伽藍を構える石山寺は、聖武天皇の勅願により創建、観音信仰の聖地として知られる。また、紫式部が源氏物語の着想を得たという伝説が残るなど、多くの人により信仰と文化が育み守られてきた名刹。その信仰・歴史・美術・文学・經典を、第一線の研究者がオールカラーで解説。図版150点。

全国の本山派山伏を統べる聖護院門跡の院家先達として、全国的に広大な霞を所有していた京都の住心院。その住心院に現蔵される貴重な古文書や、出来る限りの旧蔵文書も採集し、さらに若干の関連史料をくわえて、修験道史を研究するうえで根本史料となる文書群202点を活字化。

浄土宗・浄土真宗

鷲尾教導編著

増補 津村別院誌

1983 / 菊判 / 776頁
本体8,500円 ISBN4-7842-0125-4

千葉乗隆編

宮崎圓遵著作集〔全7巻〕

1986～1990 / A 5判 / 平均400頁

旧版『津村別院誌』は、初期真宗史学の代表的書誌学者である鷲尾教導師により大正15年に出されたものであり、草創期の明応5年から現代までの津村別院の歩みを知る貴重史料である。今回復刻するにあたり、新たに津村別院関係年表と木村寿氏による編著者鷲尾教導師の略伝を付した。

戦後、真宗研究は、政治・社会・経済などの広い視野に立ち、かつ民俗学・考古学・地理学などを導入した総合的研究が推進された。そのなかで、その中心的役割をはたした著者の論文を五分野全七巻に収める。

第一巻 親鸞の研究(上)【品切】、 第二巻 親鸞の研究(下)【品切】、 第三巻 中世仏教と庶民生活【品切】

第四巻 真宗史の研究(上) 本体6,800円
第五巻 真宗史の研究(下) 本体8,000円第六巻 真宗書誌学の研究 本体7,000円
第七巻 仏教文化史の研究 本体6,800円

菅田祐準著

念 佛 的 自 覚

1993 / 四六判 / 110頁
本体2,000円 ISBN4-7842-0761-9

中井真孝著

法然伝と浄土宗史の研究

思文閣史学叢書

1994 / A 5判 / 430頁
本体8,800円 ISBN4-7842-0861-5

住職が綴る念佛との邂逅と信仰へのよすが。現代の課題を解決する鍵として仏教思想を易しく説く。【内容】釈尊の苦悩／釈尊の目覚めと伝道／救われるということ／念佛的自覚／本願について／この光に遇う／他力ということ／三業弥陀一体の念佛／念佛の利益／輝くいのち／宇宙的調和の中で

都市的な顔と田舎的な体を具有する浄土宗の性格が形成された過程を「法然上人伝」「中世浄土宗寺院」「近世本末関係」を軸に解明する待望の論集。

【内容】1篇 法然上人伝の研究／2篇 中世浄土宗寺院の研究／3篇 近世本末関係の研究／付篇

蓮如上人研究会編

蓮如上人研究

1998 / A5判 / 492頁
本体10,000円 ISBN4-7842-0961-1

千葉乗隆編

日本の社会と真宗

1999 / A5判 / 286頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1009-1

菅田祐準著

念仏の時空論考

2003 / A5判 / 180頁
本体3,200円 ISBN4-7842-1137-3

中井真孝著

法然絵伝を読む
佛教大学鷹陵文化叢書122005 / 四六判 / 234頁
本体1,800円 ISBN4-7842-1235-3

今堀太逸著

権者の化現（ごんじゃのけげん）

天神・空也・法然
佛教大学鷹陵文化叢書15
本体2,300円 ISBN4-7842-1321-X

水谷幸正著

仏教思想と浄土教

1998・2007 / A5判 / 728頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0989-1

五十嵐隆幸著

西山浄土教の基盤と展開

2010 / A5判 / 308頁
本体4,000円 ISBN978-4-7842-1529-4

平 祐史 著

法然伝承と民間寺院の研究

2011 / A5判 / 444頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1534-8大本山くろ谷
金戒光明寺 宝物総覧2011 / A4判変 / 516頁
本体28,000円 ISBN978-4-7842-1564-5

豊田元彦監修／西山禅林学会発行

かんぎょうしょのしょうげんぎぶん ちゅうげ
『観経疏之抄』玄義分 中・下
浄土宗叢書 第1巻・第2巻
揃 本体12,000円

蓮如上人 500 回遠忌を記念して編まれた論集。教学上の問題にとどまらず、各地域とのつながり、伝記、民俗からみた蓮如上人、更には真宗寺院建築の特色や上人の作庭など、幅広いテーマを扱う。

龍谷大学本願寺史料研究所で千葉先生の学恩を受けた人々による、真宗史研究での史料・寺院・信仰などの課題にとりくんだ13篇。【執筆】千葉乗隆／藤井利章／岡本敏行／高橋事久／藤原正己／日野照正／木村壽／直林不退／朝枝善照／濱岡伸也／知名定寛／左右田昌幸／高島幸次／北野裕子

浄土教における念仏の問題とこれからの信仰について考察。【内容】浄土教的正覚の一視点／浄土教を貫く「一元相即の念」論考／浄土教の展開する個の輝きと調和／浄土教「いのち」観の顕示するもの／浄土教法悦の一考察／法蔵菩薩誓願の一考察／浄土教における善の課題 ほか

法然伝研究の第一人者が描く「絵伝に読む法然像」——国宝『法然上人行状絵図』（知恩院蔵）から、その生涯のトピックスとなる事項を選び、読み下しに現代語訳と解説を付し、あわせて他本とも比較（口絵カラー4頁・挿図45点）。【内容】法然絵伝の系譜／法然の生涯／法然をめぐる人びと

仏・菩薩が衆生を救うためにこの世に現れた仮の姿について明かす。【目次】第1部「天神」 日本国の災害と道真の霊／第2部「空也」 六波羅蜜寺の信仰と空也／第3部「法然」 浄土宗の布教と法然
2006 / 四六判 / 312頁

学・行・信の課題に応じて研鑽を積まれた著者老年の業績。

【内容】第1篇 仏教思想研究
第2篇 如来蔵思想と浄土教研究
第3篇 浄土教思想研究
第4篇 導空二祖の浄土教研究 【2刷】

日本仏教を基盤に日本浄土教の祖師や、浄土宗の開祖法然の浄土教義、さらに門弟の證空や行観を中心に西山教義をまとめる。「旧仏教・新仏教」「正統仏教・異端仏教」といった対立構造ではなく、浄土教義を軸に日本文化を継承創造する仏道として、日本仏教の姿を構成する試み。

近世社会において、浄土宗寺院はどのような変化をとげたのか。日本各地の民間寺院に伝わる開創・宗祖伝承や地名、史料等の考察を通じて、浄土宗教義の変容や民俗信仰との関わり合いを明らかにし、歴史民俗と浄土教学史という双方の立場から、浄土宗寺院における近世化の実態に迫る。

京都白川の浄土宗大本山、金戒光明寺は多くの文化財を所蔵しており、その公刊がかねてより望まれていた。法然上人八百大遠忌にあたり、仏像・仏画・仏典・絵画・古文書など貴重な寺宝をオールカラーで掲載。仏教美術・仏教史・美術史他に寄与する一書である。

西山国師が善導大師の『観経疏』を講述した際、門弟、観鏡證入筆録の『他筆抄』といわれる文献の影印研究。時宗総本山遊行寺に蔵される現存最古写本を底本に、天文5年（1536）の書写奥書をもつ大谷大学図書館所蔵本を対校本とする。
2011・2014 / B5判 / 総450頁

中井真孝校注

新訂 法然上人絵伝

2012 / A 5判 / 486頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1654-3

今井雅晴先生古稀記念論文集編集委員会編

中世文化と浄土真宗

2012 / A 5判 / 654頁
本体13,000円 ISBN978-4-7842-1636-9

中井真孝著

法然上人絵伝の研究

2013 / A 5判 / 478頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1694-9

大桑 斉 著

近世の王権と仏教

2015 / A 5判 / 352頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1811-0

工藤美和子著

平安期の願文と仏教的世界観

佛教大学研究叢書 2

【オンデマンド版】

本体7,400円 ISBN978-4-7842-7014-9

法然上人の伝記中、最も浩瀚であり先行する諸伝を集成した『法然上人行状絵図』（浄土宗総本山知恩院蔵・国宝）の詞書を、著者の長年にわたる法然伝研究の成果をもとに、新たに校訂を施した本文と、簡潔な語注によって提供する平成版定本。法然上人の生涯を原文で味わえる一冊。

筑波大学名誉教授・今井雅晴先生の古稀を記念して、国内のみならず海外にもおよぶ幅広い層の研究者が、親鸞と浄土真宗史研究の進展を期した最新研究28本を寄せた大冊。

【内容】中世文化の中の浄土真宗／法然から親鸞へ／親鸞の思想／親鸞とその家族／親鸞とその門弟／浄土真宗の展開

著者のライフワークである法然上人絵伝の研究を集成した学界待望の論文集。知恩院本『法然上人行状絵図』の成立、絵伝諸本の個別研究を始め、専修念仏に先立つ百万遍念仏の歴史的展開を考察した2論文、古代仏教に関する論考4編を含む計19編。法然上人伝記研究の基本文献として貴重な一冊。

近世は国家も社会も思想も、宗教世界を克服した世俗世界ではなく、幕藩体制そのものが神聖性を帯びていたことを明かす。救済信仰という様相をもつ真宗という存在に着目し、徳川幕府の成立から網吉期までを中心に、近世国家の宗教性を論証。さらに仏教的世界としての近世を論じた論考を収録。

願文自体が何を語ろうとしているのかを分析することで、天皇から中下級貴族・女性・僧侶にいたる人々の仏教理解や具体的信仰、所属する社会集団内部での各々構成員が果たした役割、具体的な宗教的実践のあり方を明かす。初版2008年。2016 / A 5判 / 368頁

法 華 宗

藤井學・波多野郁夫共編著

本能寺史料〔全5巻・別巻1〕

1992～2006 / A 5判 / 平均550頁
揃 本体110,000円

佐藤博信著

安房妙本寺日我一代記

2007・2009 / 四六判 / 212頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1373-3

畿内・東国末寺篇	本体17,000円
西国末寺篇	本体18,000円
本山篇上	本体18,000円
本山篇下	本体20,000円
古記録篇	本体22,000円
別巻 中世篇	本体15,000円

豊かな歴史と伝統、由緒を持つ千葉県安房郡の日蓮宗妙本寺は、所蔵史料が未公開なこともあって十分な歴史的検討がなされてこなかった。本書では、その安房妙本寺の歴代住職のなかで、戦国時代の日我（永正5年～天正14年）の一代記を古文書や記録などの諸史料を用いて年代記風に記述。 【2刷】

神 道

今谷 明 編

王 権 と 神 祇

1992 / A 5判 / 348頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1110-1

齋藤盛之著

一 宮 ノ オ ト

2003 / B5判 / 180頁
本体2,200円 ISBN4-7842-1138-1

山本信吉・東四柳史明編

社寺造営の政治史

神社史料研究会叢書Ⅱ

2000 / A 5判 / 312頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1051-2

藺田稔・福原敏男編

祭礼と芸能の文化史

神社史料研究会叢書Ⅲ

2003 / A 5判 / 300頁
本体6,500円 ISBN4-7842-1159-4

棚町知彌・橋本政宣編

社家文事の地域史

神社史料研究会叢書Ⅳ

2005 / A 5判 / 376頁
本体7,500円 ISBN4-7842-1257-4

梶山林繼・宇野日出生編

神社継承の制度史

神社史料研究会叢書Ⅴ

2009 / A 5判 / 348頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1418-1

大山喬平監修／
 石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編

上賀茂のもり・やしろ・まつり

2006 / A 5判 / 412頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1300-7

ジョン・グリーン編

変容する聖地 伊勢

2016 / A 5判 / 320頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1836-3

王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。国際日本文化研究センターにおいて各分野の研究者によって行われた共同研究の成果。

一宮には日本人の思想の千年の軌跡が詰まっている——平安時代から中世にかけて行われた社格である一宮の称をもつ全国の神社は、その文化財もふくめさまざまな由緒を持っている。一宮をめぐるさまざまな考察と各一宮の特色や歴史を平易に明かす。

神社史料の有効活用・研究の深化普及を目的とする研究会の成果。社寺造営が持つ政治・経済的側面に焦点をあて、一級史料を駆使して、その歴史的意義と実態を明かす9篇。

【執筆者】山本信吉／梶山聡／木越祐馨／東四柳史明／横田光雄／松尾恒一／西岡和／中野光浩／橋本政宣

神社を祭場・舞台として繰り上げられる祭礼と芸能を特集した9篇。

【執筆者】松尾恒一／廣瀬千晃／梶田潔／森本ちづる／宮永一美／藺田稔／高橋寛司／軽部弦／浦井祥子／福原敏男

諏訪・伊勢・北野各神社の社家における和歌・連歌等の文化活動に焦点をあて、その歴史的意義と実態をさぐる10篇。

【執筆者】井上敏幸／神作研一／川平敏文／吉良史明／加藤弓枝／棚町知彌／菊地明範／橋本政宣／入口敦志

古代より近代にいたるまで神社が継承されてきた諸問題について、主に制度史としての視点での論文9篇を収録。

【執筆者】山本信吉／西中道／嵯峨井建／宮永一美／千枝大志／宇野日出生／鈴木瑞磨／梶山林繼／福原敏男／橋本政宣

平安京遷都以降、皇城鎮護の神として厚い崇敬を受けてきた上賀茂神社。平成九年より行われた新発見の文書を含む約一万四千点の古文書調査を通してみえてきた神社の姿を、調査に携わった著名な研究者が紹介したのべ29回にわたる歴史文化講座を活字化。上賀茂神社の歴史を理解する上で画期的な啓蒙書。

古代から近代・現代までの伊勢神宮の時代的な変容をテーマとした、国内外の一線の研究者による共同論集。今日の伊勢神宮は、悠久の古代から変わることなく受け継がれてきた聖域というイメージで語られるが、本書では、伊勢神宮が歴史の変転のなかで経てきた変化の重要性を考える。

仏教考古学

五島正風訳

造像量度経〔全2冊〕

1977 / B 5判 / 総222頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0114-9

本書は、清朝乾隆年間にチベット語から工布査布が漢訳した伝説造像量度経に関する一連の經典を、昭和8年に和訳して書かれたものの影印本であり、古代から近世までの仏像の形式発展の歴史を考える上で重要な参考資料である。

石田茂作著作集

仏教考古学論攷〔全6巻〕

1977～1978 / A 5判 / 平均350頁
揃 本体23,000円 品切の第4巻除く

正倉院御物の調査、朝鮮扶余軍守里廃寺の発掘、法隆寺若草伽藍の発掘をはじめ数多い諸寺の永年にわたる現地調査を土台に、今日の仏教考古学の体系を樹立した石田博士の半世紀以上にわたる学問上の足跡を一堂に収める。

宗教一般・その他

釘宮武雄著

行道佛教学

1979 / 菊判 / 416頁
本体5,500円 ISBN4-7842-0116-5

教理の立場からではなく、専ら「行道」の立場に立って全仏教を見直し、説教者の側からでなく求道者の側に立って仏教を論じた。仏教諸宗の基盤にある「教相判釈」を手がかりに、あらゆる仏教の本質が、この自分自身を見つめる「実践的真理性」とも呼んでいる行道にあることを明かす。

近松洋男編訳

キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究

1990 / A 5判 / 614頁
本体17,000円 ISBN4-7842-0614-0

1592年、セミナリオ教師が和訳、文語体のローマ字で刊行し、キリスト教布教に大きな役割を果たした『ヒイデスの導師』。本書は、その原典フライ・ルイス・デ・グラナダ著『ヒイデスの導師大綱』から直接現代語訳し、詳細な註を付した。キリシタン版に本書が加わり、国語学的にも貴重。

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

仏教東漸

祇園精舎から飛鳥まで
1991 / B 5判 / 264頁
本体5,400円 ISBN4-7842-0699-X

350周年を迎えた龍谷大学によるシンポジウムの成果。口絵24頁（カラー26点・モノクロ5点）、写真集（モノクロ35頁）収録図版200点。【執筆】陳舜臣／井ノ口泰淳／網干善教／施萍婷／美友邦／西川杏太郎／藤枝晃／森安孝夫／山田明爾／上野アキ／藤枝晃

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

人間・科学・宗教

1991 / A 5判 / 456頁
本体4,000円 ISBN4-7842-0678-7

350周年を迎えた龍谷大学によるシンポジウムの成果。従来の人文・社会・自然の諸科学を総合する人間科学の立場から「科学と宗教」の関係を問い直す。

古田紹欽著

仏教の日本的土着

1993 / 四六判 / 322頁
本体2,913円 ISBN4-7842-0791-0

わが国にはさまざまな仏教の教義や思想が伝えられたが、それらは、その時々政治・経済、世俗的倫理観、教団間勢力拡大競争などといった“現実”の中で、極めて日本的な独自の仏教思想を形づくっていった。禅文化の研究で著名な著者が、禅宗のみにとどまらぬ仏教思想土着の諸側面を考察。

古賀英彦著

大乘起信論

2003 / 四六判 / 290頁
本体3,400円 ISBN4-7842-1130-6

理論と実戦の両面から大乘仏教の中心思想を明らかにした、大乘仏教の概説書である『大乘起信論』を中国語学研究の第一人者が訓註。

本井康博著

近代新潟におけるプロテスタント

2006 / B 5判 / 540頁
本体3,000円 ISBN4-7842-1320-1

本井康博著

アメリカン・ボード200年

同志社と越後における伝道と教育活動

2010 / B 5判 / 676頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1543-0

武田佐知子編

太子信仰と天神信仰

信仰と表現の位相

2010 / A 5判 / 354頁
本体6,500円 ISBN978-4-7842-1473-0

大取一馬責任編集

とくしぶんこぼん

禿氏文庫本

龍谷大学善本叢書 29

本体14,000円 ISBN978-4-7842-1539-3

第20回国際仏教文化学会議実行委員会編

生命論と霊性文化

仏教への問い

佛教大学国際学術研究叢書 1

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1449-5

第21回国際仏教文化学会議実行委員会編

仏教と平和

佛教大学国際学術研究叢書 2

2011 / A 5判 / 242頁
本体1,500円 ISBN978-4-7842-1599-7

第22回国際仏教文化学会議実行委員会編

仏教と癒しの文化

佛教大学国際学術研究叢書 4

2013 / A 5判 / 190頁
本体1,900円 ISBN978-4-7842-1706-9

第23回国際仏教文化学会議実行委員会編

仏教と社会

佛教大学国際学術研究叢書 5

2015 / A 5判 / 194頁
本体1,900円 ISBN978-4-7842-1820-2

高木慶子著

たかき せん え もん

高木仙右衛門に関する研究

「覚書」の分析を中心として

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1684-0

日本キリスト教団新潟教会創立 120 年記念として上梓された初めての本格的な新潟教会通史。【目次】バーム・バンド新潟教会の母体／アメリカン・ボードの新潟進出／組合教会による新潟伝道／県内伝道と新潟教会／20 世紀初頭の組合教会伝道／第 11 代牧師・長田時行／戦中・戦後の新潟教会

アメリカ最古のプロテスタント外国伝導組織、アメリカン・ボードについて、京都と北越を対象とし、その活動を検証する。

【目次】日本ミッション／北日本ミッション／資料紹介（ミッション年次報告）／その他

時代、階層を越えて崇敬を得てきた、聖徳太子・天神信仰の多角的な比較研究。美術史、文学史、宗教史、芸能史などの第一線の研究者による 13 篇。【執筆著】武田佐知子／鶴崎裕雄／高島幸次／濱岡伸也／下鶴隆／松本真輔／伊藤純／榊原小葉子／稲城正己／脇田晴子／松浦清／鈴木幸人／竹居明男

龍谷大学大宮図書館所管の「禿氏文庫」の内容は梵文經典、中国・日本の仏書、真宗史・仏教美術の典籍等にわたる。龍谷大学仏教文化研究所のもと、仏教・真宗・国史・国文の 4 班での調査結果を影印として一冊にまとめる。

2010 / A 5判 / 674頁

2007 年佛教大学での「第 20 回国際仏教文化学会議」の基調講演および研究発表を修正・加筆し、研究成果として刊行。

【執筆著】池見澄隆／島蘭進／梁銀容／金洛必／斎藤英喜／李聖田／藤堂俊英

2009 / A 5判 / 208頁

2009 年、韓国・圓光大学での第 21 回国際仏教文化学会議の基調講演ならびに研究発表を収録。仏教思想を基盤に、改めて「平和」という大きな課題に向き合った、韓国と日本の研究者による多面的な議論の成果。【執筆著】梁銀容／水谷幸正／康東均／原田敬一／金容煥／大谷栄一／韓乃彰

仏教的な観点から人間の心と癒しへの方法を考え、新たな方向性を示す論文集。

【内容】癒し文化のビジョン／仏教と癒しの文化／病める社会の診断とその治療／日本仏教に見る救済と癒し／懺悔修行を通じる現代人の仏教的治癒／鎮める学習への転換

仏教の社会共同体における役割などの問題について、韓国と日本の研究者が、多方面から議論した成果。【内容】中世通世者にみる自己と世間／現代社会における宗教の役割／日本における死者祭祀と仏教／持続可能な生態社会のための仏教者の生命清規／近世の大蔵経刊行と宗存／仏教と戦争

江戸時代末期～明治初期に起きたキリシタン弾圧事件「浦上四番崩れ」。中心人物である高木仙右衛門の「覚書」を分析、宗教学・歴史学の視点から、信教の自由獲得に果たした役割を論証。仙右衛門の曾孫による、キリスト教史研究。

2013 / A 5判 / 228頁

【2刷】

美術史

史論・史料

赤井達郎著 〈第34回毎日出版文化賞〉

京都の美術史

1989 / A 5判 / 400頁
本体3,800円 ISBN4-7842-0572-1

難波田 徹 著

中世考古美術と社会

思文閣史学叢書

1991 / A 5判 / 556頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0649-3

河北倫明美術時評集

〔全5巻〕

1992～1994 / A 5判 / 平均500頁
揃 本体35,400円

源豊宗著作集

日本美術史論究〔全7巻〕

1978～ / 菊判 / 平均500頁

ISBN4-7842

第1巻 序説
第2巻 総説・古代
第3巻 天平・貞観
第4巻 藤原・鎌倉

本体5,800円 -0234-X
本体9,000円 -0816-X
【品切】
【品切】

第5巻 室町時代
第6巻 桃山・元禄時代
第7巻 近世・近代・雑纂

【品切】
本体9,000円 -0615-9
【未刊】

源豊宗監修

京都画壇の一九世紀〔全5巻〕

1994～ / A 4判 / 各巻平均220頁
第1・3～5巻 【未刊】

第2巻 文化・文政期 佐々木丞平責任編集
本体24,272円 ISBN4-7842-0838-0

木村重信著作集〔全8巻〕

1999～2004 / A 5判 / 各巻平均500頁
揃 本体75,000円

ジャポニズム学会編

ジャポニズム入門

2000・2014 / A 5判 / 288頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1053-9

美術というジャンルは、その作品を生み出した時代を最も明瞭な形で物語る。古代から現代（昭和初年）までの京都の美術の歩みをたどる本書は、単なる『美術史』に留まらず、京都文化の地方への波及にも言及し、ユニークな視座から日本史を照射した好著である。

古絵図研究20年の著者が、元徳本祇園社絵図、社寺参詣曼陀羅図、関ヶ原合戦図、高山寺・善妙寺領勝示絵図などを題材に古絵図を論じ、鞍馬寺、花背別所、大道寺、北野天満宮などの経塚や大日寺、法金剛院、飯盛山などの瓦塚の研究から埋経を論じる。更に懸仏の検討を通して御正鉢論を展開する。

美術界の最前線を歩んできた美術評論家、河北倫明氏による戦後美術史の決定版。美術評論やエッセイなど、昭和22年から平成3年にかけて執筆されたものの集大成である。各分野ごとに分類、執筆年代順に配列されているため、大変意義深い戦後の美術年譜となっている。

日本美術史学の開拓者の重要な一人であるとともに、大正以来平成に至るまで半世紀以上にわたり活発な研究活動が続けた源豊宗博士の、50有余年の業績を集大成し、体系としての源美術史学の全貌を世に示そうとするものである。

〔編集委員〕飯沼二郎／橋本綾子／吉田友之／吉村元雄

本書は19世紀の京都画壇を中心に、その前後の日本画壇の動向を捉えようとするものである。

世界各地のフィールドワークにもとづく多彩な民族芸術論はもとより、現代美術論・現代文明論など主要な学術的成果をおさめた著者自選の論文集。適宜挿入図版を収め、各巻に索引と一線の研究者による解説を併載した。

ジャポニズムの全体像に迫ろうとした一書。ジャポニズム学会20周年記念出版。これまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニズムをも射程に入れる。

【7刷】

松村恵理著 〈第24回ジャポニズム学会賞〉

壁紙のジャポニズム

2002 / A 5判 / 240頁
本体3,200円 ISBN4-7842-1098-9

デザイン史フォーラム編

国際デザイン史

日本の意匠と東西交流

2001・2014 / A 5判 / 304頁
本体2,900円 ISBN4-7842-1079-2

田中日佐夫・田中修二共著

海を渡り世紀を超えた
竹内栖鳳とその弟子たち

本体3,048円 ISBN4-7842-1106-3

永井隆則著

モダン・アート論再考

制作の論理から

2004 / A 5判 / 288頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1188-8

クラウディア・デランク著／水藤龍彦・池田祐子訳

ドイツにおける〈日本＝像〉

ユーゲントシュティールからバウハウスまで

2004 / A 5判 / 312頁
本体3,800円 ISBN4-7842-1194-2

西横 偉 著

中国文人画家の近代

豊子愷の西洋美術受容と日本

2005 / A 5判 / 384頁
本体5,500円 ISBN4-7842-1230-2

徳川美術館編

尾 陽 [全9巻]

徳川美術館論集

2005～／B 5判／平均150頁
揃 本体27,000円

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

風俗絵画の文化学Ⅱ

虚実をうつす機知

2012 / A 5判 / 450頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1615-4

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

風俗絵画の文化学Ⅲ

瞬時をうつすフィロソフィー

2014 / A 5判 / 434頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1775-5

中川 馨 著

動物・植物写真と日本近代絵画

2012 / A 5判 / 256頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1598-0

序章：ジャポニズムとは／第1章：エルネスト・シェノーの提言／第2章：海外に渡った和紙と欧米人の和紙観／第3章：壁紙の歴史／第4章：壁紙におけるジャポニズム／終章：生き続けるジャポニズム／付録1：フィギエ「壁紙の歴史」／付録2：調査報告（欧米の美術館・図書館収蔵和紙リスト）

日欧デザイン史上における「影響関係」「交流」を国別にまとめ比較通覧した国際交流史としてのデザイン史。各国の年表と概説的解説、生没年・原綴を付した人名索引、挿図約180点を収録。大阪大学大学院文学研究科美学研究室主催フォーラムの成果。 【5刷】

栖鳳の滞欧期の“西欧文化体験”を扱い、その後の作品との関連にもふれ、第2章では“栖鳳山脈”の作家たちの画業をとりあげる。第5回国内勲業博覧会（1903年）出品作で100年ぶりに発見された屏風「羅馬之図」をカラーで誌上初公開。
2002 / A 5判 / 220頁

作家の〈制作の論理〉への関心から〈芸術性〉を探ろうとしてきた著者の論考をまとめる。第Ⅰ章は総論、理論的考察を収め、第Ⅱ章ではその各論としてジェリコー、モロー、ゴッホ、マティス、セザンヌなどを取りあげる。第Ⅲ章には日本における受容論を、第Ⅳ章では美術館論を収めた。

〈第26回ジャポニズム学会賞〉

ドイツの美術・デザイン・建築における日本美術ひいては横断的な日本＝像の変遷をたどる。裾野の広い日本＝像の提示を可能にした彩色写真に関する考察、ヨハネス・イッテンにおける「山水画」「南画」の影響についての考察などは特筆。

中国近代を代表する文人・芸術家、豊子愷（1898～1975）は、抒情漫画や身辺雑事・文学・美術・音楽などを題材に軽妙洒脱な散文を遺した。「中国」「日本」「西洋」という三つの視点を設け、「文化の越境者」豊子愷が日本を通して西洋美術を受容したことの意義を問う。

従来『金鯢叢書』（11頁参照）に収録されていた美術関係の部分に新収蔵品紹介や修理報告などを収め、別本としたシリーズ。第9号で終刊。

風俗絵画とは虚実をうつす機知の媒体である。美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究15篇。

「風俗絵画研究会」の文化学的探求の研究成果をまとめたシリーズ第3弾。哲学的思考（フィロソフィー）へと解釈を広げた13篇。【執筆著】出光佐千子／宮下規久朗／呉孟晋／中野慎之／倉橋正恵／中野志保／宮崎もも／館野まりみ／松本郁代／吉住恭子／松本直子／森道彦／米倉迪夫／下坂守

明治後期から太平洋戦争以前の日本における動物・植物写真を考察範囲とし、それらの写真集の歴史にもスポットをあてて概説。特に京都出身の岡本東洋（1891～1969）撮影の写真・写真集群や資料から、多彩な近代美術家たちと写真家との交流を浮き彫りにし、その関連性を鮮やかに導き出す。

城市真理子著

室町水墨画と五山文学

2012 / A 5判 / 336頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1607-9

木村重信著

世界を巡る美術探検

2012 / A 5判 / 308頁
本体2,400円 ISBN978-4-7842-1638-3

古画備考研究会編

原本『古画備考』のネットワーク

2013 / A 5判 / 498頁
本体9,200円 ISBN978-4-7842-1674-1

島尾新・彬子女王・亀田和子編

写しの力

創造と継承のマトリクス

2014 / A 5判 / 278頁
本体4,000円 ISBN978-4-7842-1711-3

富坂賢・柏木智雄・岡塚章子編

通天楼日記

横山松三郎と明治初期の写真・洋画・印刷

2014 / A 5判 / 602頁
本体16,400円 ISBN978-4-7842-1729-8

河野元昭著

琳派 響きあう美

2015 / A 5判 / 880頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1785-4

上野学園大学 日本音楽史研究所編

陽明文庫 舞絵〔舞楽散楽図〕・

日本音楽史料叢刊 1 法隆寺旧蔵 かいこ 指鼓

本体2,700円 ISBN978-4-7842-1804-2

ながらく伝歴不明の画師であった室町時代中期の画僧、岳翁の作品を手がかりに、室町時代の詩画軸における詩と絵画の関係、禅林での詩画軸の制作行程、禅僧の文人意識の絵画への反映を論じ、詩文僧による〈詩画軸制作システム〉を解明していく。

世界のほぼ全域で行ったフィールドワークのルポルタージュ。ヨーロッパ・アジア・アフリカ・オセアニア・アメリカの5つに分けて、先史時代から現代まで時代順に構成。現地調査した著者の観察を中心に、歴史という時間的縦軸と、地域という空間的横軸とを交差させて叙述。世界美術への招待。

『古画備考』とは江戸末期までの日本の絵画に関する情報をまとめた大部な書物。本書は活字本の蔭に隠れ今まで知られなかった原本を徹底的に解剖することにより、江戸時代後期に『古画備考』を〈書画情報〉総合集積の場として、大規模に繰り広げられていた古画研究ネットワークの実態を探る。

二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統を様々な角度から再検討する試み。

【内容】中国への憧れを写す／図像の伝承としての「写し」／「写し」の意味と役割

横山松三郎（1838～84）が上野池之端に開業した写真館兼私塾・通天楼での出来事を記した日記「通天楼日記」の翻刻と影印、ならびに自身の履歴書「横山松三郎自筆手記」、門人作成の「横山先生履歴草稿」の翻刻を収載。史料が限られた日本写真史・洋画史・印刷史の実態を明かす一級史料群である。

著者の日本近世絵画史全体にわたる業績の中から、その中核をなす琳派研究を集大成。光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一など、琳派と呼ばれる芸術家たちが互いにどう影響しあい、独自の美を生み出してきたのか。今なお人びとを魅了する才能あふれるクリエイターたちの実像に迫る27篇。【2刷】

『舞楽散楽図』は、陽明文庫収蔵の紙本墨書、白描図巻一巻であり、中国8世紀宮廷の燕饗楽・舞楽および散楽百戯を描いた白描図巻と推定される。解説を付し、影印で刊行。合わせて世界唯一の伝存楽器「指鼓」に関する論考を収録。
2016 / A 4判横綴 / 256頁

仏教美術

仏教芸術学会編

佛教藝術〔全22冊〕

創刊～80号

1978～79 / B5判 / 平均450頁
②～④揃 本体144,900円 ①【品切】

宇野茂樹著

仏教東漸の旅

はるかなるブッダの道

1999 / 四六判 / 296頁
本体2,500円 ISBN4-7842-0991-3

昭和23年毎日新聞社により刊行が開始されたもので、入手困難な創刊号から80号までを再刊。日本・中国・インドを対象とした仏教芸術の総合的研究をめざし、その世界性と実証性を尊重した編集方針に貫かれた諸論稿は、仏教美術研究・東洋美術研究の展開のあとをふり返る貴重な資料である。

はるかなる信仰の足跡をたどる旅の記録。

【内容】釈迦の遺跡を訪ねて／インド寺院と石窟寺院／パキスタンの仏教美術／新疆ウイグルの遺跡のかずかず／河西回廊の仏教遺跡／中国中原の石窟／河北・山西・山東省の石窟／韓国の石仏／追録（インドの早期石窟）写真多数掲載。

奈良国立博物館編

正倉院宝物に学ぶ

2008 / 四六判 / 438頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1439-6

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ・東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院研究の現在、八世紀の東アジア文化、宝物の保存・伝承の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。

奈良国立博物館編

正倉院宝物に学ぶ2

2012 / 四六判 / 348頁
本体2,500円 ISBN978-4-7842-1658-1

宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、正倉院宝物の様々な面を報告・討論する第2弾。今回は2008～2010年の正倉院学術シンポジウム「正倉院研究の現在」「皇室と正倉院宝物」「正倉院宝物はどこで作られたか」の3テーマを収録。

奈良国立博物館編

正倉院展六十回のあゆみ

2008 / A4判 / 286頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1440-2

昭和21年に奈良帝室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、60回を数える正倉院展の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたどり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して巻末に付す。

中野玄三著

続日本仏教美術史研究

2006 / A5判 / 540頁
本体11,000円 ISBN4-7842-1269-8

前著から約20年。現役引退後も京都府下の8市町村史の編纂や奈良国立博物館の調査に携わり、美術作品の調査研究を続ける中から生まれた知恩寺本十体阿彌陀像、東寺本仁王經五方諸尊像、西大寺本馬頭観音像、神護寺薬師如来立像ほかについての研究成果15篇を収録。

中野玄三著

続々日本仏教美術史研究

2008 / A5判 / 820頁
本体17,000円 ISBN978-4-7842-1415-0

中野美術史学の集大成。『八幡縁起』、宇良神社本『浦嶋明神縁起』、談山神社本『多武峯縁起』、北野天満宮本『聖廟縁起』、平等寺本『因幡堂縁起』、観智院本『九曜秘歴』、真福寺本『覚禪鈔』、密教図像と鳥獸戯画、南山城真輪院本『両界曼荼羅』、南山城村真輪院本『星曼荼羅』などの研究成果15篇。

中野玄三・加須屋誠著

仏教美術を学ぶ

2014 / A5判 / 348頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1720-5

中野美術史学の軌跡を、加須屋誠との対談をととして振り返り、仏教美術を学ぶことの課題・方法・魅力を余すところなく収録。【内容】神護寺薬師如来立像をめぐる／六道絵と来迎図／密教の絵画と図像／社寺縁起絵の世界／東アジアの動物表現／中野玄三論

奈良国立博物館・東京文化財研究所

大徳寺伝来五百羅漢図

2014 / B4判 / 312頁
本体50,000円 ISBN978-4-7842-1743-4

両機関の共同調査報告書を大幅に増補改訂。論文・参考資料を追加・加筆のうえ、図版をより大きくし、高精細カラー印刷にて公刊。卓抜した画技と豊かな彩色を誇る南宋時代の仏教絵画を代表する名品。また画中の銘文により、制作背景・当時の社会状況が判明する点でも極めて貴重な資料。

高梨純次著

近江の古像

2014 / A5判 / 420頁
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1761-8

近江の地は、仏教美術の宝庫であり、特に仏像は質・量ともに全国有数のレベルを誇る。滋賀県立琵琶湖文化館・県立近代美術館で、近江の仏像に関する展覧会の企画や調査・研究に30年以上にわたって携わってきた第一人者が、主に8世紀から11世紀の近江の古仏について、研究成果を集大成する。

園城寺監修／園城寺の仏像編集委員会編

園城寺の仏像 第1巻 智証大師篇

天台寺門宗教文化資料集成 仏教美術・文化財編
2016 / A4判 / 170頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1765-6

秘仏「御骨大師」「中尊大師」をはじめとする園城寺の智証大師像4軀と、京都・香川4寺に蔵する大師像について、全身正面・左右側面・背面、頭部の四周等多数のカットをオールカラーで掲載。調書解説・論考も付し、美術・彫刻史のみならず、寺門教学を研究する上でも欠かせない資料。

宇野日出生編／京都府京都文化博物館・京都市歴史資料館企画

京都 実相院門跡

2016 / B5判 / 144頁
本体2,000円 ISBN978-4-7842-1835-6

春の桜爛漫、新緑の「床みどり」、秋の「床もみじ」、冬の「雪化床」（ゆきげしょう）——四季の美しさで巷に知られた門跡寺院、実相院の内情についての探求を試みた初の研究書。豊富なカラー頁と建築・庭園・絵画・彫刻・文学・史料それぞれの専門研究者による最新の研究成果を収録。

小笹喜三編著／平春生補稿

平安短冊集影 人物志

1973／B 5判／430頁
本体10,000円 ISBN4-7842-0091-6

田山方南編／禅林墨蹟刊行会

禅林墨蹟拾遺

中国篇・日本篇・解説
1977／A 3判／和装帙入
本体300,000円 ISBN4-7842-0223-4

林雪光・鏡島元隆・加藤正俊編

近世禅林墨蹟〔全3巻〕

黄檗・曹洞編／臨濟編一・二
1974／A 3判／(各)図版150頁・解説50頁
揃 本体99,000円

中島皓象編著

書(三)一淳化閣帖からの展開一

1984／B 5判／104頁
本体2,000円 ISBN4-7842-0243-9

三浦康廣編著

慈雲尊者墨蹟集成

〔図版篇2冊・解説篇1冊〕
1989／B 4判／図版篇総500頁・解説篇230頁
本体78,000円 ISBN4-7842-0563-2

中島皓象著

書道史より見る禅林の墨蹟

1990／A 5判／268頁
本体2,900円 ISBN4-7842-0627-2

宸翰英華別篇編修会編

宸翰英華 別篇 北朝

〔図版篇1冊・解説篇1冊〕
1992／図版篇B 4判・240頁 解説篇A5判・380頁
本体48,000円 ISBN4-7842-0728-7

春名好重著

平安時代書道史

1993／A 5判／300頁
本体3,689円 ISBN4-7842-0759-7

鴻池楽斎・稲垣恒夫編

精選山頭火遺墨集

1993／A 4判／図版篇143頁 解説篇88頁
本体9,515円 ISBN4-7842-0799-6

江戸時代後期、明和5年弄翰子により刊行され、9改板を重ねて広く普及した「平安人物志」。そこに収録される708名を選び、第1部にその短冊影譜910枚を取め、第2部にその釈文と筆者の略伝を記したもの、収載人物は医者・書家・画家・篆刻者・僧・儒者・歌人など近世京都文化の担い手。

『禅林墨蹟』に収録されなかった墨蹟、その後発見された墨蹟419点を収録。その中には浙翁如琰、少林妙嵩、無門慧開、断橋妙倫など著名でありながらかつて確たる墨蹟の見出せなかったものや、方庵智哲、唯堂守一、以中智及、行己知など新発見のものなどを含み、量・質ともに重要な一書。

日本の禅宗七百年の歴史の中でも、本来の意味で日本文化として栄えたのは近世である。本集では、原則として未発表の作品を中心に、近世および近代初頭の黄檗80・曹洞86・臨済292の計458人の禅僧の墨蹟を収録、釈文と禅僧の略伝を付した。墨蹟を通じ、各禅宗の宗風・歴史を知り得る好書。

淳化閣帖は、宋の太宗が翰林侍書王著に命じて淳化3年に完成させた全10巻からなる名蹟集である。本書は、この淳化閣帖を対象に、原本を根底におきつつ、主観的・客観的・発展的臨書法を展開する。

幕藩体制下の仏教界にあきたらず、梵語原典研究に邁進し、釈迦の教義の根源に迫った、江戸後期真言宗の高僧、求道と学識の人、慈雲欽光。その遺墨は護法の人によって貫かれ、名利とは無縁の高い理想を掲げて精進した姿を偲ぼせる。墨蹟609点を精選し、慈雲研究第一人者による解説を付す。

墨蹟の中にこそ「書の芸術性」を発見し、自らも墨蹟作家と自負する著者が、「墨蹟の見なおし」「墨蹟の新発見」に資すべく墨蹟僧ごとにその書風の源流を探り、その歴遊・歴参・参問・嗣席等を明らかにする。

昭和19年刊の帝国学院編『宸翰英華』には収録されなかった、光厳天皇および光明・崇光・後光厳・後円融の北朝5代の天皇の主要な宸翰原本101点を収録。解説篇には、13名の研究者になる詳細な釈文・解説に、系図、年譜、自署・花押一覧を付す。

飛鳥時代、律令政治を背景に隆盛したわが国の書は、平安時代に入るとますます盛んになり、文化の発達とともに発展を遂げ、頂点に達した。本書は、わが国の書の歴史の上で最も重要な平安時代の書の推移と特色を明らかにするものである。カラー図版4点、モノクロ挿入図版29点を収載。

山頭火の人と境涯を物語る、掛幅・短冊・色紙などの遺墨252点を年代順に収録。【内容】刊行に寄せて(水上勉)図版篇(252点)解説篇作品解説(鴻池楽斎・稲垣恒夫)山頭火の行乞と俳句(村上護)山頭火遺墨探訪(鴻池楽斎)山頭火略年譜(村上護)付篇山頭火をめぐる人々(伊藤完吾)

波多野幸彦著

書の文化史

書状にみる人と書

1997・1998 / A 5判 / 380頁

本体3,800円 ISBN4-7842-0948-4

村上翠亭・高城竹苞共著

近衛家熙写手鑑の研究

仮名古筆篇

1998 / A 4判 / 280頁

本体12,000円 ISBN4-7842-0968-9

片桐洋一解説

橘為仲朝臣集

2003 / 和装桐箱入 / 釈文・解題98頁

本体55,000円 ISBN4-7842-1160-8

前田多美子著

三藐院 近衛信尹 (さんみゃくいんこのえのぶただ)

残された手紙から

2006 / A 5判 / 270頁

本体2,300円 ISBN4-7842-1299-X

島田三光著

かわ ひし へき ご とう

革新の書人 河東碧梧桐

2009 / A 4判 / 210頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1488-4

高橋利郎著

近代日本における書への眼差し

日本書道史形成の軌跡

2012 / A 5判 / 304頁

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1595-9

島谷弘幸編

料紙と書

東アジア書道史の世界

2014 / A 5判 / 354頁

本体5,800円 ISBN978-4-7842-1748-9

小原智司著

三河 風外本高墨蹟集

虚心坦懐

2014 / A 4判 / 160頁

本体3,000円 ISBN978-4-7842-1763-2

鎌倉時代の慈明・藤原定家、安土桃山時代の織田信長・古田織部・近衛信尹・伊達政宗、江戸時代初期の後陽成天皇・沢庵宗彭・千宗旦・松花堂昭乗・金森宗和などの手紙を中心に140点余を図版掲載し、人と書の表現を考える。

【内容】筆跡の研究と手紙／人と書の変遷／人と書 【2刷】

陽明文庫蔵・近衛家熙写手鑑（予楽院臨書手鑑・重美）所収の仮名古筆（臨摸断簡）100点を取りあげ、全図を原寸大（一部縮小）で収録し、筆者名・古筆名・書誌事項・釈文など各一点ずつについて詳細な考証を加え、原本などの参考図版85点も併載。

藤原定家手沢の伝西行筆歌集の完全複製——橘為仲（?～1085）は、藤原経衡・僧能因・素意・出羽弁・周防内侍などの歌人と交友があり、和歌六人党の一人とされた人物。勅撰集に合計九首収められている。本書は二本ある家集のうちの一本。西行の筆蹟として尊重されてきた雄品である。

本阿弥光悦・松花堂昭乗とともに「寛永の三筆」として日本書道史上にその名を謳われてきた三藐院近衛信尹（のぶただ）。本書ではその生涯を彼の残した手紙から読み解き、隠れた素顔を明らかにし、さらに能書としていかに遇されてきたのかを改めて考えなおす。

河東碧梧桐に関するコレクションでは第一人者であり、書家としても活躍中である著者。その所蔵する豊富な作品群を通して碧梧桐の書の世界を紹介。正岡子規の高弟であり虚子と並んで双璧と謳われる碧梧桐の書を見直すとともにその業績を後世に伝える一書。

毛筆で書かれた文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版をはじめ、宝物調査や展覧会の列品などから探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。また、近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場について考察。その書跡へのまなざしの影響の大きさを論じる。

日本の書においては古筆や写経を中心に、中国・韓国の書においては装飾料紙を用いたものを中心とし、各国における書の時代変遷とともに中国や韓国からの影響といった点もふまえた書風の分析を行う。図版篇では貴重な装飾料紙の文様を豊富な写真図版で紹介。東アジア書道史の総合的研究。

江戸後期の曹洞僧・風外本高。その画禅一如、書禅一如の境涯に傾倒し作品を蒐集、歴住地を訪れ研究した著者が、自らのコレクションを中心に新発見を含む風外作品約百点をカラー図版で紹介。寺院や公共機関等、現在作品が数多く集まる「三河の風外」を顕彰し、虚心坦懐の生涯を現代人に問う。

絵画

田中大穂著

新訳 伊勢物語 [全2冊]
絵本

1977 / A 4判 / 総650頁 / 和装帙入

本体25,000円 ISBN4-7842-0173-4

故棟方志功をして「独創性では日本一」といわしめた著者が本業のかたわら、日本の古典『伊勢物語』のこころを全章段にわたって彫心鏤骨の版画にした労作であり、『伊勢物語』の研究史上前人未踏の画期的な著作である。本書の現代語訳は著者が苦心の意識を添えたものである。

案・金沢大士／絵・山本六郎

石道寺譚絵

1978／A 3判変型

本体15,000円 ISBN4-7842-0229-3

日本肖像画図録

京都大学文学部博物館図録第3輯

1991／B 5判／140頁

本体1,117円 ISBN4-7842-0645-0

鴻池楽斎編

画集 下村為山

1994／B 4判変型／102頁

本体18,000円 ISBN4-7842-0837-2

塚本 樹 著

名画はあなたが決める

1995／四六判／250頁

本体2,000円 ISBN4-7842-0849-6

広田肇一編集

大分県 の 美術

1994／B 4判変型／240頁

本体19,417円 ISBN4-7842-0815-1

熊本県立美術館編

熊本県 の 美術

1995／B 4判変型／240頁

本体19,417円 ISBN4-7842-0872-0

河野良輔監修／榎本 徹 編集

山口県 の 美術

1995／B 4判変型／290頁

本体19,417円 ISBN4-7842-0886-0

広田肇一責任編集

高山辰雄の世界 素描と本画

2000／B 5判／148頁

本体2,800円 ISBN4-7842-1039-3

京都国立博物館編

黄金のとき 桃山絵画

2000／B 4判／400頁

本体40,000円 ISBN4-7842-1044-X

逸翁美術館・柿衛文庫編

没後220年 蕪村

2003／A 4判／210頁

本体2,200円 ISBN4-7842-1162-4

石道寺にとり残された十一面観音にまつわる尊く妖艶な物語を、日本画の伝統、大和絵の手法を以て異才山本六郎が描きだす静嘉な絵巻の世界。仏文訳付、画18葉。

1910年代後半から20年代末にかけての三浦周行教授による古文書蒐集の時期のものを中心に、京都大学文学部国史研究室には多くの人物肖像画が所蔵されている。南北朝時代から幕末までの制作になる天皇・公卿・武士・女性・画家・文人・学者・宗教家・僧侶の肖像画149点を収め、解説を付した。

松山に生まれ、洋画から出発し、正岡子規の俳趣味に洗練され、自得発明した俳画で名を成した下村為山。本書は洋画・俳画（スケッチ・軸・画帖）・書の名品の数々を大型図版で紹介し、総説・解説、落款、印譜・年譜を付す。

三十余年美術ジャーナリズムに携わってきた著者が語る、美術と楽しく付き合う鑑賞法とは？

美術との付き合い／美術と付き合う心がけ／美術作品は読むものだ／個々の作品と向き合って／美術との付き合いの実／コミュニケーションの核に／もう少しお付き合いを（全23篇）

近世・近代2世紀にわたる美術作品（南画・日本画・洋画・彫刻・工芸）を集成。33作家103点をオールカラー・大型図版で紹介し、解説篇として各ジャンルごとの総説、各作家の解説と略年譜、各作品の解説（モノクロ図版を再録）と巻末には「大分県的美術略年表」「収録作品リスト」を付す。

熊本県ゆかりの日本画、洋画、版画、彫刻、工芸作家40名の作品99点をオール・カラーで紹介、総説・作家解説・作品解説・略年表を付す。

山口県ゆかりの日本画、洋画、彫刻、工芸、写真作家44名の作品109点をオール・カラーで紹介、総説・作家解説・作品解説・略年表を付す。

画業70年を本画およびその素描と版画でたどる。随所に画伯がつづる絵によせる想いを挿入。I部には日展出品作を中心とする代表作品とそのスケッチ・構想画・小下絵を、II部には多様な素材を描いた素描と版画を収録。

黄金のとき・ゆめの時代——狩野派の画師が活躍した桃山時代の代表的絵画100点を紙上展覧。

【内容】永徳の季節／神と歌—三十六歌仙／西洋との邂逅／英傑たちの乱舞／秀吉にみちびかれて／巨大さへの憧憬／城廓障壁画—名古屋城本丸御殿／浮世の愉楽

南画・俳諧、さらに俳画の大成者として足跡を残した与謝蕪村（1716－83）の没後220年を記念し、逸翁美術館と柿衛文庫が共同で編集。南画・俳画・嫁入手・扇面・草稿・短冊・俳書・書簡など、新出作品もふくめ全176点を解説を付してカラーで収録。書簡については巻末に翻刻・解説を併載。

柴辻政彦著

アートに学ぶ

作家たちがめぐる心の冒険

2006 / A 5判 / 238頁

本体2,400円 ISBN4-7842-1332-5

美術作家の独自技術に着目し特異性を浮き彫りにしていく評論集。

【掲載作家】伊東慶／遠藤秀平／郭徳俊／小嶋千鶴子／坂田甚内／松本ヒデオ／森正／吉田和央（図版：カラー 24点・モノクロ53点）

戸田勝久著

戸田勝久画集 空の調べ

1999 - 2008

2008 / B 4判変 / 96頁

本体3,800円 ISBN978-4-7842-1441-9

アクリル画の吟遊詩人ともいうべき幻想的な画風の戸田勝久が奏でる、懐かしい夢の世界。1999年から2008年までのアクリル画作品のなかから154点をカラーで掲載。

宗像健一編著

たのむらちくでん

田能村竹田基本画譜

2011 / B 4判変 / 総398頁

本体28,000円 ISBN978-4-7842-1566-9

図版篇には厳選された140点（カラー 95点・モノクロ45点）の作品を大型図版で収録。解説篇には総論と基本作品の詳細を極めた個別解説のほか、題詩・落款・印譜・年譜などを収録。美術史はもちろん、大分県・煎茶・漢詩・儒学・歴史など広範な研究に大いに益する、竹田研究の決定版。

森田りえ子著

森田りえ子作品集

1979 - 2011

2012 / A 4判変 / 356頁

本体24,000円 ISBN978-4-7842-1596-6

現代日本画壇で最も注目を集める作家の一人である画伯の初期作品から最新作までを集大成。30年間の画業のなかから本画500点・素描31点を、オールカラーの大型図版で掲載。「花」・「人」の2部にわけ、年代順で配列し、画伯自身の作品解説63点を付す。インタビュー・制作風景等収録のDVD付。

羽衣国際大学日本文化研究所 伊勢物語絵研究会編

宗達伊勢物語図色紙

2013 / B 4判変 / 220頁

本体19,000円 ISBN978-4-7842-1679-6

「宗達伊勢物語図色紙」59面の全てをカラー、原寸大で掲載。色紙に描かれた伊勢物語の世界の解釈、伊勢物語絵巻・絵本との比較対照、宗達における色紙の位置づけ、裏書の解説、色紙の特徴的な構図と技法、色紙成立の動機、色紙をめぐる人的ネットワークなどに関する新たな知見を収録。

逸翁美術館編

月を愛でる

うつろいと輝きの美

2014 / A 4判 / 112頁

本体1,000円 ISBN978-4-7842-1778-6

2014年10月から逸翁美術館で開催された、同名の展覧会図録。「詠う」「描く」「作る」「飾る」「奏でる」をテーマに、和歌・俳句や書画・絵巻、硯箱や櫛などの工芸品から楽器にいたるまで、それぞれの世界で表現された、「月」本来の持つ自然と調和する美しさを感じられる作品77点を紹介。

山岸恒雄著

セザンヌと鉄斎

同質の感動とその由縁

2015 / A 5判 / 358頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1796-0

フランスの画家ポール・セザンヌと富岡鉄斎。両者の絵の同質性については、以前より指摘があったが、その理由については、明かされていない。本書は、この同質性が何に由来するものなのか、また何を意味するものなのかを、両画家の生い立ちや教育、思想、哲学、人生観、芸術観等から明かす。

工芸史

韓国文化財管理局編

欽定西清硯譜〔全2巻〕

1974 / B 5判変型 / 総1900頁

本体35,000円 ISBN4-7842-0206-4

本書は乾隆時代に著わされた「欽定西清硯譜」の写本で、乾隆内府伝世の名品を収載、その素材を陶・石に分類、宮廷画家による精巧な写生図を掲載し、題識銘記等の解説を付した貴重な文献の影印本。

加藤唐九郎他編

陶器全集〔全4巻〕

1976 / 菊判 / 総2900頁

本体37,000円 ISBN4-7842-0207-2

本書は、昭和6年に陶器研究・鑑賞界で望み得る最高の執筆者をむかえ、はじめて陶磁の世界に近代研究の光をあてた不滅の名著である。再刊にあたっては、第一線で活躍中の研究者により一部改訂を加え、全巻に新たに索引を付した。

徳力彦之助著

金唐草史の研究

1979 / B 4判 / 200頁
本体35,000円 ISBN4-7842-0267-6

久米康生編著

京からかみ文様譜

1979 / A 3判 / 200頁
本体28,000円 ISBN4-7842-0266-8

大塚和義編

北太平洋の先住民交易と工芸

2002 / A 4判 / 150頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1087-3

デザイン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)

アーツ・アンド・クラフツと日本

2004・2015 / A 5判 / 304頁
本体2,900円 ISBN4-7842-1207-8

ダーティントン・ホール・トラスト&ピーター・コックス編
藤田治彦監訳

ダーティントン 国際工芸家会議報告書 陶芸と染織：1952年

2003 / A 5判 / 590頁
本体8,500円 ISBN4-7842-1141-1

高円宮妃久子編

根付 高円宮コレクションⅡ

2006 / 菊判 / 220頁
本体4,000円 ISBN4-7842-1273-6

扇子 忠 著

皇室の饗宴とボンボニエール

2005 / B 5判変型 / 244頁
本体2,300円 ISBN4-7842-1270-1

エドモンド・ドゥ・ヴァール著／
金子賢治・鈴木禎宏解説／北村仁美・外館和子訳
バーナード・リーチ再考
スタジオ・ボタリーと陶芸の現代
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1359-7

デザイン史フォーラム編(藤田治彦責任編集)

近代工芸運動とデザイン史

2008 / A 5判 / 336頁
本体2,900円 ISBN978-4-7842-1438-9

1470年頃、ルネサンスの最盛期にフィレンツェで生まれた金唐草。本書は金唐草の発祥以来の歴史、各国別の金唐草の特色、技法を網羅し、ルネサンス・ロココ・バロック期を中心とする豪華絢爛な貴重な図版を多数収録した豪華本である。皮草工芸家、染織工芸家座右の書。

「京からかみ」の伝統をただ一人守り継いだ唐紙師千田長次郎氏「唐長」のもつ約600点の板本の中から、260点を精選収録。解説では京からかみの歴史、源流・系譜、製法、文様の特徴、唐長の家系を述べる。

海峡をこえ島々をめぐり半島から大陸へ——北太平洋の諸地域をつなぐ先住民のさまざまな交易ルートの実態を明かし、あわせて彼らの文化遺産である伝統的な工芸芸術を紹介する大型ビジュアル本(カラー図版150点余を収録)。

19世紀後半から20世紀初頭にイギリスで繰り広げられたアーツ・アンド・クラフツ運動は、「生活」のための工芸運動であり、また社会改革をめざすデザイン運動でもあった。この運動と日本との関わりを多角的に論じ、デザイン・工芸・美術・社会・産業・環境・生活などの立体的な関係を考察。【2刷】

1952年ダーティントン・ホールにおいて、バーナード・リーチを中心に17か国122名の工芸家・批評家に参加した国際工芸家会議の報告書の翻訳。テーマは工業化社会における工芸家の役割、工芸と芸術との関わり、工芸教育、工芸批評の確立などで、日本からは柳宗悦と濱田庄司が参加し、その講演と輻輳成形の実演は欧米の参加者に深い印象を残した。本文篇で翻訳を、資料篇で原典および関連資料を掲載した。

根付とは煙草入れや印籠などの挾紐の先端につけて落ちないようにする留め具。本書では、コレクターとして知られた故高円宮殿下が蒐集された貴重な内外の作家によるコレクション——古根付・現代根付・印籠・緒締めなど——約330点をカラー図版で紹介。

明治維新以降、皇室の饗宴でご下賜されてきた記念の品、砂糖菓子を入れる銀の小箱・ボンボニエール。日本の金工芸の粋が凝縮された芸術品と歴史を紹介。明治維新後の皇室とその周辺、皇室の儀礼と儀式、皇室・宮家のご慶事一覧なども収録。巻頭カラー図版30頁、モノクロ図版183点。

リーチは日本で民芸運動に関わると同時に、欧米ではスタジオ・ボタリーの普及に大いなる影響を与えた。ロンドンで活躍する気鋭の陶芸家による批判的リーチ論を通じて、陶芸史におけるリーチの位置、現代陶芸の意味を探る。

2007 / A 5判 / 298頁

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。

【内容】第1部 ヨーロッパの近代工芸運動／第2部 欧米の近代工芸運動とアジア

広田肇一著

日名子実三（ひなごじつぞう）の世界

昭和初期彫刻の鬼才

2008 / B 5判 / 170頁

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1436-5

天貝義教著

応用美術思想導入の歴史

ウィーン博参同より意匠条例制定まで

2010 / A 5判 / 400頁

本体7,500円 ISBN978-4-7842-1505-8

小泉和子著

ふなだんす

船簞笥の研究

2011 / A 5判 / 410頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1503-4

岡佳子著

近世京焼の研究

2011 / A 5判 / 434頁

本体6,300円 ISBN978-4-7842-1558-4

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都 伝統工芸の近代

2012 / A 5判 / 300頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1641-3

大阪市立東洋陶磁美術館監修／三好和義撮影
ゆてきてんもくちゃん とびせいじはないけ

国宝油滴天目茶碗と国宝飛青磁花生 伝世の名品

本体1,905円 ISBN978-4-9905-6315-8

小林仁著

中国南北朝隋唐陶俑の研究

2015 / B 5判 / 438頁

本体13,000円 ISBN978-4-7842-1790-8

木村光光著

正倉院宝物と古代の技

2015 / A 5判 / 522頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1809-7

米田典典著

正倉院の香薬

材質調査から保存へ

2015 / A 5判 / 440頁

本体10,000円 ISBN978-4-7842-1821-9

鬼才と呼ぶにふさわしい鋭い才能で、日本近代彫刻史に確かなページを記した日名子実三の足跡を、残された作品と資料によって検証し、日名子芸術の全貌を紹介する。巻頭には大型カラー図版を配し、人体像を中心とした彫像のほか、各種のメダルや大型の記念碑など多岐にわたる活動を総覧。

応用美術とは、工芸美術・装飾美術・デザインを表す概念である。ウィーン万国博覧会への日本初参加から二度の内国勸業博覧会を経て、「デザインの法」である意匠条例が制定されるまで、その思想が明治期日本でいかに学習され、美術・工芸界において指導的役割を果たしたかを解明。

近世海運において船乗りが使っていた造形的にも特異なデザインを備えた金庫および衣裳櫃を船簞笥という。本書では、酒田湊・小湊・三国湊の主要産地の調査をもとにその成立から終焉までを海事史研究の視点も織り込んで歴史的に考察し、家具・道具史研究の歴史的研究の一事例を試みる。

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれたやきものの窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにする。名工たちの陶業を産業としてとらえ、技術の系譜や産業的な展開、受容層のあり方、流通・市場の動向などの視点から京焼陶工の実態や作風、あるいは京焼の通史を見直した一書。

京都における、他の地域とは異なる側面を有する「近代」にあって、美術・工芸がどのような変容をとげて現代にいたっているのか。「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ視覚的にわかりやすく解説。

大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の「唐物」の名品から7点を選び、写真家三好和義氏により、その魅力を詳細に細部に至るまでカラーの高精細大型図版で紹介。2012年秋に同美術館で行われた展覧会に際して製作された書籍。編集発行：大伸社
2012 / A 4判変 / 64頁

始皇帝の「兵馬俑」で知られる俑は、死者と共に埋葬される副葬明器で、中国の南北朝から隋唐時代は質量ともに一つの黄金期である。本書は、豊富な実物調査に基づいて、膨大な資料を造形的特質、様式の変遷、地域性等によって整理、多くの図版と共に美術史・陶磁史的視点から様々な論点を提示。

長年、正倉院事務所保存課に勤務し、正倉院宝物の調査・研究、保存・管理に携わってきた著者の研究成果。正倉院宝物はどのような材料で製作されているのか。奈良時代の匠が用いた技術が優れていた理由が何なのか。このような関心を元に発表してきた論文を一書にまとめ、研究の便に供する。

本書は、1994年から開始した第二次正倉院薬物調査に参加し、宝庫に伝存する香薬の材質調査の成果を中心に、長年考究してきた香薬についても加味して、著者により全編書き改めたもので、先駆的な研究成果の集大成である。理系・文系を問わず、有機物の「文化材」保存とは何かを問う。

上村六郎染色著作集〔全6巻〕

1979～81／A 5判／平均500頁
揃 本体38,500円

松浦俊海監修／野上俊子他編
壬生寺創建一千年記念

壬生狂言古衣裳

1992／A4判／300頁
本体58,000円 ISBN4-7842-0721-X

貫 秀高 著

日本近世染織業発達史の研究

1994／A 5判／780頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0852-6

京都国立博物館編
みやこ

花洛のモード きものの時代

2001／A 4判／550頁
本体25,000円 ISBN4-7842-1072-5

尾形充彦著

正倉院染織品の研究

2013／B 5判／416頁
本体20,000円 ISBN978-4-7842-1707-6

日本における染色学界の大先輩である著者の永年にわたる研究の集大成。科学という専門を基に、古い文献の渉猟、日本はもちろん中国・インド・中近東・ベルシャ・インドネシア等の広汎な研究は世界的にも評価されているものである。現代染織家にとって必須の書。

〈日本風俗史学会・野口信造賞〉

重要無形民俗文化財「壬生狂言」の衣裳は、死者の生前の衣裳を奉納したもので、奉納年や没年が墨書されている。染色資料にあつて、墨書年から制作年の下限を推定できる、きわめて貴重な存在。カラー図版114頁・モノクロ図版32頁。

近世において、大規模産業として成長し、文化・生活の向上に大きな役割を果たした染織業。本書はその発達の推移を、生糸の輸入状況や技術の発達などの関連において、詳しく分析した労作。

桃山から江戸時代の「きもの」に焦点をあて、小袖・打掛・胴服・羽織・具足下着・振袖・帷子などから簀・カンザシ・髪形、さらに肖像画・洛中洛外図・屏風などに描かれたモードもふくめて全225点を収録（オールカラー）。「今用御ひいなかた」（翻刻）と「御用雛形帳」の調査一覧表なども併載。

宮内庁正倉院事務所所で研究職技官として、染織品の整理・調査・研究に従事してきた著者による、35年にわたる研究成果。正倉院事務所所が行った第1次・第2次の古製調査や、国際古代染織学会の古代織物調査方法に影響を受け、身につけた調査研究方法により進めてきた正倉院染織品研究の集大成。

和 紙

柳瀬四郎調・木村考徳図

和 紙 文 庫

1969／A 5判／平均100頁／和装帙入
(各) 本体10,000円

関義城編

和漢紙文献類聚

古代・中世編

1976／B 5判／356頁
本体13,000円 ISBN4-7842-0265-X

久米康生編著

昭和民芸紙譜〔全5巻〕

1977／B 5判変型／(各)56頁／和装帙入
本体32,500円 ISBN4-7842-0248-X

和紙の変遷をえがく研究書。本文紙に和紙を用い、写真やサンプルを付した。大阪和紙クラブ刊行のもの。

第一号 越前和紙今昔絵図【品切】

第二号 滅亡高野紙見聞図説

第三号 檀紙考 (ISBN4-7842-0002-9)

編者が、長い地道な作業を積み重ねようやく成った基本文献集。収録した文献は、日本関係約220、中国関係約40で、製紙の起源を語る諸記録にはじまり、時代を追ってその産地がひろがり、種類が多彩になって用途がふえる様が頭注の紙名をたどるだけでも概観できる。

昭和初期、民芸運動の中で生まれた加工紙。染の歴史は古いがその伝統技術を現代に復活させたのが民芸紙である。本書は、全国の紙郷を訪ね、その全容を紹介し、作るものと使うものとを結び、民芸紙の発展を基盤に和紙の伝統継承を希うものである。各地の生漉紙・民芸紙の253点を付す。

和紙文庫シリーズ〔全7冊〕

和紙の変遷をえがく和紙研究書。各産地の実物を添え、本文装幀ともに風趣ある澆紙仕様の愛蔵版。

水玉紙・奉書紙・高野紙	本体 19,417 円
佐賀の紙	本体 19,417 円
土佐の紙（全2冊）	本体 33,981 円
近江の紙・津山の紙・ネリの話	本体 19,417 円
大和（奈良）の紙	本体 19,417 円
楮・三桧・雁皮が紙になる迄	本体 19,417 円

1990 / B 5判 / 和装帙入 / 平均50頁

久米康生著

手すきの紙郷

1978 / B 6判 / 244頁
 本体2,300円 ISBN4-7842-0247-1

和紙は多彩な性格を秘めて日本の生活文化を支えてきた。そしてその一枚の紙の背景には、それが育った紙郷の歴史と伝統がある。本書は、味わい深い和紙の歴史と伝統をそのふるさとにさぐったガイドブックである。有能な学芸記者であった氏の筆が冴える。

日本・紙アカデミー編

紙一七人の提言一

1992 / A 5判 / 256頁
 本体3,107円 ISBN4-7842-0729-5

各分野のオーソリティが語る現代社会における紙の問題。

【内容】紙と文明（吉田光邦）紙が教えてくれること（岡村誠三）文化財修復と和紙の特性（増田勝彦）和紙の抱える問題点（柳橋眞）製紙術の起源について（潘吉星）芸術と紙（乾由明）日本の紙を考え直す（町田誠之）

日本・紙アカデミー編

紙一昨日・今日・明日

日本・紙アカデミー 25年の軌跡
 2013 / A 5判 / 180頁
 本体2,000円 ISBN978-4-7842-1704-5

紙の製法の確立や生産、紙のリサイクルの可能性、紙を利用したアートやデザイン、産地ごとに固有の顔をもつ和紙の製法など、多様なアプローチから紙にかかわってきた人々による、紙が生み出した文化を様々な角度から分析。日本・紙アカデミー活動25年の記念にふさわしい論文集。

茶 道

木芽文庫編

雑誌 茶 湯 1～23号（終刊）

1969～1994 / A 5判 / 平均60頁
 【1～7・9～11・14・16号品切】

本誌は、茶の湯の新資料発掘・発表と研究論文を支柱とし、茶道関係者及び歴史・文化史研究者必読の専門雑誌。

⑧⑫⑬⑮⑰～⑲ 各 本体600円
 ⑳～㉒ 各 本体1,400円
 ㉓ 本体1,845円

木下桂風著

釜の歴史と鑑賞

1979 / A 5判 / 368頁
 本体3,500円 ISBN4-7842-0239-0

釜に関する書籍は決して少なくないが、正史としてみるべき釜史がない中で、釜の製作および鑑定の権威者であった大西浄長翁の家宝である釜図録や釜師諸氏所蔵の古文書類を比較検討して釜師評伝を編纂、昭和28年に上梓したものの復刻。釜図版111点、釜形図96点掲載。

市野千鶴子校訂

古田織部茶書〔全2巻〕

茶湯古典叢書 2・3
 1976・1984 / A 5判 / 平均400頁
 ① 本体6,200円 ② 本体8,200円

利休の高弟・七哲の一人で織部流茶道の開祖である古田織部の茶道秘書を集成。一巻には「宗甫公古織へ御尋書」及び「古田織部正殿問書」を収め、二巻には「織部百ヶ条」「織部茶会記」「数寄道次第」「古織茶湯書」「古織伝」「茶之湯六宗伝記三」を収録。

谷 晃 校訂

金森宗和茶書

茶湯古典叢書 4
 1997 / A 5判 / 490頁
 本体12,500円 ISBN4-7842-0944-1

「十三冊本宗和流茶湯伝書」（金沢市立図書館藤本文庫所蔵「茶道の書ホ」）を底本とし、校合には陽明文庫蔵『金森茶道故実』を用いた。他に所在判明の茶会記を収録。巻末には解題・参考文献・略年譜・金森宗和茶会記人名一覧・索引を併載。

谷 晃・矢ヶ崎善太郎校訂

茶 譜〔全2冊〕

茶湯古典叢書5

2010 / A 5判 / 総924頁

本体20,000円 ISBN978-4-7842-1528-7

名和修・筒井紘一・熊倉功夫監修／川崎佐知子校訂

御茶湯之記 (おんちゃのゆのき)

予楽院近衛家熙の茶会記

茶湯古典叢書6

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1756-4

谷 晃・矢ヶ崎善太郎校訂

片桐石州茶書 (かたぎりせきしゅうちゃしょ)

茶湯古典叢書7

2014 / A 5判 / 658頁

本体15,500円 ISBN978-4-7842-1758-8

谷端昭夫著 〈第16回茶道文化学術賞〉

公家茶道の研究

2005 / A 5判 / 394頁

本体6,500円 ISBN4-7842-1265-5

戸田勝久著

茶の湯 連翹抄

れん ぎょう

2005 / A 5判 / 602頁

本体7,600円 ISBN4-7842-1267-1

岩井茂樹著

茶道と恋の関係史

2006 / A 5判 / 232頁

本体3,800円 ISBN4-7842-1313-9

田中秀隆著

近代茶道の歴史社会学

2007 / A 5判 / 454頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1377-1

岩間眞知子著

茶の医薬史

中国と日本

2009 / A 5判 / 520頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1463-1

戸田勝久先生喜寿記念論集刊行会編

武野紹鷗 わびの創造

2009 / A 5判 / 614頁

本体12,000円 ISBN978-4-7842-1471-6

白崙顕成著

蘭室藤村正貞年譜考

2003 / A 5判 / 480頁

本体5,800円 ISBN4-7842-1173-X

近世茶書としては最も大部にして体系的なものの一つである茶譜（全18冊）。西尾市岩瀬文庫蔵本を底本として全編活字化。挿図についても写真版で全て収録。利休・織部・遠州・宗和・宗旦のそれぞれの茶匠とその時代の茶の湯を、確かな情報に基づいて茶の湯の分野ごとに再編集したものである。

近衛家熙の茶会の晩年24年間、308会の記録で、家熙側近の者がそのつど記し遺したものと思われ、茶会の日付と場、客人、道具、献立が漏らさず書き控えられている。脚注・補注・年譜のほか解説3篇、茶人・道具・献立篇の索引を併載。2014 / A 5判 / 610頁

『石州三百箇条』と称される茶書は、類似する書名で内容の異なる流布本が多く存在し、石州が書き残したものをともに弟子たちが解説をほどこした書物と考えられる。流布本を整理し、怡溪系・醉翁系・不白系の3系統から底本と校合本を選び翻刻・校合。あわせて『大工之書』の翻刻を収録。

これまで公家の茶の研究は断片的であった。本書では近世における「公家茶道」を取りあげ、その独自の形態、実態と特徴、茶道史における位置づけを考察し、茶のもつ文化の内実を深める。史料「後西院御茶之湯記」を併載。

著者は、裏千家の茶家戸田即日庵に生れ、父は今日庵名誉教授直翁宗寛。今日庵業林として三代目に当たり、教授者（茶名宗安）として茶の湯の指導と普及につとめ、併せてその啓蒙と研究に従事。本書はその業績を集大成（全30篇）した大著。

「恋は茶道の精神に反する」とされた――谷崎潤一郎の一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探求。

【内容】茶書中に見られる恋の言説／恋の茶会－恋の掛物をなぜ使うのか？／銘の世界－隠された恋の役割／恋とは何か？－恋歌の本意と、千家流茶道にとっての恋歌

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

もともと、茶は薬であった。しかし、茶がどのように記されているか、信頼できる史料に当たり、たどった研究はこれまでなかった。本書は、中国と日本の医薬書史料の影印を多数収録し、それらの史料から中国・日本の各時代における茶の様相とその時代的変遷を明らかにする一書。【2刷】

裏千家今日庵業林であり、教授者（茶名宗安）と併せて、永年茶の湯研究に従事してきた戸田勝久先生の喜寿を記念し、武野紹鷗を基軸として、斯界の論者24人が原稿を持ち寄った論集。

庸軒流茶道の祖、藤村庸軒の三男藤村正貞（1650～1733）の事跡について、自著『蘭室草』の収録作品（漢詩・和歌など）にそいながら、生涯の動向を歳ごとに明かした異色の年譜考。茶道を軸とした近世文化史の側面を伝える趣きを備えた一書。

白寄顕成著

藤村庸軒年譜考〔全2冊〕

2009 / A 5判 / 総1800頁
本体35,000円 ISBN978-4-7842-1456-3

漢詩集と茶会記をもとに編年で藤村庸軒の生涯を文学的方法によって明かす大著。庸軒の茶は、深い教養に支えられた美的に人格形成をなしとげるための総合芸術であった。元禄文化を支え、文人墨客とのネットワークをつなぐキーマンであった庸軒の全体像に迫る。

白寄顕成著

藤村庸軒流茶書

顕岑院本一
2012 / A 5判 / 528頁
本体10,500円 ISBN978-4-7842-1624-6

京都の紫雲山くろ谷金戒光明寺の塔頭である顕岑院には多くの庸軒流茶書が伝えられている。本書には、その中から息子の正員が庸軒の茶話を筆記したと思われる『藤村庸軒茶談』のほか、観山によって定められた庸軒流茶道の基本となる稽古次第を中心に収める。

白寄顕成編

ちゃどうぼうげつしゅう

茶道望月集

顕岑院本二
本体16,000円 ISBN978-4-7842-1667-3

くろ谷金戒光明寺塔頭顕岑院所蔵の庸軒流茶書を翻刻。藤村庸軒孫弟子、風後庵又夢久保可季による享保8年(1723)成立の茶書。鳩庵横井等甫伝授の「庸軒流茶法」40巻、「七ヶ条極秘切紙」3巻の内容を盛り込み、庸軒流茶法を詳述。2013 / A 5判 / 852頁

白寄顕成著

茶湯百亭百会 (ちゃのゆひやくていひゃくえ)

顕岑院本三
2015 / A 5判 / 926頁
本体20,000円 ISBN978-4-7842-1793-9

本書は、久田全一の門弟とされる伊丹の町人、有岡道瑞がみずから参席した茶会から百会をまとめた茶会記。顕岑院本を一会ごと掲げ、各種写本との異同を示し、さらに同時代の茶会記との関係もさぐり、茶会記をひもときながら、人物・道具・飾り・料理などの多彩な世界を明かす。

逸翁美術館編

茶の湯文化と小林一三

2009 / A 4判 / 148頁
本体1,905円 ISBN978-4-7842-1485-3

逸翁美術館の新装オープンを記念して開催された特別展「茶人 逸翁 一茶の湯文化と小林一三」の展覧会図録。小林一三(逸翁)の世界を5つのテーマ「茶道との出会い」「逸翁の茶懐石」「逸翁と茶友」「逸翁の茶道観」「逸翁の愛した茶道具」にそってオールカラーで紹介。

逸翁美術館編

茶会記をひもとく

逸翁と茶会

2012 / A 4判 / 92頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1626-0

2012年4月から逸翁美術館で開催された同名の展覧会図録。逸翁が西洋陶磁を茶道具に見立てるなど、新しい試みを茶会に取り入れて、実践したことはよく知られている。これらの基層となった逸翁の茶の湯との出会いや、近代数奇者としての歩みを、残された茶会記をひもときながら明かす。

逸翁美術館編

ふ まいこうだいえんさい

復活! 不味公大圓祭

小林一三が愛した大名茶人・松平不味
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1685-7

松平不味の好みものや縁の作品などを集めて昭和29年に阪急百貨店の古美術街で開催した「不味公大圓祭」。当時の出品作品を中心に、不味に縁のある作品をカラーで収録。2013年4月6日～6月2日、逸翁美術館開催の展覧会図録。2013 / A 4判 / 84頁

逸翁美術館・福岡市美術館編

茶の湯交遊録 小林一三と松永安左エ門

逸翁と耳庵の名品コレクション
2013 / A 4判 / 152頁
本体1,800円 ISBN978-4-7842-1726-7

電力事業再編を行い、戦後日本のインフラを築いた松永と、私鉄経営モデルの原型を独自に作り上げ、宝塚歌劇の創始者である小林。対照的な二人の茶の湯の世界を、逸翁美術館と福岡市美術館の、それぞれのコレクションの名品でたどる。2013～14年に両館で行われた同名展の展覧会図録。

逸翁美術館編

器を楽しむ

逸翁の茶懐石
2015 / A 4判 / 102頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1807-3

懐石とは、本来は「茶懐石」と呼ばれて、特に正式な茶事の席には欠かせない要素であり、小林逸翁は茶懐石に西洋の器を積極的に用いた先駆者だった。逸翁愛用の懐石の器に合わせて、時代とともに変遷する逸翁の茶懐石を紹介。2015年4月から逸翁美術館で開催の同名の展覧会図録。

岡本文音著〈平成24年度茶道文化学術奨励賞〉

茶の湯と音楽

2012 / A 5判 / 376頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1606-2

室町時代後期の草創期から江戸時代初期という茶の湯が発展拡大する時期の文献から、「音楽」の世界をとおしてみえる茶の湯の美意識を、能楽(第1章)、「峯すり」(第2章)、茶の湯の釜の煮え音「五音ノ湯アヒ」(第3章)、茶の湯空間における音(第4章)の4つのトピックから明かす。

茶の湯文化学会編

講座 日本茶の湯全史〔全3巻〕

2013～2014／四六判／平均330頁
（各）本体2,500円

依田 徹 著〈平成25年度茶道文化学術奨励賞〉

近代の「美術」と茶の湯

言葉と人とモノ

2013／A5判／332頁
本体6,400円 ISBN978-4-7842-1693-2

野村美術館学芸部編

野村得庵の文化遺産

2013／A5判／506頁
本体3,000円 ISBN978-4-7842-1701-4

戸田勝久著

茶の湯 恩籙抄

2014／A5判／652頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1751-9

中村静子著

げんぱくそうたん

元伯宗旦の研究

2014／A5判／430頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1760-1

大益茶道院発行／呉遠之著

井上由紀子・田丸祥幹訳／高丹丹編訳

基礎茶式

中国茶道研修方法

本体900円 ISBN978-4-7842-1824-0

茶の湯文化学会の創立20周年記念出版。日本文化史の中に位置づけられた茶の湯の展開を、茶の湯文化学会が総力をあげて俯瞰。初学者はもちろん、さらに深く茶の湯研究を志す人にとってのハンドブック的な要素ももたせた新しい概説書。

第1巻 中世／第2巻 近世／第3巻 近代

明治維新で価値を落とした茶道具は、どのようにして美術作品として再評価されるようになったのか？千利休と岡倉天心に注目し、近代美術史の視点から、明治以降の茶道具の評価を捉え直す。美術作品と茶道具の境界線を問う、革新の一書。

野村グループの創始者・得庵野村徳七は大実業家であると同時に、偉大な数寄者であった。野村美術館設立30周年記念事業として、得庵の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。1951年発行の『野村得庵』以降新発見の史料や研究動向をふまえ、新たな得庵像を提示。

裏千家今日庵業林として、教授者（茶名宗安）と併せて、茶の湯の研究に従事してきた著者の近年の業績を集成。「裏千家 今日庵歴代」（13篇）、茶の湯ゆかりの人物をめぐって茶の湯の精髓が語られる「茶の湯掃苔抄」（12篇）、「江戸東京茶の湯散歩」（深川編8篇・日本橋編16篇）の3部構成。

「利休の孫」として知られる元伯宗旦の生涯は病気がちで不分明な部分が多く、残された史料から全体的な姿を解明することは難しい。徳川幕府体制が確立し、大名茶全盛を迎えた時代に、誰に仕えることなく自身の茶の湯を追求し続けた宗旦の姿を、多数の史料を読み解くことで複眼的に究明する。

日本の茶道・台湾の茶芸など様々な茶文化を研究・実践してきた著者が、中国の茶道「基礎茶式（大益八式）」を考案。「基礎茶式」の八つの作法に意味づけられた精神や、作法の手順、ポイントを、多くの挿図とともに紹介・解説。

2015／四六判／156頁

浅井敬太郎著作集

花 み る 心 [全2巻]

1975 / 菊判 / 総800頁
本体8,400円 ISBN4-7842-0205-6

木下桂風著

花 籠 と 竹 花 入

1976 / A 5判 / 178頁
本体2,900円 ISBN4-7842-0208-0

花卉園芸学の権威であり、美学・歴史学にも造詣深かった著者が40年にわたり「華道」「未生」「園芸新知識」「自然と盆栽」「京都園芸」等の雑誌に発表した論文・随筆を一堂に収める。そこには花卉学といけばな、理論と感覚のみごとな融合がみられる。華道・茶道・園芸・植物学を学ぶ人々に。

1500年の歴史をもついけばなの歴史のなかで、その器として籠と竹筒を発明したのが東山時代の芸匠で知られた相阿弥である。青竹から始まり、きんめい竹、白竹、枯竹、斑竹、煤竹、縞竹、黒竹、胡麻竹、四方竹、迎葉竹とそれぞれの特徴を生かした雅趣と伝統の美と心を豊富な挿図と共に解説する。

花図を中心とした華道書善本（刊本）10点を忠実に複製。

華道古典名作選集[全10巻]

1976～77 / A 4判変 / 和装本

ISBN4-7842

- | | |
|--------|-------------------------|
| ①花林清賞 | 本体6,500円 -0210-2 |
| ②仙伝抄 | 本体4,400円 -0211-0 |
| ③挿花百練 | 本体5,500円 -0212-9 |
| ④立華時勢粧 | 【品切】 |
| ⑤抛入花伝書 | 本体5,400円 -0214-5 |

ISBN4-7842

- | | |
|------------|-------------------------|
| ⑥草木出生伝 | 本体6,000円 -0215-3 |
| ⑦生け花正意四季の友 | 本体6,000円 -0216-1 |
| ⑧頭書立華指南 | 本体5,500円 -0217-Y |
| ⑨立花初心抄 | 本体4,900円 -0218-8 |
| ⑩新撰瓶花図彙 | 【品切】 |

華道沿革研究会編

花 道 古 書 集 成 [全5巻]

1969・1996 / A 5判 / 3400頁
本体32,000円 ISBN4-7842-0087-8

本書は、初期東山時代の代表的秘伝書をはじめ、江戸初期、中期の諸流祖の花道書から幕末に至る主な花道書を収録し、昭和5年に刊行されたものの復刻。貴重な文献と作例図により生花の歴史・理論・技法の真髄に触れることができる。

【4刷】

続花道古書集成刊行会編

続花道古書集成 [全5巻]

1972・1980 / A 5判 / 2710頁
本体35,000円 ISBN4-7842-0088-6

『花道古書集成』が古刊本中心であるのに対し、未刊の古写本中心に続篇をおくる。花道草創の室町時代初期から各流各派成立、爛熟の時期江戸時代末に至る秘伝、稀覯本を網羅し、中でも「華厳秘伝之大事」「極儀秘本大巻」「藤掛似水華伝書」「諸花抛入百瓶圖」「雲の上」などは特筆。 **【2刷】**

井上 治 著

花 道 の 思 想

2016 / 四六判 / 260頁
本体1,800円 ISBN978-4-7842-1839-4

花道の思想を学術的に紐解くべく、第1部では歴史の流れを概括しながら、「出生」「花炬」「修行」の観点で花道思想の構造を整理。第2部では、江戸末期に揺れ動いた宇宙像が花道に及ぼした影響を見たのち、近代の花道家が花道文化の伝統とどう向き合ったかを「風流」「芸術」の概念から考察する。

法制史

牧健二博士米寿記念会編

日本法制史論集

1980 / A5判 / 850頁
本体22,000円 ISBN4-7842-0290-0

安高啓明著

近世長崎司法制度の研究

2010 / A5判 / 512頁
本体5,700円 ISBN978-4-7842-1477-8

日本の法制史研究で多大な業績を遺し、藩法編纂など資料編纂においても先駆的役割を果たした牧博士の米寿を記して、第一線の研究者 24 人が上梓した学界最高水準の法制史論集。

長崎奉行所で構築されていた司法制度のもとでの、長崎奉行の司法的権限に迫る。また法の浸透過程と受容した長崎奉行所の法体系を見出し、判例集「犯科帳」から当時犯罪に関与した人間模様、裁判の実相を明らかにする一書。

経済史

大山敷太郎著

幕末財政史研究

1974 / A5判 / 772頁
本体8,000円 ISBN4-7842-0269-2

永島福太郎編

三木金物問屋史料

1978 / A5判 / 700頁
本体10,000円 ISBN4-7842-0284-6

宮本又次著

先学追慕

1982 / B6判 / 206頁
本体2,500円 ISBN4-7842-0348-6

宇田正・藤田貞一郎共編

宮本又次史学館

1984 / B6判 / 212頁
本体2,300円 ISBN4-7842-0349-4

傳田 功 著

日本の政策金融

1990 / A5判 / 290頁
本体3,600円 ISBN4-7842-0590-X

昭和44年刊行の『幕末財政金融史論』によって学士院賞を受賞した著者が、その続編として完成したのが本書。収録した12篇の論文は、国立国会図書館所蔵の「旧幕末継書」をはじめとする膨大な文献より関係史料を厳密に考察した論考であり、また前人未踏の分野に分け入った珠玉の論文集。

三木金物仲買問屋「作清」黒田清右衛門家の近世史料を主体に、仲買問屋「道善」井上善七家、三木市宝蔵文書・市立図書館所蔵文書から金物関係史料を収録、解説と研究5篇を付した。

【研究執筆者】永島福太郎／神山久夫／桑田優／畠山秀樹

昭和6年京大経済学部を卒業以来、九大、阪大、関西学院大、福山大学で教鞭をとり、日本学士院会員、社会経済史学会・経営史学会顧問であった著者が、自らの半世紀を越える研究遍歴途上において数々の学恩を蒙って来た先学・恩師を追慕し、その謝意を表現しようとしたものである。

宮本又次先生に親しく学恩を享けた関係者が先生の喜寿を記念し、その慶賀と学問的・人間的なつながりをあたためるべくまとめた文集。巻末に「宮本又次歌稿抄」と「仏語事始と村上英俊」を併載した。

わが国における重要な経済制度の一つである「財政投融资制度」を取り上げ、とくにこの制度と深い関係をもつ「政策金融」の問題を中心に、それらがわが国の政治経済体制とどのようにかかわってきたかを歴史的な視野のもとに検討し、今後のあり方を探る。

甲南学園監修／三島康雄編集

ひら おはちさぶろう

平生鈆三郎日記抄〔全2巻〕

大正期損害保険経営者の足跡

本体34,000円 ISBN4-7842-0586-1

小葉田 淳 総監修〈第8回優秀会社史賞〉

住友別子鉱山史〔全3巻〕

1991／B5判／総1500頁

本体73,000円 ISBN4-7842-0643-4

小葉田 淳 著

日本銅鉱業史の研究

1993／A5判／860頁

本体19,000円 ISBN4-7842-0760-0

萩慎一郎著 〈第7回高知出版学術賞〉

近世鉱山社会史の研究

1996／A5判／640頁

本体12,800円 ISBN4-7842-0900-X

大阪経済大学日本経済史研究所編

経済史文献解題

1997～2007／四六判／平均650頁

2006年版以降は

<http://kaidai.osaka-ue.ac.jp/kaidai3/>で公開

小葉田 淳 著

貨幣と鉱山

1999／A5判／300頁

本体7,800円 ISBN4-7842-1004-0

徳永光俊編

20世紀の経済と文化

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第10冊

2000／A5判／210頁

本体3,500円 ISBN4-7842-1046-6

日夏嘉寿雄・今口忠政共編著

京都企業の光と陰

成長・衰退のメカニズムと再生化への展望

2000／A5判／360頁

本体3,600円 ISBN4-7842-1030-X

山田達夫・徳永光俊編

社会経済史学の誕生と黒正巖

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第11冊

2001／A5判／200頁

本体2,500円 ISBN4-7842-1076-8

山本 正 著

「王国」と「植民地」

近世イギリス帝国のなかのアイランド

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第12冊

本体2,800円 ISBN4-7842-1096-2

東京海上火災の経営に携わった平生の日記（大2～昭20）から損害保険に関する部分を抜き出し、解題・注・索引を付す。損害保険の育ての親であった平生が激動の日々に書き記した「保険論」は、保険・金融史の核心に触れる貴重な証言。

1990／A5判／総1100頁

上巻では元禄4年の開坑より明治32年、いわゆる旧別子時代の終わるまでを取り扱い、下巻は閉山するまでとその後の補遺を記述し、別巻は別子銅山史上の事項を理解する助けとなる図録・写真・史料等を収載した。開坑300年記念出版。

金銀山の個別の史的研究を集成した、『日本鉱山史の研究』（学士院賞）、『続日本鉱山史の研究』につづく本書には、足尾・面谷・別子など日本を代表する鉱山の個別の史的調査研究に加え、付篇として産銅に関する近世の銅貿易と鑄銭についての論稿を収めた。

鉱山社会史研究の視点から、従来の研究で欠落していた支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内銀山などの一次史料を通して明かす先駆的な業績。

1996・1997年版【品切】

1998・1999・2002・2003年版

(各) 本体11,800円

2000年版

本体12,800円

2001年版

本体10,800円

2004・2005年版

(各) 本体13,800円

日本貨幣史・鉱山史の泰斗が中世から近世にいたる貨幣と鉱山に関する近年の論考を集成する。【内容】元禄・宝永の京銭座の鑄銭、とくに宝永通宝大銭鑄造について／正徳・享保の新銀鑄造と銀銅分け／近世、日向椎葉山の銅山について／近世、日向延岡領の銅山についてほか全11篇

20世紀の経済・社会・文化について、大阪経済大学の教員が多様な角度から論じ21世紀を展望する。

【執筆著】松村文武／重森暁／土井乙平／上島武／徳永光俊／山本晴義／西山豊／山本正／家近良樹

組織的・戦略的・管理的・財務的諸側面から総合的に企業経営の本質に迫る手法によって、京都企業のおかれている状況と実態、他地域との比較、さらに具体的な成功と破綻企業の例をとりあげ、企業衰退の測定モデルを分析し、企業の成長・衰退の理論と産業活性化の方策についてさぐる。

大阪経済大学日本経済史研究所の創設者黒正巖博士の業績を、1930年前後における世界的な社会経済史学の興隆状況のなかで捉え直す第1部と博士の人となりを伝える第2部で構成。社会経済史学の原点を回顧することにより、新しい世紀への展望を考察。

「王国」にして「植民地」——本書は、16～18世紀におけるアイランドのイギリスとの複雑な関係を最新の研究動向を踏まえつつ丹念に分析し、その位置づけと変遷にとりくんだ著者20年来の成果。

2002／A5判／236頁

徳永光俊・本多三郎編

経済史再考

日本経済史研究所開所70周年記念論文集

2003 / A5判 / 630頁

本体12,000円 ISBN4-7842-1153-5

黒正巖著作集編集委員会編

こくしやういわお

黒正巖著作集〔全7巻〕

2002 / A5判 / 総2800頁

本体56,000円 ISBN4-7842-1122-5

徳永光俊編

黒正巖と日本経済学

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第15冊

2005 / A5判 / 250頁

本体2,700円 ISBN4-7842-1242-6

大阪経済大学日本経済史研究所編

東アジア経済史研究 第1集

中国・韓国・日本・琉球の交流

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第17冊

本体4,000円 ISBN978-4-7842-1498-3

松村幸一著

一六世紀イングランド農村の資本主義発展構造

大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 第18冊

本体14,000円 ISBN978-4-7842-1575-1

桑田 優 著

伝統産業の成立と発展

播州三木金物の事例

2010 / A5判 / 302頁

本体6,500円 ISBN978-4-7842-1523-2

齋藤康彦著

すきしや

近代数寄者のネットワーク

茶の湯を愛した実業家たち

本体4,000円 ISBN978-4-7842-1603-1

朝尾直弘監修 / 住友史料館編

住友の歴史〔上・下〕

2013・2014 / 四六判 / (上)286頁(下)322頁

(各)本体1,700円 上【3刷】

岩本真一著

ミシンと衣服の経済史

地球規模経済と家内生産

2014 / A5判 / 328頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1719-9

板垣貴志著

牛と農村の近代史

家畜預託慣行の研究

2014 / A5判 / 266頁

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1725-0

研究所開所70周年を記念し、経済史研究の方法論5篇、日本国内外の経済史・経営史を実証的に分析した論24篇を収録。

1920～40年代、社会経済史学の誕生に大きな役割を果たした黒正巖の業績を全7巻構成で明らかにする。【構成】第1巻 百姓一揆の研究 / 第2巻 百姓一揆論 / 第3巻 岡山藩の研究 / 第4巻 社会経済史の研究 / 第5巻 経済地理学の研究 / 第6巻 日本経済史 / 第7巻 農史の研究 年譜・著作目録

『社会経済史学の誕生と黒正巖』（79頁）に続き、黒正巖の業績を再検討。1940年前後、京都大学を中心とした「日本経済学」の動きの中で、黒正らの役割を解明。師である本庄栄治郎と彼が打ち立てた「日本経済学」の主張の検討、黒正と戸田海市、京都経済学者たちとの関係をも考察。

日本からの研究の発信だけでなく、世界、アジアにおける研究情報を系統的に取り込み、データベース化し国際的な研究の発展と交流を目指して行われた東アジア経済史研究会「近世・近代の東アジア経済史研究」を基にした10篇。

2010 / A5判 / 344頁

本書は、大阪経済大学日本経済史研究所所長などを歴任した故人の一貫したテーマであった、16世紀イングランド農村史研究における主要な論文をとりまとめて、一書に編成したものである。巻末に索引・業績一覧を付す。

2011 / A5判 / 660頁

兵庫県三木市の伝統産業、三木金物は近世後期に勃興し、現在にいたっている。本書は、流通機構の発達など社会的な背景にも着目し、三木金物が特産品として全国市場へ進出してゆく過程を跡づける通史である。

近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出。近代実業家の財閥の枠を超えた交流を明かす。

2012 / A5判 / 308頁

【上】創業者の肖像 / 東アジアの銅貿易と住友 / 火と水と土石とのたたかい / 鉾山都市と積出港市 / 銅貿易を支える仕組み / 銅の生産と関連諸産業 / 住友の江戸進出 【下】イエの構成と組織 / 大名との交際 / 都市大坂が育んだ住友 / 文化と公共への貢献 / 幕末・明治の変革 / 近代化への対応 / 世界市場への参入

19世紀後半から20世紀半ばにかけて、シンガー社のミシンは世界を席巻し、東アジアは最終市場であった。こうした状況下でのシンガー社の日本進出を中心に、近代日本のミシンの普及と衣服産業の展開を分析。断片的にしかり知られてこなかった近代日本衣服産業の概要と特徴を明かす。

明治以降の近代化のなかで発展から取り残された中国山地。そこでは前近代的バールに包まれた家畜預託慣行が急激に拡大していた。本書は、牛を介して取り結ばれる人々の社会関係を明らかにし、それが近代農村で果たした歴史的意義を解明。宮本常一民俗学に共鳴する社会経済史。

今井典子著

近世日本の銅と大坂銅商人

2015 / A 5判 / 316頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1805-9

谷彌兵衛著

近世吉野林業史 [オンデマンド版]

2015 / A 5判 / 540頁
本体11,100円 ISBN978-4-7842-7001-9

銅の最大市場である大坂の銅商人社会が成立・変容する過程を軸にして、銅の生産・流通の歴史を通覧。住友家文書や初村家文書など関連史料を丁寧に読み解き、長崎貿易の動向・幕府の統制・相場の変動なども視野に入れながら論じた本邦初の銅の近世通史。

いま日本の林業は存亡の危機に直面している。吉野の地に生まれ、林業とそれに携わる人々の浮沈を間近に見て育った著者が、吉野林業の光と影を、史料に基づいて実証的に明らかにした本書は、吉野林業を初めて通史的にとりあげた研究として、画期的意義を有する。初版2008年。

技 術 史

鈴木 敏 編

宝 石 誌

1974 / 菊判 / 302頁
本体5,000円 ISBN4-7842-0245-5

三木晴男著

京 都 大 地 震

文政13年の直下型地震に学ぶ
1979 / A5判 / 340頁
本体2,800円 ISBN4-7842-0300-1

竹村真一著

明 朝 体 の 歴 史

1986 / A5判 / 240頁
本体2,300円 ISBN4-7842-0447-4

宝石は上古より金銀と共に世に珍重されてきたが、その資料は少ない。本書は大正5年理学博士鈴木敏の手によるもので、地質鉱物学的立場から宝石を学術的に論じたものである。内容は、諸論・宝石通論・宝石持論からなり、地質鉱物学研究者、貴金属関係者にとって座右の書である（復刻版）。

文政13年7月2日、京都を中心として震度6.4と思われる直下型大地震が起こった。建造物の倒壊、火災、流言と、公家・武士・町人を襲ったパニック。現代における地震対策を念頭に京都大学地震予知観測地域センター長を勤めた地震学界の重鎮が語る150年前の震災ドキュメント。

中国明時代に生まれ、黄檗山万福寺開山中国僧隠元や一切経の開版を成した鉄眼などを経て日本にももたらされ、今日に至った明朝体。その中国での発生と変遷からわが国への伝来と定着の過程を明らかにし、さらに近代機器による明朝体をも射程にのれたユニークな文字文化史。

吉田光邦評論集〔全3巻〕

1982 / 四六判 / 平均350頁
(各) 本体2,900円

日本産業技術史学会誌

技 術 と 文 明

1985～ / B 5判 / 平均100頁 / 既刊38冊
①～⑨・⑬～⑳ 各 本体2,000円
⑩～⑱ 各 本体1,942円

おびたしい知識の集積の背後にある鋭い洞察力と、人間に対するあくなき好奇心から綴る芸術・文化・文明論。

I 芸術の解析 II 文化の手法 III 文明の基軸

三宅宏司著 〈第7回日本産業技術史学会賞〉

大 阪 砲 兵 工 廠 の 研 究

1993 / A5判 / 520頁
本体9,600円 ISBN4-7842-0776-7

日本産業技術史学会は、産業技術に関する歴史について調査・研究を促進し、その成果を社会に還元することを目的として、1984年に設立。産業研究の各分野、経済学、人類学、日本史、工学等の広範囲の専門家による学際的交流の下で、産業技術史研究の基礎確立を目指す。本誌はその研究発表の場。

明治3年から昭和20年にいたる大阪砲兵工廠はわが国の産業近代化の中で特異な役割りを果たしてきた。本書では、同工廠を支えた鉄鋼・材機・冶金・金属加工・化学などの技術的諸分野の内容と生産体制、職工の就業実態及びそれらの変遷過程を明かす。関係図表120余点。

丸山 宏 著

近代日本公園史の研究

1994・2003 / A5判 / 400頁
本体8,400円 ISBN4-7842-0863-8

近代欧米都市起源の公園が、いかに近代化の装置として導入され、衛生問題、都市問題、記念事業、経済振興策、政治的役割などさまざまな問題を孕みながら受容されてきたか、その歩みを社会史のダイナミズムのなかにとらえた一書。

【2刷】

東 徹 著

佐久間象山と科学技術

2002 / A5判 / 284頁
本体7,600円 ISBN4-7842-1101-2

加藤偉重著

牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション

2003 / A5判 / 300頁
本体5,400円 ISBN4-7842-1165-9

京都大学総合博物館編

新世紀を創る。 京都大学の工学と貴重技術史資料 京都大学総合博物館図録

本体2,300円 ISBN4-7842-1210-8

小林達也著

文明随想 継承と移転

日本の底力を読む

2005・2006 / 四六判 / 200頁
本体2,500円 ISBN4-7842-1263-9

尾鍋智子著

絶対透明の探求

遠藤高璟著『写法新術』の研究
2006 / A5判 / 310頁
本体5,800円 ISBN4-7842-1294-9

日本産業技術史学会編

日本産業技術史事典

2007 / B5判 / 550頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1345-0

加藤偉重著

シーボルトが蒐集した シダ標本

2010 / A5判 / 388頁
本体7,000円 ISBN978-4-7842-1550-8

白幡俊輔著

軍事技術者のイタリア・ルネサンス

築城・大砲・理想都市

2012 / A5判 / 294頁
本体5,600円 ISBN978-4-7842-1625-3

大島佐知子著

老農・中井太一郎と農民たちの近代

2013 / A5判 / 388頁
本体7,500円 ISBN978-4-7842-1710-6

象山が入手したとする蘭書を書誌的に明かし、そこでの記載内容と象山が様々な局面で語っている内容との対応関係を調査。「東洋道德、西洋芸術」という言葉で時代をリードした人物を正しく位置づけ、わが国における科学技術の受容という問題を考察するための基礎的な実証的研究。

東京都立大学牧野標本館所蔵のシーボルトの植物標本を精査してきた成果。シーボルト、助手のビュルガーをはじめ、伊藤圭介、水谷助六、小野蘭山などの手になる標本について、残されたメモや添付図から採集者や採集地の特定につとめた。江戸時代の博物学の実態を知る上でも貴重な報告。

京都大学総合博物館で開かれた展覧会図録。100年をこえる歴史をもつ京都大学の貴重な技術史資料を公開し、新世紀を創造する工学研究の最先端を展示することによって、工学・技術の発展とその成果、未来への夢を広く社会に紹介。

2004 / A4判 / 100頁

東海地方の創造的活力は、単に外国模倣の浮薄な知力だけではない、伝承されたローカルな有形無形のさまざまな力に推されたものである。いくつかの発明と技術移転の実例を紹介し、道德、価値観、人間関係を含む地域文化がはたらいて支えたものであることを証明する。 【2刷】

加賀藩士遠藤高璟が江戸後期に著した『写法新術』。その内容は既成概念への批判精神に溢れ、視覚については哲学的に洗練された議論を展開している。本書では、遠藤の加賀藩における知的交流とその思想を論じ、『写法新術』にみられる倫理観、写法の理論と視覚論の独創性を明かす。

明治維新以降、めざましい発展を遂げてきた近代化の歩みを支えた産業技術の変遷を跡づける。23の大項目と344の小項目で系統的・組織的に日本の産業技術史を俯瞰した画期的な事典。近代化以前からの「草の根」における技術と技能の蓄積に対しても光を当て、民間の「現場」の力を重視する。

オランダ国立植物学標本館ライデン大学分館に所蔵されている、シーボルトコレクションの約1,000点のシダ標本を、20年にわたり調査した成果を豊富な図版（カラー口絵14点・モノクロ600点）とともにまとめる。標本642点・1,009カットのカラー画像を収録したDVD付き。

軍事技術という観点から、ルネサンス期イタリアにおける戦争と社会の関係を考察。具体的には、15～16世紀イタリアの築城術の「理想都市」「軍事的機能」という2つの要素に着目し、その変容過程を、建築家の残した著作や活動・軍事思想からの解明で試みる。

農業近代化の過程で重要な役割を果たした「老農」といわれた農事改良者たちは近代化のなかで忘れられた存在である。除草機「太一車」の発明者として知られる中井太一郎について、ライフヒストリーをたどりながら、彼の技術・思想や、その全国巡回を支えた組織・団体などを明かす。

外山英策著

室町時代庭園史

1973 / B5判 / 792頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0230-7

谷 直樹 著

中井家大工支配の研究

1992 / A5判 / 340頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0707-4

石田潤一郎著

都道府県庁舎

その建築史的考察

1993 / A5判 / 440頁
本体8,600円 ISBN4-7842-0775-9

川上 貢 著

近世上方大工の組・仲間

1997 / A5判 / 402頁
本体9,000円 ISBN4-7842-0922-0

加藤邦男編

阪神・淡路大震災と歴史的建造物

1998 / B5判 / 280頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0964-6

日向 進 著

近世京都の町・町家・町家大工

1998 / A5判 / 340頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0984-0

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

建築史論聚

2004 / A5判 / 590頁
本体9,000円 ISBN4-7842-1202-7

谷 直樹 編著

大工頭中井家建築指図集

中井家所蔵本

2003 / B4判 / 360頁
本体18,000円 ISBN4-7842-1148-9

建部恭宣著

京・近江・丹後大工の仕事

近世から近代へ

2006 / A5判 / 270頁
本体5,500円 ISBN4-7842-1282-5

昭和9年に刊行された本書は、まだ未熟であった庭園史という領域において傑出し、殊にその文献史料の豊富さ、古文書解説のみごとさでは多くの歴史家の間で評判をとった名著である。室町時代の庭園約150について、豊富な文献を基に論じる。

中井家大工支配の初期形態から支配の確立・変容をたどる。
【内容】 中井家大工支配の成立過程／農村大工の大工役と諸役免除／公儀作事における中井家の職務と財政構造／中井家支配下の棟梁衆および家中の変遷／中井家六か国大工支配の整備と再編成 ほか

明治維新以降、今日まで100件をこえる都道府県庁舎が建設されてきた。本書では、一次史料をもとに同庁舎の歴史的展開を個別にあとづけ、地方行政制度史・地域史の中で位置づけるとともに、図版史料によってその平面計画及び立面意匠の具体的な把握も試みた。収録図版200余点。

中井家による五畿内・近江六か国大工組支配の仕組みのなかで、各地に組織・編成されていた大工組に焦点をあて、その成立、運営と変遷、さらには分裂と再編を、近世前期にまでさかのぼる新出史料をもとに検証した論集。

阪神淡路を襲った直下型大地震が招いた建築物被害のうち歴史的建造物の被害状況を把握し、被災地区における復興、復元、修理補強の方策を探るのみならず、文化財建造物の将来にわたる保全、利活用における技術的方策と環境の歴史的文化的価値の問題を再検討してさまざまな提言を示す。

「仮屋」のようにさりげなく組み立て、身近な素材に精緻な技術が注入され、洗練された造形として結実したのが京都の町家。本書は、京都町家の形成と展開の過程を事例として、町家が住居形態として一定の類型を保持し、存続してきた背景としての建築的・技術的・社会的・都市的な要因を解明。

建築史学の泰斗・中村昌生氏の喜寿記念に寺社建築、茶室、建築生産史・都市史、近代建築のテーマで研究者たちが寄稿した15篇**【執筆者】** 中村伸夫／高井昭／建部恭宣／平井俊行／谷晃／中村利則／日向進／池田俊彦／桐浴邦夫／矢ヶ崎善太郎／和田嘉寿／岩波由佳／山形政昭／梅宮弘光／川島洋一

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家の伝来史料には、同家の職務に対応して城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺院、社寺、数寄屋、書院の指図があり、さらに洛中国・町絵図・橋図など土木関係の絵図も豊富（2011年重文指定）。図版517点を大判で収録し総論と各個解説を付す。

江戸から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、資料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。

木村幸比古・中根史郎・中村昌生著

春秋 京大和翠紅館

2009 / B 5判 / 80頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1417-4

平井俊行著

近世妙心寺建築の研究

2013 / B 5判 / 376頁
本体9,500円 ISBN978-4-7842-1689-5

片平 幸 著

日本庭園像の形成

2014 / A 5判 / 240頁
本体4,000円 ISBN978-4-7842-1718-2

白幡洋三郎編

『作庭記』と日本の庭園

2014 / A 5判 / 364頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1746-5

永井聡子著

劇場の近代化

帝国劇場・築地小劇場・東京宝塚劇場
2014 / A 5判 / 230頁
本体3,500円 ISBN978-4-7842-1737-3

三宅拓也著

近代日本〈陳列所〉研究

2015 / A 5判 / 640頁
本体7,800円 ISBN978-4-7842-1788-5

植松清志編著

大坂蔵屋敷の建築史的研究

2015 / B 5判 / 236頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-1724-3

小泉和子編

茶と室内デザイン

2015 / B 5判 / 224頁
本体3,500円 ISBN978-4-7842-1808-0

中川 理 著

京都 近代の記憶

場所・人・建築
2015 / A 5判 / 184頁
本体2,200円 ISBN978-4-7842-1812-7

京都の老舗料亭京大和がある東山霊山のふもととは、古くからの聖地であり、風光明媚な仙郷であった。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や藪内流の茶室について、多数の図面とともに詳述する。

臨済宗妙心寺派本山の個々の建築について、本山や塔頭に残る中世～近世の古文書や棟札の解説、実測のみならず、それぞれの建造物の行事での利用状況まで分析し、近世妙心寺建築成立の意義を検討。京都府教育庁文化財保護課の修理技術者として、保存修理に携わった著者の研究をまとめた一書。

「日本庭園」は西洋でどのように理解され、解釈されたのか、そして日本はそれに対してどのように反応したのか。19世紀末から20世紀初頭の欧米人の日本庭園論、それへの日本人の反応、という両者の「往還」を丁寧にたどり、1930年代に至って日本庭園の「独自性」が規定されていく過程をたどる。

日本最古の庭園書『作庭記』を中心に、日本庭園の造形と思想を多面的に分析。国際日本文化研究センター共同研究の成果。【執筆】白幡洋三郎／多田伊織／原田信男／小野健吉／飛田範夫／外村中／水野杏紀／錦仁／荒木浩／鈴木久男／原口志津子／豊田裕章／榎本渉／陸留弟

明治・大正・昭和初期における劇場の近代化に大きな影響を与えた、帝国劇場・築地小劇場・東京宝塚劇場を取り上げ、当時の様々な言説、図版、写真、インタビューなどの資料を読み解き、西洋の劇場近代化過程とも比較しながら日本の劇場の近代化の特色を描きだす。

本書が扱う〈陳列所〉とは、「商品（物産）陳列所」などという名称を冠せられて建設された公共の陳列施設である。この種の施設が、都市の農業・工業・商業を奨励する目的で各地に設置された経緯を検証し、制度・活動・建築を含めて都市との関わりに注目。その実態を豊富な図版と共に明かす。

各藩の大坂蔵屋敷の敷地や立地、屋敷の変遷、建築構成や空間構成、藩主が参勤交代の際に滞在した御屋形（御殿）の機能、役人住居の階層性や居住性などについて、都市との関連も考慮に入れつつ、指図や文書史料を用いて検討を行い、未開拓の大坂蔵屋敷研究の新たな局面を切り開く。

書院造、草庵風茶室、数寄屋風書院造、和風住宅等……。日本的とされる日本住宅の室内デザインはほとんどが茶によって育まれた。茶が日本住宅の室内意匠にあたえた影響について、それぞれの専門の立場からの論考を収録。多くのカラー図版とともに、茶道と室内デザインの関係性を考える一書。

東京遷都により没落の危機に見舞われ、都市改造や近代建築の導入に積極的に取り組む一方で、「千年のみやこ」を演じてきた街、京都。いまある京都の魅力はいつ、どのように作られたのか？近代化の過程で生まれた様々なエピソードを、場所・人・建築をキーワードとして写真とともに綴る。

電通総研編

21世紀のグランドデザイン

環境・都市・情報

1993 / A5判 / 440頁

本体2,816円 ISBN4-7842-0783-X

梅原猛・伊東俊太郎監修 安田喜憲・松岡数充編集

日本文化と民族移動

文明と環境Ⅱ

1994 / 四六判 / 240頁

本体2,233円 ISBN4-7842-0843-7

梅原猛・伊東俊太郎監修 町田洋・森脇広編集

火山噴火と環境・文明

文明と環境Ⅲ

1994 / 四六判 / 240頁

本体2,233円 ISBN4-7842-0844-5

園田英弘編著

逆欠如の日本生活文化

日本にあるものは世界にあるか

2005 / A5判 / 404頁

本体3,800円 ISBN4-7842-1248-5

京都ノートルダム女子大学大学院

人間文化研究科人間文化専攻編

文化の航跡

創造と伝播

本体2,800円 ISBN4-7842-1238-8

今谷 明 編

王権と都市

2008 / A5判 / 372頁

本体6,800円 ISBN978-4-7842-1396-2

清水恵美子著 (2012年度芸術選奨文部科学大臣新人賞)

岡倉天心の比較文化史的研究

ボストンでの活動と芸術思想

2012 / A5判 / 548頁

本体10,700円 ISBN978-4-7842-1605-5

熊倉功夫編

日本の食の近未来

2013 / 四六判 / 260頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1678-9

陳 凌虹著 〈第20回日本比較文学会賞〉

日中演劇交流の諸相

中国近代演劇の成立

2014 / A5判 / 418頁

本体8,000円 ISBN978-4-7842-1722-9

激動時代の終結——新世紀を迎えるにあたって、我々は重要な選択に迫られるであろう。真に豊かで安定した社会とは…本当の国際化とは…。環境・都市・情報、各界の有識者45人による、多角的視点からなるフォーラムの総まとめ。

【内容】地球環境の危機と環境難民／日本人の成り立ち／ウイリスと人間／遣伝子から見た民族移動／犬から探る日本人の起源／稲の来た道／古代騎馬術の伝播と変遷／騎馬民族は来た？／対馬と古代の国際交流／対馬海峡を巡る植物地理／東シナ海沿岸の環境変遷／花粉分析からみた気候変動

【内容】火山の大噴火と気候・環境／火山噴火と植生／歴史をかえた火山噴火／火山噴出時に放出されるガス量の測定／樹木年輪から読み取れる気候の変遷と噴火の歴史／雲仙噴火の教訓／桜島の火山活動とその影響／鬼界アカホヤ噴火が南九州の自然に与えた打撃／マヤ文明と火山噴火 ほか

「日本にあるものは外国にもある」というものの見方「逆欠如論」に基づき、日本の生活文化の諸相を分析。日本人が日常的に関わる生活文化を国際比較することによって、問題点の発見と理解を深める。国際日本文化研究センターの共同研究成果14篇。

京都ノートルダム女子大学人間文化研究科人間文化専攻の設立記念。人間文化学科の12名が寄稿。【執筆者】相良憲昭／五十嵐節子／小川光／鳥居本幸代／上杉省和／服部昭郎／鷲見朗子／野田四郎／朱鳳／岡村敬二／岩崎れい／吉田智子
2005 / A5判 / 264頁

日文研での研究の集大成として、編者が壮大な展望のもと組織した共同研究「王権と都市に関する比較史的研究」の成果。日本、アジア・イスラーム、ヨーロッパの3領域から11篇の論文を収め、各時代・各地域での都市史のあり方を相互に比較検討し、「都市とは何か」という命題の解明に挑む。

明治時代に美術分野で活躍した思想家、岡倉覚三（天心、1863～1913）の、特にそのボストンでの活動に焦点をあてて考察。ボストンと日本における岡倉像の比較、同時代の文化的状況、美術、演劇、音楽の動向など複眼的な視座からのアプローチを通して、より立体的に「岡倉天心」像を再検証。

静岡文化芸術大学共同研究の成果。【内容】日本の伝統的食文化としての和食の行方／日本における家族の変化と食生活／食空間と将来／「食のとらえ方」のパラダイムシフトを求めて／高齢者と食の満足／鼻で食べることと目で食べること／国民食になった餃子／食生活の変遷からみた日本の食の来し方行く末

日本の明治期、中国の清末民初期における日中演劇界の緊密な連携関係、とりわけ中国の近代演劇の成立に果たした日本の役割について、両国話劇のはしりである文明戯（中国）と新派（日本）の関係を中心に、新史料と具体的事象（人物の往来、脚本の翻訳、舞台芸術）を通して総合的に論じる。

佐野真由子編

万国博覧会と人間の歴史

2015 / A5判 / 758頁
本体9,200円 ISBN978-4-7842-1819-6

宗像衣子著

響きあう東西文化

マラルメの光芒、フェノロサの反影
2015 / A5判 / 394頁
本体5,400円 ISBN978-4-7842-1814-1

椎名仙卓著

明治博物館事始め

【オンデマンド版】

2015 / 四六判 / 268頁
本体4,800円 ISBN978-4-7842-7002-6

岡本貴久子著

記念植樹と日本近代

林学者本多静六の思想と事績
日文研叢書
本体9,000円 ISBN978-4-7842-1843-1

近代以降を研究する上で、万国博覧会は決して見過ごすことのできない対象であるが、自国への関心の集中、現場の視点の欠如など偏りもあった。本書は従来の枠組みを超え、多様な領域の研究者のほか、アジア各国の研究者、政府関係者、業界関係者が集い、ともに議論を重ねた共同研究の成果。

19世紀フランス象徴主義の巨匠・詩人ステファヌ・マラルメについての諸芸術の相関的研究から、日本の伝統芸術・文化を欧米に紹介してその価値を究めたアーネスト・フェノロサとの関係へと至るものであり、東西の芸術文化の交流の諸相および日本文化の価値を、現代に向けて照らし出す一書。

明治初期、近代化と博覧会ブームを背景に次々と誕生した博物館、その「正史」からはこぼれがちな興味深いエピソードを通して、明治という時代が鮮やかに甦る。巻末に「主要参考文献」「博物館変遷図」「明治博物館年表」を付す。初版1989年。

近代日本で行われた「記念植樹」を歴史事象、林学の創成と展開等時代背景と照合しながら総合的に分析。特に、その主導的立場にあり、方法論を構築した林学者・本多静六に注目し、彼の思想を視野に入れながら記念植樹の歩みを跡づける。2016 / A5判 / 568頁

民俗・文化人類学

朝倉無聲著

見世物研究

巻頭言・郡司正勝／解説・守屋毅
1977・1999 / A5判 / 408頁
本体6,800円 ISBN4-7842-0684-1

舞台芸術や学問から見捨てられてきた見世物は、本書によって初めて歴史的視野と分類の体系を与えられた。記録類を残すまいとする本性に立ち向かい、文化史・民俗学・民族学さらに舞台芸術にも新しい視野を与えた昭和3年版の復刻。新たに補遺・参考資料・解説・索引を付した。【4刷】

満久崇磨著

続 木のはなし

1985・1990 / 四六判 / 250頁
本体1,800円 ISBN4-7842-0392-3

『木のはなし』(品切)の続篇。木のなりたちから古今東西人々の生活に息づく木をめぐる生活文化誌。特に聖書や仏典に登場する木の解説や、日本だけでなく中国その他世界の木に関するエッセイに多くページを割いた。【4刷】

満久崇磨著

同名異木のはなし

1987・1990 / 四六判 / 288頁
本体1,800円 ISBN4-7842-0469-5

カツラと肉桂のように同名でも樹種の違う木、樟と楠のように樹木名が違ってても相通じる樹種、カタギ・テツボクなど特徴による同名異木、ナンジャモンジャノキなど珍名による同名異木、更には金のなる木など欲望の話にまで広がる。随所に和歌などを配し木の文化史にも触れた好著。【3刷】

柳瀬木鶏編

菓子文庫シリーズ [全7冊]

日本古来からの和菓子の伝書を影印し、その翻刻とさらには今日の解説を加える。手すき紙を使用した愛蔵版。

料理新製 以毛百珍	本体 14,563 円
諸国名物 御前菓子秘傳鈔 (全2冊)	本体 24,272 円
林氏塩瀬山城傳來記	本体 14,563 円
餅菓子即席 増補手製集	本体 14,563 円
古今名物御前菓子図式 (全2冊)	本体 24,272 円

1990 / B5判 / 和装帙入 / 平均80頁

奥沢康正記

外国人のみたお伽ばなし
京のお雇い医師ヨンケルの『扶桑茶話』

1994 / A5判 / 370頁

本体7,282円 ISBN4-7842-0806-2

鈴木達也著

喫煙伝来史の研究

1999 / A5判 / 360頁

本体5,500円 ISBN4-7842-1018-0

内田順子著

宮古島狩俣の神歌
その継承と創成

2000 / A5判 / 300頁

本体6,600円 ISBN4-7842-1036-9

上田正昭・上田篤共編

鎮守の森は甦る

社叢学事始

2001 / 四六判 / 250頁

本体2,200円 ISBN4-7842-1086-5

朱家駿著

神霊の音ずれ

太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

2001 / A5判 / 196頁

本体3,500円 ISBN4-7842-1095-4

大阪天満宮文化研究所編

天神祭

火と水の都市祭礼

2001 / B5判 / 200頁

本体2,600円 ISBN4-7842-1092-X

上田篤著

鎮守の森の物語

もうひとつの都市の緑

2003 / 四六判 / 300頁

本体1,700円 ISBN4-7842-1155-1

笹原亮二著

三匹獅子舞の研究

2003 / A5判 / 330頁

本体6,500円 ISBN4-7842-1151-9

芳井敬一郎著

〈第24回江馬賞〉

民俗文化複合体論

2005 / A5判 / 470頁

本体6,600円 ISBN4-7842-1237-X

斎藤英喜著

増補 陰陽道の神々

佛敎大学鷹陵文化叢書17

2012 / 四六判 / 356頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1644-4

明治5年に京都府が招聘したドイツ人医学教師ヨンケルは、講釈師の語る昔話を記録した。本書は、帰国後の1884年ウィーンで出版された『扶桑茶話』（「七福神の宝舟」「漁夫浦島」など33篇）の翻訳と、ヨンケルの履歴・業績・『扶桑茶話』をめぐる詳細な解説、京都府発行文書等の資料からなる。

喫煙が伝来して400年余となるがその経緯については不明部分も多く俗説や風説が流布している。本書では、キリシタン史・対外交渉史・欧州の伝来史まで幅広い史料の探索によってタバコ・キセル・種子などの具体的な伝来を明かす（在外の関係図版多数収録）。

沖縄県宮古島狩俣集落における伝統的祭祀歌謡（神歌）の永年のフィールドワークをもとに、歌われる歌の諸表現が、そのつどどのように生み出され、それが演唱者や社会によってどのように意味づけられてゆくのか。歌詞のみによらない新たな歌謡分析の方法を提示した意欲的な一書。

都市にもある身近な森林「鎮守の森」をテーマに歴史学・自然科学・社会学・建築学など多方面から考察し「社叢学」という新たな学問の可能性の探求とその確立をめざす諸論考と、上田正昭・上田篤両氏による対談を収録。身近な環境問題への考察を深める。

中国・日本を中心とする広い漢字文化圏という背景を念頭におきつつ、音楽の源流を祭祀儀礼音楽に求め、太鼓と鉦や鈴などの呪具、音具に焦点をあて、音楽とは何かを考察する。音と文字の関係、中国の史料や楽器、出土品との比較・検証など、視野を広げた総合的な研究を展開。

口絵カラー 48頁 **天神祭の歴史** 天神祭の起源をさぐる／天神祭の成立と発展 **描かれた天神祭** 天神祭船渡御図について／近世絵画にみる天神祭／夢の中にある船渡御 **発展する天神祭** 「天神祭図巻」について／よみがえった天神丸と御迎人形／天神祭における渡御筋と空間演出

大阪万博の会場計画に「お祭り広場」として鎮守の森の概念を取りこんで以来、調査・研究にあたってきた著者の総決算。「鎮守の森はひとつの生活や生産、信仰や芸能を含む文化複合体」という観点から、北は津軽から南は沖縄まで、鎮守の森を歩いた探訪記録。

神奈川県北部に伝わり、現在も演じられている三匹獅子舞をどのように理解し、記述することができるかという取り組みの成果。上演の実態に焦点を定め、どのように上演しているかを、観察とインタビューを主とした現地調査によって得た情報・資料によって解明を試みる。

民俗文化を生活の諸相の複合体と捉え、庶民層から貴族層までを対象とした多ジャンルの個別研究を総合し、その根底にある日本民族の民族性を抽出する。客観性を重視し、個別研究の範囲で民俗事象の分析に終始してきた従来の民俗学への異議申し立ての書。

コロンビア大学での発表を元にした論考「牛頭天王の変貌と「いざなぎ流」」を収録して増補再版。疫神や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、式王子、呪詛神たち…。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を平易に説く。

金谷美和著

布がつくる社会関係

インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌

2007 / A 5判 / 330頁

本体6,200円 ISBN978-4-7842-1341-2

岩間香・西岡陽子編 / 京極寛写真

祭りのしつらい

町家とまち並み

2008 / B 5判 / 224頁

本体2,200円 ISBN978-4-7842-1360-3

笹原亮二編

口頭伝承と文字文化

文字の民俗学 声の歴史学

2009 / A 5判 / 444頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1447-1

信多純一著

祈りの文化

大津絵模様・絵馬模様

2009 / B 5判 / 170頁

本体3,500円 ISBN978-4-7842-1425-9

武田佐知子編

着衣する身体と女性の周縁化

2012 / A 5判 / 500頁

本体5,800円 ISBN978-4-7842-1616-1

中嶋奈津子著

はやち ねたけ かぐら

早池峰岳神楽の継承と伝播

佛教大学研究叢書 18

本体4,600円 ISBN978-4-7842-1676-5

岡田万里子著

京舞井上流の誕生

2013 / A 5判 / 552頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1672-7

鈴木達也著

世界喫煙伝播史

2015 / A 5判 / 592頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1799-1

斎藤賢喜編

神話・伝承学への招待

2015 / A 5判 / 266頁

本体2,300円 ISBN978-4-7842-1813-4

金 賢旭 著 〈第4回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞〉

翁の生成

渡来文化と中世の神々

【オンデマンド版】

本体5,000円 ISBN978-4-7842-7010-1

染色業者カトリックと彼らの生産する布について民族誌的記述を行い、布の生産・使用によって構築される社会関係について論じる。また同じ衣服体系を共有するムスリムとヒンドゥーの社会関係にも着目し、その様相を明かす。文化人類学的研究において布を視点として社会を分析するというモノ研究の新たな可能性を拓く。

祭りにはまち並みを飾るという側面がある。全国の祭礼を調査してきた編者が、豊富なカラー写真とともに、祭り飾りの歴史と現状、町家の装い、祭りの伝統文化を活用したまちづくり、まち並み保存と祭り、大阪の造り物史などについて執筆。巻末に、探訪ガイドにもなる祭礼百選を付す。

「口頭伝達を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料両者の扱いかたに着目し、新たな研究方法について論じる。国立民族学博物館での共同研究の成果。

江戸時代から近江大津にて作られ、土産として民衆はもちろん文化人の間でも愛された民画・大津絵。その多彩に綾なす信仰、祈り、教訓、そして遊びの画題は、多くの人々の想念の数々を端的に映し出す。その起源・絵馬との共通点・画題の意味など新考察を加え、多くの図版をあげて解説した全大津絵の事典。

着衣という共通の素材を通して、特定の社会におけるジェンダーのあり方を考察。グローバルな視点から、世界における女性の周縁化を説き明かす論文集。取り上げる素材は、「民族衣装」「魔女」「リカちゃん人形」「マイケル・ジャクソン」等、多岐にわたる一書。

早池峰神楽とは、岩手県北上高地の主峰早池峰山麓の二つの集落に伝承される岳神楽と大償神楽の総称である。岳神楽と、その流れを汲む神楽に着目し、師弟構造と機能、岳神楽の継承と伝播について時代背景を踏まえながら解き明かす。

2013 / A 5判 / 234頁

〈第35回サントリー学芸賞・第9回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞・第46回日本演劇学会河竹賞奨励賞〉一際異彩を放つ井上流派は、どのように誕生したのか。近世から近代にいたる流派の歴史を検証し、伝承作品群の成立背景を考証。近世後期京都における芸能的世界の解明に挑む。 【2刷】

前著『喫煙伝来史の研究』において、従来の諸説の問題点に光を当てた著者が、前編では新大陸からヨーロッパ、中近東、アフリカの諸地域へ伝播したタバコと喫煙について考察。後編では日本への伝来、アジア近隣諸国への伝播について、諸説を改めて見直し、時間軸上に矛盾のない説を展開する。

桃太郎は、なぜ桃から生まれてくるのだろうか——その答えは『古事記』のなかにあった。従来、別々のジャンルで扱われてきた「神話」「伝説」「昔話」について、総合・学問的に研究する「神話・伝承学」。本書は11の章と7つのコラムにより、魅力ある「神話・伝承学」の世界へ誘う入門書。

中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見だし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島シャーマニズム文化の影響を指摘。初版2008年。 2016 / A 5判 / 252頁

和食文化国民会議監修

和食文化ブックレット

ユネスコ無形文化遺産に登録された和食

和食の典型的なスタイル、和食文化というべき食べ方、食器、しつらい、マナー。さらに和食の食材、調理法、盛りつけなど、一番基本となる所が学べるテキストシリーズ。郷土料理を含めた広義の和食文化を視野に食育、地産地消、年中行事などとも絡めながら、やさしく説きおこす。関連図版多数掲載。

①和食とは何か

熊倉功夫・江原絢子著

②年中行事としきたり

中村羊一郎著

③おもてなしとマナー

熊倉功夫・後藤加寿子著

④和食と健康

渡邊智子・都築毅著

⑤材料と調理

大久保洋子・中澤弥子著

⑥和食の歴史

原田信男著

⑦うまみの秘密

—和食のだしと調味料—
伏木亨著

⑧ふるさとの食べもの

今田節子・清絢著

⑨日本酒と和食

⑩緑茶と和菓子

2015～／A5判／各96頁／既刊①②（3ヶ月に1回刊行）
（各）本体900円

考古学

韓国文化財管理局編

慶州地区古墳発掘調査報告書

1976 / B5判 / 412頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0323-0

韓国文化財管理局編

九八号古墳(南墳)発掘調査報告書

1976 / B5判 / 72頁
本体2,200円 ISBN4-7842-0322-2

山崎一雄著

古文化財の科学

1987・2002 / A5判 / 380頁
本体6,300円 ISBN4-7842-0482-2

林博通著

大津京跡の研究

2001 / B5判 / 280頁
本体8,800円 ISBN4-7842-1073-3

岡本健一著

蓬萊山と扶桑樹

日本文化の古層の探究

2008 / A5判 / 442頁
本体5,500円 ISBN978-4-7842-1400-6

別府大学文化財研究所・九州考古学会・大分考古学会編

キリシタン大名の考古学

別府大学文化財研究所企画シリーズ②

「ヒトとモノと環境が語る」
本体3,800円 ISBN978-4-7842-1472-3

後藤宗俊著

せんぶつ

埴伝の来た道

白鳳期仏教受容の様相

本体5,700円 ISBN978-4-7842-1433-4

門田誠一著

文学のなかの考古学

佛教大学鷹陵文化叢書19

2008 / 四六判 / 308頁
本体2,300円 ISBN978-4-7842-1430-3

堀内明博著

日本古代都市史研究

古代王権の展開と変容

2009 / B5判 / 514頁
本体15,000円 ISBN978-4-7842-1457-0

慶州市内最大の古墳群である皇南洞古墳群中に包まれる主として地下に埋没していた古墳及び仁旺洞、校洞の古墳の1973年に実施された発掘調査報告書。それらの古墳は4～5世紀頃のもので、慶州古墳の編年、墓制の変革・発展、新羅古墳の最も特徴的な積石木槨古墳の発生・変化等を知る基本資料。

慶州皇南洞第九八号古墳は瓢形墳で、北墳は1974年に発掘され、既に略報告書も刊行（品切）。本書は北墳発掘後、発掘開始した南墳報告書で、主槨・副槨の設置、古新羅古墳の墓槨構造として初めて確認された板壁や砂利、その他武器類の発掘など、古新羅史・新羅古墳・日韓古代史研究の宝庫。

古文化財の科学的研究の第一人者による45年余にわたる成果。正倉院宝物の調査、装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂壁画・栄山寺八角堂・醍醐寺五重の塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの科学分析、銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する報告を収録。【4刷】

天智天皇造営の大津宮の所在地については、多くの学説と論争があったが、1974年の著者による遺構発見以後、数十カ所の発掘が行われ、構造復原の作業が進められた。本書は、永年にわたる大津京論争に決着をつける、初の包括的な研究集成。口絵（8ページ25点の写真）および本文収録図版182点。

中国伝来の神仙思想のうち、不老長生の仙境「蓬萊山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボル。日本の古墳時代を解き明かすうえでの二大キーワードが、なぜか古代史や考古学の分野では、長らく見過ごされてきた。20年前より「前方後円墳＝蓬萊山起源」説を提唱してきた著者の集大成。

キリシタンにかかわる遺跡の発掘が進み、研究は新しい段階に入っている。考古学的成果だけではなく、文献学や分析科学等の他領域の成果も融合し、新しい戦国城下論・キリシタン考古学論・流通論等、新たな研究手法を提示。【2刷】
2009・2014 / B5判 / 178頁

インドから中国を経て奈良に伝来した埴伝が大分県虚空蔵寺跡で多数出土する。「埴伝の来た道」をたどり、折りの諸相と、その途上に浮かぶ僧の信仰と人間像に迫る。虚空蔵寺跡調査に携わった著者が考古・美術史・文献史学など学際的に解明。2008 / A5判 / 322頁

考古学の分野を研究する著者が、小説や古典芸能などに描写された考古学的要素や、それらの背景となった歴史のあるいは文化的な背景について、考古学的に接近を試みる。民話、民謡なども広義の文学として取り扱い、文学と考古学の間に生まれる新たな可能性を提示。図版多数。

都市遺跡発掘調査に携わってきた著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果から解明。掲載図版多数。

門田誠一著

高句麗壁画古墳と東アジア

2011 / A 5判 / 448頁

本体8,600円 ISBN978-4-7842-1546-1

石原 渉 著

いかり

碇の文化史

佛教大学研究叢書 25

2015 / A 5判 / 332頁

本体5,800円 ISBN978-4-7842-1791-5

高句麗古墳壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察。東アジア地域の壁画史料との相關的検討を行い、高句麗社会と文化の一端を復元し、古代のみならず、東アジアの歴史的時空の再構築をめざす労作。

歴史学という大きな枠組みの中から、時には考古学的な見地から出土遺物をとらえ、またあるときは文献資料や絵画資料を駆使し、民俗例や伝承、風俗といったものも絡めて、碇をただ単なる繫船具にとどめることなく、碇の変遷を通して見えてくる文化史を浮き彫りにしていく一書。

史 料

安井小洒校訂
蕉門珍書百種・和露文庫〔全7巻〕
附総索引
1971／B6判／総3700頁
本体35,000円 ISBN4-7842-0082-7

本書は、明治大正に神戸の鉄材商にして俳人、古俳書蒐集で著名であった川西徳三郎（俳名和露）氏の和露文庫蔵の珍書のうち、元禄板行の井筒屋本の俳書を中心に、大正末から昭和4年にかけて安井小洒の正確な校訂のもと出版されたものの復刻である。底本は現在天理大学綿屋文庫のもの。

近衛通隆・田山方南監修／陽明文庫編
陽明叢書国書篇〔全15輯・全16冊〕
1975～1978／菊判／平均520頁
揃 本体189,500円

藤原氏の嫡流である近衛家に歴代集積・収蔵されて来た貴重な史料や文献は、今日、陽明文庫と命名され保存されている。この文庫の内から特に国文学に関係深いものを選び、専門家諸氏の解説を得て写真複製本として公刊。

第1輯 古今和歌集 本体11,000円
第2輯 後拾遺和歌集 本体12,500円
第3輯 千載和歌集・長秋詠藻・熊野懷紙
本体10,200円
第4輯 平安歌合集（全2冊）揃 本体21,600円
第5輯 中古和歌集 本体12,800円
第6輯 中世和歌集 本体11,800円
第7輯 和漢朗詠集・新撰朗詠集 本体10,800円

第8輯 古楽古歌謡集 本体11,800円
第9輯 伊勢物語・大和物語 本体10,800円
第10輯 枕草子・徒然草 本体13,800円
第11輯 保元物語 本体13,300円
第12輯 平治物語・明德記 本体12,000円
第13輯 宇治拾遺物語 本体10,800円
第14輯 中世国語資料 本体13,800円
第15輯 大手鑑・予楽院臨書手鑑 本体12,500円

近衛通隆・田山方南監修／陽明文庫編
陽明叢書国書篇
第十六輯 源氏物語〔全16冊〕
1979～1982／菊判／平均430頁
揃 本体146,000円

『陽明叢書国書篇全十五輯』に引き続き、第十六輯として、青表紙本系にも河内本系にも属さぬ別本として貴重な本文を伝える重要文化財指定「源氏物語」（鎌倉中期書写、陽明文庫収蔵）を原本さながらに写真版で収録、復刻を加え上梓。

徳川黎明會編
徳川黎明會叢書〔全12冊・別冊1〕
1985～／A5判／平均450頁
既刊揃 本体148,000円

徳川黎明會は、昭和6年尾張徳川家第19代侯爵徳川義親公により創立された。本叢書は、同財団所蔵の徳川家伝来あるいは蒐集の膨大な史料の中から、国文学、書道、美術資料として貴重な典籍を精選し、未公開のものを中心にまとめた。

絵巻聚成(一)	物語篇一	本体13,000円
古今和歌集	和歌篇一	本体13,000円
私家集・歌合	和歌篇二	本体12,000円
八代抄・新後拾遺和歌集	和歌篇三	本体14,000円
桐火桶・詠歌一鉢・綺語抄	和歌篇四	本体14,000円
和歌題林抄・三千首和歌・萱草	和歌篇五	本体14,000円
玉海・尾陽	古筆手鑑篇一	本体14,000円
蓬左・霜のふり葉・八雲	古筆手鑑篇二	本体13,000円
藁叢・桃江・文車	古筆手鑑篇三	本体14,000円
鳳凰台・水荳・集古帖	古筆手鑑篇四	本体13,000円
古筆聚成	古筆手鑑篇五	本体14,000円
【未刊】絵巻聚成(二)	物語篇二	第12回配本／索引（別冊）第13回配本

部矢祥子編著

源通具全歌集

1987 / A5判 / 236頁
本体5,800円 ISBN4-7842-0478-4

伊井春樹編

古筆切資料集成〔全6巻〕

1989～1993 / A5判 / 平均470頁
揃 本体49,000円

大阪青山短期大学所蔵品図録 第一輯

1994 / A4判変型 / 350頁
本体7,767円 ISBN4-7842-0744-9

國枝利久編

続撰吟集諸本の研究

1999 / A5判 / 600頁
本体13,000円 ISBN4-7842-1027-X

田中 登 編

平成新修古筆資料集

第一～五集【第一集品切】
2000～ / A5判 / 平均260頁
①本体2,600円 / ②～⑤(各)本体2,500円

小林 強・高城弘一共著

古筆切研究

第一集
2000 / A5判 / 280頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1040-7

宗政五十緒責任編集

うたひせう - 諷諷鈔 - 〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書2
1981 / A5判 / 総1700頁
揃 本体34,000円

大取一馬責任編集

平家物語〔全4冊〕

龍谷大学善本叢書13
1993 / A5判 / 平均520頁
本体42,000円 ISBN4-7842-0794-5

家郷隆文責任編集

四十人集〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書18
1998 / A5判 / 総2100頁
本体48,000円 ISBN4-7842-0970-0

秋本守英責任編集

類聚古集〔全3冊〕

龍谷大学善本叢書20
2000 / B5判 / 総1800頁
本体57,000円 ISBN4-7842-1041-5

各所に散在する源通具の歌を一堂に収め、詠作一覧、通具関係史料抄、源通具古筆切・和歌懷紙並びに消息、年譜、歌語索引、和歌索引を付す。特に克明な年譜は学界に未紹介のものであり、本書はいわば源通具に関するエンサイクロペディアである。

奈良・平安・鎌倉の貴重な古写本や卷子本が解体され、室町末期から江戸初期にかけて大量に出回った古筆切。本書では現物及び複製出版など、今日までに刊行されたものから、一葉ごとに忠実に翻刻し、作品別・伝称筆者順に集成。最終巻には補遺と共に詳細な索引を付す。

古典籍の収集で知られる同短大所蔵の貴重史料の紙上展覧。明月記〔藤原定家〕／拾遺和歌集／陸放翁詩集〔以上重文〕光厳天皇書状／新田義貞訴願状／瑜伽師地論／悉曇略記〔以上重美〕のほか宸翰・古文書・古筆切・写経・仏典・絵巻・奈良絵本・典籍など274点を収録。カラー図版108点。

『続撰吟集』は徳大寺実通が天文9年2月から同10年3月にかけて同家所蔵の詠草類を中心に全8冊約3,400首に編集して書写したもので、『新編国歌大観』にも未収録の貴重史料。本書では陽明文庫本を底本として翻刻し、その他諸本とも厳密な校合を行なった。詳細な解説と初句索引を付載。

古筆切は国文学の研究上重要な資料であり、また優れた美術品でもある。それらは古筆を愛する人々や必要とする人々の共有財産となるべきとの観点から、編者蒐集の所蔵品の中から各約120点を解説と図版で分かりやすく紹介。

近年、古筆切に対する関心が高まりさまざまな研究がなされてきた。本書は著者蒐集の古筆切の選りすぐりの50点を紹介。1点ごとに影印・解題・釈文の他、関連資料についても言及し、詳細な解説を加える。古筆学研究者のみならず、国文学・書誌学・書学・書道史の研究者にとっても必読の書となろう。

文禄4年豊臣秀次の命により開始された謡曲注釈事業により成立した『うたひせう』。龍谷大学所蔵『諷諷抄』は『うたひせう』の成立間もない慶長3・4年の丸山吟庵による書写で、本書はその影印本である。桃山期の文化を窺い、当時の言語現象を把握するための不可欠の資料。解説・曲名索引付。

龍谷大学図書館所蔵写字台文庫旧蔵の「平家物語」全12巻を影印で収録。同書は語り本系一方流諸本の中で覚一本の最善本として高く評価され、文学的にも最も完成された伝本といわれる最古写本。岩波本「日本古典文学大系」の底本となったものである。

本四十人集は平安～鎌倉期にかけての歌人41人の私家集を書写した40冊の叢書で、澄月や小澤蘆庵の門人らが書写し、さらに蘆庵による朱筆の校合・訂正が加えられ、伝本研究のみならず蘆庵の仮名遣いの訂正など興味深い史料である。全冊を影印で収め、各冊に収録分の解説を併載。

万葉集研究に不可欠の孤本『類聚古集』（国宝）を新撮によって完全収録。上段に原本影印、下段に書写状態を完全に反映させた翻刻を収めた。索引篇の各句索引では、本文のみならず朱書き・傍記・異本表記からも検索可能なものを備え、さらに逆引き索引も併載。同冊には研究論文2篇を加える。

大取一馬責任編集

詞源要略・和歌会席

龍谷大学善本叢書24

2004 / B5判 / 290頁

本体19,000円 ISBN4-7842-1196-9

安藤 徹 責任編集

三条西公条

源氏物語細流抄

自筆稿本

龍谷大学善本叢書25

本体28,000円 ISBN4-7842-1234-5

大取一馬責任編集

太平記

龍谷大学善本叢書26

2007 / A5判 / 794頁

本体15,000円 ISBN978-4-7842-1365-8

改造社関係資料研究会（代表・犬塚孝明）編

光芒の大正

川内まごころ文学館蔵

山本實彦関係書簡集

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1459-4

正智院監修 しょうちいん

高野山正智院連歌資料集成

高野山正智院経蔵史料集成四・五〔全2冊〕

2013 / A5判 / 総856頁

本体20,000円 ISBN978-4-7842-1690-1

大取一馬責任編集

中世歌書集

龍谷大学善本叢書31

2013 / A5判 / 650頁

本体13,300円 ISBN978-4-7842-1688-8

中本 大 編

めいようしゅう

名庸集 影印と解題〔全3巻〕

2013 / A5判 / 総1282頁

本体38,000円 ISBN978-4-7842-1708-3

室町後期の清原宣賢による自筆二点の史料を影印と翻刻で収録。和歌に関する分類体としての辞書である『詞源要略』と和歌作法書としての『和歌会席』は、いずれも清原家の和学（古典学）の成果であり、歌学史・辞書史の基本史料。

『細流抄』を親本とした三条西実隆の『源氏物語』講釈の聞書にもとづき、子の公条が注釈書の草稿として作成したものと考えられる。三条西源氏学の歴史や『源氏物語』註釈史を考察する上で貴重な資料。影印と全文翻刻を収載

2005 / B5判 / 706頁

龍谷大学図書館所蔵の『太平記』は、室町時代末期の写本で、巻1から巻12までの12冊である。現在の分類では丙類の天正本系統に分類され、国立国会図書館蔵義輝本と同じ祖本をもつ伝本であるという位置づけがなされている。また当該本は寫字臺文庫本の一つである。全冊を影印で収録。

大正デモクラシーの寵児、『改造』を創刊した山本實彦。川内まごころ文学館蔵の彼または改造社宛書簡のうち、雑誌が光り輝いた大正8（1919）～昭和5年（1930）までの書簡を活字化。収録書簡132通の差出人は小説家、学者、思想家など。

2009 / A5判 / 290頁

正智院は平安時代創建の学侶方宝門の筆頭寺院で、有力大名の信頼も厚く、貴重な仏像、仏画、典籍等を多数所蔵している名刹。本書は、すでに吉川弘文館刊行の経蔵史料集成一（正智院文書）、同集成二・三（正智院聖教目録上・下）に続き、未発表の連歌資料の優品10点を影印刊行。目録も併載。

龍谷大学図書館所蔵、写字台文庫とは、西本願寺歴代宗主が収集し、室町期にまでさかのぼる古刊本、古写本等のコレクション。その旧蔵歌書のうち、天下の孤本や最古の写本など貴重書と認められる5点の典籍を選び影印公開、解説を付す。

【内容】愚見抄／光闍百首／詞字注／自讀歌注／九代抄

幻の史料『名庸集』。室町時代の学僧が用いた「人名引き百科辞書」といえ、340余名の人名を「帝王」「聖賢」「補弼」「將軍」「文人・驛客」「道家・諸子」「美人」「仙人」の順に配列。中世から近世初期にいたる文学史・歴史・美術史等の研究に資する。ツレの『燈分集』影印と、編者による解題を付す。

個人著作集・全集

三宅清編纂

ふじたにみつえ

新編 富士谷御杖全集〔全8巻〕

1979～／菊判／平均650頁

③品切 揃 本体96,700円（品切除く）

能勢朝次著作集編集委員会編

のせあさじ

能勢朝次著作集〔全10巻〕

1981～1985 / A5判 / 平均450頁

揃 本体57,900円

昭和11～15年に国民精神文化研究所から「富士谷御杖集」5巻が出版。本書は、その復刻に新資料を加えたもの。江戸中期の国学者にして歌人、富士谷御杖が、彼独自の解釈学・歌学を樹立していったかを知る絶好の史料である。

近世の俳諧に始まり和歌・連歌に及び、遂に中世能楽の源流を究め能楽論の系譜を解析、名著『能楽源流考』を著した博士の全貌を窺う、能勢学の集大成。

高橋貞一著

高橋貞一国文学論集

1982 / A5判 / 376頁
本体7,500円 ISBN4-7842-0195-5

『平家物語諸本の研究』という画期的な名著をはじめ、『保元物語』『平治物語』は勿論、『義経記』『太平記』など軍記物の研究では他の追随を許さぬ高橋貞一博士の古稀記念出版。本書には、氏の主領域を越えて国文学全域に注がれた氏の考察を窺える諸論稿22篇と六代勝事記新註を収める。

上 代

桑原祐子著

正倉院文書の国語学的研究

2006 / A5判 / 300頁
本体5,400円 ISBN4-7842-1275-2

正倉院文書は、原本の存在、編纂物ではない、多種多様な内容、多量の同類文書・帳簿の存在、筆録者と年月日が特定できるなど、他の古代国語資料にはない特質を持つ。本書は具体的な語彙に注目、文字の形態と語の意義の関係を明かし、新語の発生・ゆれ・定着の過程を実証し、語の変遷を考察。

中 古

高橋貞一校訂

平家物語百二十句本

1973 / A5判 / 668頁
本体4,000円 ISBN4-7842-0131-1

百二十句本の伝本は、古く国会図書館蔵の九冊本と京都府立総合資料館蔵本が知られ、更に天理大学蔵本（大島氏・鍋島家旧蔵）、安田文庫蔵本と国会図書館蔵本（古典文庫影印）が加わった。本書は総合資料館蔵本の翻印で、平仮名本である性質上、平家物語研究者のみならず、国語学的にも貴重。

高橋貞一著

続 平家物語諸本の研究

1978 / 菊判 / 610頁
本体9,800円 ISBN4-7842-0175-0

昭和18年『平家物語諸本の研究』において注目された著者が長い間の平家物語伝本の研究の成果を再び学界に問う。**【第1章】**一流より八坂流へ移る初期の諸本**【第2章】**八坂流甲類諸本**【第3章】**八坂流乙類諸本**【第4章】**増補せられた諸本**【第5章】**その他の研究**【第6章】**附載論文

中川浩文論文集 下巻

源氏物語の国語学的研究

1985 / A5判 / 552頁
本体14,000円 ISBN4-7842-0198-X

京都女子大学、龍谷大学で教鞭をとり、物語文学・和歌文学・仏教文学の国語的研究・指導に励んだ氏の遺稿のうち、源氏物語の表現と語法の論考12篇、和歌『元輔集・紫式部集』に関する論考4篇、仏教文学、主として和讃に関する論考8篇を収める。付・中川浩文略歴・著作目録

鈴木弘道著

平安朝文学とその周辺

1989 / A5判 / 380頁
本体8,500円 ISBN4-7842-0558-6

平安朝末期の物語研究を中心に研究を進めてきた著者の未刊の論考をまとめる。本来の研究領域だけでなく、「源氏物語」「枕草子」など、平安朝文学全般にわたる論考6篇と、随想その他4篇、巻末には鈴木弘道略年譜・鈴木弘道著作目録を収める。

高橋貞一著

平家物語覚一本新考

八坂流本の成立流伝
1993 / A5判 / 418頁
本体9,600円 ISBN4-7842-0785-6

平家物語は、その流派独自の語り本が成立・流传する中で、様々な異本が存在した。本書では12巻の覚一本を最も信憑すべき伝本と見、覚一本を読む中で気づいた諸点をあげながら、その成立根拠を確認し、覚一本から派生した八坂流本の成立流伝に注目すべき本文を引用して、比較・検討した。

秋本守英著

仮名文章表現史の研究

1996 / A5判 / 230頁
本体6,000円 ISBN4-7842-0902-6

王朝仮名文学とその影響下に成立した作品の文章表現を対象に〈文章表現史〉研究の方法論の確立を試みる
【内容】 仮名文章表現史の対象と方法／仮名文章の草創／和歌的枠組による仮名文章の形成／仮名文章体の成立／仮名文章体の形成要素／仮名文章の展開

角田文衛・加納重文編

源氏物語の地理

1999 / A 5判 / 436頁
本体6,200円 ISBN4-7842-1010-5

西崎 亨 著

訓点資料の基礎的研究

1999 / A5判 / 530頁
本体18,000円 ISBN4-7842-1001-6

鈴木徳男著
としよりずいのう

俊頼髓腦の研究

2006 / A5判 / 300頁
本体8,000円 ISBN4-7842-1296-5

国文学研究資料館編

源氏物語 千年のかがやき

2008 / A 4判 / 168頁
本体1,900円 ISBN978-4-7842-1437-2

川崎佐知子著

『狭衣物語』享受史論究

2010 / A 5判 / 650頁
本体12,000円 ISBN978-4-7842-1486-0

伊井春樹編

一千年目の源氏物語

シリーズ古典再生 1

2008 / 四六判 / 252頁
本体1,600円 ISBN978-4-7842-1408-2

岡野弘彦編

日本の心と源氏物語

シリーズ古典再生 2

2009 / 四六判 / 246頁
本体1,800円 ISBN978-4-7842-1412-9

山中裕編

歴史のなかの源氏物語

シリーズ古典再生 3

2011 / 四六判 / 310頁
本体2,200円 ISBN978-4-7842-1423-5

逸翁美術館・池田文庫編

源氏物語 遊興の世界

2012 / A 4判 / 98頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1655-0

作品の世界を交差する虚構と実在。等閑視されてきた源氏物語の地理的考察において創始的な研究論文を集成。作品中に形象した地理の世界を把握。【執筆】玉上琢彌／長谷章久／角田文衛／増田繁夫／加納重文／大井重二郎／原田敦子／小山利彦／森本茂／池浩三／高橋和夫／奥村恒哉／福岡昭治

不空羅索神呪心経・金光明最勝王経・三教指帰・古文孝経・論語抄・和漢朗詠集・音義断簡などの諸資料にみられる訓点についての貴重な基礎研究22篇を収録。

『俊頼髓腦』は、源俊頼の著した平安後期の歌学書である。本書は、先行歌書や歌学的知見の受容という観点からその構造を分析、その享受・影響を考察し、それぞれ『俊頼髓腦』の和歌史的意義を浮き彫りにしたものである。付録として伝本の性格を検討した二論を加える。

新出の国文学研究資料館蔵『源氏物語团扇画帖』全54枚をカラーで掲載し、詳細な解説を付す。あわせて図様が近似する他の源氏絵についても参考資料として多数掲載。描く・書き写す・鑑賞するという3つの観点から、源氏物語が千年間どのように享受されてきたのか、豊富なカラー図版で紹介。

平安朝後期物語の『狭衣物語』の受容の様相を文献学的見地から分析検証し、連歌師紹巴が天正18年に著した『狭衣下紐』を享受史の中心に位置づけた一書。陽明文庫蔵『狭衣下紐』2種、宮城県図書館伊達文庫蔵『狭衣物語抄』など未紹介資料5種を全文翻刻掲載。物語文学研究の新スタンダード。

たんなる古典復興ではなく、それらの作品を現代の眼でもう一度見直して再生することを目指して開催された国文学研究資料館主催シンポジウム「一千年目の源氏物語」、思文閣出版・京都新聞社主催シンポジウム「私の源氏物語」をもとにし、斯界の識者による「源氏物語論」を集約。

歌人である編者が源氏物語に表れた日本の心を読み解く。【内容】『源氏物語』から読む日本人の心の伝統（岡野弘彦）『源氏物語』（グレート・ブックス）の演習方法と実際（須賀由紀子）民俗学から読む『源氏物語』（松田義幸）『源氏物語』の感染教育力（江藤裕之）ネットワーク時代の源氏物語（犬塚潤一郎）

撰関時代の文化のあり方、女流日記と女房文学の本質、とくに藤原道長の存在と紫式部との関係に重点を置いた編者渾身の『源氏物語』論を第一部とし、第二部以降では、准拠論、節会の本質と意義、年中行事・通過儀礼の宴と儀式の本質など、15人の気鋭が、最新の研究成果を展開する。

2012年9月15日～12月2日まで逸翁美術館で開催の同名の展覧会並びに、池田文庫で開催の「宝塚歌劇の源氏物語」展の展覧会図録。物語に描かれた「奏楽」等「遊興」に注目。屏風や画帖等に再現された「遊興」の世界を辿る。「幻」の写本 大澤本源氏物語 や、宝塚歌劇上演の『源氏物語』を紹介。

谷山 茂 著

中世和歌つれづれ

1993 / 四六判 / 380頁
本体2,913円 ISBN4-7842-0787-2

和歌研究の泰斗である著者が折りに触れて書き留めてきたエッセイ(健忘症と白桃/英国とセイロン/親爺の下駄ほか)をはじめ、歌誌『帯木』などで発表した和歌に関する小論、和歌研究者の著書に寄せた序・解題、大阪市立大学・京都女子大学時代の思い出など、短篇47本を収める。

谷山 茂 著

中世和歌の想念と表現

1993 / A5判 / 450頁
本体9,600円 ISBN4-7842-0786-4

【内容】歌の家/和歌史/幽玄/妖艶と幽玄/藤原俊成の研究/俊成の幽玄と優艶と長高/常識的天才藤原俊成/『千載集』類別伝本考/新古今一本歌考/後鳥羽院/藤原定家/『明月記』の一零本について/宗尊親王の文応三百首と本刊百首/伊経筆『三百六十番歌合』の新出奥書について/異本『忠盛集』解題/『公重集』解題/内裏百番歌合承久元年 ほか

高橋貞一校訂

新校 太平記〔全2巻〕

1976 / 菊判 / (各) 650頁
(各) 本体9,500円
 上 (ISBN4-7842-0170-X) 下 (ISBN4-7842-0171-8)

室町末期成立の四十巻本である現在の「太平記」。その旧態をとどめる古写本の印行は、神田本と西源院本のみである。この神田本によって増補された所を旧形に復し、その欠失する巻々を西源院本によって補い、更に今川家本相承院本等を参照して誤説を訂正、旧態の「太平記」の提示を試みる。

高橋貞一著

太平記諸本の研究

1980 / 菊判 / 860頁
本体15,000円 ISBN4-7842-0181-5

本書は、「太平記」の諸伝本を四系統に大別し、それぞれの伝本の性質、成立事情を考究、またその出典を国書、漢籍、仏典と分類して総合的に検討する。「太平記」の性格を究明し、その基礎的研究としては空前のものである。

大取一馬編著

新勅撰和歌集古注釈とその研究〔全2巻〕

1986 / A5判 / 総2342頁
本体45,000円 ISBN4-7842-0416-4

定家晩年の独撰になる新勅撰和歌集は、中世歌壇の主流派である二条家の人々に重んじられた。そのよみを深め、定家歌論の到達点や新古今集から新勅撰集への展開を確認するためには、古注釈を座右に備え、各注釈に対する知見も整理しておくことが要請される。その要請に取り組んだのが本書。

牧野和夫著

延慶本『平家物語』の説話と学問

2005 / A5判 / 402頁
本体12,000円 ISBN4-7842-1258-2

延慶本『平家物語』を中心に『親快記』『源平盛衰記』、長門本『平家物語』などと比較し、中世説教資料や唱導の問題に関する論考を収録。

白幡洋三郎編

百人一首万華鏡

2005 / B5判 / 196頁
本体2,400円 ISBN4-7842-1223-X

日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首。その歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりをさぐる。テーマにそった版本、各種カルタ、翻訳本など、カラー口絵・図版多数収録。国際日本文化研究センターの共同研究。

大取一馬編

中古中世和歌文学論叢

龍谷大学仏教文化研究叢書 9
 1998 / A5判 / 300頁
本体7,800円 ISBN4-7842-0983-2

四十人集の調査・研究過程で各執筆者が見出したテーマ。中古中世の和歌の理念や特質、古代和歌受容の問題、作品の成立や解釈に関わる問題、新出資料の価値や散佚私家集を解明する9篇。【執筆著】家郷隆文/石原清志/大取一馬/日下幸男/部矢祥子/中西潔/小林強/木村初恵/安井重雄

大取一馬編

中世の文学と学問

龍谷大学仏教文化研究叢書15
 2005 / A5判 / 492頁
本体8,400円 ISBN4-7842-1271-X

中世の文学や学問の特質の一端を考察し明らかにする。
 【執筆著】大取一馬 中世の学問 三輪正胤/安井重雄/来田隆 中世の文学 鈴木徳男/小山順子/忠住佳織/松田美由貴/浜畑圭吾/宮川明子 中世の作品の享受とその展開 西山美香/中條敦仁/小林強/万波寿子/日下幸男

糸井通浩編

日本古典随筆の研究と資料

龍谷大学仏教文化研究叢書 19

2007 / A 5判 / 482頁

本体7,200円 ISBN978-4-7842-1349-8

日下幸男編

中世近世和歌文芸論集

龍谷叢書 15

2009 / A 5判 / 432頁

本体6,000円 ISBN978-4-7842-1446-4

小田 剛 著

実国・師光全歌注釈

2009 / A 5判 / 608頁

本体18,000円 ISBN978-4-7842-1478-5

酒井茂幸著

禁裏本歌書の蔵書史的研究

2009 / A 5判 / 344頁

本体5,600円 ISBN978-4-7842-1483-9

西崎亨著

くしやろんおんぎ

俱舎論音義の研究

2010 / A 5判 / 410頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1509-6

逸翁美術館編

絵巻 大江山酒吞童子・芦引絵の世界

2011 / A 4判 / 96頁

本体1,000円 ISBN978-4-7842-1591-1

大取一馬編

典籍と史料

龍谷大学仏教文化研究叢書 28

2011 / A 5判 / 686頁

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1592-8

磯水絵・小井土守敏・小山聡子編

源平の時代を視る

二松學舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』を中心に
二松學舎大学学術叢書

本体4,800円 ISBN978-4-7842-1735-9

大取一馬編

日本文学とその周辺

龍谷大学仏教文化研究叢書 33

2014 / A 5判 / 626頁

本体8,400円 ISBN978-4-7842-1771-7

浜畑圭吾著

平家物語生成考

2014 / A 5判 / 320頁

本体7,000円 ISBN978-4-7842-1769-4

龍谷大学図書館所蔵の日本古典随筆に関する伝写本を調査した研究プロジェクトの成果。『枕草子』『徒然草』雨森芳洲『交隣提醒』についての論文7篇。古典随筆伝写本5本を翻刻。

【執筆者】安藤薇／東望歩／外山敦子／糸井通浩／木村雅則／朝木敏子／山崎泰正／忠住佳織／万波寿子／雨森正高

編者の華甲記念として、関西を中心に活動する近世和歌輪読会による17篇。【執筆者】中世篇 安井重雄／阿尾あすか／長谷川千尋／長谷川薫 近世篇 大谷俊太／岡本聡／藤本孝一／海野圭介／小高道子／日下幸男／西田正宏／神作研一／盛田帝子／久保田啓一／中川豊／加藤弓枝／万波寿子

千載・新古今歌人の一人である藤原実国(1140年～1183年)、源師光(生没年未詳)の全歌注釈を試みる。歌(及び詞書など)の本文については、実国集「神宮文庫蔵本」、師光集「三手文庫蔵本」などによった。注釈は、校異、語注、(口語)訳、本歌・本説、補説・参考事項、類歌などを掲載。

禁裏本の総体を蔵書群として捉え、同時代の公家日記や古歌書目録類を援用しつつその伝来の歴史を跡付ける。また、禁裏における歌学や古典文学の注釈・講釈に注目し、古典学の変遷を叙述する。中世後期以降、歴代天皇がどのような歌書を求め、書写し、収蔵していたかを明らかにする一書。

『俱舎論音義』は『阿毘達磨俱舍論』と『俱舎光記』から難解な単字や熟字である漢字を抽出して、その音・訓について註釈を加えた巻音義。語彙史料として、鎌倉初期国語アクセント資料としても有益な史料である。主な写本について、影印(写真版)と模写で掲載、論考と各種索引を付す。

2011年9月17日～12月4日まで逸翁美術館で行われた同名の展覧会図録。逸翁美術館所蔵「大江山絵詞」(重文)とサントリー美術館所蔵「酒伝童子絵」を各々全巻カラー掲載し、酒伝童子絵巻の二大系統を対比。館所蔵「芦引絵」(重文)など、逸翁小林一三の絵巻コレクションを一挙公開。

1961(昭和36)年、親鸞聖人大遠忌記念事業の一環として開設された、龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による、真宗学・仏教学・史学・国文学等の分野にまたがる広汎な仏教文化の最新研究成果。

二松學舎大学東アジア学術総合研究所「二松學舎大学附属図書館蔵 奈良絵本『保元物語』『平治物語』の翻刻と研究」の軌跡と成果。【内容】二松學舎大学附属図書館所蔵の奈良絵本『保元物語』『平治物語』の諸相／奈良絵本と軍記物語
2014 / A 5判 / 278頁

龍谷大学仏教文化研究所の研究者陣による指定研究、「龍谷大学図書館蔵中世歌書の研究」(平成23～25年度)において問題になった諸点や、温めてきた問題の論文を三部構成にまとめた一書。時代・分野が異なる専門領域をもつ各研究者により、和歌文学にとどまらず、多岐にわたる論文を収録。

治承寿永の源平争乱という「歴史」を題材に、様々な「物語」一諸本を生成してきた編者たちの思惑とは、何であったのか。本書では、平家物語諸本の比較を通して独自の表現や記事、改変された部分をあぶり出してその基盤を追究し、物語生成の動機や場、背景をつぶさに考察する。

芳澤勝弘編著
せつそうじよりゆう

雪叟紹立 雪叟詩集訓注

2015 / A 5判 / 876頁
本体15,000円 ISBN978-4-7842-1801-1

愛知県豊橋市太平寺に架蔵される写本『雪叟詩集』は、室町後期の住持雪叟紹立及び周辺の禅僧の詩文集。妙心寺派の僧による詩、法語、古則に対する著語、文、書簡等であり、高度なテクニックはまさに「五山文学」そのものである。翻刻・訓読に加え、語句・表現についての注、索引を付す。

近 世

山本唯一著

芭蕉の文墨

その真偽

1997 / 四六判 / 202頁
本体2,000円 ISBN4-7842-0947-6

新出『奥の細道』は芭蕉真筆か——新出版に対する著者の考えを豊富な事例をあげつつ述べるとともに、偽物が多いと定評のある芭蕉作品の真偽をめぐる諸種の話を披露する。

村上素道編

増補 蓮月尼全集

1980・2006 / A 5判 / 770頁
本体12,000円 ISBN4-7842-0182-3

江戸末期の歌人、大田垣蓮月は、次々と肉親と死別し、出家の後孤高の生涯を送るが、その作風は閑雅、清新、また作陶でも知られ、多芸の人であった。本書は、蓮月の歌、消息、伝記を収めた『蓮月尼全集』（昭和2年）に、新たに発見された歌集、書画帖（花くらべ）、消息51通を増補。 【2刷】

山口恭子著

松花堂昭乗と瀧本流の展開

2011 / A 5判 / 356頁
本体8,600円 ISBN978-4-7842-1559-1

松花堂昭乗の書は瀧本流と呼ばれ、近世の書文化を席卷する一大書流へと成長していった。昭乗と瀧本流の書について造型的な面のみならず、昭乗の著述した文芸作品、瀧本流の法帖など、文献資料や版本に対する検討を行い、近世の書道史、出版史、文化史など広範な研究分野に新しい知見を提供。

石塚 修 著〈平成26年度茶道文化学術奨励賞〉

西鶴の文芸と茶の湯

2014 / A 5判 / 316頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1730-4

浮世草子作家の嚆矢であり江戸時代前期を代表する作家の一人、井原西鶴。その文芸作品に、いかに当時の茶の湯文化が反映されていたのか。西鶴が浮世草子作家になる以前の俳諧師時代、さらに『好色一代男』から遺稿集にいたるまでの浮世草子作品をとりあげ、その影響関係を検証。

近 代

与謝野光著

晶子と寛の思い出

1991 / 四六判 / 270頁
本体1,748円 ISBN4-7842-0668-X

与謝野晶子没後50年に際し、明治35年生まれの名男が、家庭における寛（鉄幹）と晶子、そして新詩社に集まった多彩な浪漫派歌人たちの思い出を語る。

【2刷】

岩城之徳監修／遊座昭吾・近藤典彦編

石川啄木入門

1992 / B5判変 / 164頁
本体1,942円 ISBN4-7842-0743-0

巻頭カラーアルバム16頁をはじめ、300余点に及ぶ写真資料を中心に構成した“目で見える”伝記、作品鑑賞の手引きとなる名作事典、啄木の足跡をたどる歌碑めぐり文学紀行ほか、研究史、年譜などを収録。啄木とその文学を知るには最適の入門書。

和田茂樹監修・和田克司編

正岡子規入門

1993 / B5判変 / 120頁
本体1,942円 ISBN4-7842-0768-6

写真を中心に子規の生涯をたどる“目で見える”伝記をはじめ、俳句・和歌・漢詩・その他の文章といった子規の創作活動や、夏目漱石との交友など周辺の人々との関わりを解明し、近代俳句の確立者である正岡子規の全体像を明らかにする。

山口誓子著

新撰大 洋

1996／四六判／244頁
本体3,690円 ISBN4-7842-0904-2

柴田奈美著 〈第17回俳人協会評論賞〉

正岡子規と俳句分類

2002／B5判／568頁
本体18,000円 ISBN4-7842-1097-0

田島和生著 〈第20回俳人協会評論賞〉

新興俳人の群像

「京大俳句」の光と影
2005／四六判／298頁
本体2,300円 ISBN4-7842-1251-5

井波律子・井上章一編

幸田露伴の世界

2009／A5判／318頁
本体5,000円 ISBN978-4-7842-1444-0

増田裕美子・佐伯順子編

日本文学の「女性性」

二松學舎大学学術叢書
2011／A5判／232頁
本体2,300円 ISBN978-4-7842-1549-2

逸翁美術館編

与謝野晶子と小林一三

2011／A4判／94頁
本体1,000円 ISBN978-4-7842-1567-6

伊井春樹著

与謝野晶子の「源氏物語礼讃歌」

2011／四六判／226頁
本体1,400円 ISBN978-4-7842-1568-3

坂井 健 著

没理想論争とその影響

佛教大学研究叢書27
2016／A5判／374頁
本体8,900円 ISBN978-4-7842-1834-9

句集『紅日』以後没するまでに発表した、「天狼」発表の481句に外部発表の133句を加えた、誓子最晩年の作品614句を網羅した遺句集の決定版。

正岡子規の古典俳句を網羅した生涯の労作『分類俳句全集』所収の約10万句の中から「寒山落木」所収の子規の俳句約2万句に影響を与えたと思われる句を抜き出し、その実態を年代順に検証し、子規俳句の近代化の過程をたどった労作。

日中戦争から太平洋戦争へと突入した時代、新興俳句運動の旗手とされた同人誌『京大俳句』。しかし昭和15年、言論弾圧法規の治安維持法違反で逮捕者を出し、廃刊に追い込まれた。「幻の終刊号」などの資料をもとに、新興俳句運動が目指したもの、そしてなぜ弾圧されたかを探る。

従来、全面的な研究のなかった露伴。文学面はもちろん都市・遊技・自然観察・人生論等々の著作から多角的にアプローチ。国際日本文化研究センターでの共同研究13篇。【執筆】井波律子／池内紀／白幡洋三郎／猪木武徳／細川周平／平松隆円／佐伯順子／井上章一／鈴木貞美／岩井茂樹／劉建輝

3年間にわたり、日本文学と女性性の問題を正面から議論した二松学舎大学東アジア学術総合研究所の共同研究プロジェクトの成果。「純文学」からライトノベルまで多様な題材をとりあげる。【執筆】増田裕美子／市川裕見子／平石典子／佐伯順子／菅聡子／大貫徹／杉山直子／藤木直実／日野由希

2011年4月2日～6月12日に逸翁美術館で開催された同名の展覧会図録。晶子が源氏物語五十四帖それぞれの歌を詠んだ「源氏物語礼讃歌」短冊54枚、そのきっかけになった、上田秋成筆「源氏物語短冊貼上屏風」、それらの由来となる手紙を収録。新しい面からの両者の関係性を紹介する。

「源氏物語礼讃歌」とは、上田秋成他筆「源氏物語短冊貼上屏風」に感銘を受け、与謝野晶子が源氏物語五十四帖それぞれに歌を詠んだものである。本書は「源氏物語礼讃歌」にまつわるエピソードを描くことにより、周辺の人々との交流を浮き彫りにする一書。

明治の文学者たちは、イデーをどのように把握、表現しようとしたのか。『早稲田文学』と『しがらみ草紙』を舞台に坪内逍遙と森鷗外との間で繰り広げられた「没理想論争」を軸に、明治の文学者たちがイデーと現実との関係をどのように捉えようとしたのか、文学史にどう影響したのかをたどる。

日本比較文学会編

滅びと異郷の比較文化

1994 / A5判 / 516頁
本体14,000円 ISBN4-7842-0821-6

第一線の比較文化研究者が「滅び」と「異郷」のヴィジョンを東西の文学・文化・美術に探る。

【執筆】河竹登志夫／大久保直幹／村松定孝／堀江珠喜／相野毅／小川敏栄／剣持武彦／斎藤幸子／館野日出男／森本真一／ジョン・ドーシー／富田仁／相良英明／西村靖敬／蔵本邦夫／小宮彰／松岡直美／飯田正美／今橋映子／榎本義子／前田千悦子／諸坂成利／ソーントン不破直子／小田桐弘子／佐藤慶子／杉野元子／佐藤三武朗／山口静一／銭本健二／市川裕見子／盧英姫／村岡正明／沼野恭子／児玉実英／小玉晃一

川本皓嗣編

美女の図像学

1994 / 四六判 / 300頁
本体3,300円 ISBN4-7842-0820-8

容貌の美は、さまざまな文化の中で、それぞれの芸術的表現を与えられてきた。本書では、日韓中米の五人が、女性描写の伝統と美の思想を論じる。【内容】光の女（佐伯順子）ヒロインの図像学（尹相仁）影の女（アダム・カバット）ムスメたちの系譜（満谷マーガレット）朦朧の美学（張競）

太田靖子著

俳句とジャポニスム

メキシコ詩人タブラダの場合

2008 / A5判 / 328頁
本体5,800円 ISBN978-4-7842-1404-4

一世紀も前にスペイン語でハイクを書いていたメキシコの詩人、ホセ・ファン・タブラダ。いかにして日本の俳句を知り、ハイクを創作するに至ったかを明かし、日本の俳句の本質へいかに接近したか、その評価を試みる。俳句をスペイン語圏に広めながらも、研究の乏しい彼のハイク作品に光を当てる。

工藤貴正著

くりやがわはくそん

中国語圏における厨川白村現象

隆盛・衰退・回帰と継続

2010 / A5判 / 378頁
本体6,000円 ISBN978-4-7842-1495-2

厨川白村（1880～1923）の著作が彼の死後、日本では急速に忘れ去られたのに対し、中国語圏（中国、台湾、香港）の知識人たちの間では、今なお知名度が高い。いかに受容・翻訳され、その特徴はいかなるものだったのか、基本的資料を示しながら考察した、厨川白村を軸とした日中台の文学交流史。

坂元昌樹・田中雄次・西横偉・福澤清編

漱石と世界文学

2009 / 四六判 / 260頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1460-0

「世界文学において漱石をとらえなおす」。夏目漱石が世界文学を意識し、そこから多大な影響を蒙ったことの検証だけでなく、漱石が日本文学を含め世界文学に与えたインパクト、世界で漱石文学がいかに受容されたのかなどをも見極める9篇。熊本大学教員を中心とした共同研究。

坂元昌樹・田中雄次・西横偉・福澤清編

漱石文学の水脈

2010 / 四六判 / 260頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1506-5

漱石文学がどのような思想と背景のもと生み出されたのか、日本を含む東アジア文化圏においてどのように受け入れられ、どのような影響を与えてきたか、「＜漱石＞への水脈」と「＜漱石＞からの水脈」の二つのテーマから検証する10篇。漱石ゆかりの熊本大学の教員を中心とした共同研究の成果。

坂元昌樹・西横偉・福澤清編

越境する漱石文学

2011 / 四六判 / 284頁
本体2,800円 ISBN978-4-7842-1565-2

「〈世界〉からみた「漱石」」「〈世界〉をまなざす「漱石」」の2テーマから考察する8篇。【内容】〈地方〉と〈世界〉の間で／異文化の対話／〈知〉の覇権へのまなざし／精神病者をどう描くか／漱石作品と思想／漱石『文学論』の布石／第五高等学校時代の夏目漱石

松村昌家編

谷崎潤一郎と世紀末

大手前大学比較文化研究叢書1

2002 / A5判 / 212頁
本体2,800円 ISBN4-7842-1104-7

日本比較文学会のシンポジウムをもとに、海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。ノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。【執筆】井上健／松村昌家／劉建輝／大島眞木／稲垣直樹／森道子訳／和田桂子訳

川本皓嗣・松村昌家編

ヴィクトリア朝英国と東アジア

大手前大学比較文化研究叢書 3

2006 / A5判 / 276頁

本体3,200円 ISBN4-7842-1297-3

日本・中国・朝鮮と英国との文化交流誌【内容】ムスメに魅せられた人々／キプリングと日本／交差する両洋の眼差し／中村正直／福沢諭吉におけるW・バジョット問題／文明史・G・G・ゼルフィとT・B・麻侯礼卿／ミルのOn Libertyは明治日本と清末中国でどのように読まれたか ほか

松村昌家編

夏目漱石における東と西

大手前大学比較文化研究叢書 4

2007 / A5判 / 208頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1335-1

明治の文豪、夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋の概念と東洋の概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の文学者たちによる漱石文学論。【執筆】松村昌家／仙葉豊／佐々木英昭／飛ヶ谷美穂子／大高順雄／神田祥子／森道子

川本皓嗣・松村昌家編

阪神文化論

大手前大学比較文化研究叢書 5

2008 / A5判 / 290頁

本体3,200円 ISBN978-4-7842-1398-6

歌枕に詠まれたいにしへの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸——文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【執筆】川本皓嗣／杉橋陽一／辻一郎／岩谷幹子／松原秀江／尾崎耕司／松村昌家

川本皓嗣・上垣外憲一編

一九二〇年代東アジアの文化交流

大手前大学比較文化研究叢書 6

2010 / A5判 / 232頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1508-9

大正デモクラシー下の日本では、好景気と安定した国際関係により、海外交流が新展開を見せた。未開拓の部分も多い当時の文化交流の様相を、当該各国の研究者が明かす。

【執筆】上垣外憲一／趙怡／松村昌家／金春美／古田島洋介／Cody Poulton／陳凌虹／周小儀／川本皓嗣

川本皓嗣・上垣外憲一編

一九二〇年代東アジアの文化交流Ⅱ

大手前大学比較文化研究叢書 7

2011 / A5判 / 274頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1584-3

未開拓な部分が多い1920年代の東アジアの文化交流。当該各国の研究者を結集してその様相を解明する第二弾。演劇・詩歌・文芸などをテーマに東アジアを総観。【執筆】カレン・ローラ・ソーンバー／竹村民郎／程朝翔／周閑／劉岸偉／梁東国／趙怡／岩谷幹子／嚴安生

川本皓嗣・上垣外憲一編

比較詩学と文化の翻訳

大手前大学比較文化研究叢書 8

2012 / A5判 / 280頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1637-6

国際比較文学会（ICLA）会長であった故アール・マイナー氏の追悼と、同じくICLA会長を務めた川本皓嗣大手前大学学長の退官を祝うため、各国から集った研究者の共同論集。詩歌の翻訳から民謡、仏教、獅子舞、ベルシャの涙害まで、比較文化と翻訳にまつわる事象を様々に論じる。

上垣外憲一編

一九三〇年代東アジアの文化交流

大手前大学比較文化研究叢書 9

2013 / A5判 / 258頁

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1687-1

世界恐慌のため鎖国経済化が進み、東アジアでは、満洲事変を皮切りに世界大戦へと発展する時代。戦争の影で見落とされがちな当時の文化交流を様々な視点から論じる。

【執筆】金孝順／嚴安生／王中忱／劉岸偉／趙怡／戦曉梅／李建志／劉建輝／馮天瑜／上垣外憲一／川田真弘

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編

日仏文学・美術の交流

「トロンコワ・コレクション」とその周辺

大手前大学比較文化研究叢書 10

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1745-8

「日仏文化交流シンポジウム」の成果。日仏文学・美術の交感を論じた7篇を日仏両言語で収録。【執筆】岡佳子／マリ＝カトリース・サユット／エマニュエル・シュヴァルツ／クリス・ベルアド／柏木加代子／盛田帝子／クリストフ・マルケ2014 / A5判 / 284頁

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編

日仏マンガの交流

ヒストリー・アダプテーション・クリエーション

大手前大学比較文化研究叢書 11

本体2,800円 ISBN978-4-7842-1802-8

大手前大学で行われた日仏文化交流シンポジウム「日仏マンガ文化の適応と浸透」の成果。日仏両国および海外のマンガ／バンド・デシネ文化について、各国の特質と相互の交流を、特徴・受容・翻訳などの視点から考察する。2015 / A5判 / 286頁

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編

江戸文化が甦る

トロンコワ・コレクションで読み解く琳派から溝口健二まで

大手前大学比較文化研究叢書 12

本体3,800円 ISBN978-4-7842-1847-9

知られざる江戸版本、浮世絵の宝庫トロンコワ・コレクションをテーマに、近世美術から近代映像作品を対象として、多彩かつ重厚な論を全文日仏両語で収録する大手前大学日仏文化交流シンポジウムの成果。2016 / A5判 / 390頁

大澤吉博著

言語のあいだを読む

日・英・韓の比較文学

2010 / A 5判 / 550頁

本体9,000円 ISBN978-4-7842-1524-9

井上 健 編

翻訳文学の視界

近現代日本文化の変容と翻訳

2012 / A 5判 / 300頁

本体2,500円 ISBN978-4-7842-1600-0

田澤佳子著

俳句とスペインの詩人たち

マチャード、ヒメネス、ロルカとカタルーニャの詩人

2016 / A 5判 / 352頁

本体5,000円 ISBN978-4-7842-1823-3

東京大学大学院で比較文学の指導に当たり、在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石、漱石を中心とした日本文学の他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。

翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。【執筆者】山田潤治／私市保彦／柏木隆雄／井上健／中村ともえ／金志映／上西哲雄／ソーン トン不破直子／リース・モートン／諸坂成利／依岡隆児

俳句はどんな形でスペイン語圏に伝わり、その詩にどんな影響を及ぼしたのか。現地の文化と風土を肌で感じてきた著者が、長詩を主流とするスペインの詩に俳句という究極の短詩がいかに受容されたかを、当時の文学書、雑誌や新聞、詩人たちの日記や書簡などを渉猟して、こまやかに読み解く。

中国文学

神田喜一郎監修／岩城秀夫解説

中國戲曲善本三種

北西廂記・斷髮記・竊符記

1982 / A 5判 / 影印580頁 / 解説20頁

本体13,800円 ISBN4-7842-0196-3

神田氏伝古屋所蔵の中国戯曲書のうち、天下の孤本とされる三種を影印刊行。元の時代、王実甫によって書かれ、閔漢卿が統撰した元曲「北西廂記」。明の李開先の戯曲で、万暦14年（1586）世徳堂刊の板本「斷髮記」。明の張鳳翼の作で、明の継志齋の刊本「竊符記」。

吉田富夫著

未知への模索

毛沢東時代の中国文学

佛教大学鷹陵文化叢書14

本体2,300円 ISBN4-7842-1291-4

中華人民共和国誕生から文化大革命まで〈毛沢東時代〉の中国文学についてまとめる。毛沢東の模索が挫折したことは明らかだが、模索そのものの意義は、あらためて見直されるはず、との信念のもと、毛沢東時代を問い直す。

2006 / 四六判 / 290頁

荒木 猛 著

きんべいばい

金瓶梅研究

佛教大学研究叢書6

本体8,500円 ISBN978-4-7842-1442-6

中国四大奇書の一つ『金瓶梅』。これまで淫書と目され禁書扱いであったためか、他の小説と比べて研究が遅れていた。本書は、明代の政治・社会の腐敗を暴露したこの小説を、執筆時代・素材・用語・服装など様々な側面から考察。

2009 / A 5判 / 496頁

自然科学

三木晴男著

検証 地震予知

1987 / A5判 / 176頁
本体3,300円 ISBN4-7842-0471-7

どこがあぶない？ 学者の地震予想はあたるか？ データとファクターによる地震予知的中率はいかほどか？ 世界各国の学術雑誌に掲載された論文の中で地震を予測している論文をとりあげ、何を根拠に、どこでどの程度の大きさの地震が、いつ起こると主張しているのかを要約した異色の一書。

越島哲夫著

木を科学する

1988・1993 / 四六判 / 200頁
本体1,942円 ISBN4-7842-0774-0

抗ガン剤、きのこ、人絹、フィルム、磁気テープ、テレホンカード、ラッカー、アイスクリーム——意外な木の横顔を紹介し、木を科学する面白さを語りながら、未来に向けて、石油に代わる再生可能資源としての木の新しい発想に基づく化学的変換の必要性を説く。 【2刷】

奥沢康正・久世幸吾・奥沢淳治共編著

毒きのこ今昔

中毒症例を中心にして
2004 / B5判 / 380頁
本体4,700円 ISBN4-7842-1215-9

きのこ学、菌類学史、きのこ文化人類学に関心をもち、自からもきのこ狩りを楽しむ著者が、毒菌の歴史をひもとき、多数の症例をとりあげて考察し、現代のきのこ中毒学や医療現場での活用をめざした一書。イラスト多数収録。

随筆・随想・その他

森 正隆 著

浪花和尚のえんま帖

1981 / 四六判 / 226頁
 本体1,400円 ISBN4-7842-0307-9

あわれせつなき世の人の、なみだぐましくいじらしく、たどりたどりの生きざまを、書きてしるしたえんま帖。大阪市蓮光寺住職の大阪弁人生論。【内容】 ただの坊さん／わたしは速達便／きみ、知りたまわずや和尚のこころ／怒りの能力／悲から慈を／パラオ余聞／二千五百年昔の教育ママ／他

三木晴男著

馬となまずと私と

1987 / B6判 / 280頁
 本体2,300円 ISBN4-7842-0468-7

西で新馬戦があればかけつけ、東で重賞があれば飛んで行き——競馬愛好家の“ナマズ博士”の著者が折り折りのレースに風俗・世相などを織りませ、軽妙そして洒脱に語った楽しいエッセイ集。

町田誠之著

大和の古代史跡を歩く

1990 / 四六判 / 244頁
 本体2,136円 ISBN4-7842-0597-7

若い頃から京都で高分子化学や紙の研究に携わってきた著者が、記紀や万葉集をひもときながら、地図とカメラを携え、大和・河内に日本の原風景や心の安らぎを求め訪れる。環境保全を希う和紙博士の紀行エッセイ。地図・写真を掲載した古都散策の好ガイド・ブック。

河野健二著

歴史の地層から

1990 / 四六判 / 220頁
 本体2,300円 ISBN4-7842-0591-8

フランス革命の研究でその名を知られる経済史・社会思想史家のエッセイ集。フランス革命からバレストロイカまで、明治維新から大型間接税まで、あるいは、京都の学問など、古今内外の諸問題の本質を歴史家の眼で見すえ、転換期に生きる我々に語りかける。

細川護貞著

魚 雁 集

細川家に残っている手紙
 1990 / 四六判 / 252頁
 本体2,300円 ISBN4-7842-0631-0

魚雁とは手紙・書札の意である。肥後細川家に伝わる膨大な史料の中から、信長・秀吉・家康をはじめ細川幽斎・三斎父子、ガラシャ夫人、春日局、沢庵和尚など、その人物像を生々しく伝える書状類を紹介し、史料に残る興味深い話題を取り上げる。

加藤元一著

科学者の歩める道

1991 / B6判 / 250頁
 本体2,800円 ISBN4-7842-0646-9

ノーベル賞候補にもあがった慶応義塾大学医学部・初代生理学教授加藤元一の医科学者・医学教育者としての思い出の記。復刻に際し加藤暎一・古川明ほか5氏の対談を収録。

水野精一著

月 と 西 行

老精神科医のみた出世観
 1992 / 四六判 / 216頁
 本体2,500円 ISBN4-7842-0716-3

月に託された西行の想いはなにか——世捨て人・西行の生涯と歌を通して、その遁世と出世観の謎を一精神科医がたどる。【内容】 生い立ちと、その家族歴／侍賢門院璋子／幼少時から北面の武士時代／遁世・出家と洛外に住んだ時代／高野山時代／善通寺の時代／伊勢時代／入寂／考察／歌首索引

吉田光邦追想文集刊行会編

吉田光邦 両洋の人

八十八人の追想文集
 1993 / A5判 / 374頁
 本体6,200円 ISBN4-7842-0797-X

並外れた博覧強記ぶりと、多彩な人間関係で知られる故吉田光邦先生を偲び、交友のあった88名がそれぞれの想い出を綴った「歴史記録としての吉田光邦」。

【内容】 若き日／共同研究とその周辺／アーツ・クラフツ・インダストリー／博物館／流れはつきず

アルヴィン・マイヤー著／三鼓秋子訳

アウシュヴィッツの子どもたち

1994 / 四六判 / 390頁
 本体2,816円 ISBN4-7842-0830-5

1950年生まれジャーナリスト、A・マイヤーは、アウシュヴィッツを生きた子どもたち13人をたずね、インタビューを重ねた。本書は、その子どもたちが当時とその後の人生をいかに生きたかを語る中で、アウシュヴィッツがのこしたメッセージを我々に問いかける。

【3刷】

古田紹欽著

燃ゆらん花の美しさ

日々はれ好日

1995／四六判／250頁

本体2,524円 ISBN4-7842-0862-3

古田紹欽著

我生きて今ある命を

1998／四六判／320頁

本体2,500円 ISBN4-7842-0952-2

阿南慈子著

ありがとう、あなたへ

2001・2008／四六判／208頁

本体1,200円 ISBN4-7842-1090-3

田中 登 編著

小松茂美 人と学問

古筆学六十年

2002／A5判／256頁

本体2,200円 ISBN4-7842-1120-9

古川秀夫編著

現代日本のボランティア像

龍谷大学国際社会文化研究所叢書Ⅰ

2002／A5判／200頁

本体2,000円 ISBN4-7842-1115-2

山上宏之著

人生と芸術の対話

2002／四六判／170頁

本体1,800円 ISBN4-7842-1105-5

海野謙二編著

野中広務

素顔と軌跡

2002／A5判／300頁

本体1,800円 ISBN4-7842-1126-8

小谷晋一郎著

英語の談話文法

機能文法の視点より

2002／A5判／358頁

本体2,000円 ISBN4-7842-1114-4

能村庸一著

役者のパートナー マネジャーの足跡

本体1,900円 ISBN4-7842-1204-3

久曾神昇著

古今和歌集への道

国文学研究七十七年

2005／四六判／236頁

本体1,900円 ISBN4-7842-1221-3

畑を耕す鋤をもつ手に、またペンを意識的にもつ。老眼ながらもまだ読み書きする視力にさほど不自由はない。実は寧ろその読み書きすることに、近頃は余裕をもって楽しみさえもつ。漫然と考え、その考えることを漫然としてまた綴る……

【内容】わたくしの思い(22篇)／我が信条のことども(31篇)

87歳を迎え、老いてますます盛んな著者が「これまで生き得たことによる荷物のようなもの」と称する近年の小篇36本を収録。日々の暮らし、自然との対話、そして談義も尽きず——老いを楽しむ著者の心意気を伝える好著。

多発性硬化症という難病におかされながら、多くのボランティアの口述筆記によって手紙・詩・エッセイ・童話を遺した阿南慈子の作品集。真摯にのちと対峙した中から紡ぎ出されたその言葉は、生命の大切さ、愛することの喜びを語りかける、「今、生きているあなたへ」のメッセージ。 【6刷】

被爆体験の病床で『平家納経』と出会い学究に志し、東京国立博物館を経て古筆学研究所を設立、ついには古筆学を大成した小松茂美の60年におよぶ学問の歩みをたどる。

第1部では、個々の著作に則してその内容と業績を紹介し、第2部では、折り折りの新聞記事と書評など50篇を収録。

本書では研究の立ち後れている国際ボランティア団体に注目。調査の被験者として阪神淡路大震災の被災者救援・復興に関わったボランティアなども含め、ボランティア団体参加者の動機づけ、軽負担ボランティア活動に関する市場などを調査・研究し、望ましいボランティア像を探る。

対話・寓話・童話・劇作・詩歌など多彩な方法によって、折り折りの思索の成果を昇華した掌編集。

【内容】序にかえて—ドナルド・キーン博士来訪記／オルダス・ハックスリ論／対話—東西の文人／人生・宗教・藝術／風刺の人生劇／古都風物と和英詩

政治に輝かしい足跡を刻んだ野中広務の実像——生い立ち、激動のドラマ、修羅場での数々の秘話を綴りながら、知られざる人間味と剛腕の胸中に迫った本書には、「蜷川革新王国」との長年にわたる闘いや、知事選裏面史、永田町における政治的苦闘など知られざるエピソードも明かす。 【2刷】

筆者がテキストより直接収集した英文の用例により、機能文法(Functional Grammar by M.A.K.Halliday)を基盤理論として、英語の談話文法論を展開。現代コーパス言語学の成果を紹介するとともに、その数的処理により現代英語の特性を明らかにする。

「役者・芸人、生かすも殺すもマネジャーの腕次第。その大切な相棒たちが初めて活字の表舞台に立つ」(藤田まこと)——フジTVの時代劇プロデューサーによる“もう一つの”芸能史。

2004／四六判／288頁

古今集の研究史上、不滅の金字塔を打ち立てた博士の永年にわたる研究生生活を、古今集・歌合・仮名書状・歌学・三十六人集・古筆学・郷土史などの各分野にわたって回顧。近代日本学芸史に足跡を残した研究者との交友、昭和の国文学研究の動向や折々の貴重な証言も書き留められている。

坪内稔典著

言葉の力

佛教大学鷹陵文化叢書13

2005 / 四六判 / 276頁

本体2,300円 ISBN4-7842-1264-7

白井嵯千著

想 音

2006 / 四六判 / 192頁

本体2,000円 ISBN4-7842-1309-0

清田嘉宣著

私の中の20世紀の外国映画

2006 / A 5判 / 230頁

本体1,900円 ISBN4-7842-1314-7

谷澤忠彦著

情熱の移植医

田中紘一の新たな挑戦

2009 / 四六判 / 256頁

本体1,600円 ISBN978-4-7842-1493-8

芝田藤子著

追憶の記

画家芝田米三と歩んだ人間賛歌の50年

2010 / B 5判 / 150頁

本体2,000円 ISBN978-4-7842-1519-5

児玉 修 著

てん か

天翔ける白鷗 愚中周及の生涯

2010 / 四六判 / 306頁

本体1,600円 ISBN978-4-7842-1541-6

浅香正著

人生の歩み 業績録レース-ゲスタエ

同志社・留学・ローマ・ポンペイ

2012 / A 5判 / 214頁

本体3,000円 ISBN978-4-7842-1661-1

西岡正子編

老舗に学ぶ京の衣食住

佛教大学四条センター叢書5

2013 / A 5判 / 242頁

本体1,900円 ISBN978-4-7842-1673-4

五十嵐隆明著

老僧が語る京の仏教うらおもて

2013 / 四六判 / 232頁

本体900円 ISBN978-4-7842-1683-3

児玉 修 著

死して巖根にあらば 骨も也た清からん

寂室元光の生涯

2014 / 四六判 / 390頁

本体1,800円 ISBN978-4-7842-1750-2

子規・漱石の研究で知られ、俳句グループ「船団の会」代表を務める著者が折々に新聞、雑誌などに寄稿したエッセイ。「ねんてん」と呼ばれる俳人でもある著者は、流行語や新語を取り入れた斬新な言語感覚で「ニューウェーブ俳句」の第一人者として知られ、本書でもユニークな視点が光る。

源氏物語を読み続けている著者が、平安時代の歴史と文学、紫式部の身辺を丁寧に調べ上げてまとめた力作。巻末付録として藤原氏と紫式部・高階家・藤原宗子の各系図・平安時代の歴代の天皇・動乱・勅撰集の一覧を取める。

著者独自の人生経験、価値観や社会観で珠玉の外国作品85点を永年の熱烈な映画ファンが目で見つけたエッセイ。そこには21世紀を生きる我々に前世紀の映画を通して、今後の生き方を著者の人生観を交えながら、映像文化の中に人類のあるべき姿、進むべき道を語る。

若き日の「この子をなんとか助けたい」の一念から、生体肝移植術を開発し、確立した情熱の移植医・田中紘一。高校からの親友がその生き様を熱く綴る。シーボルト以来西洋諸国から学んだわが国で、今、田中を中心とする京大チームが、生体肝移植術を世界に発信する。

2006年5月急逝した芝田米三は、須田国太郎に師事し、安井賞を受賞、独立美術協会の中心メンバーとして活躍した洋画家。夫人である著者が、画伯と共に過ごした日々や、ヨーロッパ各国のほか南米・東欧旅行での思い出を書き綴る。画伯に対する愛情のみならず、創作活動の裏側が綴られている。

南北朝朝、庶民とともに生き、将軍の上洛命令にも従わなかった臨濟僧・愚中周及。映像作家の著者が、時代のなかで苦悩し、雪中坐禅や夜を徹する月下での立禅など、自らの仏法を打ち立てた生涯をたどり、語録ではわかりえない血の通った人間愚中を描ききった意欲作。

著者の教育と研究の軌跡をまとめる。【内容】同志社大学教員時代（1）文化史学／イタリア留学時代ーローマにおける生活と師弟・交友／ローマ都市の起源と王政／初期ローマ教会の形成と巡礼／古代イタリア都市ポンペイの埋没と蘇生／海のシルクロード『エリュトラー海案内記』について 他

公開講座録。店主・女将が自店の歴史・品物について語る、本物の京都学。【掲載店】二軒茶屋 中村楼・松栄堂・祇園辻利・祇をん 幾岡屋・嵐山 熊彦・龍善堂・半兵衛麩・松文商店・村山造酢・彩雲堂・本家 尾張屋本店・上七軒 大文字・京つけもの西利・泰生織物・亀末廣・いもほう平野屋本家

永観堂禅林寺の住職をかつて勤めた著者による、あまり語られない京都を中心とした近代仏教界の内幕。幕末維新の動乱と寺院との結びつき、仏教界の戦争協力と、戦後の反省。「古都税」導入の動きと反対運動など。具体的な僧侶名やエピソードを交えて語る仏教界のあれこれ。

臨濟宗永源寺の開山である寂室元光（1290～1367）は、生涯を通じて大利に依らず、名聞利養を否定し、知的で洗練された文藻を備えた、日本禅宗史上希に見る純粹清烈の僧である。映像作家であり「臨床僧の会・サーラ」事務局長でもある著者が、スケールの大きなその生涯を描く小説。

品 切 一 覧

書 名	本体価格	刊行年
識字と学びの社会史	7,000 円	2014
アーカイブズの構造認識と編成記述	6,700 円	2014
近代日本の歴史都市	7,800 円	2013
いけばなにみる日本文化	2,600 円	2011
焼畑の環境学	9,000 円	2011
近代医療のあけぼの	4,700 円	2011
中国五代国家論	6,500 円	2010
奈良 千三百年ものがたり	1,600 円	2010
房総風雅史 古代・中世編	5,700 円	2010
般舟讃私講	3,500 円	2010
武士と騎士	9,000 円	2010
入門 奈良絵本・絵巻	2,000 円	2010
平安京とその時代	9,000 円	2010
緒方洪庵	2,500 円	2009
悟溪宗頓 虎穴録訳注	10,000 円	2009
日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚	13,000 円	2009
原三溪翁伝	16,000 円	2009
京都 芸能と民俗の文化史	7,500 円	2009
風俗絵画の文化学	6,500 円	2009
経筒が語る中世の世界（別府大学文化財研究所企画シリーズ）	4,800 円	2008
近世御用絵師の史的研究	7,500 円	2008
関西モダニズム再考	8,500 円	2008
竹の経済史	4,500 円	2008
ハンサムに生きる（新島襄を語る）	1,900 円	2010
魂の指定席（新島襄を語る）	1,900 円	2009
元祖リベラリスト（新島襄を語る）	1,900 円	2008
敢えて風雪を侵して（新島襄を語る）	1,900 円	2007
ひとりは大切（新島襄を語る）	1,900 円	2005
善導大師と法然上人	2,400 円	2008
酔うて候 河鍋晩斎と幕末明治の書画会	2,000 円	2008
平安期の願文と仏教的世界観（佛教大学研究叢書）	6,500 円	2008
ブームスと芭蕉たち	2,000 円	2007
丹後地域史へのいざない	1,600 円	2007
八瀬童子	1,800 円	2007
京都源氏物語地図	800 円	2007
近代新潟におけるキリスト教教育	3,000 円	2007
中国銅銭の世界（佛教大学鷹陵文化叢書）	2,400 円	2007
伝統工藝再考 京のうちそと	13,000 円	2007
伊藤孝男の百人一首・競技かるた	1,700 円	2007
中国における妊娠・胎発生論の歴史	2,800 円	2006
仏教 文学 芸能	20,000 円	2006
朝顔明鑑鈔	4,000 円	2006
太宰文学の女性像	2,800 円	2006
十九世紀日本の園芸文化	6,500 円	2006

民芸運動と地域文化	4,900 円	2006
佐々木六角氏の系譜	2,200 円	2006
数奇の革命	2,000 円	2006
柳宗悦と民藝運動	4,600 円	2005
新島襄の交遊	2,800 円	2005
古代神祇信仰と仏教	3,800 円	2005
政治と行政の理論と実際	6,500 円	2005
文化史学の挑戦	13,000 円	2005
日本建築の構造と技法 [全 2 巻]	25,000 円	2005
金鯢叢書 第 32 輯	10,000 円	2005
金鯢叢書 第 31 輯	9,500 円	2004
眼病に効く温泉	2,500 円	2004
視覚芸術の比較文化 (大手前大学比較文化研究叢書)	2,800 円	2004
日本近世地誌編纂史研究	9,200 円	2004
中世畿内における都市の発達	6,000 円	2004
絵葉書で辿る日本近代医学史	22,000 円	2004
神仏分離の動乱	2,300 円	2004
近代日本画、産声のとき	3,200 円	2004
煎茶文化考	4,200 円	2004
慚愧の精神史 (佛教大学鷹陵文化叢書)	1,900 円	2004
鹿苑寺と西園寺	3,800 円	2004
本能寺と信長	2,200 円	2003
五山禪僧伝記集成	9,500 円	2003
茶人と茶の湯の研究	8,200 円	2003
房総風雅史	12,000 円	2003
岩倉使節団の再発見	3,600 円	2003
木村蒹葭堂	2,500 円	2003
与謝蕪村筆「奥の細道画卷」	130,000 円	2002
日蘭交流史 その人・物・情報	15,000 円	2002
奈良絵本 (龍谷大学善本叢書)	36,000 円	2002
中国浄土教と浄土宗学の研究	14,000 円	2002
石見銀山	15,500 円	2002
日本中世の政治権力と仏教 (思文閣史学叢書)	8,800 円	2001
雑誌『太陽』と国民文化の形成	12,000 円	2001
孝子伝の研究 (佛教大学鷹陵文化叢書)	3,000 円	2001
中国の古代都市文明 (佛教大学鷹陵文化叢書)	2,000 円	2001
日本の通過儀礼 (佛教大学鷹陵文化叢書)	1,900 円	2001
王朝千年記	1,800 円	2001
東と西の医療文化	8,500 円	2001
荘園制成立史の研究	8,800 円	2000
竹内栖鳳 近代日本画の源流	5,600 円	2000
平成新修古筆資料集 第一集	2,600 円	2000
古代・中世の浄土教信仰と文化	6,600 円	2000
人生工学うらおもて	1,800 円	2000
十二支攷	30,000 円	2000
伏見学ことはじめ	3,200 円	1999
都市の近代・大阪の20世紀	2,200 円	1999
中世寺社信仰の場	7,800 円	1999

稽徴録	6,500 円	1999
続日本紀の世界	2,900 円	1999
仏教・共生・福祉（佛教大学鷹陵文化叢書）	1,900 円	1999
神々の酒肴 湖国の神饌	3,200 円	1999
明治国家の教育思想	8,000 円	1998
佛教福祉研究	8,000 円	1998
経済史文献解題 1997（平成9）年版	10,800 円	1998
経済史文献解題 1996（平成8）年版	9,800 円	1996
寛永文化のネットワーク	3,800 円	1998
神主と神人の社会史（神社史料研究会叢書）	6,500 円	1998
和紙文化史年表	4,700 円	1998
日本近世文学研究の新領域	6,800 円	1998
仏教教化研究	15,000 円	1998
日本近代都市史研究	7,800 円	1997
歴史の中の病と医学	12,000 円	1997
王者の武装（京都大学総合博物館図録）	857 円	1997
日本眼科学会百周年記念誌〔全7冊〕	60,000 円	1997
近代大阪の企業者活動	4,800 円	1997
南蛮学の発見	3,000 円	1997
診療報酬の歴史	14,400 円	1996
美術史を愉しむ	11,800 円	1996
欧米資本主義の史的展開	6,476 円	1996
呪術・科学・宗教	4,000 円	1996
荘園を読む・歩く（京都大学文学部博物館図録）	485 円	1996
中世村落と仏教（思文閣史学叢書）	8,800 円	1996
仏教説話の美術	38,835 円	1996
横井小楠の新政治社会像	3,200 円	1996
日本書紀の世界	2,800 円	1996
大阪川口居留地の研究	7,800 円	1995
現代語訳 啓迪集〔全2冊〕	33,000 円	1995
近江の歴史と文化	8,641 円	1995
大阪舎密局の史的展開	6,000 円	1995
旧石器人のアトリエ	1,942 円	1995
死の尊厳	3,786 円	1995
広瀬先賢文庫目録	7,000 円	1995
増訂富士谷御杖の生涯	4,175 円	1995
日本古代国家の展開 上	12,000 円	1995
近代都市公園史の研究	6,796 円	1995
近世思想史研究の現在	11,800 円	1995
近世の女性画家たち	3,689 円	1994
まち祇園祭すまい	3,689 円	1994
医界風土記 関東・甲信越篇	2,427 円	1994
医界風土記 近畿篇	1,845 円	1994
医界風土記 九州・沖縄篇	1,845 円	1994
医界風土記 北海道・東北篇	2,039 円	1994
医界風土記 中国・四国篇	2,427 円	1994
黄檗版大藏経刊記集	16,000 円	1994
近江の美術と民俗	7,282 円	1994

古代文明と環境 文明と環境 I	2,233 円	1994
斎藤茂吉入門	2,330 円	1994
殿さまのひとりごと	2,718 円	1994
平氏政権の研究 (思文閣史学叢書)	8,800 円	1994
桃裕行著作集 第1巻 (修訂版上代学制の研究)	14,000 円	1994
桃裕行著作集 第2巻 (上代学制論攷)	13,000 円	1993
桃裕行著作集 第4巻 (古記録の研究上)	5,800 円	1988
桃裕行著作集 第7巻 (暦法の研究上)	5,900 円	1990
紫金山古墳と石山古墳 (京都大学文学部博物館図録)	1,650 円	1993
視覚の一九世紀	5,800 円	1992
歴史災害のはなし	2,900 円	1992
五山文学全集 [全5巻]	65,000 円	1992
近代日本の学校文化誌	2,300 円	1992
公家と儀式 (京都大学文学部博物館図録)	1,087 円	1991
大槻玄沢の研究	7,800 円	1991
医心方の伝来	9,800 円	1991
大阪天満宮史の研究	5,800 円	1991
自筆本 三輪物語	8,349 円	1991
新・漢方処方マニュアル	4,854 円	1991
先史時代の北白川 (京都大学文学部博物館図録)	1,049 円	1991
もう一つの中世像	3,800 円	1991
鎌倉時代の朝暮関係 (思文閣史学叢書)	8,800 円	1991
松平春嶽未公刊書簡集	12,000 円	1991
増補版 京の医史跡探訪	3,000 円	1991
近代化の推進者たち	9,800 円	1990
近世教育思想史の研究	5,800 円	1990
近世日本の儒教と文化 (思文閣史学叢書)	7,800 円	1990
熊沢蕃山の研究	11,000 円	1990
芸術の理論と歴史	13,000 円	1990
新編 富士谷御杖全集 第3巻	18,000 円	1989
椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡 (京都大学文学部博物館図録)	1,000 円	1989
神名の語源辞典	3,500 円	1989
図説日本医療文化史	38,000 円	1989
日本近代化と真宗地帯の研究	3,600 円	1989
佛光寺の歴史と信仰	15,000 円	1989
夜の解剖室	2,500 円	1989
書 (一) 鑑賞と表現	2,000 円	1980
書 (二) 教え方・学び方	2,000 円	1982
書 (四) 美学と書教育・実技篇	2,000 円	1988
宸翰英華 [全4冊]	98,000 円	1988
江戸の儒学	3,800 円	1988
近世日本の儒学と洋学	8,500 円	1988
近世の学校と教育	6,800 円	1988
字鏡集 [全2冊]	32,000 円	1988
平記・大府記・永昌記・愚昧記 (陽明叢書記録文書篇)	14,000 円	1988
御堂閔白記1 (陽明叢書記録文書篇)	9,500 円	1983
御堂閔白記2 (陽明叢書記録文書篇)	9,800 円	1983
御堂閔白記4 (陽明叢書記録文書篇)	9,000 円	1984

ザ・ヤトイ	7,300 円	1990
鍼灸古典入門	2,800 円	1987
石川九楊作品集しかし	20,000 円	1987
近世復古清涼殿の研究	3,800 円	1987
水車の技術史	2,600 円	1987
図録京都大学文学部博物館	1,000 円	1987
水と人	1,942 円	1987
宮崎圓遵著作集 第1巻（親鸞の研究上）	6,200 円	1986
宮崎圓遵著作集 第2巻（親鸞の研究下）	6,200 円	1986
宮崎圓遵著作集 第3巻（中世仏教と庶民生活）	6,500 円	1987
明治文化と西洋人	9,800 円	1987
北方文化研究報告	98,000 円	1987
万国博覧会の研究	6,500 円	1986
岩手県教育史（都道府県教育史シリーズ）	1,800 円	1986
杉浦重剛先生	10,000 円	1986
大燈国師語録 [全2冊]	18,000 円	1986
補訂日本建築細部変遷小図録	9,800 円	1986
竹取物語の国語学的研究	10,000 円	1985
図説万国博覧会史	7,500 円	1985
紙のふるさとを行く	2,800 円	1985
江馬家来簡集	8,500 円	1984
緒方洪庵と適塾生	2,500 円	1984
天皇親政	4,800 円	1984
雪江禪師語録	4,200 円	1984
日本仏教美術史研究	12,000 円	1984
岡田章雄著作集Ⅰ（キリシタン信仰と習俗）	2,900 円	1983
岡田章雄著作集Ⅱ（キリシタン風俗と南蛮文化）	2,900 円	1983
岡田章雄著作集Ⅳ（外から見た日本）	2,900 円	1984
岡田章雄著作集Ⅴ（三浦按針）	2,900 円	1984
岡田章雄著作集Ⅵ（南蛮随想）	2,900 円	1984
木のはなし	1,800 円	1983
シーボルト参府旅行中の日記	2,800 円	1983
杉浦重剛全集 第1巻	20,000 円	1983
杉浦重剛全集 第3巻	24,000 円	1982
杉浦重剛全集 第4巻	19,500 円	1982
杉浦重剛全集 第5巻	17,500 円	1982
九州の郷土玩具	2,300 円	1982
近代日本の医学	5,800 円	1982
呉秀三	14,000 円	1982
訓註空華日用工夫略集	12,000 円	1982
東嶺和尚年譜（近世禪僧伝）	6,500 円	1982
鎌倉仏教雑考	9,800 円	1982
日本美術史論究 第3巻 天平・貞観	6,500 円	1980
日本美術史論究 第4巻 藤原・鎌倉	8,000 円	1982
日本美術史論究 第5巻 室町時代	6,500 円	1979
茶書の研究・茶人の研究（全2冊）	29,000 円	1981
禅林墨蹟	230,000 円	1981
岡山縣古文書集 [全4輯]	35,500 円	1981

中世民衆生活史の研究（思文閣史学叢書）	7,300 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第1巻（東山文化の研究上）	10,000 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第2巻（東山文化の研究下）	8,000 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第3巻（中世禅林の学問及び文学に関する研究）	9,000 円	1981
芳賀幸四郎歴史論集 第4巻（中世文化とその基盤）	12,000 円	1981
原田伴彦著作集 第2巻（日本女性史）	2,900 円	1981
原田伴彦著作集 第4巻（部落問題論）	2,900 円	1981
京都の医学史〔全2冊〕	揃 30,000 円	1980
集古〔全9冊〕	58,000 円	1980
禅録慣用語俗語要典	4,000 円	1980
典医の歴史	4,800 円	1980
西陣史	8,500 円	1980
東洞全集	7,500 円	1980
富士川游著作集 第1巻	5,500 円	1980
富士川游著作集 第4巻	6,000 円	1980
富士川游著作集 第5巻	6,000 円	1980
日本医史学雑誌 2	9,500 円	1978
日本医史学雑誌 3	9,000 円	1978
日本医史学雑誌 10	7,000 円	1979
日本医史学雑誌 12	8,000 円	1978
日本医史学雑誌 13	8,000 円	1978
日本医史学雑誌 14	8,500 円	1979
日本医史学雑誌 15	8,000 円	1978
日本医史学雑誌 16	8,500 円	1978
日本医史学雑誌 18	6,500 円	1980
大坂蘭学史話	3,800 円	1979
かぶき論叢	13,500 円	1979
雑誌 茶湯 第1～3号	各 350 円	1969～70
雑誌 茶湯 第4・5号	各 400 円	1971
雑誌 茶湯 第6・7・9～11・14・16号	各 600 円	1973～79
日本禅宗史論集 巻下之一	15,000 円	1979
日本禅宗史論集 巻下之二	15,000 円	1977
鉄斎米寿記念貽咲墨戯	390,000 円	1979
龍宝山大徳禅寺世譜	4,200 円	1979
手摺木版花鳥風月	320,000 円	1979
額軸鑑賞の知識	5,200 円	1978
禅と思想	5,190 円	1978
近松全集〔全12冊〕	80,000 円	1978
日本花押大観	2,900 円	1978
日本経済史の研究	12,000 円	1978
佛教藝術 1号～20号	42,200 円	1978
評註茶窓問話	2,500 円	1978
上代日本染織史	3,800 円	1977
日本染織工藝史 上	5,300 円	1977
仏教考古学論攷 第4巻 佛塔編	4,900 円	1977
新撰瓶花図彙〔全2冊〕（華道古典名作選集）	5,500 円	1977
立華時勢粧〔全3冊〕（華道古典名作選集）	7,500 円	1976
慈雲尊者全集〔全19巻〕	150,000 円	1977

郷土玩具種々相	3,200 円	1977
慶長以前の石燈籠	5,800 円	1977
初期古代東北の研究	6,000 円	1977
図録 和紙の文化史年表	500 円	1977
染織史考	3,000 円	1977
染織文様史の研究	5,500 円	1977
徒然草を語る	1,800 円	1977
日本玩具史 [全 2 冊]	7,400 円	1977
日本染織史	5,800 円	1977
雛祭新考	3,200 円	1977
補訂 枕草子集註	5,200 円	1977
枕草子幻 想定子皇后	2,300 円	1977
和紙文化	2,190 円	1977
建碑記念 文晁遺墨展覧会図録 [全 2 冊]	35,000 円	1977
九八号古墳（北墳）発掘略報告書	2,200 円	1976
禪と美術	10,000 円	1976
正法山誌	3,500 円	1975
新編真宗全書 [全 30 冊]	155,400 円	1975
絶海語録 第 3 卷	6,000 円	1975
天馬塚発掘調査報告書	23,500 円	1975
日本建築様式の研究 [全 2 冊]	14,800 円	1975
歴世服飾図説	9,500 円	1975
大阪人物誌 [全 2 冊]	15,000 円	1974
韓国建築史図録	12,000 円	1974
茶道四祖伝書（茶湯古典叢書）	5,500 円	1974
真宗史料集成 全 13 冊	244,951 円	1974
宋元學案・宋元學案補遺人名字號別名索引	7,000 円	1974
日本写経綜覧	8,500 円	1974
日本囊物史	8,500 円	1974
枕草子の婦人服飾	4,500 円	1974
日本画家辞典 [全 2 冊]	20,000 円	1974
石燈籠 全 4 冊	45,000 円	1973
刊本花道書年表	1,000 円	1973
近世禅林僧宝伝 全 3 冊	17,000 円	1973
宋元明清書畫名賢詳伝 全 4 冊	28,000 円	1973
大日本地震史料	12,000 円	1973
日本建築史図録 全 6 冊	55,000 円	1973
日本古写経現存目録	7,500 円	1973
日本災異志	7,500 円	1973
朝鮮医書誌	25,000 円	1973
泌尿器科学史	9,500 円	1972
特選神名牒	18,000 円	1972
日本人名辞典	6,500 円	1972
越前人物志 全 2 冊	15,000 円	1972
増訂日本古紙幣類鑑 全 3 冊	25,000 円	1972
増訂日本貨幣史	20,000 円	1972
増補日本医事大年表	8,000 円	1972
体系世界医学史	25,000 円	1972

中国随筆索引	8,000 円	1972
広瀬淡窓	1,300 円	1972
重要美術品等認定物件目録	7,000 円	1972
神社叢録 [全 2 巻]	37,143 円	1971
日本産科叢書	9,000 円	1971
人蓼史 [全 7 冊]	55,000 円	1971
阿波藍沿革史	6,000 円	1971
恵心僧都全集 全 5 冊	38,000 円	1971
菓子文庫 全 10 号	100,000 円	1971
杏林叢書 全 2 冊	10,000 円	1971
稿本日本眼科学史	3,300 円	1971
神祇志料・附考 全 4 冊	17,000 円	1971
神祇全書 全 5 冊	20,000 円	1971
神道叢書 全 3 冊	15,000 円	1971
増補 淡窓全集 全 3 冊	22,000 円	1971
大日本租税志 全 3 冊	17,000 円	1971
朝鮮古書画総覧	23,000 円	1971
東洋史研究文献類目 昭和 9 年度～昭和 16 年度	14,600 円	1971
華岡青洲先生及其外科	6,500 円	1971
百姓一揆の研究 全 2 冊	6,500 円	1971
箕作阮甫	5,500 円	1971
よはひ草 全 6 冊	12,000 円	1971
大阪府誌 全 5 冊	75,000 円	1970
呉氏医聖堂叢書	7,500 円	1970
増訂 古画備考 全 4 冊	30,000 円	1970
古画備考五十音別索引	1,500 円	1970
北越偉人 沙門良寛全伝	6,500 円	1970
越前和紙今昔絵図 和紙文庫	10,000 円	1969

書 名 索 引

あ

会沢正志斎書簡集	10
愛知県の教育史（都道府県教育史）	40
アウシュヴィッツの子どもたち	105
敢えて風雪を侵して（新島襄を語る4）	〔品切〕 34
青森県の教育史（都道府県教育史）	40
アーカイブズの構造認識と編成記述	〔品切〕
晶子と寛の思い出	99
秋田県の教育史（都道府県教育史）	40
朝顔明鑑鈔	〔品切〕
阿蘇下野狩史料集	9
阿知波五郎論文集〔全2冊〕	50
アーツ・アンド・クラフツと日本	70
アートに学ぶ	69
アメリカン・ボード200年	61
ありがとう、あなたへ	106
阿波藍沿革史	〔品切〕
安房妙本寺日我一代記	58
安祥寺資財帳（京大史料叢書）	7

い

飯沼慈齋	48
医界風土記〔全6冊〕	〔中部篇以外品切〕 50
医学書誌論考	49
医学序説	51
礎の文化史（佛教大学研究叢書25）	91
錨をあげて（新島襄を語る3）	34
池田文書の研究 → 東大医学部初代総理池田謙斎	46
生け花正意四季の友（華道古典名作選集 第7巻）	77
いけばなにみる日本文化	〔品切〕
医史学点描（阿知波五郎論文集 下）	50
石川九楊作品集 しかし	〔品切〕
石川啄木入門	99
石田茂作著作集〔全6巻〕 → 仏教考古学論攷	60
石燈籠	〔品切〕
石山寺の信仰と歴史	56
貽咲墨戯 → 鉄斎米寿記念 貽咲墨戯	〔品切〕
医心方の伝来	〔品切〕
伊勢御師と来田文書（京大博物館の古文書 第7輯）	6
伊勢松本文書（京大博物館の古文書 第12輯）	6
伊勢物語・大和物語（陽明叢書国書篇 第9輯）	92
伊勢物語 → 新訳絵本伊勢物語	67
醫譚〔全3巻〕	46
一宮ノオト	59

一休派の結衆と史的展開の研究	20
一千年目の源氏物語（シリーズ古典再生1）	96
伊藤孝男の百人一首・競技かるた	〔品切〕
祈りの文化	88
異文化・交流のはざまで	33
今なぜ仏教医学か	52
今村家文書史料集〔全2冊〕	10
医療の社会史	50
医療福祉の祖 長与専斎	48
岩倉使節団における宗教問題	33
岩倉使節団の再発見	〔品切〕
岩倉使節団の比較文化史的研究	32
岩倉具視関係史料	9
岩手県の教育史（都道府県教育史）	〔品切〕 40
石見銀山	〔品切〕
院政期政治史研究（史学叢書）	18
院政とその時代（佛教大学鷹陵文化叢書8）	18

う

ヴィクトリア朝英国と東アジア（大手前大比較叢書3）	102
William Smith Clarkの教育思想の研究	44
上村六郎染色著作集〔全6巻〕	72
宇治拾遺物語（陽明叢書国書篇 第13輯）	92
牛と農村の近代史	80
うたひせう〔全3巻〕（龍谷大学善本叢書2）	93
写しの力	64
器を楽しむ	75
馬となまざと私と	105
うまみの秘密（和食文化ブックレット7）	89
海を渡り世紀を越えた 竹内栖鳳とその弟子たち	63
雲居和尚年譜（近世禅僧伝 第3巻）	54

え

栄花物語・大鏡の研究	14
英国と日本	32
英語の談話文法	106
永昌記（京大史料叢書）	7
永昌記紙背文書（京大博物館の古文書 第11輯）	6
恵心僧都全集	〔品切〕
越前人物志	〔品切〕
越前和紙今昔絵図	〔品切〕 72
越境する漱石文学	101
江戸期文化人の死因	49
江戸後期儒者のフィロロギー	30
江戸時代唐船による日中文化交流〔オンデマンド版〕	30

江戸時代の図書流通（佛教大学鷹陵文化叢書7）	26	大手前大学比較文化研究叢書	101・102
江戸の儒学	〔品切〕	大山崎宝積寺文書（京大博物館の古文書 第8輯）	6
江戸文化が甦る（大手前大比較叢書12）	102	岡倉天心の比較文化史的研究	85
江戸湾をめぐる中世	17	岡田章雄著作集〔全6巻〕	〔1・2・4～6品切〕10
絵葉書で辿る日本近代医学史	〔品切〕	緒方郁蔵伝	49
愛媛県教育史（都道府県教育史）	40	緒方洪庵	〔品切〕
絵巻 大江山酒呑童子・芦引絵の世界	98	緒方洪庵と適塾生	〔品切〕
絵巻聚成〔一〕（徳川黎明会叢書 物語篇一）	92	緒方洪庵の「除痘館記録」を読み解く	46
江馬家来簡集	〔品切〕	緒方洪庵の蘭学	50
江馬細香来簡集	6	緒方惟準伝	49
延喜式→九条家本延喜式	9	岡屋関白記・深心院関白記・後知足院関白記	
延慶本『平家物語』の説話と学問	97	（陽明叢書記録文書篇 第2輯）	5
お		岡山縣古文書集	〔品切〕
		岡山県教育史（都道府県教育史）	40
黄金のとき 桃山絵画	68	岡山和歌俳諧人名辞典	4
王権と神祇	59	翁の生成〔オンデマンド版〕	88
王権と都市	85	沖縄県の教育史（都道府県教育史）	40
「王国」と「植民地」（大経大研究叢書）	79	奥の細道画卷 →与謝蕪村筆「奥の細道画卷」	〔品切〕
王朝千年記	〔品切〕	おもてなしとマナー（和食文化ブックレット3）	89
王者の武装（京大博物館）	〔品切〕	オランダにおける蘭学医書の形成	50
黄檗版大蔵経刊記集	〔品切〕	阿蘭陀宿海老屋の研究	25
黄檗文化人名辞典	4	園城寺之研究	56
欧米資本主義の史的展開	〔品切〕	園城寺の仏像	
近江の紙・津山の紙・ネリの話（和紙文庫シリーズ）	73	（天台寺門宗教文化資料集成 仏教美術・文化財編）	65
近江の古像	65	御茶湯之記（茶湯古典叢書6）	74
近江の美術と民俗	〔品切〕	オンドルと暁の国（佛教大学鷹陵文化叢書9）	32
近江の歴史と文化	〔品切〕	陰陽道の神々（佛教大学鷹陵文化叢書17）	
近江文化財全集	36	→増補 陰陽道の神々	87
応用美術思想導入の歴史	71	怨霊・怪異・伊勢神宮	22
大分県教育史（都道府県教育史）	40	か	
大分県美術	68	火（民衆生活の日本史 第2巻）	11
大阪青山短期大学所蔵品図録〔第1輯〕	93	開学百周年記念 佛教大学附属図書館所蔵	
大坂医師番付集成	45	貴重古典籍目録	4
大坂学問史の周辺	24	外国人のみたお伽ばなし	87
大阪川口居留地の研究	〔品切〕	海国日本の夜明け	7
大坂蔵屋敷の建築史的研究	84	回想・杉浦重剛	43
大坂城と城下町	26	科学者の歩める道	105
大阪人物誌	〔品切〕	額軸鑑賞の知識	〔品切〕
大阪舎密局の史的展開	〔品切〕	革新の書人 河東碧梧桐	67
大阪天満宮史の研究〔第2集〕〔第1集・品切〕	36	隔蓑記	9
大阪府誌	〔品切〕	隔蓑記総索引	9
大阪府教育史（都道府県教育史）	40	火山噴火と環境・文明（文明と環境Ⅱ）	85
大阪砲兵工廠の研究	81	菓子文庫	〔品切〕
大坂名医伝	48	菓子文庫シリーズ	86
大坂蘭学史話	〔品切〕	勧修寺家本職掌部類（京大博物館の古文書 第4輯）	6
大槻玄沢の研究	〔品切〕	画集下村為山	68
大津京跡の研究	90	可睡斎史料集〔全5巻〕	54
大手鑑・予楽院臨書手鑑（陽明叢書国書篇 第15輯）	92		

片桐石州茶書（茶湯古典叢書 7）	74	基礎茶式	76
葛川明王院文書（京大博物館の古文書 第10輯）	6	北垣国道日記「塵海」	9
脚気の歴史	51	北太平洋の先住民交易と工芸	67
花道古書集成	77	貴重古典籍目録→開学百周年記念	
華道古典名作選集 [全10巻] [4・10品切]	77	佛敎大学附属図書館所蔵 貴重古典籍目録	4
花道の思想	77	喫煙伝来史の研究	82
仮名文章表現史の研究	95	畿内の豪農経営と地域社会	26
金森宗和茶書（茶湯古典叢書 4）	73	記念植樹と日本近代	86
かぶき論叢 [品切]		木のはなし [品切]	
貨幣と鋳山	79	吉備と京都の歴史と文化（佛敎大学鷹陵文化叢書 3）	36
壁紙のジャポニスム	63	木村蒹葭堂 [品切]	
鎌倉時代の権力と制度	19	木村重信著作集 [全8巻]	62
鎌倉時代の朝幕関係（史学叢書） [品切]		逆欠如の日本生活文化	85
鎌倉仏教雑考 [品切]		九州の郷土玩具 [品切]	
釜の歴史と鑑賞	73	九州の蘭学	50
紙－昨日・今日・明日	73	九八号古墳（南墳）発掘調査報告書	90
紙－七人の提言－	73	九八号古墳（北墳）発掘報告書 [品切]	
神々の酒肴 湖国の神饌 [品切]		宮城図（陽明叢書記録文書篇 別輯）	5
上賀茂のもり・やしろ・まつり	59	旧石器人のアトリエ [品切]	
紙のふるさtoを行く [品切]		京・近江・丹後大工の仕事	83
花林清賞（華道古典名作選集 第1巻）	77	京からかみ文様譜	70
河北倫明美術時評集 [全5巻]	62	経筒が語る中世の世界	
河鍋晩斎と幕末明治の書画会→酔うて候		（別府大学文化財研究所企画シリーズ1） [品切]	
河鍋晩斎と幕末明治の書画会 [品切]		行道佛敎学	60
河東碧梧桐→革新の書人 河東碧梧桐	67	京都・大枝の歴史と文化	36
寛永文化のネットワーク [品切]		京都大地震	81
眼科医科人名辞書	49	京都画壇の一九世紀 [全5巻]	62
漢簡の基礎的研究	38	郷土玩具種々相 [品切]	
観経疏之抄 玄義分（浄土宗叢書）	57	郷土教育運動の研究→増補 郷土教育運動の研究	43
韓国建築史図録 [品切]		京都企業的光と陰	79
韓国「併合」前後の教育政策と日本（佛敎大学研究叢書 8）	44	京都 近代の記憶	84
関西モダニズム再考 [品切]		京都 芸能と民俗の文化史 [品切]	
関山慧玄と初期妙心寺	55	京都源氏物語地図 [品切]	
元三大師御籤本の研究 [オンデマンド版]	43	京都 実相院門跡	65
欠伸稿訳注→江月宗玩 欠伸稿訳注	55	京都雑色記録 [全3巻]	7
元祖リベラリスト（新島襄を語る5） [品切]	34	京都大学史料叢書 [全23冊]	7
漢方と薬のはなし	47	京都大学文学部博物館 →図録京都大学文学部博物館 [品切]	
神主と神人の社会史（神社史料研究会叢書 I） [品切]		京都大学文学部博物館の古文書 [第1～12輯]	6
眼病に効く温泉 [品切]		京都 高瀬川	36
環琵琶湖地域論	36	京都 伝統工芸の近代	71
刊本花道書年表 [品切]		京都中世都市史研究（史学叢書）	15
		京都の医学史 [全2冊] [品切]	
き		京都の女性史	36
紀伊古代史研究	12	京都の都市共同体と権力（史学叢書）	20
祇園祭の中世	20	京都の美術史	62
儀式式祚大嘗祭儀→訓読注儀式式祚大嘗祭儀	9	京都の歴史災害	37
技術と文明 [1～37]	77	京都府の教育史（都道府県教育史）	40
貴族院と立憲政治	31	京都文化の伝播と地域社会（史学叢書）	19

京都町衆伊藤仁斎の思想形成	41	近世日本釈奠の研究	42
京都療病院お雇い医師ショイベ	46	近世日本の儒学と洋学	〔品切〕
京都冷泉町文書〔全6巻・別巻1〕	6	近世日本の儒教と文化（史学叢書）	〔品切〕
京の医史跡探訪〔増補版〕	〔品切〕	近世日本の銅と大坂銅商人	81
京の鴨川と橋	36	近世の王権と仏教	58
京の民間医療信仰	51	近世の学校と教育	〔品切〕
京舞井上流の誕生	88	近世の環境と開発	28
京大和翠紅館→春秋 京大和翠紅館	84	近世の禁裏と都市空間	29
杏林叢書	〔品切〕	近世の公家社会と京都	30
魚雁集	105	近世の女性画家たち	〔品切〕
玉蘂	5	近世の学びと遊び（佛教大学鷹陵文化叢書10）	26
玉海・尾陽（徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇一）	92	近世東アジア海域の文化交渉	38
キリシタン大名の考古学		近世琵琶湖水運の研究	28
（別府大学文化財研究所企画シリーズ2）	90	近世復古清涼殿の研究	〔品切〕
キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究	60	近世文化の形成と伝統（芳賀幸四郎歴史論集 第5巻）	10
桐火桶・詠歌一鉢・綺語抄		近世妙心寺建築の研究	84
（徳川黎明会叢書 和歌篇四）	92	近世吉野林業史〔オンデマンド版〕	81
木を科学する	104	近代医史学論考（阿知波五郎論文集 上）	50
金唐革史の研究	70	近代医療のあけぼの	〔品切〕
金鯢叢書〔第1～40輯〕	11	近代大阪の企業者活動	〔品切〕
近世上方歌舞伎と堺（佛教大学研究叢書14）	29	近代化の推進者たち	〔品切〕
近世上方大工の組・仲間	83	近代京都研究	34
近世教育思想史の研究	〔品切〕	近代京都の施薬院	35
近世京都近郊の村と百姓（佛教大学研究叢書22）	29	近代工芸運動とデザイン史	70
近世京都の都市と民衆（史学叢書）	26	近代古墳保存行政の研究	35
近世京都の町・町家・町家大工	83	近代数寄者のネットワーク	80
近世京焼の研究	71	近代西洋文明との出会い	24
近世後期瀬戸内塩業史の研究	27	近代地方政治と水利土木	32
近世鉱山社会史の研究	79	近代茶道の歴史社会学	74
近世国家の教育思想	42	近代都市公園史の研究	〔品切〕
近世御用絵師の史的研究	〔品切〕	近代新潟におけるキリスト教教育	〔品切〕
近世寺社参詣の研究〔オンデマンド版〕	30	近代新潟におけるプロテスタント	61
近世史小論集	29	近代日本画、産声のとき	〔品切〕
近世思想史研究の現在	〔品切〕	近代日本公園史の研究	81
近世私塾の研究	41	近代日本高等教育体制の黎明	44
近世社会と知行制	26	近代日本〈陳列所〉研究	84
近世社会と百姓成立（佛教大学研究叢書1）	27	近代日本と地域振興	34
近世儒者の思想挑戦	42	近代日本と幕末外交文書編纂の研究	32
近世禅僧伝〔全8巻〕	〔8品切〕	近代日本における書への眼差し	67
近世禅林僧宝伝	〔品切〕	近代日本の医学	〔品切〕
近世禅林墨蹟〔全3巻〕	66	近代日本の学校文化誌	〔品切〕
近世大名のアーカイブズ資源研究	30	近代日本の軍部と政治	31
近世中国朝鮮交渉史の研究	39	近代日本の都市社会政策とマイノリティ	35
近世地域教育史の研究	42	近代日本のユダヤ論議	35
近世都市和歌山の研究	25	近代日本の倫理思想	44
近世長崎司法制度の研究	78	近代日本の歴史都市	〔品切〕
近世長崎・対外関係史料	9	近代の「美術」と茶の湯	76
近世日蘭貿易史の研究（史学叢書）	26	欽定西清硯譜〔全2巻〕	69

金瓶梅研究（佛教大学研究叢書6）	103	源氏物語の史的研究（史学叢書）	12
禁裏・公家文庫研究 [第1～5巻]	8	源氏物語の地理	96
禁裏本歌書の蔵書史的研究	98	源氏物語 遊興の世界	96
く		検証地震予知	104
空海といは歌（弘法大師の教育 下巻）	41	顕岑院本	75
空海と綜芸種智院（弘法大師の教育 上巻）	41	憲政常道と政党政治	34
空花集	54	現代医療の原点を探る	45
空華日用工夫略集→訓註空華日用工夫略集	[品切]	現代語訳啓迪集	[品切]
公家茶道の研究	74	現代日本のボランティア像	106
公家と儀式（京大博物館5）	[品切]	建築史論聚	83
公家と武家 I～IV	17	元伯宗旦の研究	76
公家と武家の比較文明史→		建碑記念文晁遺墨展覧会図録	[品切]
国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史	17	源平の時代を視る	98
俱舎論音義の研究	98	原本『古画備考』のネットワーク	64
九条家本延喜式 [全5巻]（東京国立博物館古典籍叢刊）	9	こ	
くずし字辞典	4	洪庵・適塾の研究	28
熊沢蕃山の研究	[品切]	高句麗壁画古墳と東アジア	91
熊沢蕃山の思想冒険	42	江月宗玩 欠伸稿訳注 [全2冊]	55
熊本県的美術	68	交錯する知	37
熊本藩の地域社会と行政	28	講座 日本茶の湯全史 全3巻	76
呉氏医聖堂叢書	[品切]	皇室の饗宴とボンボンニエール	70
呉秀三	[品切]	孝子伝の研究（佛教大学鷹陵文化叢書5）	[品切]
呉秀三著作集 [全2巻]	46	叢叢・桃江・文庫（徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇三）	92
軍医森鷗外のドイツ留学	49	楮・三桮・雁皮が紙になる迄（和紙文庫シリーズ）	73
軍事技術者のイタリア・ルネサンス	82	幸田露伴の世界	100
訓註空華日用工夫略集	[品切]	高知県の教育史（都道府県教育史）	40
訓点資料の基礎的研究	96	口頭伝承と文字文化	88
訓讀註釋儀式踐祚大嘗祭儀	9	弘法大師の教育 [全2冊]	41
け		光芒の大正	94
経済史再考	80	稿本日本眼科学史	[品切]
経済史文献解題 [96・97年版 品切]	79	高良斎とその時代	48
慶州地区古墳発掘調査報告書	90	古楽古歌謡集（陽明叢書国書篇 第8輯）	92
芸術の解析（古田光邦評論集I）	81	古画備考→増訂古画備考	[品切]
芸術の理論と歴史	[品切]	古画備考五十音別索引	[品切]
慶長以前の石燈籠	[品切]	古記録と日記 [全2冊]	12
稽微録（大経大史料叢書）	[品切]	古記録の研究 [上・下]	
啓迪集 → 現代語訳啓迪集	[品切]	（桃裕行著作集第4・5巻）[上 品切]	10
系譜伝承論	19	古今名物御前菓子図式（菓子文庫シリーズ）	86
劇場の近代化	84	古今和歌集（徳川黎明会叢書 和歌篇一）	92
元勲・近代諸家書簡集成→		古今和歌集（陽明叢書国書篇 第1輯）	92
宮津市立前尾記念文庫所蔵 元勲・近代諸家書簡集成	8	古今和歌集への道	106
言語のあいだを読む	103	国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史	17
源氏物語 [全16冊]（陽明叢書国書篇 第16輯）	92	国際デザイン史	63
源氏物語細流抄→三条西公条自筆稿本 源氏物語細流抄	94	黒正巖著作集 [全7巻]	80
源氏物語 千年のかがやき	96	黒正巖と日本経済学（大経大研究叢書）	80
源氏物語の国語学的研究（中川浩文論文集 下巻）	95	国宝油滴天目茶碗と国宝飛青磁花生	71
		悟溪宗頼 虎穴録訳注	[品切]

志を継ぐ（新島襄を語る10）	34	佐治重賢氏所蔵 小堀政一関係文書	7
五山禅僧伝記集成	〔品切〕	雑誌「大大阪」CD-ROM	7
五山禅林宗派図	54	雑誌『太陽』と国民文化の形成	〔品切〕
五山文学全集	〔品切〕	雑誌茶湯〔1～23号〕〔1～7・9～11・14・16 品切〕	73
後拾遺和歌集（陽明叢書国書篇 第2輯）	92	札幌農学校と英語教育	31
後深心院閑白記〔全3冊〕（陽明叢書記録文書篇 第4輯）	5	茶道四祖伝書（茶湯古典叢書1）	〔品切〕
古代神祇信仰と仏教	〔品切〕	実国・師光全歌注釈	98
古代・中世の浄土教信仰と文化	〔品切〕	The Historical Background of English Education in Japan	43
古代・中世の政治と文化	12	鯨島尚信在欧外交書簡録	8
古代日本の衣服と交通	14	沙門良寛全伝 → 北越偉人沙門良寛全伝	〔品切〕
古代日本の輝き	13	ザ・ヤトイ	〔品切〕
古代日本の生命倫理と疾病観	52	慚愧の精神史（佛教大学鷹陵文化叢書11）	〔品切〕
古代文明と環境（文明と環境Ⅰ）	〔品切〕	三高の果てぬ夢	43
国家と宗教	40	三条西公条自筆稿本 源氏物語細流抄	
後鳥羽院政の展開と儀礼	20	（龍谷大学善本叢書25）	94
言葉の力（佛教大学鷹陵文化叢書13）	107	散所・声聞師・舞々の研究	18
近衛家熙写手鑑の研究	67	山頭火遺墨集 → 精選山頭火遺墨集	66
古筆切研究〔第一集〕	93	三匹獅子舞の研究	87
古筆切資料集成〔全6巻〕	93	三藐院近衛信尹	67
古筆聚成（徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇五）	92		
古文化財の科学	90		
後法興院記〔全4冊〕（陽明叢書記録文書篇 第8輯）	5	シールボルトが蒐集したシダ標本	82
後法成寺閑白記〔全3冊〕（陽明叢書記録文書篇 第3輯）	5	シールボルト参府旅行中の日記	〔品切〕
小堀政一関係文書 → 佐治重賢氏所蔵小堀政一関係文書	7	シールボルトと鎖国・開国日本	25
小松茂美 人と学問	106	慈雲尊者全集	〔品切〕
高野山正智院連歌資料集成〔全2冊〕	94	慈雲尊者墨蹟集成	66
金（民衆生活の日本史 第3巻）	11	視覚芸術の比較文化（大手前大比較叢書2）	〔品切〕
金戒光明寺 宝物総覧 → 大本山くろ谷		視覚の一九世紀	〔品切〕
金戒光明寺 宝物総覧	57	私家集・歌合（徳川黎明会叢書 和歌篇二）	92
今昔物語集の人々	13	識字と学びの社会史	〔品切〕
権者の化現（佛教大学鷹陵文化叢書15）	57	字鏡集（龍谷大学善本叢書8）	〔品切〕
		紫金山古墳と石山古墳（京大博物館6）	〔品切〕
さ		詞源要略・和歌会席（龍谷大学善本叢書24）	94
西鶴の文芸と茶の湯	99	死して巖根にあらば骨も也た清からん	107
在京大名細川京兆家の政治史的研究	22	四十人集（龍谷大学善本叢書18）	93
在村知識人の儒学	42	地震予知 → 検証地震予知	104
在村蘭学の研究	50	思想史における近世	41
在村蘭学の展開	24	実学史研究〔I～XI〕	11
斎藤茂吉入門	〔品切〕	老舗に学ぶ京の衣食住	107
斎藤茂吉の生涯 → 精神病医斎藤茂吉の生涯	48	死の尊厳	〔品切〕
材料と調理（和食文化ブックレット5）	89	自筆本三論物語	〔品切〕
祭礼と芸能の文化史（神社史料研究会叢書Ⅲ）	59	鳥根根の教育史（都道府県教育史）	40
佐賀の紙（和紙文庫シリーズ）	73	下村為山 → 画集下村為山	68
『作庭記』と日本の庭園	84	社会経済史学の誕生と黒正巖（大経大研究叢書）	79
佐久間象山と科学技術	82	石道寺譚絵	68
鎖国時代長崎貿易史の研究（史学叢書）	24	社家文事の地域史（神社史料研究会叢書Ⅳ）	59
『狭衣物語』享受史論究	96	社寺造営の政治史（神社史料研究会叢書Ⅱ）	59
佐々木六角氏の系譜	〔品切〕	ジャポニスム入門	62

沙門良寛全伝 → 北越偉人沙門良寛全伝	〔品切〕	昭和民芸紙譜	72
朱印船貿易絵図の研究	39	書畫名賢詳伝 → 宋元明清書畫名賢詳伝	〔品切〕
周縁文化と身分制	18	初期古代東北の研究	〔品切〕
集古	〔品切〕	続撰吟集諸本の研究	93
住心院文書	56	続日本紀の世界	〔品切〕
修訂版上代学制の研究		織豊期主要人物居所集成〔第2版〕	28
（桃裕行著作集 第1巻）〔品切〕	10	織豊期の茶会と政治〔オンデマンド版〕	30
十九世紀日本の園芸文化	〔品切〕	植民地朝鮮の日常を問う	
一九世紀の豪農・名望家と地域社会	29	（佛教大学国際学術研究叢書3）	39
十二支攷	〔品切〕	諸国名物御前菓子秘伝鈔（菓子文庫シリーズ）	86
一八世紀日本の文化状況と国際環境	29	書道史より見る禅林の墨蹟	66
重要美術品等認定物件目録	〔品切〕	書の文化史	67
一六世紀イングランド農村の資本主義発展構造		シリーズ古典再生	96
（大経大研究叢書）	80	「塵海」→北垣国道日記「塵海」	9
呪術・科学・宗教	〔品切〕	宸翰英華	〔品切〕
春秋 京大和翠紅館	84	宸翰英華 別篇北朝	66
書〔一〕鑑賞と表現	〔品切〕	新・漢方処方マニュアル	〔品切〕
書〔二〕教え方・学び方	〔品切〕	神祇全書	〔品切〕
書〔三〕淳化閣帖からの展開	66	鍼灸医学序説	47
書〔四〕美学と書教育・実技篇	〔品切〕	鍼灸古典入門	〔品切〕
莊園制成立史の研究（史学叢書）	〔品切〕	新校太平記〔全2冊〕	97
莊園公領制の成立と内乱（史学叢書）	15	新興俳人の群像	100
莊園を読む・歩く（京大博物館7）	〔品切〕	新纂校訂即非全集	54
松花堂昭乗と瀧本流の展開	99	新纂校訂木菴全集	54
相国寺史料〔全10巻・別巻1〕	53	神社叢録	〔品切〕
相国寺蔵 西笑和尚文案	55	人車記〔全4冊〕（陽明叢書記録文書篇 第5輯）	5
正倉院染織品の研究	72	神社継承の制度史（神社史料研究会叢書V）	59
正倉院展六十回のあゆみ	65	神社史料研究会叢書	59
正倉院の香葉	71	神祇志料・附考	〔品切〕
正倉院宝物と古代の技	71	真宗史の研究〔上・下〕	
正倉院宝物に学ぶ	65	（宮崎圓遵著作集 第4・5巻）	56
正倉院宝物に学ぶ2	65	真宗書誌学の研究（宮崎圓遵著作集 第6巻）	56
正倉院文書の国語学的研究	95	真宗史料集成	〔品切〕
上代学制の研究→修訂版上代学制の研究	〔品切〕	真宗全書→新編真宗全書	〔品切〕
上代学制論攷（桃裕行著作集 第2巻）	〔品切〕	新世紀を創る。（京大博物館）	82
上代日本染織史	〔品切〕	人生工学うらおもて	〔品切〕
象徴天皇制の形成と定着	44	人生と芸術の対話	106
浄土宗西山派と三鈔寺文書（京大博物館の古文書 第9輯）	6	人生の歩み 業績録 レース-ゲスタエ	107
浄土宗叢書	57	新装版 富士川游著作集	46
小児科学の史的変遷	47	新撰大洋	100
情熱の移植医	107	新撰瓶花図彙（華道古典名作選集 第10巻）	〔品切〕
襄のライフは私のライフ（新島襄を語る別巻4）	34	新勅撰和歌集古注釈とその研究	97
正法山誌	〔品切〕	新訂 法然上人絵伝	58
正法山六祖伝訓註	53	神道叢書	〔品切〕
蕉門珍書百種・和露文庫	92	神仏分離の動乱	〔品切〕
条約改正交渉史	34	神仏習合の歴史と儀礼空間〔オンデマンド版〕	23
条約改正と英国人ジャーナリスト	31	新編真宗全書	〔品切〕
昭和初期 一移民の手紙による生活史	9	新編富士谷御杖全集〔全8巻〕	94

神名の語源辞典	〔品切〕	摂関院政期思想史研究	21
新訳絵本伊勢物語	67	摂関時代文化史研究（史学叢書）	13
親鸞の研究〔上・下〕		雪江禅師語録	〔品切〕
（宮崎圓遵著作集第1・2巻）	〔品切〕 56	雪叟紹立 雪叟詩集訓注	99
診療報酬の歴史	〔品切〕	絶対透明の探求	82
人類医学年表	46	瀬戸内海地域社会と織田権力（史学叢書）	19
神霊の音ずれ	87	先学追慕	78
神話・伝承学への招待	88	禅学論攷	53
		一九三〇年代東アジアの文化交流	
		（大手前大比較叢書9）	102
水系都市京都	35	一九二〇年代東アジアの文化交流	
水車の技術史	〔品切〕	（大手前大比較叢書6）	102
瑞泉寺史	55	一九二〇年代東アジアの文化交流Ⅱ	
瑞泉寺史別巻（妙心寺派語録 一・二）	55	（大手前大比較叢書7）	102
末宗廣著作集（茶書の研究・茶人の研究）	〔品切〕	宣教と受容	32
杉浦重剛全集〔全6巻〕	〔1・3～5品切〕 40	戦国期間東公方の研究（史学叢書）	18
杉浦重剛先生	〔品切〕	戦国期権力佐竹氏の研究	20
数奇の革命	〔品切〕	戦国期東国の都市と権力（史学叢書）	16
図説日本医療文化史	〔品切〕	戦国大名権力構造の研究	21
図説万国博覧会史	〔品切〕	戦国大名佐々木六角氏の基礎研究	21
崇徳院怨霊の研究〔オンデマンド版〕	23	戦国大名武田氏の研究（史学叢書）	15
住友史料叢書	6	戦国大名武田氏の権力構造	20
住友の歴史〔上・下〕	80	戦国大名の外交と都市・流通（史学叢書）	18
住友別子鉱山史	79	禅語辞典	4
角倉一族とその時代	30		
駿河伊達家文書（京大博物館の古文書 第5輯）	6	千載和歌集・長秋詠藻・熊野懐紙	
図録京都大学文学部博物館（京大博物館1）	〔品切〕	（陽明叢書国書篇 第3輯）	92
図録和紙の文化史年表	〔品切〕	先史時代の北白川（京大博物館4）	〔品切〕
		禅宗史の散策	53
		禅宗文化史の研究	54
政教社の研究	32	染織史考	〔品切〕
西山浄土教の基盤と展開	57	染織文様史の研究	〔品切〕
西笑和尚文案 → 相国寺蔵 西笑和尚文案	55	仙伝抄（華道古典名作選集 第2巻）	77
精神病医齋藤茂吉の生涯	48	煎茶文化考	〔品切〕
政治と行政の理論と実際	〔品切〕	善導大師と法然上人（佛教大学鷹陵文化叢書 別）	〔品切〕
精選山頭火遺墨集	66	禅と思想	〔品切〕
西南地域の史的展開〔近世篇〕	23	禅と美術	〔品切〕
西南地域の史的展開〔近代篇〕	31	塙仏の来た道	90
生の尊厳	51	千里の志（新島襄を語る1）	34
生命の意味〔全2巻〕	51	禅林墨蹟	〔品切〕
生命論と霊性文化（佛教大学国際学術研究叢書1）	61	禅林墨蹟拾遺	66
西洋化の構造	32	禅録慣用語俗語要典	〔品切〕
世界喫煙伝播史	88		
世界の医学史 → 体系世界医学史	〔品切〕		
世界を巡る美術探検	64	想音	107
関ヶ原合戦と近世の国制	26	挿花百練（華道古典名作選集 第3巻）	77
セザンヌと鉄斎	69	宋元學案・宋元學案補遺人名字號別名索引	〔品切〕
絶海語録〔全3巻〕	〔3品切〕 53	宋元明清書畫名賢詳伝	〔品切〕

漱石と世界文学	101	大日本地震史料	〔品切〕
漱石文学の水脈	101	大日本租税志	〔品切〕
造像量度経	60	太平記（龍谷大学善本叢書26）	94
宗達伊勢物語図色紙	69	太平記 → 新校太平記	97
増訂 古画備考	〔品切〕	太平記諸本の研究	97
増訂 日本貨幣史	〔品切〕	太平記的世界の研究	16
増訂 日本古紙幣類鑑	〔品切〕	大本山くろ谷 金戒光明寺 宝物総覧	57
増訂 富士谷御杖の生涯	〔品切〕	大洋 → 新撰大洋	100
曹洞宗の地域的展開	54	高木仙右衛門に関する研究	61
増補 陰陽道の神々	87	高橋貞一国文学論集	95
増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究	19	高円宮コレクションⅡ→根付 高円宮コレクションⅡ	70
増補改訂 新島八重と夫、襄	34	高山辰雄の世界	68
増補・改訂 西村茂樹全集〔全12巻〕	41	多紀氏の事蹟	49
増補・改訂 兵範記人名索引	13	沢庵和尚年譜（近世禅僧伝 第1巻）	54
増補 郷土教育運動の研究	43	竹内栖鳳 近代日本画の源流	〔品切〕
増補 淡窓全集	〔品切〕	竹内栖鳳とその弟子たち →	
増補 津村別院誌	56	海を渡り世紀を越えた 竹内栖鳳とその弟子たち	63
増補 日本医事大年表	〔品切〕	竹取物語の国語学的研究（中川浩文論文集 上巻）	〔品切〕
増補 妙心寺史	53	竹の経済史	〔品切〕
増補 蓮月尼全集	99	武野紹鷗 わびの創造	74
草木出生伝（華道古典名作選集 第6巻）	77	太宰文学の女性像	〔品切〕
続花道古書集成	77	橘為仲朝臣集	67
続木のななし	86	ダーティントン国際工芸家会議報告書	70
続洪庵・適塾の研究	28	田中不二麿関係文書（京大史料叢書）	7
続々日本仏教美術史研究	65	谷崎潤一郎と世紀末（大手前大比較叢書1）	101
続中世東国の支配構造（史学叢書）	16	田能村竹田基本画譜	69
続日本仏教美術史研究	65	魂の指定席（新島襄を語る6）	〔品切〕 34
続・鍼の道	48	丹後地域史へのいざない	〔品切〕
即非全集 → 新纂校訂即非全集	54	短冊集影 → 平安人物志短冊集影	66
続平家物語諸本の研究	95	檀紙考（和紙文庫 第三号）	72
俎休学の史的研究	41	淡窓全集 → 増補淡窓全集	〔品切〕
空の調べ→戸田勝久画集 空の調べ	69		

ち

た		地域開発と村落景観の歴史的展開	37
「大大阪」→雑誌「大大阪」CD・ROM	7	地域社会から見る帝国日本と植民地	35
対外関係と文化交流〔オンデマンド版〕	23	『親信卿記』の研究	13
「大化改新」史論〔全2冊〕	11	近松全集	〔品切〕
大記（京大史料叢書）	7	知の伝達メディアの歴史研究	37
大工頭中井家建築指図集	83	茶会記をひもとく 逸翁と茶会	75
体系世界医学史	〔品切〕	着衣する身体と女性の周縁化	88
大航海時代の日本と金属交易		茶書の研究・茶人の研究（末宗廣著作集）	〔品切〕
（別府大学文化財研究所企画シリーズ3）	22	茶人と茶の湯の研究	〔品切〕
大正・昭和期の日本政治と国際秩序	35	茶窓問話→評註茶窓問話	〔品切〕
太子信仰と天神信仰	61	茶道と恋の関係史	74
大乘起信論 → 訳注大乘起信論	60	茶道望月集（顕宗院本2）	75
大徳寺伝来五百羅漢図	65	茶と室内デザイン	84
大燈国師語録	〔品切〕	茶湯 → 雑誌茶湯	
大地へのまなざし	37	〔1～7・9～11・14・16 品切〕	73

茶湯古典叢書	73・74	中世村落と仏教（史学叢書）	〔品切〕
茶の医薬史	74	中世村落の景観と環境	18
茶の湯 恩籟抄	76	中世村落の景観と生活（史学叢書）	17
茶の湯交遊録 小林一三と松永安左エ門	75	中世東国の支配構造（史学叢書）	16
茶の湯と音楽	75	中世東寺と弘法大師信仰（史学叢書）	15
茶湯百亭百会（顕学院本3）	75	中世都市共同体の研究（史学叢書）	17
茶の湯文化と小林一三	75	中世都市「府中」の展開（史学叢書）	17
茶の湯 連翹抄	74	中世長崎の基礎的研究	20
茶譜（茶湯古典叢書5）	74	中世日本の政治と文化	18
中華民国の誕生と大正初期の日本人	39	中世の契約社会と文書	21
中近世農業史の再解釈	28	中世の文学と学問（龍谷大学仏教文化研究叢書15）	97
中国戯曲善本三種	103	中世風狂の詩	54
中国近世における国家と禅宗	55	中世仏教と庶民生活（宮崎圓遵著作集 第3巻）〔品切〕	56
中国語圏における厨川白村現象	101	中世文化と浄土真宗	58
中国五代国家論（佛教大学研究叢書12）	〔品切〕	中世文化とその基盤	
中国浄土教と浄土宗学の研究	〔品切〕	（芳賀幸四郎歴史論集 第4巻）	〔品切〕 10
中国随筆索引	〔品切〕	中世民衆生活史の研究（史学叢書）	〔品切〕
中国銅銭の世界（佛教大学鷹陵文化叢書16）	〔品切〕	中世和歌集（陽明叢書国書篇 第6輯）	92
中国南北朝隋唐陶俑の研究	71	中世和歌つれづれ	97
中国における妊娠・胎発生論の歴史	〔品切〕	中世和歌の想念と表現	97
中国の古代都市文明（佛教大学鷹陵文化叢書6）	〔品切〕	中右記〔全4冊〕（陽明叢書記録文書篇 第7輯）	5
中国文人画家の近代	63	長講堂領目録と島田家文書（京大博物館の古文書 第1輯）	6
中古中世和歌文学論叢（龍谷大学仏教文化研究叢書9）	97	朝鮮医学史及び疾病史 →	
中古和歌集（陽明叢書国書篇 第5輯）	92	補訂朝鮮医学史及び疾病史	47
中世アーカイブズ学序説	22	朝鮮医学事年表	47
中世歌書集	94	朝鮮医書誌	〔品切〕
中世畿内における都市の発達	〔品切〕	朝鮮科学史における近世	42
中世京都の空間構造と礼節体系	20	朝鮮近現代史を歩く（佛教大学鷹陵文化叢書20）	38
中世京都の都市と宗教〔オンデマンド版〕	23	朝鮮古書画総覧	〔品切〕
中世京都の民衆と社会〔オンデマンド版〕	23	朝鮮通信使の研究	27
中世京都文化の周縁（史学叢書）	15	朝鮮独立運動と東アジア	39
中世・近世の村と地域社会	27	鎮守の森は甦る	87
中世近世和歌文芸論集（龍谷叢書15）	98	鎮守の森の物語	87
中世公家領の研究（史学叢書）	16	青島の都市形成史：1897－1945	38
中世蹴鞠史の研究	19		
中世後期の香文化	22	つ	
中世後期の寺社と経済（史学叢書）	17	追憶の記	107
中世考古美術と社会（史学叢書）	62	通天楼日記	64
中世国語資料（陽明叢書国書篇 第14輯）	92	月と西行	105
中世寺院社会と民衆	22	月を愛でる	69
中世寺院社会の研究（史学叢書）	17	椿井大塚山古墳と三角縁神獣鏡	
中世寺社信仰の場（史学叢書）	〔品切〕	（京大博物館2）	〔品切〕
中世荘園の世界	16	津村別院誌 → 増補津村別院誌	56
中世史料学叢論	20	徒然草を語る	〔品切〕
中世寺領荘園と動乱期の社会（史学叢書）	18		
中世前期女性院宮の研究	20	て	
中世禅林の学問及び文学に関する研究		櫻園小石先生叢話	46
（芳賀幸四郎歴史論集 第3巻）〔品切〕	10	帝国議会と教育政策	43

定子皇后→枕草子幻想定子皇后	〔品切〕	徳川黎明会叢書〔全12冊・別冊1〕	92
ディドロとルソー 言語と《時》	42	毒きのこ今昔	104
手すきの紙郷	73	禿氏文庫本（龍谷大学善本叢書29）	61
鉄斎米寿記念貽墨戯	〔品切〕	徳島県教育史（都道府県教育史）	40
鉄道日本文化史考	33	特選神名牒	〔品切〕
鉄砲	24	土佐の紙（和紙文庫シリーズ）	73
典医の歴史	〔品切〕	都市形態史研究（原田伴彦論集 第2巻）	10
天翔ける白鷗	107	都市社会史研究（原田伴彦論集 第3巻）	10
天下人の神格化と天皇	30	都市の近代・大阪の20世紀	〔品切〕
転換期長州藩の研究（史学叢書）	25	都市発達史研究（原田伴彦論集 第1巻）	10
天神祭	87	都市文化と東洋医学	51
典籍と史料（龍谷大学仏教文化研究叢書28）	98	俊頼髓腦の研究	96
天台寺門宗教文化資料集成 仏教美術・文化財編	65	戸田勝久画集 空の調べ	69
伝統産業の成立と発展	80	栃木県教育史（都道府県教育史）	40
伝統工藝再考 京のうちと	〔品切〕	都道府県教育史シリーズ〔全47巻〕	40
天然痘根絶史	47	都道府県庁舎	83
天皇・将軍・地下楽人の室町音楽史	21	殿さまのひとりごと	〔品切〕
天皇親政	〔品切〕	富山県教育史（都道府県教育史）	40
天馬塚発掘調査報告書	〔品切〕		
天龍寺文書の研究	9	な	
		中井家大工支配の研究	83
と		中川浩文論文集〔全2冊〕	95
ドイツにおける〈日本＝像〉	63	長崎県教育史（都道府県教育史）	40
東海地域文化研究	37	長崎奉行の研究	27
陶器全集〔全4巻〕	69	長与専斎→医療福祉の祖 長与専斎	48
東国における武士勢力の成立と展開（史学叢書）	21	抛入花伝書（華道古典名作選集 第5巻）	77
同志社女学校史の研究	44	夏目漱石における東と西（大手前大比較叢書4）	102
頭書立華指南（華道古典名作選集 第8巻）	77	浪花和尚のえんま帖	105
東寺・東寺文書の研究	18	浪速の町医師 上田秋成	48
東寺廿一口供僧方評定引付〔全8冊・別巻1冊〕	8	奈良絵本（龍谷大学善本叢書22）	〔品切〕
東寺百合文書〔1～11〕	8	奈良 千三百年ものがたり	〔品切〕
東寺百合文書を読む	16	奈良朝人物列伝	13
東寺宝物の成立過程の研究	19	奈良本辰也選集〔全6巻・別巻1〕	10
東寺文書と中世の諸相	20	南都寺院文書の世界	19
東大医学部初代総理池田謙斎〔全2冊〕	46	南蛮学の発見	〔品切〕
東大寺文書（京大史料叢書）	7	南蛮・紅毛・唐人	39
東大寺文書（京大博物館の古文書 第6輯）	6		
東大寺文書を読む	17	南北朝期公武関係史の研究→	
東洞全集	〔品切〕	増補・改訂 南北朝期公武関係史の研究	19
東福寺誌	53		
動物・植物写真と日本近代絵画	63	に	
同名異木のはなし	86	新島襄の交遊	〔品切〕
東洋学説林	38	新島襄を語る	34
東洋史研究文献類目	〔品切〕	新島襄を語る別巻	34
東嶺和尚年譜（近世禅僧伝 第8巻）	〔品切〕	新島八重と夫、襄→増補改訂	
徳川社会と日本の近代化	30	新島八重と夫、襄	34
徳川将軍家領知宛行制の研究（史学叢書）	27	西陣史	〔品切〕
徳川美術館論集→尾陽	63	西村茂樹研究	44

西村茂樹全集→増補・改訂 西村茂樹全集	41	日本建築様式の研究	〔品切〕
西山地藏院文書（京大史料叢書）	7	日本古紙幣類鑑 → 増訂 日本古紙幣類鑑	〔品切〕
20世紀の経済と文化（大経大研究叢書）	79	日本古写経現存目録	〔品切〕
21世紀のグランドデザイン	85	日本古代宮廷社会の研究（史学叢書）	12
二松學舎大学学術叢書	98・100	日本古代国家の展開〔全2巻〕	〔上 品切〕 12
日欧のかけはし	24	日本古代国家の農民規範と地域社会	15
日蘭交渉史の研究（史学叢書）	23	日本古代商業史の研究（史学叢書）	13
日蘭交流史 その人・物・情報	〔品切〕	日本古代即位儀礼史の研究（史学叢書）	12
日露戦争従軍記	45	日本古代地域史研究序説	12
日仏文学・美術の交流		日本古代典籍史料の研究	14
（大手前大比較叢書10）	102	日本古代都市史研究	90
日仏マンガの交流（大手前大比較叢書11）	102	日本古代の伝承と歴史	13
日記が開く歴史の扉（京大博物館）	8	日本古代の武具	14
日記・古記録の世界	15	日本古代文書研究	14
日光東照宮の成立〔オンデマンド版〕	31	日本古代養鷹の研究	12
日中演劇交流の諸相	85	日本国家の史的特質〔近世・近代〕	25
日中実学史研究	24	日本国家の史的特質〔古代・中世〕	16
日中親族構造の比較研究（史学叢書）	13	日本古典随筆の研究と資料	
日中戦争から世界戦争へ	33	（龍谷大学仏教文化研究叢書19）	98
日中戦争についての歴史的考察	33	日本災異志	〔品切〕
日本音楽史料叢刊	64	日本産科叢書	〔品切〕
日本医史学雑誌〔全18冊〕		日本産業技術史事典	82
〔2・3・10・12・13・14・15・16・18品切〕	45	日本史における国家と社会	24
日本医事大年表 → 増補 日本医事大年表	〔品切〕	日本社会の史的構造〔近世・近代〕	25
日本医療文化史 → 図説 日本医療文化史	〔品切〕	日本社会の史的構造〔古代・中世〕	16
日本花押大観	〔品切〕	日本写経綜覧	〔品切〕
日本画家辞典	〔品切〕	日本酒と和食（和食文化ブックレット9）	89
日本貨幣史 → 増訂 日本貨幣史	〔品切〕	日本肖像画図録（京大博物館3）	68
日本眼科学史 → 稿本 日本眼科学史	〔品切〕	日本書紀の世界	〔品切〕
日本眼科学会百周年記念誌	〔品切〕	日本人名辞典	〔品切〕
日本眼科の年表	47	日本禅宗史論集〔全4巻〕	〔下之一・二 品切〕 53
日本眼科を支えた明治の人々	47	日本染織工芸史 上	〔品切〕
日本玩具史	〔品切〕	日本染織史	〔品切〕
日本教育史論叢	43	日本中世政治文化論の射程	21
日本近世染織業発達史の研究	72	日本中世の王権と権威〔オンデマンド版〕	23
日本近世地誌編纂史研究（史学叢書）	〔品切〕	日本中世の環境と村落	22
日本近世の宗教と社会	28	日本中世の社会と寺社	21
日本近世文学研究の新領域	〔品切〕	日本中世の政治権力と仏教（史学叢書）	〔品切〕
日本近代化と真宗地帯の研究	〔品切〕	日本中世の地域社会と仏教	22
日本近代化の諸相	31	日本中世の地域と社会	15
日本近代都市史研究	〔品切〕	日本中世の領主一揆	22
日本近代の成立と展開	31	日本庭園像の形成	84
日本経済史の研究	〔品切〕	日本で初めて翻訳した解剖書	45
		日本銅鋳業史の研究	79
日本建築細部変遷小図録 →		日本の元氣印・新島八重（新島襄を語る別巻1）	34
補訂 日本建築細部変遷小図録	〔品切〕	日本の心と源氏物語（シリーズ古典再生2）	96
日本建築史図録	〔品切〕	日本の社会と真宗	57
日本建築の構造と技法	〔品切〕	日本の食の近未来	85

日本の政策金融	78	幕末軍事技術の軌跡	6
日本の前近代と北陸社会	24	幕末財政史研究	78
日本の朝鮮・台湾支配と植民地官僚	〔品切〕	幕末・明治期の儒学思想の変遷	43
日本の通過儀礼（佛教大学鷹陵文化叢書4）	〔品切〕	芭蕉の文墨	99
日本梅毒史の研究	47	旗本知行所の研究（史学叢書）	23
日本美術史論究〔全7巻〕	〔3～5品切〕62	八代抄・新後拾遺和歌集	
日本囊物史	〔品切〕	（徳川黎明会叢書 和歌篇三）	92
日本仏教美術史研究	〔品切〕	華岡青洲先生及其外科	〔品切〕
日本文学とその周辺		花籠と竹花入	77
（龍谷大学仏教文化研究叢書33）	98	花園院宸記〔全35巻〕	6
日本文学の「女性性」	100	花みる心	77
日本文化と民族移動（文明と環境Ⅱ）	85	早池峰岳神楽の継承と伝播（佛教大学研究叢書18）	88
日本法制史論集	78	原三溪翁伝	〔品切〕
人間・科学・宗教	60	原田伴彦著作集〔全7巻・別巻1〕	〔2・4品切〕10
人蔘史	〔品切〕	原田伴彦論集〔全5巻〕	10
入門 奈良絵本・絵巻	〔品切〕	鍼の道	48
仁明朝史の研究	14	晴右公記・晴豊公記（京大史料叢書）	7
		万国博覧会と人間の歴史	86
ぬ		万国博覧会の研究	〔品切〕
布がつくる社会関係	88	ハンサムに生きる（新島襄を語る7）	〔品切〕34
		般舟讚私講	〔品切〕
ね		萬象録〔全9巻〕	6
根付 高円宮コレクションⅡ	70	阪神・淡路大震災と歴史的建造物	83
年中行事としきたり（和食文化ブックレット2）	89	阪神文化論（大手前大比較叢書5）	102
念佛の自觉	56	磐水存響	45
念仏の時空論考	57		
		ひ	
の		「ヒイデスの導師」の原典的研究	
脳死は、死でない。	51	→キリシタン版「ヒイデスの導師」の原典的研究	60
能勢朝次著作集〔全10巻〕	94	比較詩学と文化の翻訳（大手前大比較叢書8）	102
野中広務	106	東アジア経済史研究 第1集（大経大研究叢書）	80
野村得庵の文化遺産	76	東アジアと『半島空間』	38
		東アジアの交流と地域展開	38
は		東アジアの交流と地域諸相	38
バーナード・リーチ再考	70	東アジアのなかの日本	13
俳句とジャポニスム	101	東アジアの本草と博物学の世界〔全2巻〕	27
俳句とスペインの詩人たち	103	東と西の医療文化	〔品切〕
葉隠の世界	42	東山文化の研究〔全2巻〕	
芳賀幸四郎歴史論集〔全5巻〕	〔1～4品切〕10	（芳賀幸四郎歴史論集 第1・2巻）〔品切〕	10
白隠和尚年譜（近世禅僧伝 第7巻）	54	飛脚問屋井野口屋記録〔全4巻〕（大経大史料叢書）	7
幕藩権力と寺院・門跡（史学叢書）	26	ビーコンヒルの小径（新島襄を語る8）	34
幕藩政アーカイブズの総合的研究	30	美術史を愉しむ	〔品切〕
幕藩制国家の成立と対外関係（史学叢書）	25	美女の図像学	101
幕末維新期の陵墓と社会	29	備前岡山の在村医 中島家の歴史	51
幕末・維新の西洋兵学と近代軍制	35	ひとりは大切（新島襄を語る2）	〔品切〕34
幕末・維新を考える（佛教大学鷹陵文化叢書2）	32	日名子実三の世界	71
幕末期長州藩洋学史の研究	25	雑祭新考	〔品切〕
幕末期の老中と情報	29	泌尿器科学史	〔品切〕

響きあう東西文化	86	仏教東漸	60
百姓一揆の研究（黒正巖著作集 第1巻）	80	仏教東漸の旅	64
百人一首万華鏡	97	仏教と癒しの文化（佛教大学国際学術研究叢書4）	61
尾陽〔全9巻〕	63	仏教と社会（佛教大学国際学術研究叢書5）	61
兵庫県の教育史（都道府県教育史）	40	仏教と平和（佛教大学国際学術研究叢書2）	61
評註茶窓問話	〔品切〕	仏教の日本的土着	60
兵範記（京大史料叢書）	7	仏教美術を学ぶ	65
兵範記紙背文書（京大史料叢書）	7	佛教福祉研究	〔品切〕
兵範記人名索引→増補改訂 兵範記人名索引	13	仏教 文学 芸能	〔品切〕
漂流記録と漂流体験	26	仏教文化史の研究（宮崎圓遵著作集 第7巻）	56
平生釵三郎日記抄	79	佛光寺の歴史と信仰	〔品切〕
広瀬旭莊全集〔全12巻・別巻1〕	5	船簞笥の研究	71
広瀬先賢文庫目録	〔品切〕	部落差別史研究（原田伴彦論集 第4巻）	10
廣瀬淡窓	42	ブラームスと芭蕉たち	〔品切〕
広瀬淡窓	〔品切〕	古井喜実と中国	34
		ふるさとの食べもの（和食文化ブックレット8）	89
ふ		古田織部茶書〔一・二〕（茶湯古典叢書2・3）	73
風外本高墨蹟集→三河 風外本高墨蹟集	67	文学に見る痘瘡	52
風俗絵画の文化学	〔品切〕	文学のなかの考古学（佛教大学鷹陵文化叢書19）	90
風俗絵画の文化学Ⅱ	63	文化芸能史研究（原田伴彦論集 第5巻）	10
風俗絵画の文化学Ⅲ	63	文化史学の挑戦	〔品切〕
フェノロサ社会論集	43	文化の航跡	85
福井県の教育史（都道府県教育史）	40	文化の手法（吉田光邦評論集Ⅱ）	81
福岡県の教育史（都道府県教育史）	40	文芸の創成と展開	11
福沢屋論吉の研究	31	文人世界の光芒と古都奈良	34
武家家訓の研究（桃裕行著作集 第3巻）	10	文晁遺墨展覧会図録	〔品切〕
富士川游著作集〔全10巻〕		文明随想 継承と移転	82
→新装版 富士川游著作集	46	文明と環境〔全3冊〕	〔Ⅰ品切〕85
富士谷御杖全集→新編 富士谷御杖全集	94	文明の基軸（吉田光邦評論集Ⅲ）	81
富士谷御杖の生涯→増訂 富士谷御杖の生涯	〔品切〕		
武士の精神とその歩み	37	へ	
武士と騎士	〔品切〕	平安歌合集〔全2冊〕（陽明叢書国書篇 第4輯）	92
藤村庸軒年譜考〔全2巻〕	75	平安王朝の葬送	15
藤村庸軒流茶書（顕孝院本1）	75	平安期の願文と仏教的世界観〔オンデマンド版〕	
藤村庸軒をめぐる人々	28	（佛教大学研究叢書2）	58
藤原惺窩集	41	平安貴族社会の秩序と昇進	14
伏見学ことはじめ	〔品切〕	平安京とその時代	〔品切〕
蕪村→没後220年 蕪村	68	平安時代陰陽道史研究	14
復活！不昧公大圓祭	75	平安時代書道史	66
仏教教化研究	〔品切〕	平安時代貿易管理制度史の研究	14
仏教・共生・福祉（佛大鷹陵文化叢書1）	〔品切〕	平安時代の古記録と貴族文化（史学叢書）	11
佛教藝術〔全22冊〕	〔1品切〕64	平安人物志短冊集影	66
仏教考古学論攷〔全6巻〕	〔4品切〕60	平安朝文学とその周辺	95
仏教思想と浄土教	57	平記・大府記・永昌記・愚昧記	
仏教説話の美術	〔品切〕	（陽明叢書記録文書篇 第6輯）〔品切〕	5
佛教大学附属図書館所蔵 貴重古典籍目録→		平家物語（龍谷大学善本叢書13）	93
開学百周年記念 佛教大学附属図書館所蔵 貴重古典		平家物語覚一本新考	95
籍目録	4	平家物語生成考	98

平家物語諸本の研究 → 続平家物語諸本の研究	95	枕草子集註 → 補訂枕草子集註	〔品切〕
平家物語百二十句本	95	枕草子・徒然草（陽明叢書国書篇 第10輯）	92
平氏政権の研究（史学叢書）	〔品切〕	枕草子の婦人服飾	〔品切〕
平治物語・明德記（陽明叢書国書篇 第12輯）	92	正岡子規入門	99
平成新修古筆資料集〔第一～五集〕〔第一集品切〕	93	正岡子規と俳句分類	100
別府大学文化財研究所企画シリーズ	22・90	まち祇園祭すまい	〔品切〕
ベルツの生涯	48	松江藩と洋学の研究（桃裕行著作集 第6巻）	10
変容する聖地 伊勢	59	松岡恕庵本草学の研究	29
		真継家と近世の鋳物師	25
ほ		松平春嶽未公刊書簡集	〔品切〕
鳳凰台・水茎・集古帖		松前景広『新羅之記録』の史料的研究	28
（徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇四）	92	祭りのしつらい	88
「封建・郡県」再考	27	マネジャーの足跡 →	
		役者のパートナー マネージャーの足跡	106
蓬左・霜のふり葉・八雲		萬年山聯芳録（相国寺史料 別巻）	53
（徳川黎明会叢書 古筆手鑑篇二）	92		
法制史料集（陽明叢書記録文書篇 第9輯）	5	み	
宝石誌	81	三河 風外本高墨蹟集	67
房総風雅史	〔品切〕	三木金物問屋史料	78
房総風雅史 古代・中世編	〔品切〕	ミシンと衣服の経済史	80
法然絵伝を読む（佛教大学鷹陵文化叢書12）	57	水玉紙・奉書紙・高野紙（和紙文庫シリーズ）	73
法然上人絵伝→新訂 法然上人絵伝	58	水と人	〔品切〕
法然上人絵伝の研究	58	見世物研究	86
法然伝承と民間寺院の研究	57	未知への模索（佛教大学鷹陵文化叢書14）	103
法然伝と浄土宗史の研究（史学叢書）	56	光豊公記（京大史料叢書）	7
蓬萊山と扶桑樹	90	箕作阮甫	〔品切〕
北越偉人沙門良寛全伝	〔品切〕	箕作阮甫の研究	48
保元物語（陽明叢書国書篇 第11輯）	92	御堂関白記〔全5冊〕〔1・2・4品切〕	
戊辰内乱期の社会	35	（陽明叢書記録文書篇 第1輯）	5
細川頼之と西山地藏院文書		御堂関白記全註釈〔第1期・全8冊〕	8
（京大博物館の古文書 第3輯）	6	御堂関白記全註釈〔第2期・全8冊〕	8
没後220年 燕村	68	源通具全歌集	93
北方文化研究報告	〔品切〕	壬生狂言古衣裳	72
没理想論争とその影響（佛教大学研究叢書27）	100	宮古島狩俣の神歌	87
補訂 朝鮮医学史及疾病史	47	みやこの近代	33
補訂 日本建築細部変遷小図録	〔品切〕	花洛（みやこ）のモード	72
補訂 枕草子集註	〔品切〕	宮崎圓達著作集〔全7巻〕	〔1～3品切〕56
滅びと異郷の比較文化	101	宮津市立前尾記念文庫所蔵	
本草学と洋学	26	元勲・近代諸家書簡集成	8
本能寺史料〔全5巻・別巻1〕	58	宮本又次史学館	78
本能寺と信長	〔品切〕	妙心寺史 → 増補妙心寺史	53
翻訳文学の視界	103	妙心寺派語録〔一・二〕（瑞泉寺史別巻）	55
ま		三輪物語 → 自筆本三輪物語	〔品切〕
マイナーなればこそ（新島襄を語る9）	34	民芸運動と地域文化	〔品切〕
前野良沢	49	民衆生活の日本史〔全3巻〕	11
牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション	82	民俗文化複合体論	87
枕草子幻想定子皇后	〔品切〕	明朝体の歴史	81

む		八瀬童子	〔品切〕
		柳宗悦と民藝運動	〔品切〕
棟札の研究	27	病いの克服	51
村田正志著作集〔全7巻〕	11	山口県の教育史（都道府県教育史）	40
室町期東国社会と寺社造営（史学叢書）	19	山口県の美術	68
室町時代庭園史	83	大和（奈良）の紙（和紙文庫シリーズ）	73
室町水墨画と五山文学	64	大和の古代史跡を歩く	105
室町・戦国期研究を読みなおす	19	よ	
室町幕府管領施行システムの研究	21	洋学史論考（史学叢書）	24
室町幕府の東国政策	22	酔うて候 河鍋暁斎と幕末明治の書画会	〔品切〕
室町幕府文書集成奉行人奉書篇〔全2巻〕	5	陽明叢書記録文書篇〔全12輯・全31冊・別輯1〕	5
め		陽明叢書国書篇〔全15輯・全16冊〕	92
名家伝記資料集成	4	陽明叢書国書篇 第16輯 源氏物語〔全16冊〕	92
名画はあなたが決める	68	陽明文庫蔵『舞楽散楽図』・法隆寺旧蔵 羯鼓	
明治期における不敬事件の研究	44	（日本音楽史料叢刊1）	64
明治維新期の政治文化	33	横井小楠の新政治社会像	〔品切〕
明治維新史という冒険		与謝蕪村筆「奥の細道画巻」	〔品切〕
（佛教大学鷹陵文化叢書18）	33	与謝野晶子の『源氏物語礼讃歌』	100
明治期外国人叙勅史料集成	6	与謝野晶子と小林一三	100
明治国家の教育思想	〔品切〕	吉田清成関係文書〔全7冊〕（京都大学史料叢書）	7
明治初年真宗門徒大決起の研究	31	吉田光邦評論集〔全3巻〕	81
明治前期の教育・教化・仏教〔オンデマンド版〕	35	吉田光邦 両洋の人	105
明治の避病院	45	夜の解剖室	〔品切〕
明治博物館事始め〔オンデマンド版〕	86	よはひ草	〔品切〕
明治文化と西洋人	〔品切〕	ら	
名庸集 影印と解題	94	「洛中洛外」の社会史	16
滅亡高野紙見聞図説（和紙文庫 第二号）	72	蘭学の背景	50
も		蘭学、その江戸と北陸	50
もう一つの中世像	〔品切〕	蘭溪和尚語録（蘭溪道隆禅師全集1）	55
木（民衆生活の日本史 第1巻）	11	蘭溪道隆禅師全集	55
木菴全集→新纂校訂木菴全集	54	蘭室藤村正貞年譜考	74
モダン・アート論再考	63	り	
餅菓子即席増補手製集（菓子文庫シリーズ）	86	立華時勢粧（華道古典名作選集 第4巻）〔品切〕	77
桃山絵画→黄金のとき 桃山絵画	68	立花初心抄（華道古典名作選集 第9巻）	77
桃裕行著作集〔全8巻〕〔1・2・4・7品切〕	10	立憲国家中国への始動	38
燃ゆらん花の美しさ	106	龍谷叢書	98
森有礼における国民的主体の創出	33	龍谷大学善本叢書	61・93・94
森田りえ子作品集	69	龍谷大学仏教文化研究叢書	97・98
や		龍宝山大徳禅寺世譜	〔品切〕
八重さん、お乗りになりますか		律令国家の展開と地域支配（史学叢書）	12
（新島襄を語る別巻2）	34	料紙と書	67
八重の桜・裏の梅（新島襄を語る別巻3）	34	料理新製以毛百珍（菓子文庫シリーズ）	86
焼畑の環境学	〔品切〕	緑茶と和菓子（和食文化ブックレット10）	89
役者のパートナー マネジャーの足跡	106	林氏塩瀬山城伝来記（菓子文庫シリーズ）	86
訳注大乘起信論	60	琳派 響きあう美	64

る		老農・中井太一郎と農民たちの近代	82
		鹿王院文書の研究	7
類聚古集〔全3巻〕(龍谷大学善本叢書20)	93	鹿苑寺と西園寺	〔品切〕
れ		わ	
歴史災害のはなし	〔品切〕	若狭秦家文書(京大博物館の古文書 第2輯)	6
歴史とアイデンティティ	32	和歌題林抄・三千首和歌・萱草	
歴史における周縁と共生	29	(徳川黎明会叢書 和歌篇五)	92
歴史の地層から	105	和漢紙文献類聚	72
歴史のなかの源氏物語(シリーズ古典再生3)	96	和漢朗詠集・新撰朗詠集(陽明叢書国書篇 第7輯)	92
歴史のなかの天皇陵	37	和紙の文化史年表 → 図説和紙の文化史年表	〔品切〕
歴史の中の都市と村落社会	25	和紙文化	〔品切〕
歴史の中の病と医学	〔品切〕	和紙文化史年表	〔品切〕
歴世服飾図説	〔品切〕	和紙文庫〔1～3号〕	〔1品切〕72
暦法の研究〔上・下〕		和紙文庫シリーズ	73
(桃裕行著作集 第7・8巻)〔上 品切〕	10	和食と健康(和食文化ブックレット4)	89
蓮月尼全集 → 増補 蓮月尼全集	99	和食とは何か(和食文化ブックレット1)	89
蓮如上人研究	57	和食の歴史(和食文化ブックレット6)	89
ろ		和食文化ブックレット	89
		私の中の20世紀の外国映画	107
老僧が語る京の仏教うらおもて	107	我生きて今ある命を	106

※大阪経済大学日本経済史研究所研究叢書 → (大経大研究叢書)
 ※大阪経済大学日本経済史研究所史料叢書 → (大経大史料叢書)
 ※大手前大学比較文化研究叢書 → (大手前大比較叢書)
 ※京都大学文学部博物館図録・京都大学総合博物館図録 → (京大博物館)
 ※京都大学史料叢書 → (京大史料叢書)

受賞図書一覧

江馬努賞	岡田章雄著作集	10頁
第13回角川源義賞	中世東寺と弘法大師信仰	15頁
第21回角川源義賞	東寺・東寺文書の研究	18頁
第6回全国大学国語国文学会賞	一休派の結衆と史的展開の研究	20頁
第30回田邊尚雄賞	天皇・將軍・地下樂人の室町音楽史	21頁
第8回日本思想史学会奨励賞	摂関院政期思想史研究	21頁
第10回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞	中世後期の香文化	22頁
第16回矢数医史学賞・第2回徳川賞	本草学と洋学	26頁
平成24年度歌舞伎学会奨励賞	近世上方歌舞伎と堺	29頁
第15回茶道文化学術奨励賞	織豊期の茶会と政治	30頁
第16回サントリー学芸賞	西洋化の構造	32頁
昭和58年度徳島県出版文化賞	徳島県 of の教育史	40頁
第4回間中賞	鍼灸医学序説	47頁
第15回矢数医史学賞	天然痘根絶史	47頁
第3回角川源義賞	日本禅宗史論集	53頁
第44回毎日出版文化賞	京都の美術史	62頁
第24回ジャポニズム学会賞	壁紙のジャポニズム	63頁
第26回ジャポニズム学会賞	ドイツにおける〈日本=像〉	63頁
日本風俗史学会・野口信造賞	壬生狂言古衣裳	72頁
第16回茶道文化学術賞	公家茶道の研究	74頁
平成24年度茶道文化学術奨励賞	茶の湯と音楽	75頁
平成25年度茶道文化学術奨励賞	近代の「美術」と茶の湯	76頁
第8回優秀会社史賞	住友別子鉾山史	79頁
第7回高知出版学術賞	近世鉾山社会史の研究	79頁
第7回(1994年度)日本産業技術史学会学会賞	大阪砲兵工廠の研究	81頁
2012年度芸術選奨文部科学大臣新人賞	岡倉天心の比較文化史的研究	85頁
第20回日本比較文学会賞	日中演劇交流の諸相	85頁
第24回江馬賞	民俗文化複合体論	87頁

第35回サントリー学芸賞・第9回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞・		
第46回日本演劇学会河竹賞奨励賞	京舞井上流の誕生	88頁
第4回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞	翁の生成	88頁
平成26年度茶道文化学術奨励賞	西鶴の文芸と茶の湯	99頁
第17回俳人協会評論賞	正岡子規と俳句分類	100頁
第20回俳人協会評論賞	新興俳人の群像	100頁
第5回建築史学会賞	中世寺社信仰の場	【品切】
第1回南方熊楠賞・第7回女性史青山なを賞特別賞・第18回山片蟠桃賞		
	もう一つの中世像	【品切】
第5回豊田実賞	近代化の推進者たち	【品切】
第4回矢数医史学賞	医心方の伝来	【品切】
第18回矢数医史学賞	絵葉書で辿る日本近代医学史	【品切】
平成8年度國華賞	仏教説話の美術	【品切】
第10回建築史学会賞	日本建築の構造と技法	【品切】
第3回建築史学会賞	まち祇園祭すまい	【品切】
第3回日本生活文化史学会賞	十九世紀日本の園芸文化	【品切】
第34回毎日出版文化賞特別賞	京都の医学史	【品切】
第24回矢数医史学賞	近代医療のあけぼの	【品切】

●協力書店 下記ゴシック書店は歴史書懇話会の特設常備書店

〈北海道〉	コーチャンフォーミュンヘン大橋店	札幌	(011)817-4000
	コーチャンフォー新川通り店	//	(011)769-4000
	紀伊國屋書店札幌本店	//	(011)231-2131
	MARUZEN&ジュンク堂書店札幌店	//	(011)223-1911
	三省堂書店札幌店	//	(011)209-5600
〈岩手県〉	ジュンク堂書店旭川店	旭川	(016)626-1120
	ジュンク堂書店盛岡店	盛岡	(019)601-6161
〈秋田県〉	ジュンク堂書店秋田店	秋田	(018)884-1370
〈宮城県〉	ジュンク堂書店仙台TR店	仙台	(022)265-5656
〈福島県〉	岩瀬書店富久山店	郡山	(024)936-2220
	ジュンク堂書店郡山店	//	(024)927-0440
〈茨城県〉	ACADEMIAイーアスつくば店	つくば	(029)868-7407
〈群馬県〉	煥乎堂前橋本店	前橋	(027)235-8111
〈埼玉県〉	ジュンク堂書店大宮高島屋店	さいたま	(048)640-3111
	ブックデポ書楽北与野店	//	(048)852-6581
〈東京都〉	八重洲ブックセンター	八重洲	(03)3281-1811
	丸善日本橋店	日本橋	(03)6214-2001
	丸善丸の内本店	丸の内	(03)5288-8881
	三省堂書店神保町本店	神保町	(03)3233-3312
	岩波ブックセンター信山社	//	(03)3263-6601
	東京堂書店神田神保町店	//	(03)3291-5181
	紀伊國屋書店新宿南店	代々木	(03)5361-3301
	紀伊國屋書店新宿本店	//	(03)3354-0131
	ブックファースト新宿店	//	(03)5339-7611
	芳林堂書店高田馬場店	高田馬場	(03)3208-0241
	ジュンク堂書店池袋本店	池袋	(03)5956-6111
	MARUZEN&ジュンク堂書店渋谷店	渋谷	(03)5456-2111
	ジュンク堂書店吉祥寺店	吉祥寺	(0422)28-5333
	啓文堂書店吉祥寺店	武蔵野	(0422)79-5070
	オリオン書房ノルテ店	立川	(042)522-1231
	ジュンク堂書店立川高島屋店	立川	(042)512-9910
	MARUZEN多摩センター店	多摩	(042)355-3220
〈神奈川県〉	有隣堂伊勢佐木町本店	横浜	(045)261-1231
	有隣堂ルミネ横浜店	//	(045)453-0811
	ACADEMIA港北店	//	(045)914-3320
	有隣堂アトレ川崎店	川崎	(044)200-6831
	ジュンク堂書店藤沢店	藤沢	(0466)52-1211
〈静岡県〉	戸田書店静岡本店	静岡	(054)205-6111
	MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店	//	(054)275-2777
〈新潟県〉	ジュンク堂書店新潟店	新潟	(025)374-4411
	萬松堂古町本店	//	(025)229-2221
〈長野県〉	平安堂長野店	長野	(026)224-4545
	MARUZEN 松本店	松本	(026)331-8171
〈岐阜県〉	丸善岐阜店	岐阜	(058)297-7008
〈愛知県〉	ちくさ正文館書店本店	名古屋	(052)741-1137
	ジュンク堂書店名古屋店	//	(052)589-6321

	ジュンク堂書店ロフト名古屋店	//	(052)249-5592
	MRUZEN名古屋本店	//	(052)238-0320
	三省堂書店名古屋高島屋店	//	(052)566-8877
	精文館書店豊橋本店	豊 橋	(0532)54-2345
〈富山県〉	Books なかだ掛尾本店専門書館	富 山	(076)492-1192
〈石川県〉	うつのみや金沢香林坊店	金 沢	(0762)34-8111
〈滋賀県〉	ジュンク堂書店滋賀草津店	草 津	(077)569-5553
〈京都府〉	丸善京都本店	京 都	(075)253-1599
	ブックファースト京都店	//	(075)229-8500
	ジュンク堂書店京都店	//	(075)252-0101
	大垣書店烏丸三条店	//	(075)212-5050
	アバンティブックセンター京都店	//	(075)671-8987
	大垣書店イオンモールKYOTO店	//	(075)692-3331
〈奈良県〉	豊住書店	奈 良	(0742)22-8500
〈大阪府〉	紀伊國屋書店梅田本店	大 阪	(06)6372-5821
	紀伊國屋書店グランフロント大阪店	//	(06)7730-8451
	MARUZEN&ジュンク堂書店梅田店	//	(06)6292-7383
	ジュンク堂書店大阪本店	//	(06)4799-1090
	ジュンク堂書店難波店	//	(06)4396-4771
	ジュンク堂書店天満橋店	//	(06)6920-3730
	ジュンク堂書店近鉄あべのハルカス店	//	(06)6626-2151
〈兵庫県〉	ジュンク堂書店三宮店	神 戸	(078)392-1001
	ジュンク堂書店三宮駅店	//	(078)252-0777
	ジュンク堂書店西宮店	西 宮	(0798)68-6300
	ジュンク堂書店姫路店	姫 路	(0792)21-8280
〈鳥取県〉	今井書店吉成店	鳥 取	(0857)51-7020
	本の学校今井ブックセンター	米 子	(0859)31-5000
〈香川県〉	宮脇書店総本店	高 松	(0878)23-3152
	ジュンク堂書店高松店	//	(087)832-0170
〈愛媛県〉	ジュンク堂書店松山店	松 山	(089)915-0075
〈岡山県〉	丸善岡山シンフォニービル店	岡 山	(0862)33-4640
〈広島県〉	ジュンク堂書店広島駅前店	広 島	(082)568-3000
	フタバ図書 MEGA中筋店	//	(082)830-0601
	MARUZEN広島店	//	(082)504-6210
	フタバ図書 TERA広島府中店	府 中	(082)561-0770
〈福岡県〉	紀伊國屋書店福岡本店	福 岡	(092)434-3100
	ジュンク堂書店福岡店	//	(092)738-3322
	MARUZEN博多店	//	(092)413-5401
	フタバ図書 TERA 福岡東店	粕 屋	(092)939-7200
〈大分県〉	ジュンク堂書店大分店	大 分	(0975)36-8181
〈鹿児島県〉	ジュンク堂書店鹿児島店	鹿児島	(099)216-8838
〈沖縄県〉	ジュンク堂書店那覇店	那 覇	(098)860-7175

他、全国主要大学生協書籍部

お送りいたします！



思文閣出版・四季報

●てい-たいむ

毎号ゲストの人物がにじむ楽しいトーク「てい-たいむ」を掲載
●その他、中堅・若手研究者によるエッセイなど多彩な執筆陣による論考、新刊紹介、史料紹介など

おうとうつうしん
鴨東通信

〔A5判／32頁／無料〕

- ▷最新号から年4回発行のつどお手元に郵送いたします。
▷ご希望の方は、①郵便番号②住所③氏名〔フリガナ付〕
④関心のある分野・テーマをご記入の上、「鴨東通信」希望と書いて小社までお申し込みください。郵送・電話・ファックス・e-mailで承ります。
▷バックナンバーご希望の方はお申し込み下さい。
(欠号がございます)



駐車場はありません

●新刊書・既刊書の案内広告

日本歴史・日本史研究・史学雑誌＝毎月掲載
学会機関誌等随時掲載

●書店の皆様へ

帳合取次は次の通りです

トーハン・日販・大阪屋・八木書店・日教販・西村書店

株式
会社

思文閣出版

Shibunkaku Publishing Co.,Ltd

605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町355 ☎075(533)6860代/F075(531)0009
ホームページ <http://www.shibunkaku.co.jp/> e-mail:pub@shibunkaku.co.jp